

三豊市第2次総合計画
市民アンケート調査結果報告書
(案)

令和5年6月

三 豊 市

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性.....	1
1	調査の概要.....	1
	(1) 調査目的.....	1
	(2) 調査対象及び調査方法、回収結果.....	1
	(3) 本報告書の留意事項.....	1
2	回答者の属性.....	3
	(1) 性別.....	3
	(2) 年齢.....	3
	(3) 居住地区.....	4
	(4) 家族構成.....	4
	(5) 同居者.....	5
	(6) 職業.....	5
	(7) 三豊市（旧町含む）での通算居住年数.....	6
II	調査結果.....	7
1	まちへの愛着度と定住志向について.....	7
	(1) まちへの愛着度について.....	7
	(2) 今後の定住意向について.....	9
	(3) 移りたい理由.....	11
2	まちの現状と今後の取組みについて.....	12
	(1) まちの各環境に関する満足度.....	12
	(2) まちの各環境に関する重要度.....	25
	(3) 満足度と重要度の相関（優先度）.....	37
	(4) 三豊市は住みやすいと感じるか.....	44
	(5) 住みやすい理由.....	46
	(6) 住みにくい理由.....	48
3	日頃の行動や考えについて.....	50
	(1) 日頃の行動や考えについて（前回比較）.....	50
	(2) 日頃の行動や考えについて（属性別）.....	58
4	SDGsに関する取組みについて.....	100
	(1) SDGsの認知度.....	100
	(2) SDGsに関する知識について.....	102
	(3) SDGsに関する情報について.....	104
	(4) SDGsに関しての行動について.....	106
	(5) SDGsのゴールについて.....	108
	(6) 三豊市において重要だと思うゴール.....	110
	(7) SDGs未来都市の認知度.....	112

5	地球温暖化対策について	114
	(1) 脱炭素化や気候変動問題への関心度	114
	(2) 脱炭素対策に関する取組み状況等について	116
	(3) 今後取り組みたい活動について	118
	(4) 脱炭素対策に取り組まない理由	120
6	これからの行政サービスについて	122
	(1) 市役所の利用について	122
	(2) 市役所の利用目的について	124
	(3) 行政サービスに求めるものについて	126
7	生活・意識の変化について	128
	(1) 生活の変化について	128
	(2) 意識の変化について	138
8	人口減少について	140
	(1) 人口減少の影響について	140
	(2) 人口減少の影響を感じているところについて	142
	(3) 人口減少の対策について	143

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、「三豊市第2次総合計画後期基本計画」の策定にあたって、まちへの愛着度や今後の定住意向をはじめ、まちの各環境に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、市民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項 目	内 容
調査対象	16 歳以上の市民
配布数	2,500 票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法、Web 調査
調査時期	令和 5 年 4 月
調査地域	市内全域。ただし、分析上は地域的傾向を把握するため、以下の 7 地区に区分した。 1. 高瀬地区 2. 山本地区 3. 三野地区 4. 豊中地区 5. 詫間地区 6. 仁尾地区 7. 財田地区
有効回収数	933
有効回収率	37.3%

(3) 本報告書の留意事項

- ① 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出しています。従って、合計が 100％を上下する場合があります。
- ② 基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率は n を 100％として算出しています。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出してもよい問であり、従って、各回答の合計比率は 100％を超える場合があります。
- ④ 0％については表示を省略している場合があります。

⑤ クロス集計軸の「移住者」抽出の考え方については以下の通りとなります。

■クロス集計軸の「移住者」抽出の考え方

回答者が移住者の場合、「年齢」に対して、「通算居住年数」が少ないと予想される。

下記表の網掛け部分に該当する回答者を「移住者」、該当しない回答者を「定住者」と定義。

※年齢、通算居住年数いずれが無回答の場合はクロス集計軸に含まれていない。

(2). 年齢回答

1. 16～19歳

2. 20～29歳

3. 30～39歳

4. 40～49歳

5. 50～59歳

6. 60～69歳

7. 70歳以上

(4). 通算居住年数回答

1. 5年未満 2. 5～9年

1. 5年未満 2. 5～9年 3. 10～19年

1. 5年未満 2. 5～9年 3. 10～19年 4. 20～29年

1. 5年未満 2. 5～9年 3. 10～19年 4. 20～29年

1. 5年未満 2. 5～9年 3. 10～19年 4. 20～29年

1. 5年未満 2. 5～9年 3. 10～19年 4. 20～29年

1. 5年未満 2. 5～9年 3. 10～19年 4. 20～29年

問1.2年齢	問1.7通算居住年数						総計
	1. 5年未満	2. 5～9年	3. 10～19年	4. 20～29年	5. 30年以上	無回答	
1. 16～19歳	1	1	30	0	2	0	34
2. 20～29歳	6	6	9	33	0	0	54
3. 30～39歳	13	9	10	13	41	0	86
4. 40～49歳	7	7	28	20	64	1	127
5. 50～59歳	5	3	11	19	86	0	124
6. 60～69歳	3	1	10	11	230	0	255
7. 70歳以上	4	1	5	14	224	3	251
無回答	0	0	0	0	0	2	2
総計	39	28	103	110	647	6	933

※年齢、通算居住年数が無回答の場合はクロス集計軸の回答者数に含まれていない。

移住者合計数

217

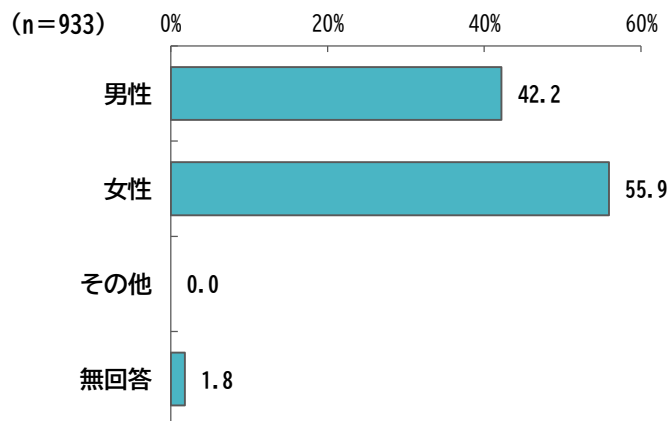
定住者合計数

710

2 回答者の属性

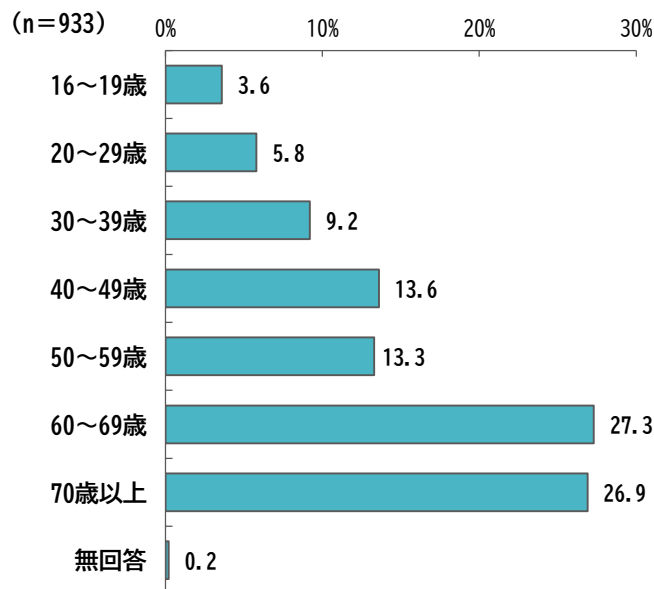
(1) 性別

回答者の性別構成は、「女性」(55.9%)、「男性」(42.2%)となっています。



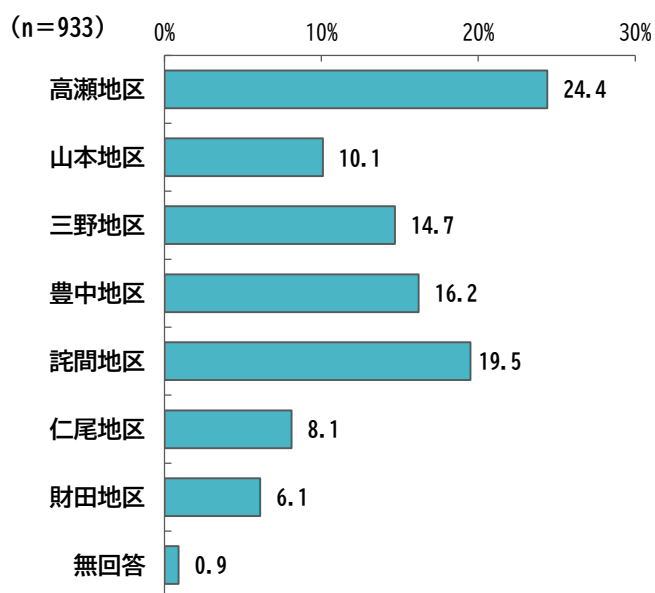
(2) 年齢

回答者の年齢構成は、「60～69 歳」(27.3%)、「70 歳以上」(26.9%)、「40～49 歳」(13.6%)、「50～59 歳」(13.3%)、「30～39 歳」(9.2%)、「20～29 歳」(5.8%)、「16～19 歳」(3.6%)となっています。



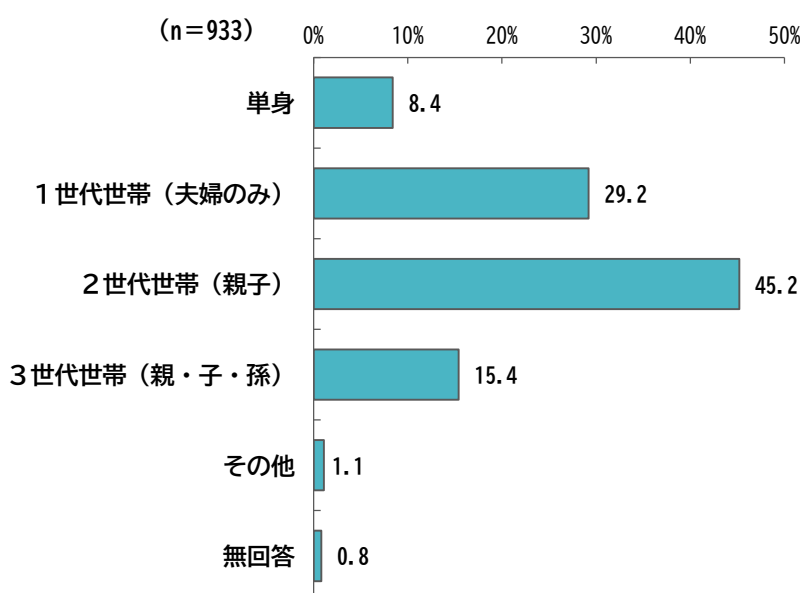
(3) 居住地区

回答者の居住地区は、「高瀬地区」(24.4%)、「詫間地区」(19.5%)、「豊中地区」(16.2%)、「三野地区」(14.7%)、「山本地区」(10.1%)、「仁尾地区」(8.1%)、「財田地区」(6.1%)となっています。



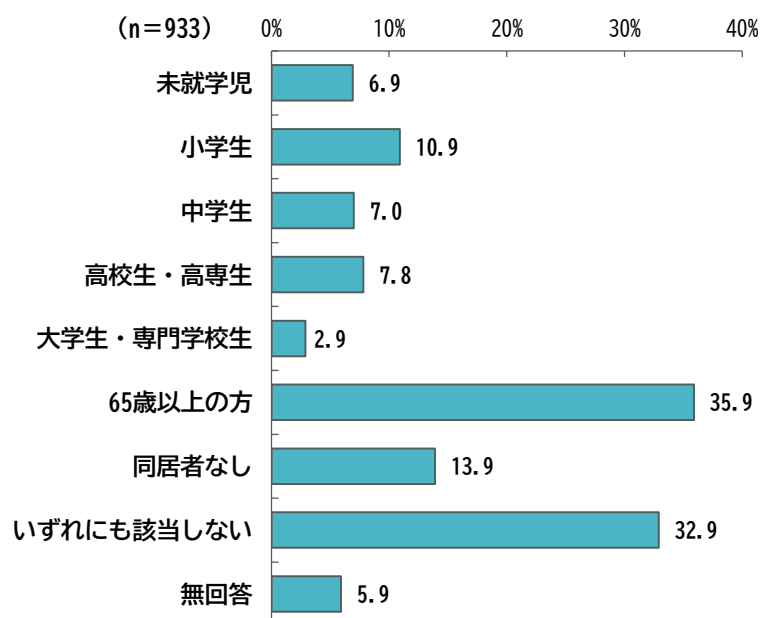
(4) 家族構成

回答者の家族構成は、「2世代世帯(親子)」(45.2%)、「1世代世帯(夫婦のみ)」(29.2%)、「3世代世帯(親・子・孫)」(15.4%)、「単身」(8.4%)となっています。



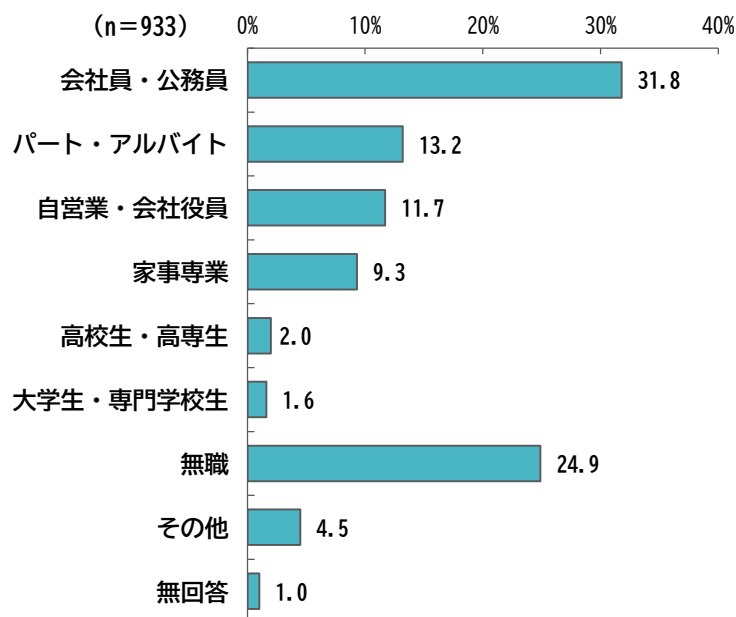
(5) 同居者

回答者の同居者は、「65歳以上の方」(35.9%)、「いずれにも該当しない」(32.9%)、「同居者なし」(13.9%)、「小学生」(10.9%)、「高校生・高専生」(7.8%)、「中学生」(7.0%)、「未就学児」(6.9%)、「大学生・専門学校生」(2.9%)となっています。



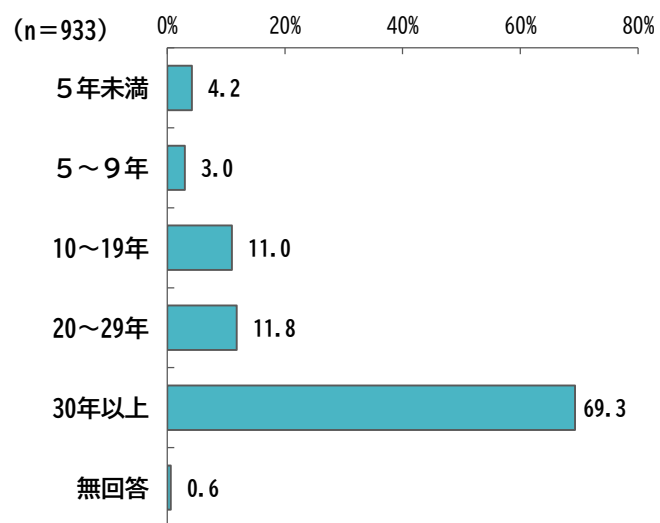
(6) 職業

回答者の職業は、「会社員・公務員」(31.8%)、「無職」(24.9%)、「パート・アルバイト」(13.2%)、「自営業・会社役員」(11.7%)、「家事専業」(9.3%)、「高校生・高専生」(2.0%)、「大学生・専門学校生」(1.6%)となっています。



(7) 三豊市（旧町含む）での通算居住年数

回答者の通算居住年数は、「30 年以上」(69.3%)、「20～29 年」(11.8%)、「10～19 歳」(11.0%)、「5 年未満」(4.2%)、「5～9 年」(3.0%) となっています。



Ⅱ 調査結果

1 まちへの愛着度と定住志向について

(1) まちへの愛着度について

問2 あなたは、三豊市に「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。

● “愛着を感じている”が87.9%、“愛着を感じていない”が10.6%。

市民のまちに対する愛着度をみると、「どちらかといえば感じている」と答えた人が44.4%で最も高く、次いで「愛着を感じている」と答えた人が43.5%で続き、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が87.9%となっています。これに対し、“愛着を感じていない”という人（「どちらかといえば感じていない」（8.8%）と「愛着を感じていない」（1.8%）の合計）は10.6%となっており、市への愛着度はかなり高いといえます。

前回結果と比較すると、“愛着を感じている”人が1.4ポイント増加しています。

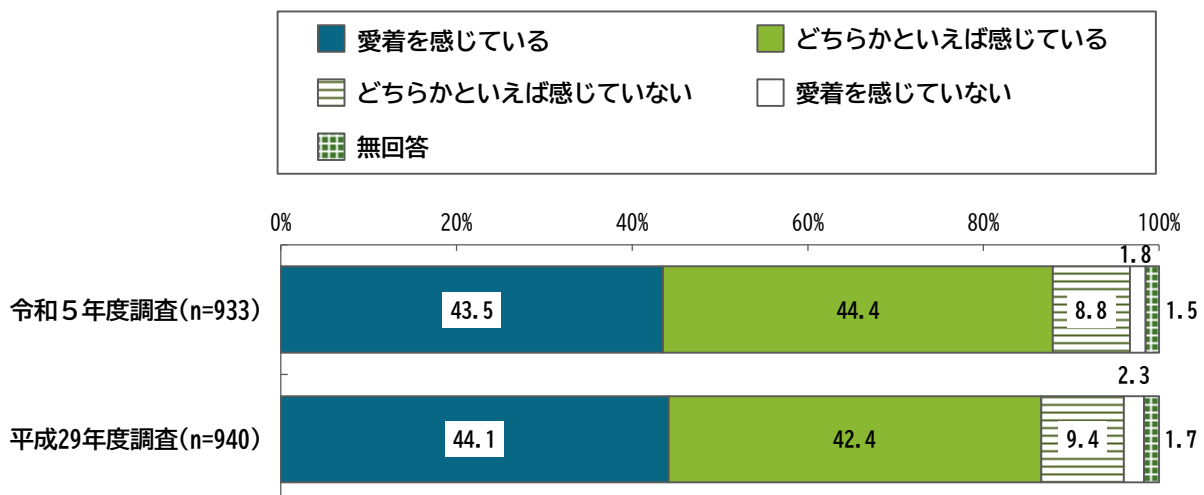
属性別で“愛着を感じている”割合をみると、性別では、男性が88.6%、女性が88.3%と、ほぼ同じ割合となっています。

年齢別では、40～49歳以上が91.3%で最も高くなっています。

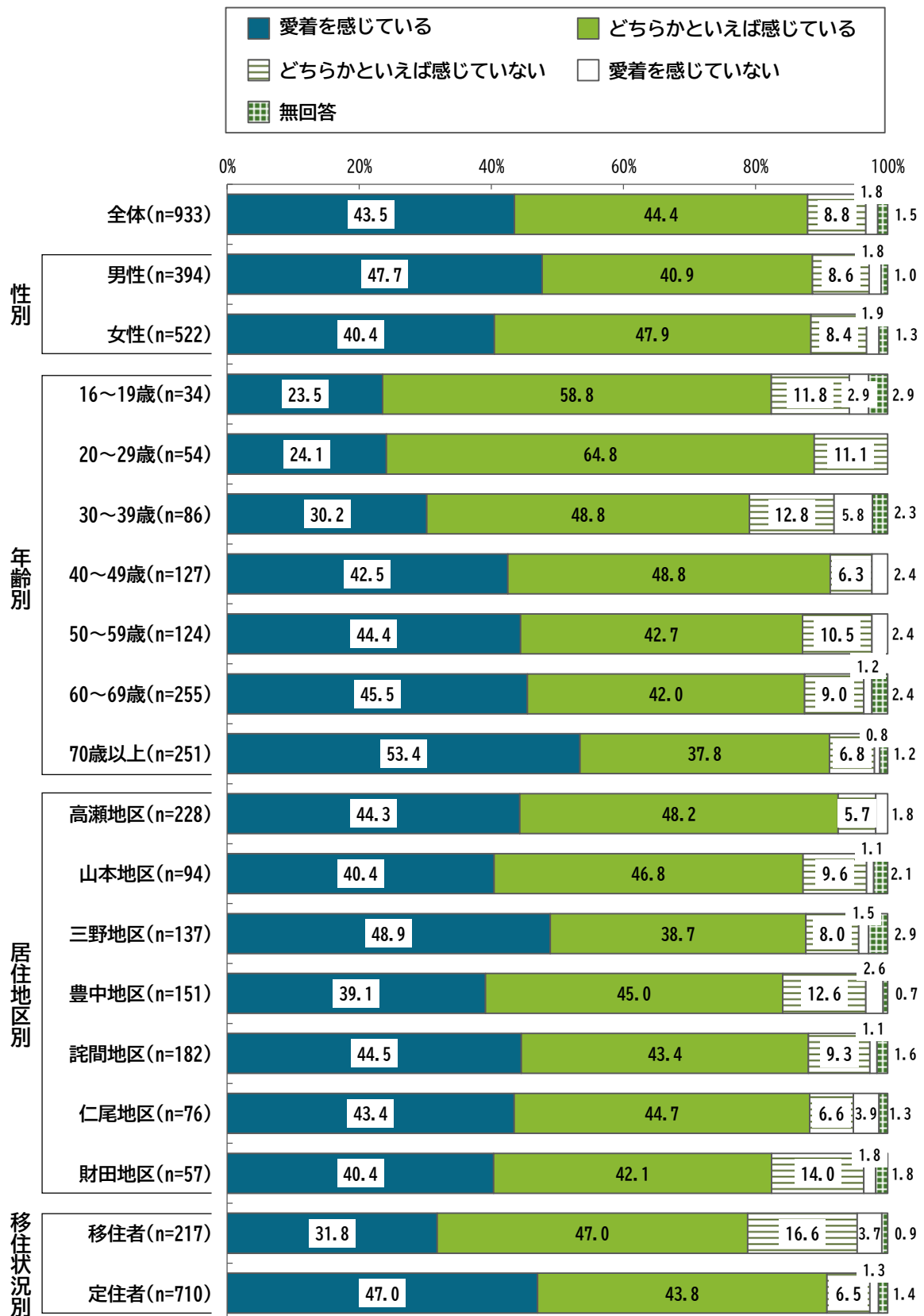
居住地区別では、高瀬地区が92.5%で最も高くなっています。

移住状況別では、定住者が90.8%で移住者を上回っています。

図表 1 市への愛着度について（全体・前回比較）



図表 2 市への愛着度について
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況)



(2) 今後の定住意向について

問3 あなたは、今後も三豊市に住み続けたいと思いますか。

● “住みたい” が 83.8%、“移りたい” が 9.4%。

今後の定住意向をみると、「今の場所にずっと住み続けたい」と答えた人が 62.8%で最も高く、次いで「当分の間は今の場所に住みたい」と答えた人が 21.0%で続き、これらをあわせた “住みたい” という人が 83.8%となっています。これに対し、“移りたい”（「できれば市外に移りたい」（5.1%）、「市内の別の場所に移りたい」（3.5%）、「すぐにでも市外に移りたい」（0.8%）の合計）という人は 9.4%と 1 割に満たず、問2の愛着度と同様に定住意向もかなり強いといえます。

前回結果と比較すると、“住みたい” は 2.3 ポイント減少しています。

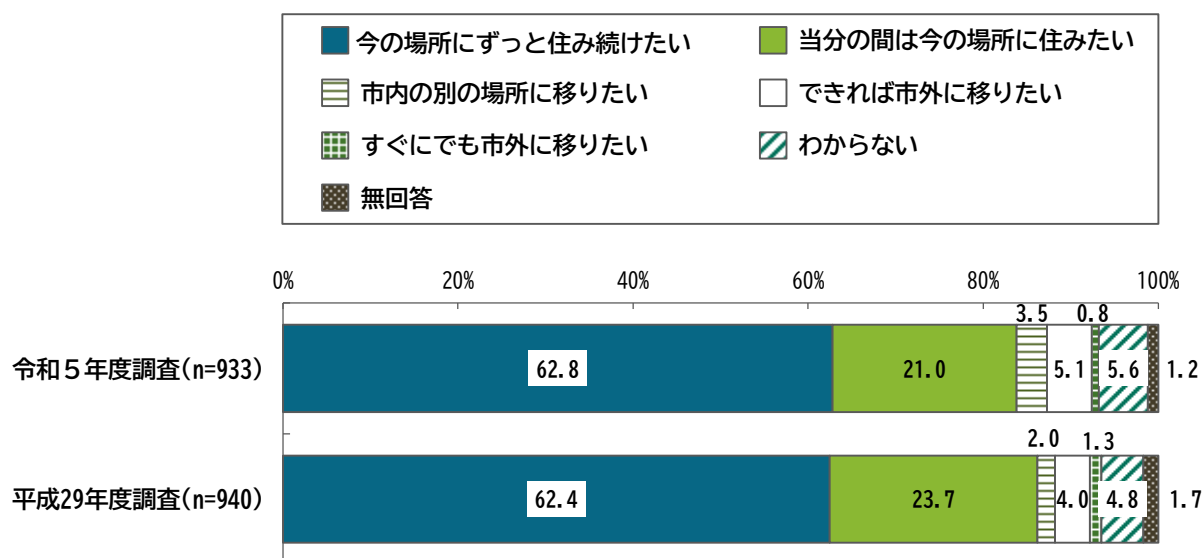
属性別で“住みたい” 割合をみていくと、性別では、男性が 87.1%、女性が 82.4%となっています。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて増加していく傾向にあり、70 歳以上で 91.7%と最も高くなっています。

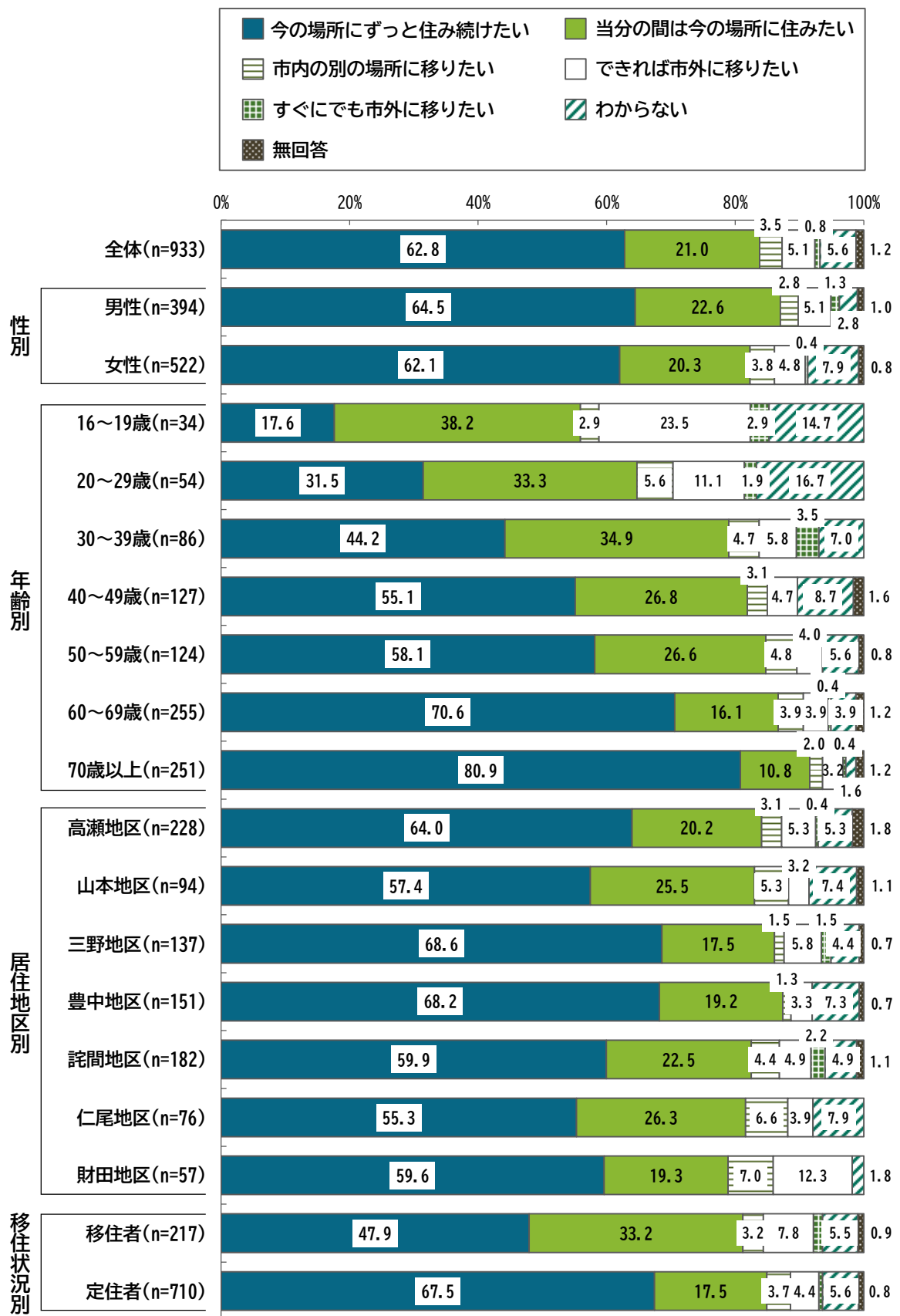
居住地区別では、豊中地区が 87.4%で最も高くなっています。

移住状況別では、定住者が 85.0%で移住者の割合を上回っています。

図表 3 今後の定住意向について（全体・前回比較）



図表 4 今後の定住意向について（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(3) 移りたい理由

【問3で「市内の別の場所に移りたい」、「できれば市外に移りたい」、「すぐにでも市外に移りたい」のいずれかに回答した方のみ】

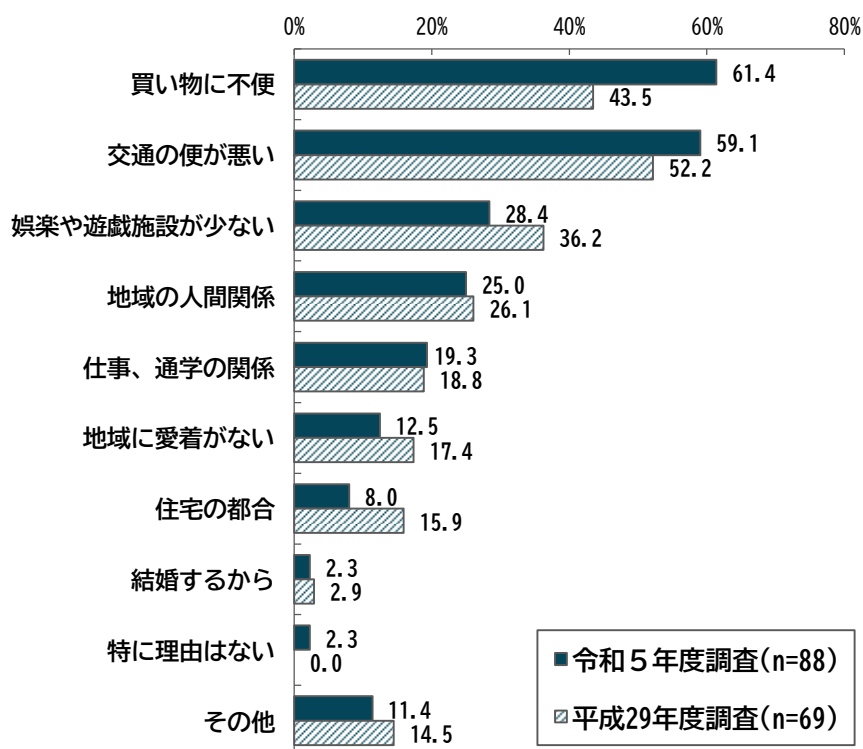
問3-1 「移りたい」理由はどれですか。【複数回答：3つまで】

● 「買い物に不便」、「交通の便が悪い」が主な理由。

問3で“移りたい”と回答した人に、その理由をたずねたところ、「買い物に不便」が61.4%で最も多く、次いで「交通の便が悪い」(59.1%)、「娯楽や遊戯施設が少ない」(28.4%)、「地域の人間関係」(25.0%)、「仕事、通学の関係」(19.3%)、などとなっています。

前回結果と比較すると、「買い物に不便」が17.9ポイント増加しており、前回とは順位に差がみられます。

図表 5 移りたい理由（全体・前回比較／複数回答：3つまで）



2 まちの現状と今後の取組みについて

(1) まちの各環境に関する満足度

問4 あなたは、毎日の生活の中で、生活環境や行政サービス、施設についてどれくらい満足していますか。また、今後の取組みとして、どれくらい重要だとお考えですか。

(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。

● 満足度が最も高い項目は「防災・消防」。次いで「環境・衛生」、「健康」の順。

● 満足度が最も低い項目は「農業・林業」。次いで「商業・工業」、「生活」の順。

まちの各環境について、現在どの程度満足しているかを把握するため、産業・交流、教育・文化・人権、健康・福祉・医療、暮らしの4分野 26 項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の4段階で評価してもらい、加重平均値による数量化〔後述参照〕で評価点（満足度：最高点 10 点、中間点 0 点、最低点 -10 点）を算出しました。

その結果、満足度評価が最も高い項目は「防災・消防」（3.48 点）となっており、次いで第2位が「環境・衛生」（2.82 点）、第3位が「健康」（2.76 点）、以下、「人権尊重社会」（2.74 点）、「生涯学習」（2.64 点）、「郷土歴史・文化」（2.62 点）、「学校教育」（2.48 点）、「移住・定住」（2.45 点）、「児童福祉・地域福祉」（2.43 点）、「就学前教育・保育」（2.41 点）などとなっています。

一方、満足度評価が最も低い項目は「農業・林業」（-0.95 点）となっており、次いで第2位が「商業・工業」（-0.46 点）、第3位が「生活」（0.37 点）、以下、「水産業」（0.43 点）、「スポーツ」（1.51 点）、「高齢者福祉」「安全・安心」（1.59 点）、「社会保障」（1.62 点）、「交流」（1.70 点）、「生活困窮者支援」（1.74 点）となっています。

全体的にみると、教育・文化・人権、暮らしの満足度が高く、産業・交流、健康・福祉・医療の満足度が低くなっています。また、26 項目のうち、満足度がプラス評価の項目が 24 項目、マイナス評価の項目が 2 項目となっています。

さらに、これを居住地区別及び移住定住別でみると、以下のとおりとなっています。

【高瀬地区】

満足度の上位3項目は、第1位が「防災・消防」(3.65点)、第2位が「環境・衛生」(3.24点)、第3位が「健康」(2.86点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業・林業」(-1.27点)、第2位が「商業・工業」(-0.82点)、第3位が「生活」(0.25点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が24項目、マイナス評価の項目が2項目で、市全体と同数になっています。

【山本地区】

満足度の上位3項目は、第1位が「学校教育」(3.76点)、第2位が「生涯学習」(3.62点)、第3位が「就学前教育・保育」(3.42点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業・林業」(-1.44点)、第2位が「水産業」(0.17点)、第3位が「商業・工業」(0.27点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が25項目、マイナス評価の項目が1項目で、市全体よりもプラス項目が1項目多くなっています。

【三野地区】

満足度の上位3項目は、第1位が「防災・消防」(3.32点)、第2位が「人権尊重社会」(3.03点)、第3位が「環境・衛生」(3.02点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業・林業」(-1.41点)、第2位が「商業・工業」(-0.56点)、第3位が「水産業」(0.30点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が24項目、マイナス評価の項目が2項目で、市全体と同数になっています。

【豊中地区】

満足度の上位3項目は、第1位が「防災・消防」(3.88点)、第2位が「人権尊重社会」(3.04点)、第3位が「郷土歴史・文化」(2.96点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業・林業」(-0.21点)、第2位が「商業・工業」(0.11点)、第3位が「生活」(0.78点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が25項目、マイナス評価の項目が1項目で、市全体よりもプラス項目が1項目多くなっています。

【詫間地区】

満足度の上位3項目は、第1位が「防災・消防」(3.51点)、第2位が「観光」(2.93点)、第3位が「健康」(2.86点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業・林業」(-0.90点)、第2位が「商業・工業」(-0.32点)、第3位が「水産業」(0.27点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が24項目、マイナス評価の項目が2項目で、市全体と同数になっています。

【仁尾地区】

満足度の上位3項目は、第1位が「防災・消防」(2.96点)、第2位が「生涯学習」(2.70点)、第3位が「就学前教育・保育」(2.61点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「商業・工業」(-1.11点)、第2位が「医療」(-0.33点)、第3位が「農業・林業」(-0.21点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が22項目、マイナス評価の項目が3項目、中間点が1項目で、プラス評価の項目は市全体よりも2項目少なくなっています。

【財田地区】

満足度の上位3項目は、第1位が「人権尊重社会」(3.89点)、第2位が「郷土歴史・文化」(3.43点)、第3位が「青少年育成」(3.33点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「商業・工業」(-1.36点)、第2位が「農業・林業」(-0.98点)、第3位が「生活」(-0.82点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が23項目、マイナス評価の項目が3項目で、プラス評価の項目は市全体よりも1項目少なくなっています。

【移住者】

満足度の上位3項目は、第1位が「防災・消防」(3.71点)、第2位が「健康」(3.36点)、第3位が「人権尊重社会」(3.11点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業」(0.05点)、第2位が「生活」(0.38点)、第3位が「商業・工業」(0.45点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が26項目で、プラス評価の項目は市全体よりも2項目多くなっています。

【定住者】

満足度の上位3項目は、第1位が「防災・消防」(3.41点)、第2位が「環境・衛生」(2.82点)、第3位が「生涯学習」(2.67点)となっています。

一方、下位3項目は、第1位が「農業」(-1.26点)、第2位が「商業・工業」(-0.74点)、第3位が「水産業」(0.15点)となっています。

設定した26項目のうち、プラス評価の項目が24項目、マイナス評価の項目が2項目で、全体と同数になっています。

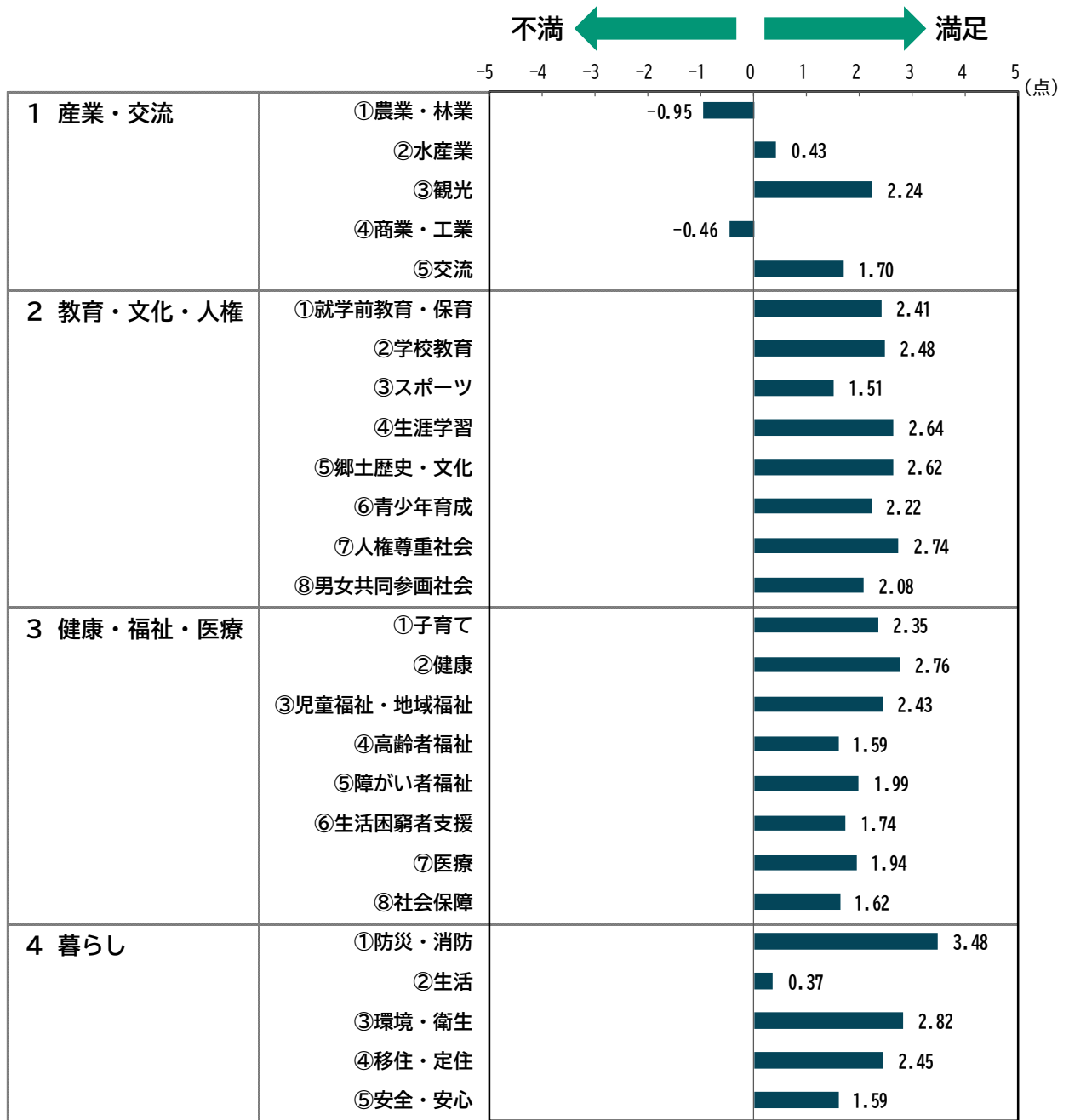
※加重平均値による評価点（満足度）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right]}{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」、「どちら} \\ \text{かといえば不満である」、「不満} \\ \text{である」の回答者数} \end{array} \right]} \end{array}}$$

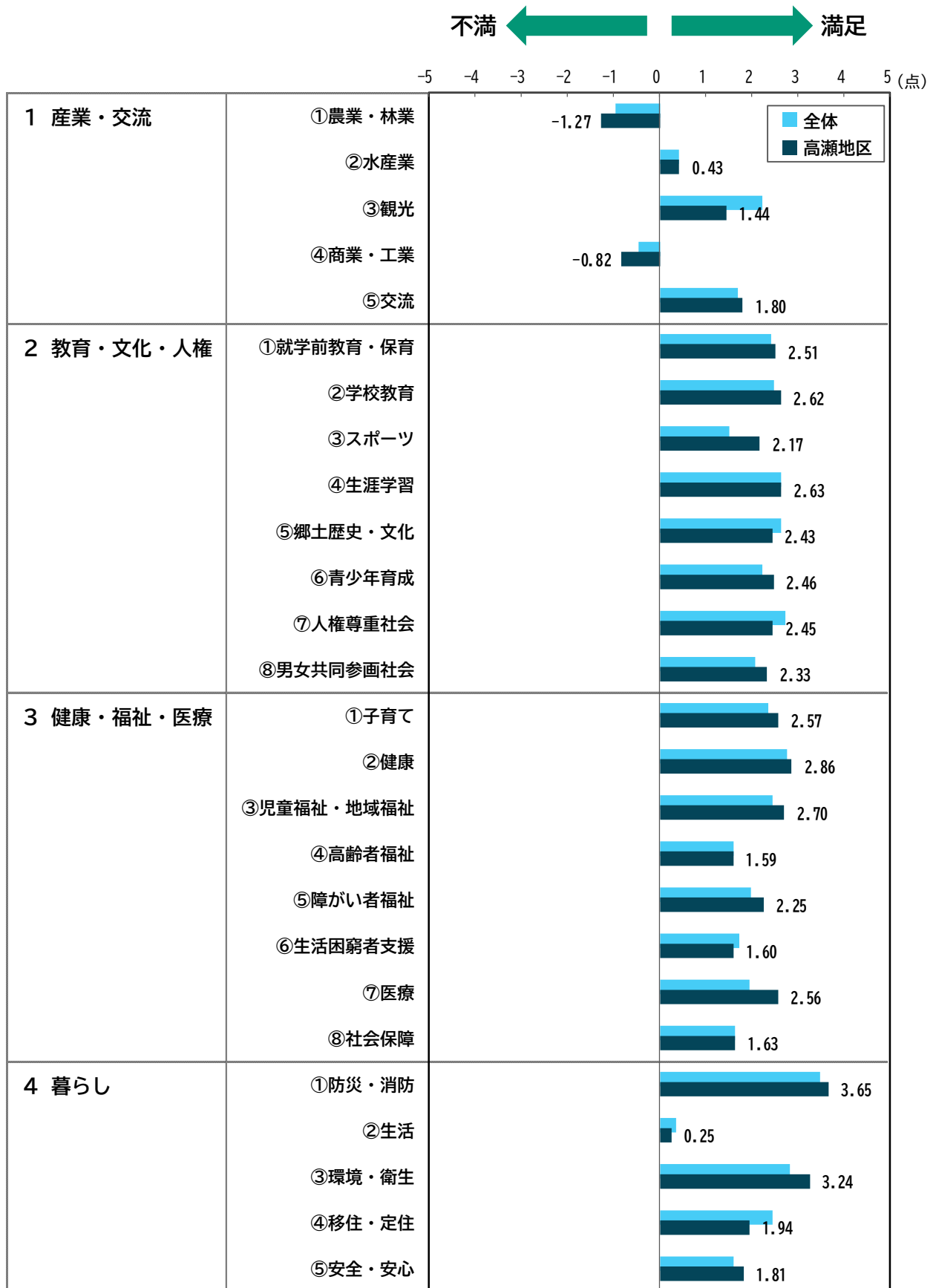
この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表 6 まちの各環境に関する満足度（全体）

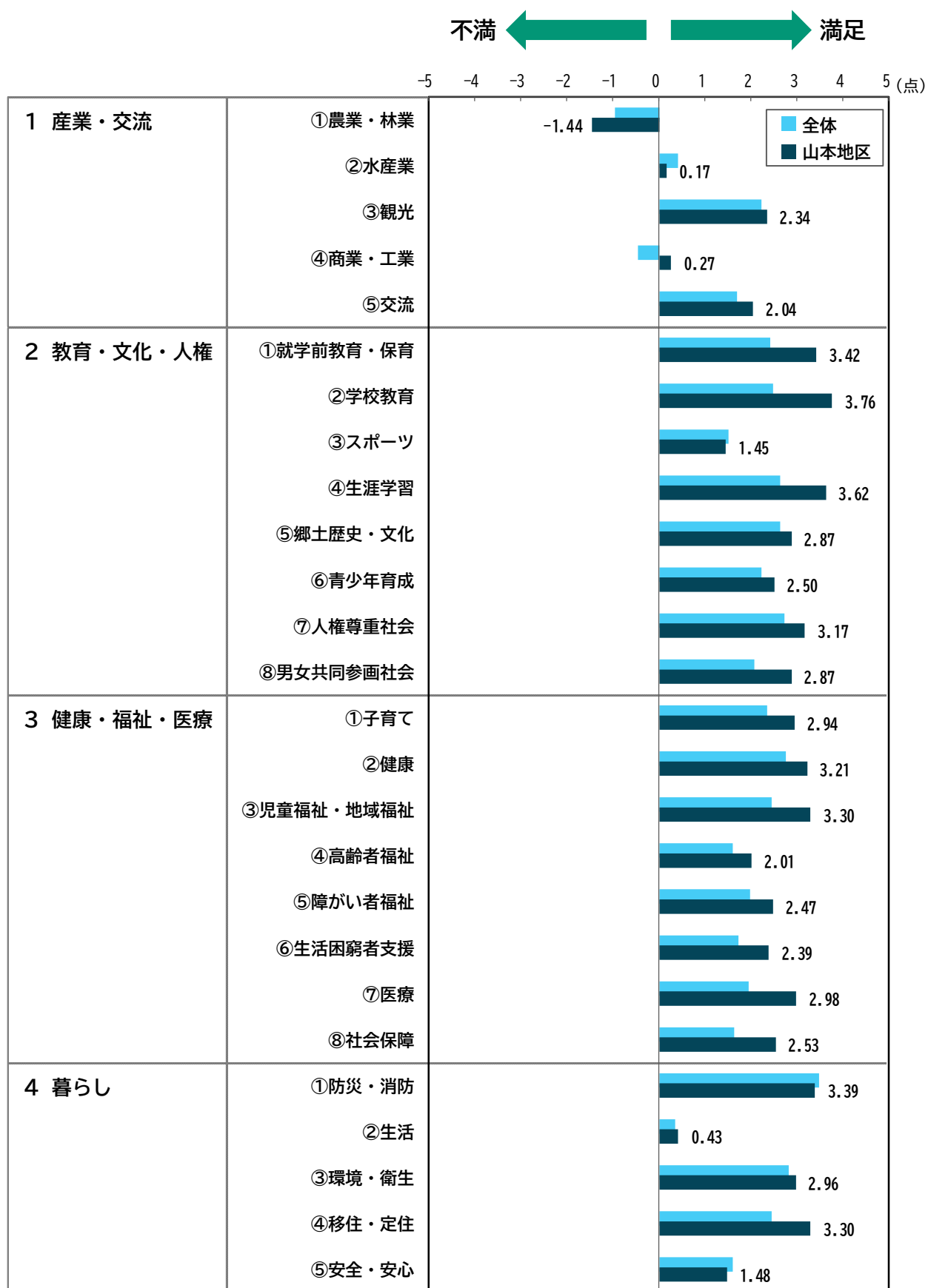


図表 7 まちの各環境に関する満足度（居住地区）

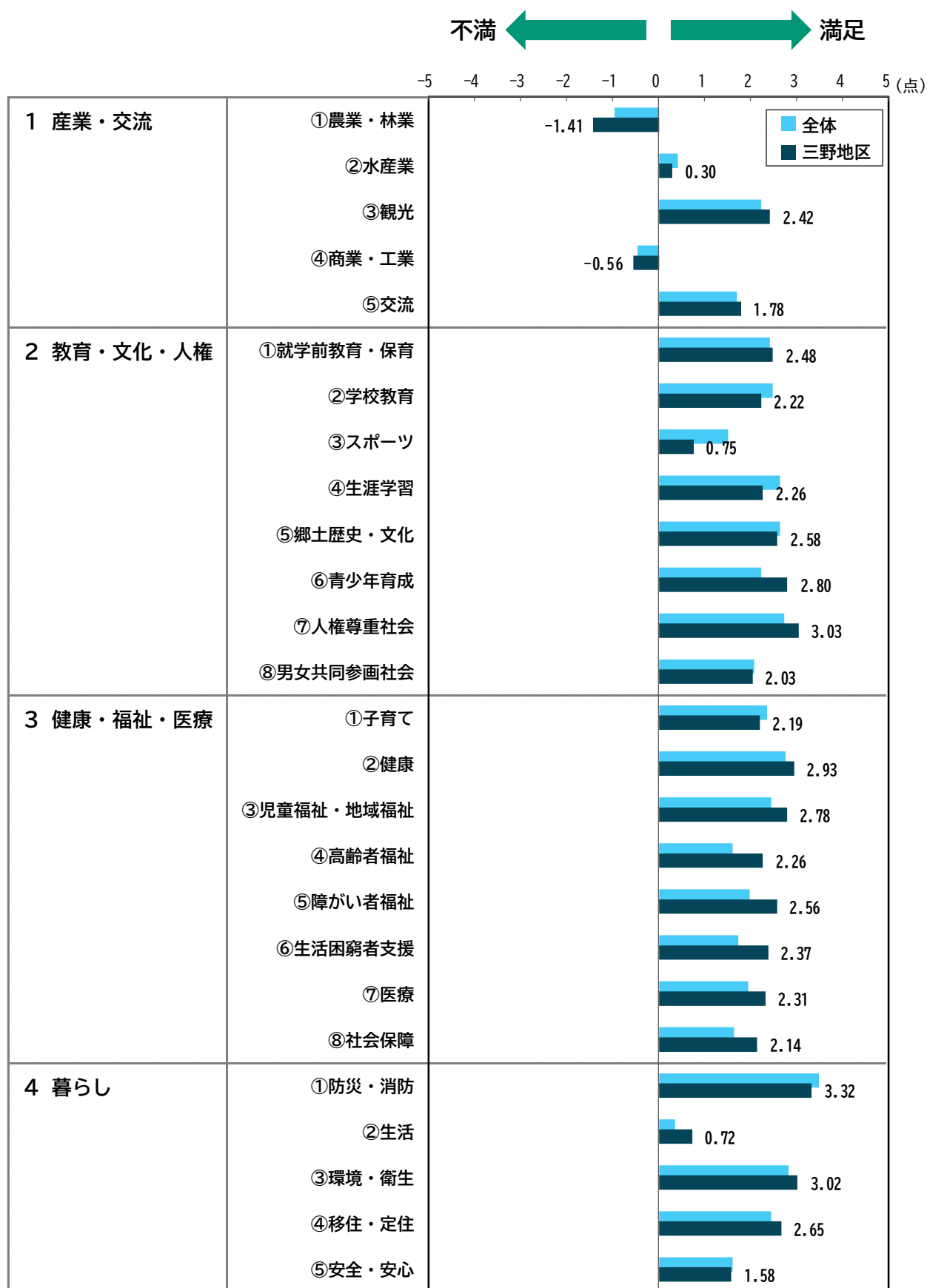
【高瀬地区】



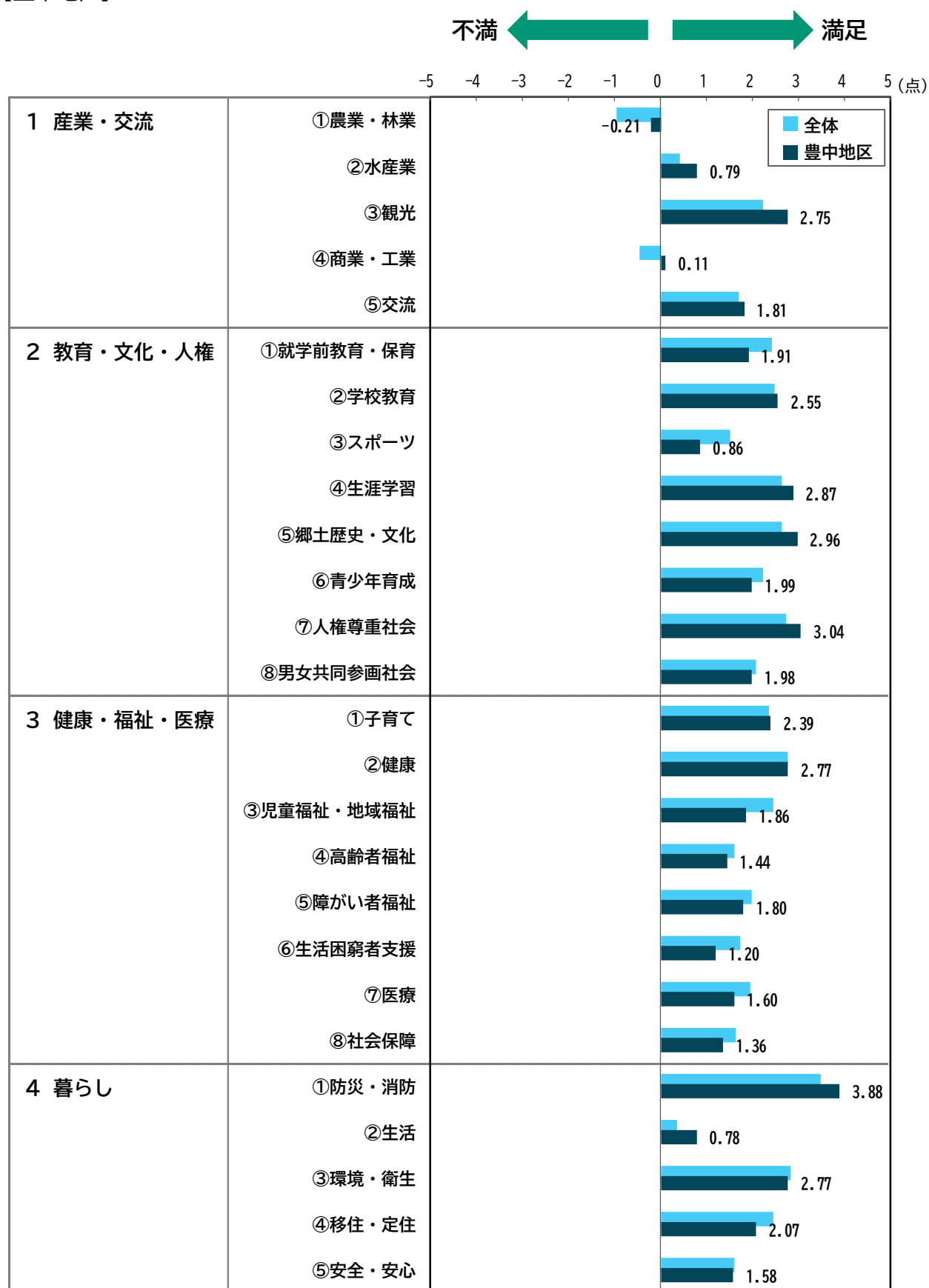
【山本地区】



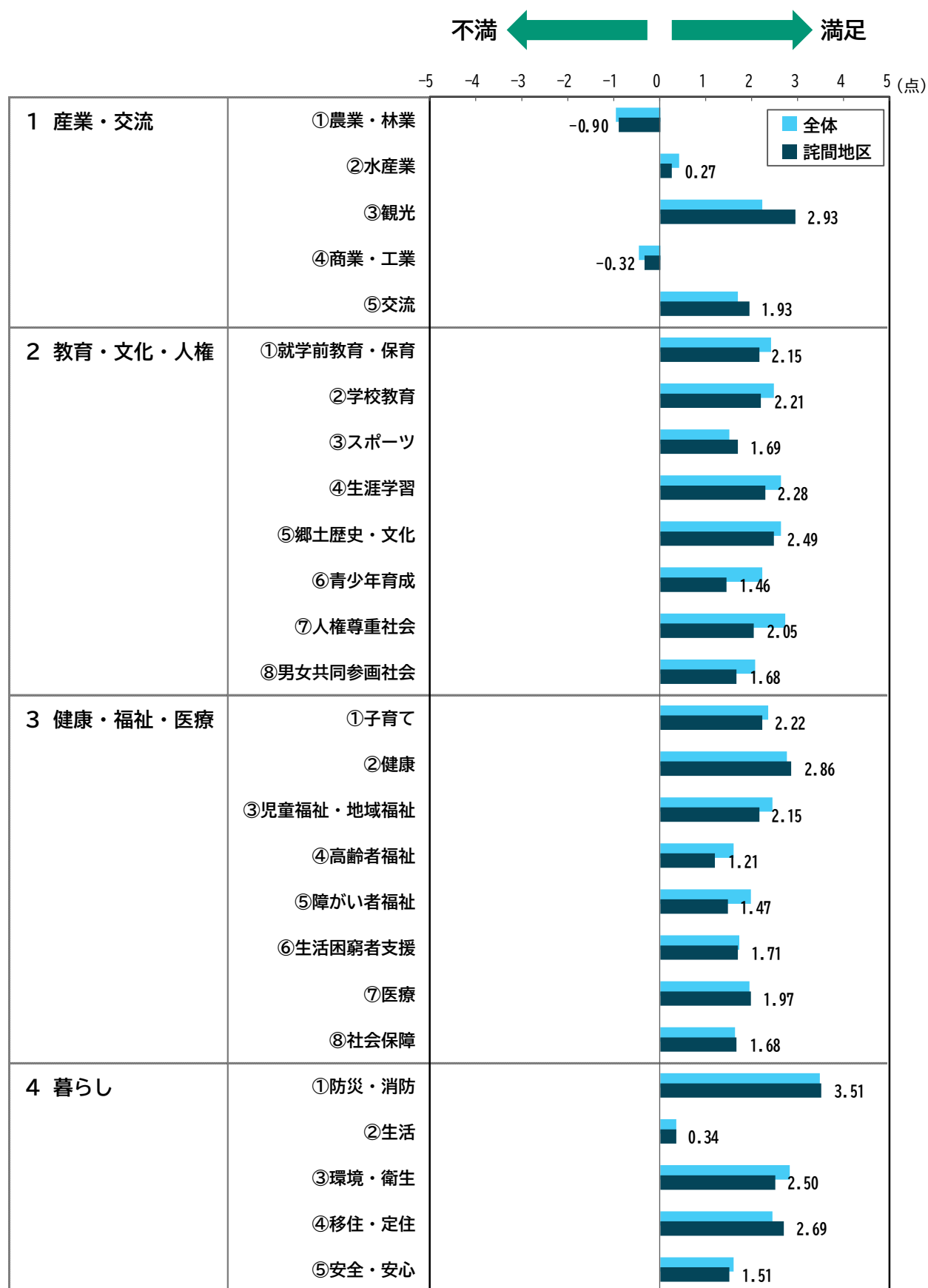
【三野地区】



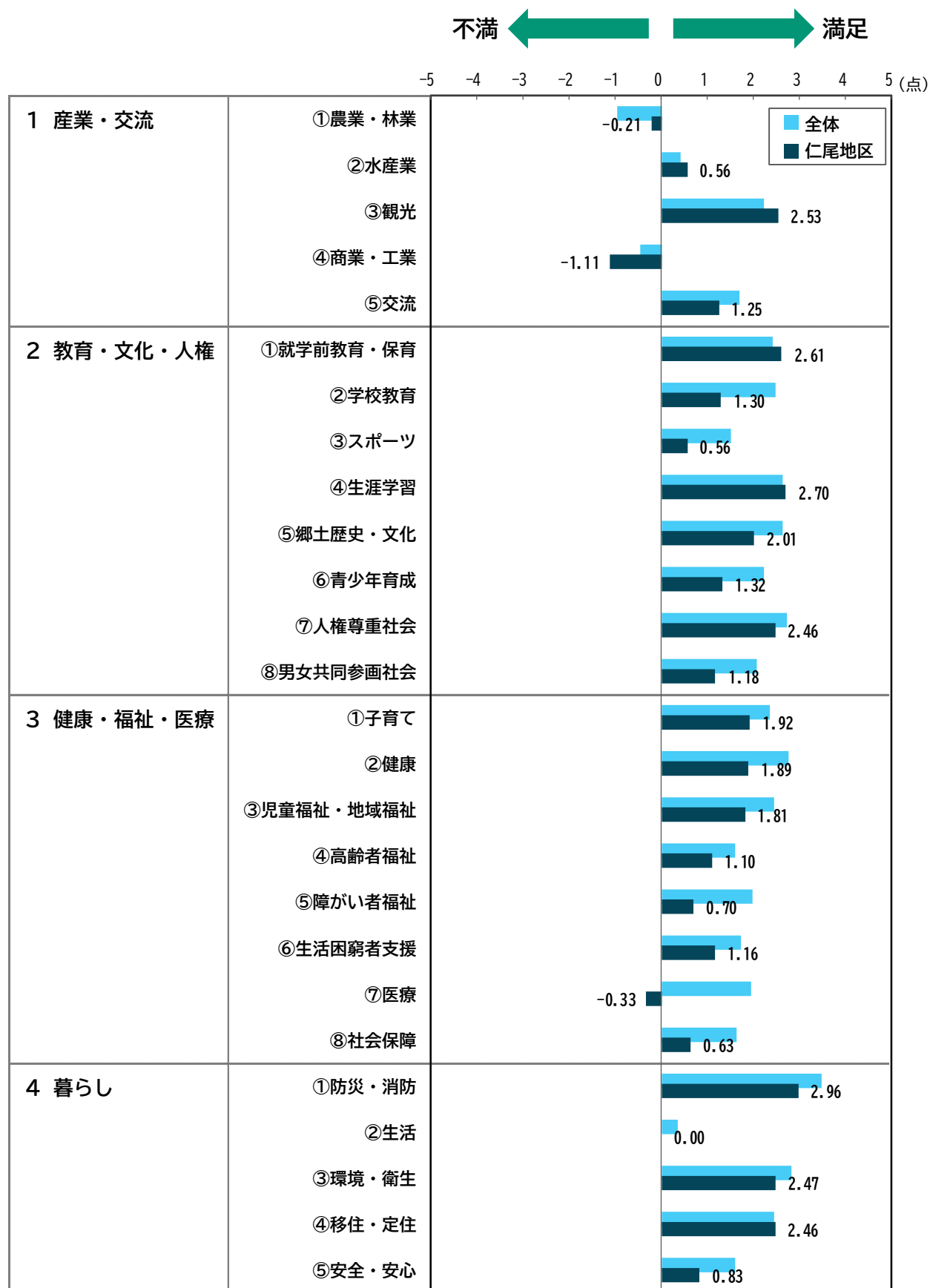
【豊中地区】



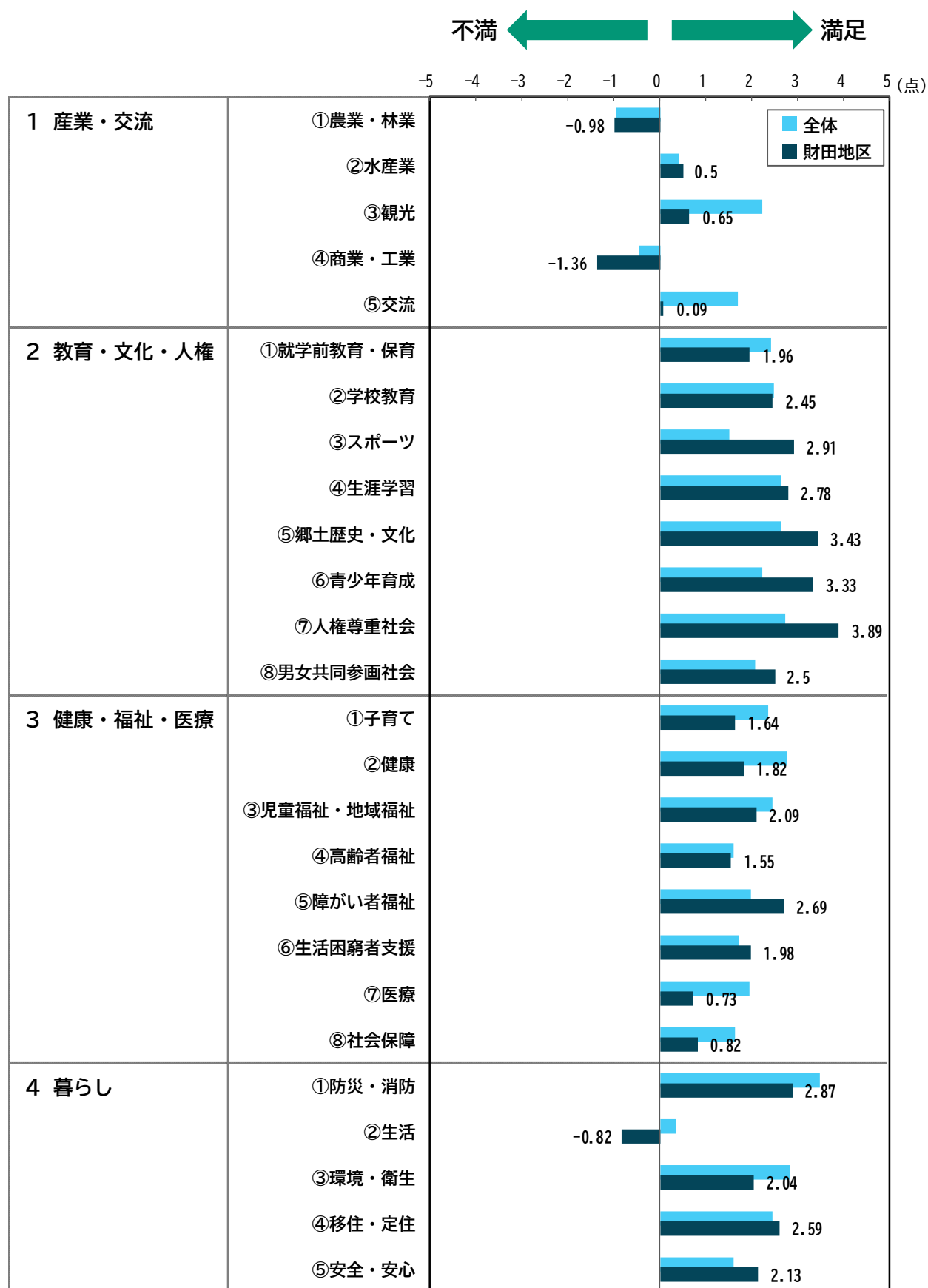
【詫間地区】



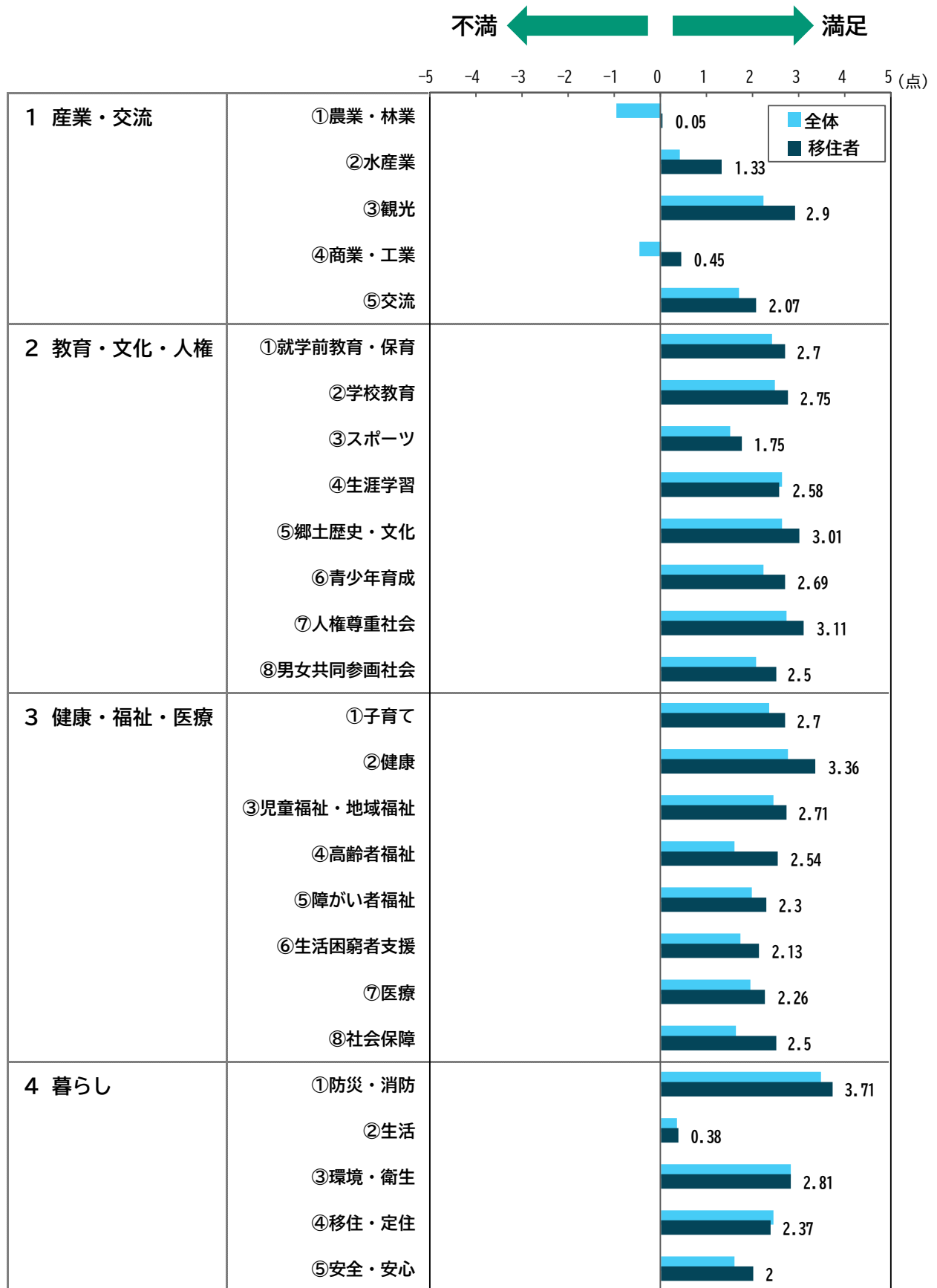
【仁尾地区】



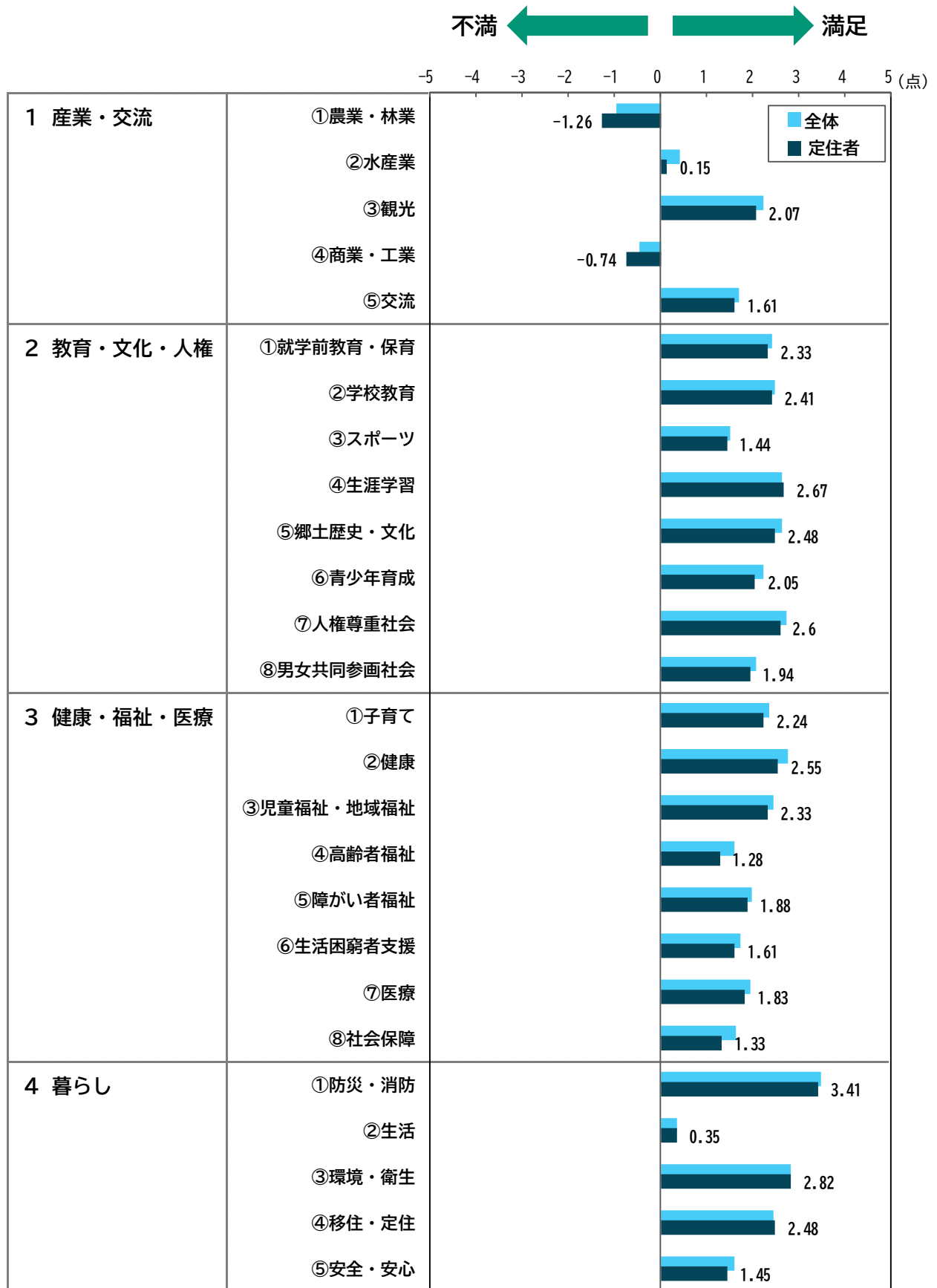
【財田地区】



【移住者】



【定住者】



(2) まちの各環境に関する重要度

問4 あなたは、毎日の生活の中で、生活環境や行政サービス、施設についてどれくらい満足していますか。また、今後の取組みとして、どれくらい重要だとお考えですか。

(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重要だと思いますか。

● 重要度が最も高い項目は「医療」。次いで「学校教育」、「防災・消防」、「子育て」、「健康」の順。

まちの各環境について、今後どの程度重要視していくかを把握するため、満足度と同じ4分野26項目について、「重要である」、「どちらかといえば重要である」、「どちらかといえば重要ではない」、「重要ではない」の4段階で評価してもらい、加重平均値による数量化〔後述参照〕で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、重要度評価が最も高い項目は「医療」（7.93点）となっており、次いで第2位が「学校教育」（7.64点）、第3位が「防災・消防」（7.63点）、以下、「子育て」（7.48点）、「健康」（7.39点）、「環境・衛生」（7.35点）、「就学前教育・保育」（7.26点）、「社会保障」（7.21点）、「安全・安心」（7.12点）、「高齢者福祉」（7.11点）などとなっています。

一方、重要度評価が最も低い項目は「郷土歴史・文化」（3.94点）となっており、次いで第2位が「交流」（4.73点）、第3位が「水産業」「生涯学習」（4.88点）、以下、「移住・定住」（5.20点）、「スポーツ」（5.26点）、「人権尊重社会」（5.42点）、「観光」（5.45点）、「生活困窮者支援」（5.50点）、「男女共同参画社会」（5.79点）などとなっています。

上位の項目をみると、ほとんどが健康・福祉・医療、暮らしの項目となっていることがわかります。

また、これを居住地区別及び移住定住別でみると、以下のとおりとなっています。

【高瀬地区】

重要度の上位5項目は、第1位が「医療」（7.96点）、第2位が「学校教育」（7.71点）、第3位が「防災・消防」（7.58点）、「健康」（7.52点）、第4位が「子育て」「環境・衛生」（7.29点）となっています。

【山本地区】

重要度の上位5項目は、第1位が「学校教育」（8.17点）、第2位が「医療」（8.12点）、第3位が「防災・消防」（7.77点）、第4位が「就学前教育・保育」（7.61点）、第5位が「健康」（7.53点）となっています。

【三野地区】

重要度の上位5項目は、第1位が「医療」（7.84点）、第2位が「防災・消防」（7.78点）、第3位が「子育て」（7.37点）、第4位が「就学前教育・保育」（7.35点）、第5位が「環境・衛生」（7.33点）となっています。

【豊中地区】

重要度の上位5項目は、第1位が「医療」(7.94点)、第2位が「子育て」(7.85点)、第3位が「学校教育」(7.71点)、第4位が「環境・衛生」(7.66点)、第5位が「健康」(7.55点)となっています。

【詫間地区】

重要度の上位5項目は、第1位が「医療」(7.85点)、第2位が「防災・消防」(7.72点)、第3位が「学校教育」(7.69点)、第4位が「子育て」「高齢者福祉」(7.57点)となっています。

【仁尾地区】

重要度の上位5項目は、第1位が「医療」(8.04点)、第2位が「防災・消防」(7.89点)、第3位が「健康」(7.88点)、第4位が「子育て」(7.81点)、第5位が「学校教育」(7.60点)となっています。

【財田地区】

重要度の上位5項目は、第1位が「医療」(8.09点)、第2位が「防災・消防」(7.78点)、第3位が「健康」(7.45点)、第4位が「生活」(7.41点)、第5位が「安全・安心」(7.31点)となっています。

【移住者】

重要度の上位5項目は、第1位が「医療」(8.50点)、第2位が「学校教育」(8.40点)、第3位が「子育て」(8.33点)、第4位が「児童福祉・地域福祉」(7.78点)、第5位が「社会保障」(7.69点)となっています。

【定住者】

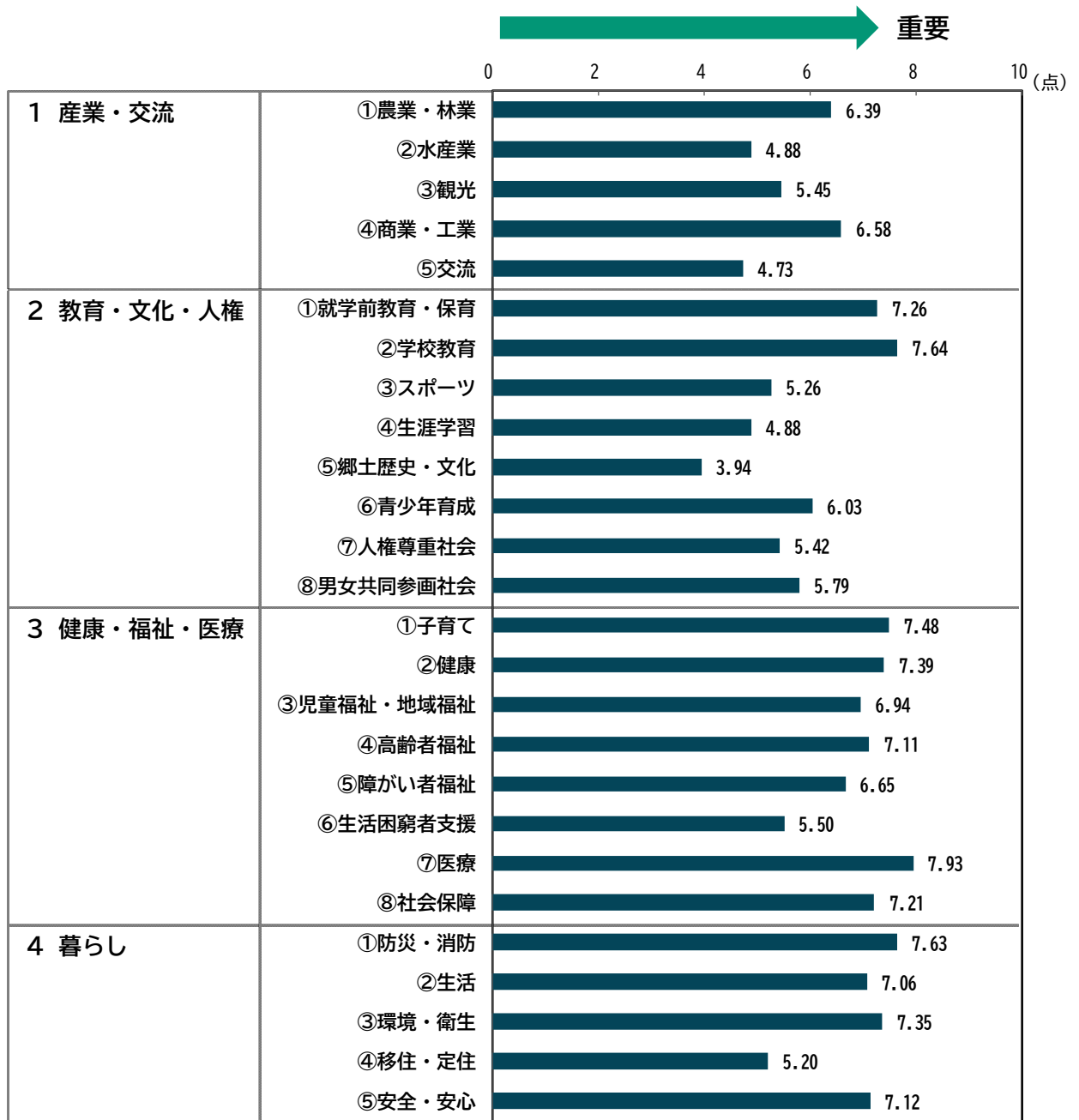
重要度の上位5項目は、第1位が「医療」(7.76点)、第2位が「防災・消防」(7.65点)、第3位が「学校教育」(7.40点)、第4位が「健康」(7.32点)、第5位が「環境・衛生」(7.30点)となっています。

※加重平均値による評価点（重要度）の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

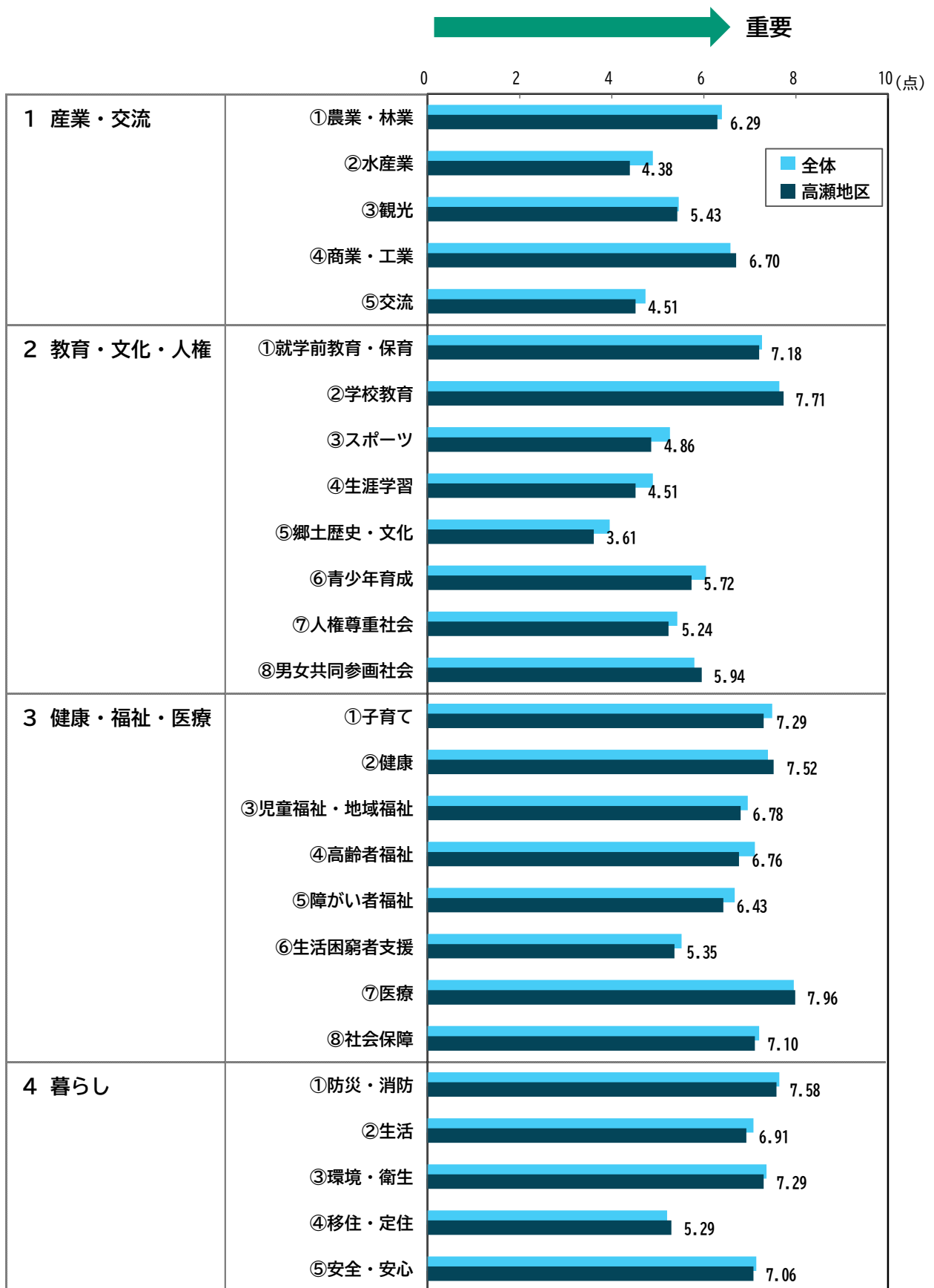
$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「重要である」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば重要である」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば重要ではない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重要ではない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right]}{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「重要である」、「どちらかとい} \\ \text{えば重要である」、「どちら} \\ \text{かといえば重要ではない」、} \\ \text{「重要ではない」の回答者数} \end{array} \right]} \end{array}}$$

図表 8 まちの各環境に関する重要度（全体）

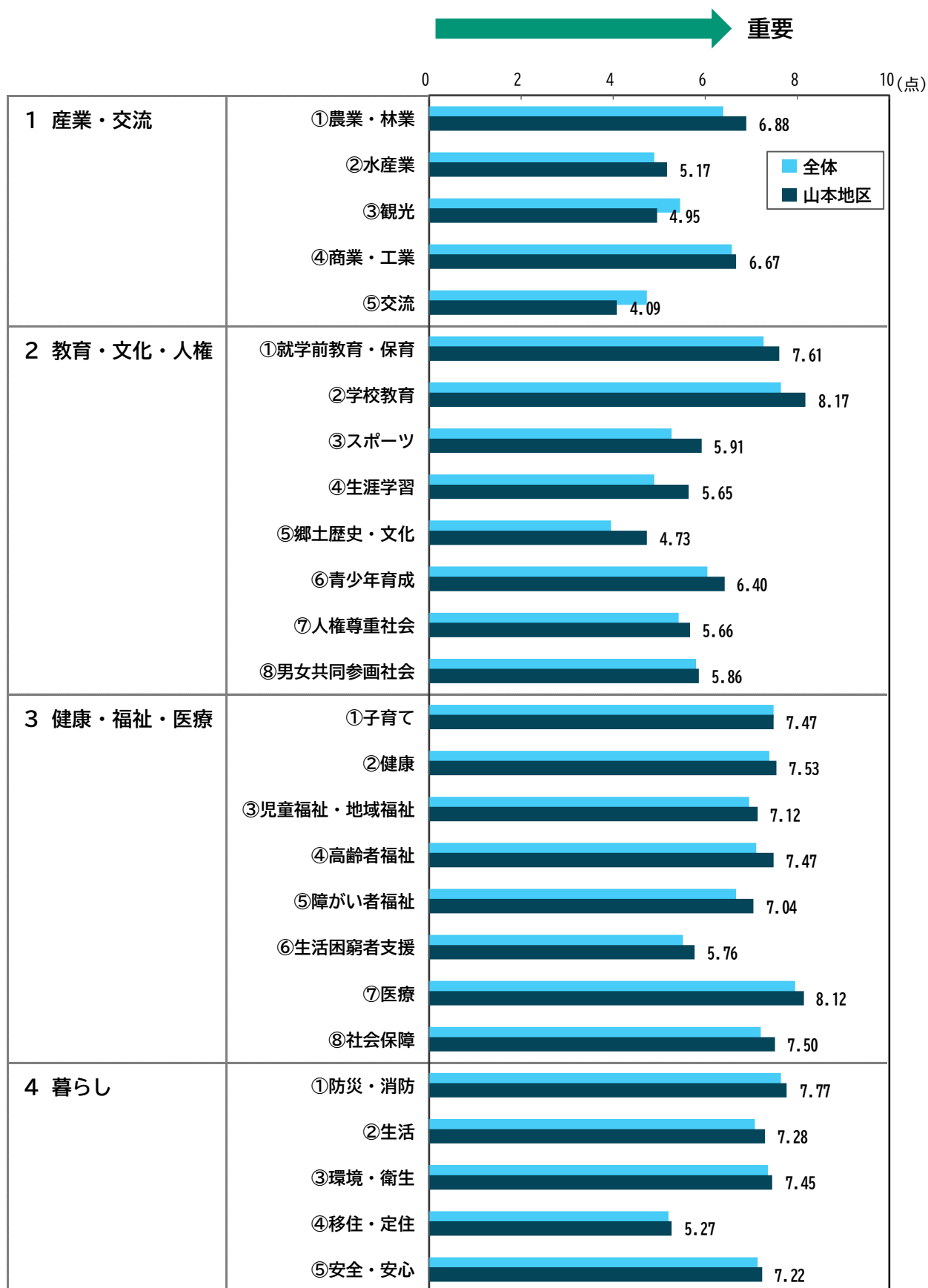


図表 9 まちの各環境に関する重要度（居住地区）

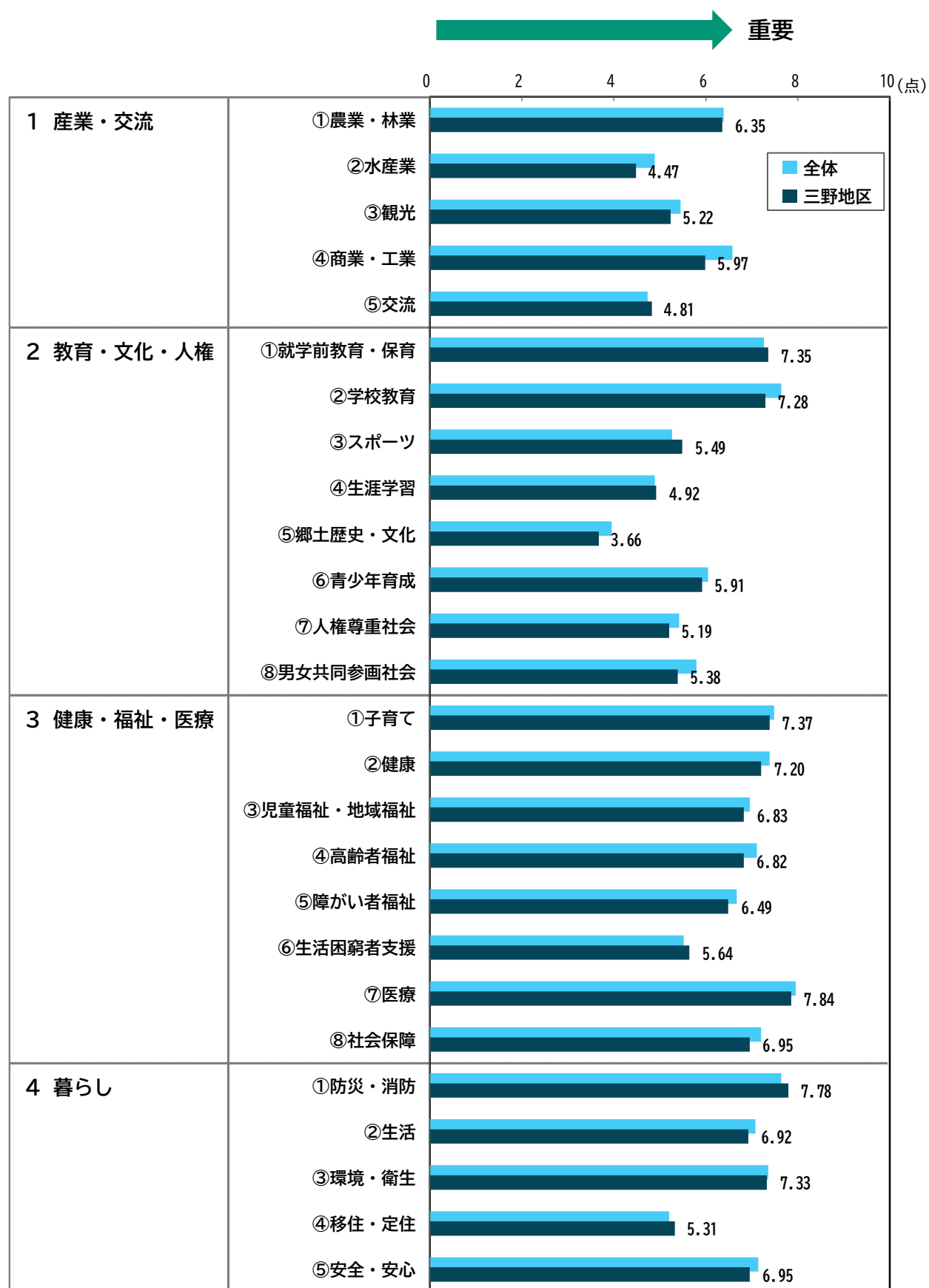
【高瀬地区】



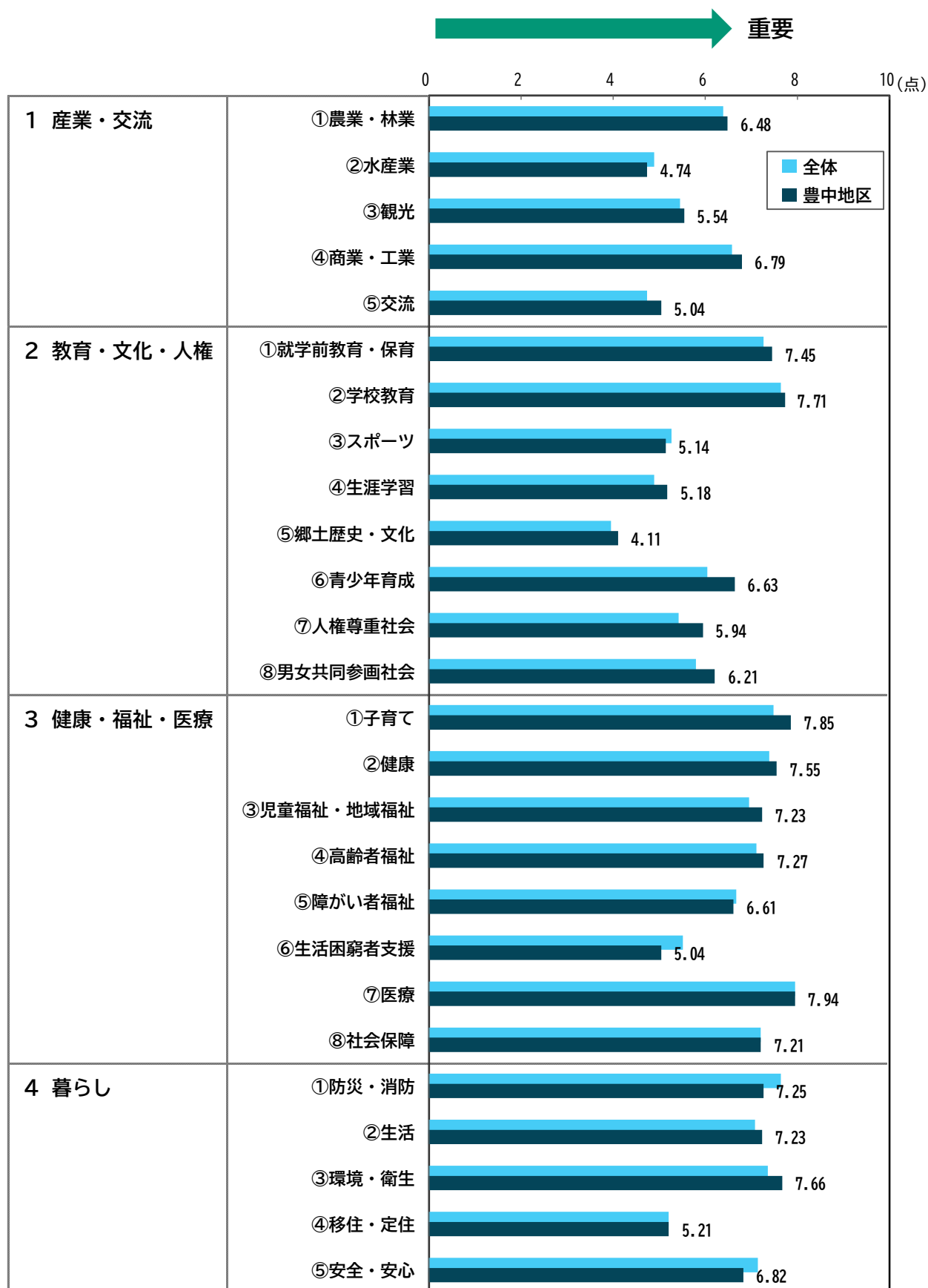
【山本地区】



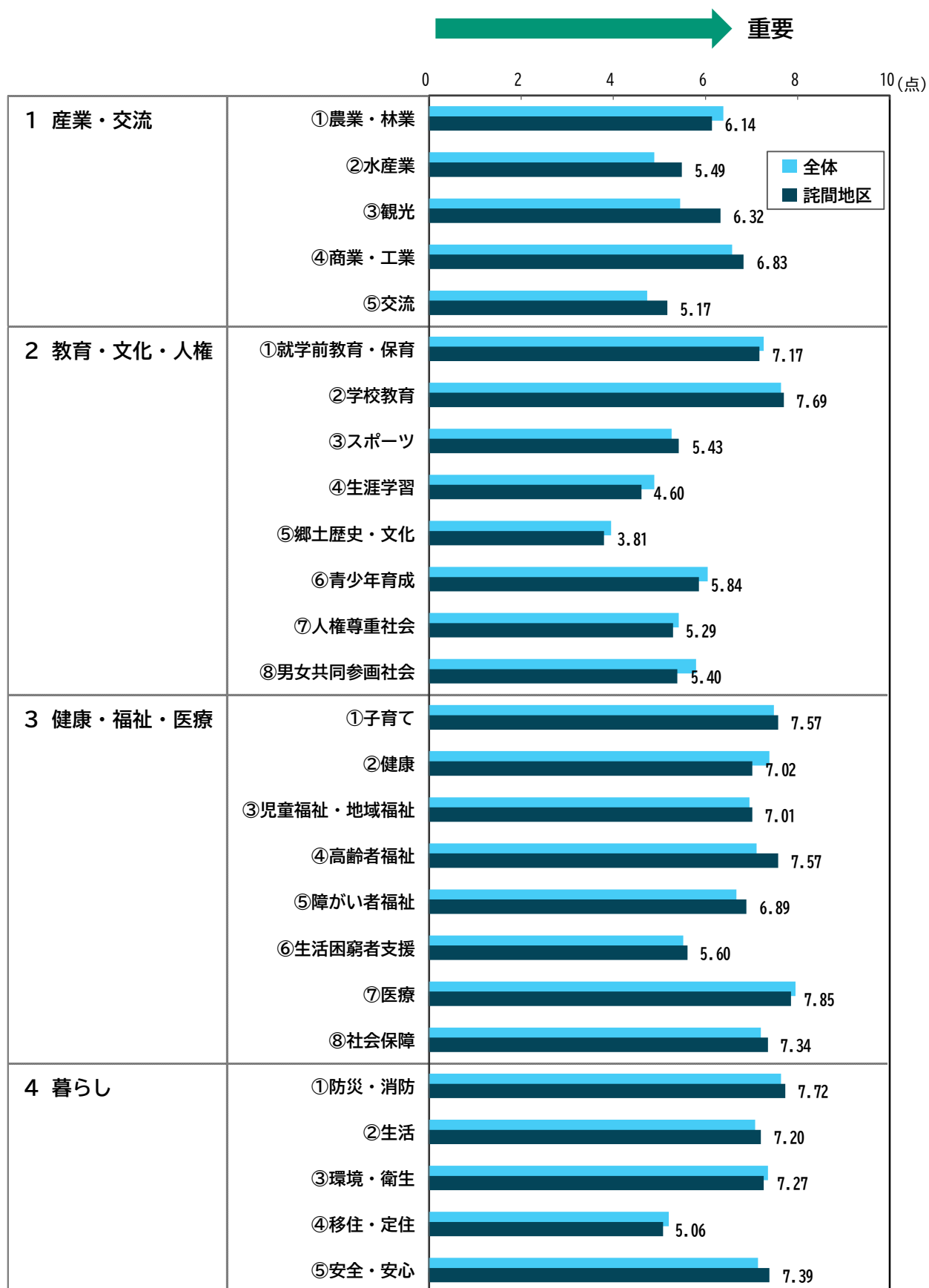
【三野地区】



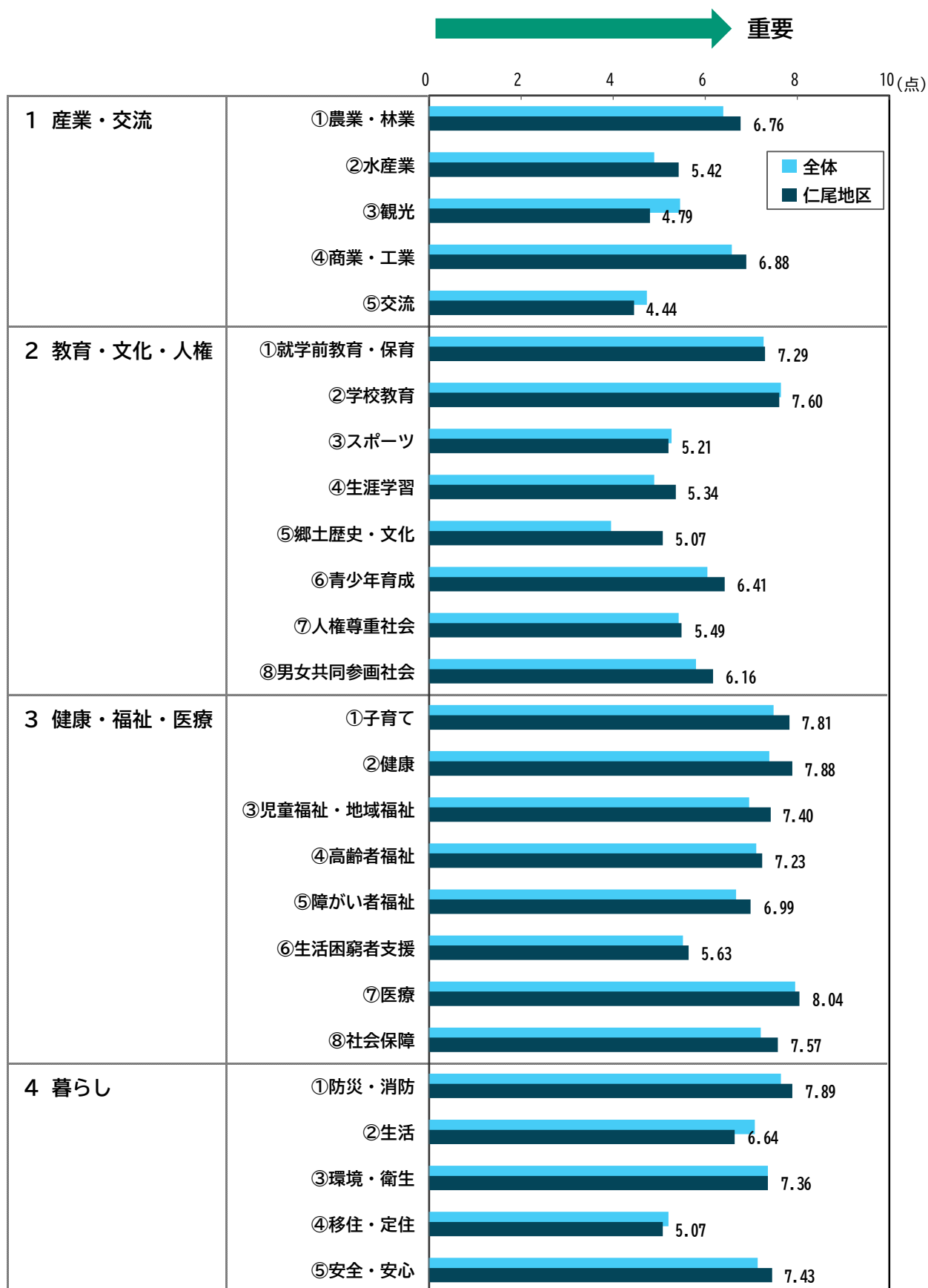
【豊中地区】



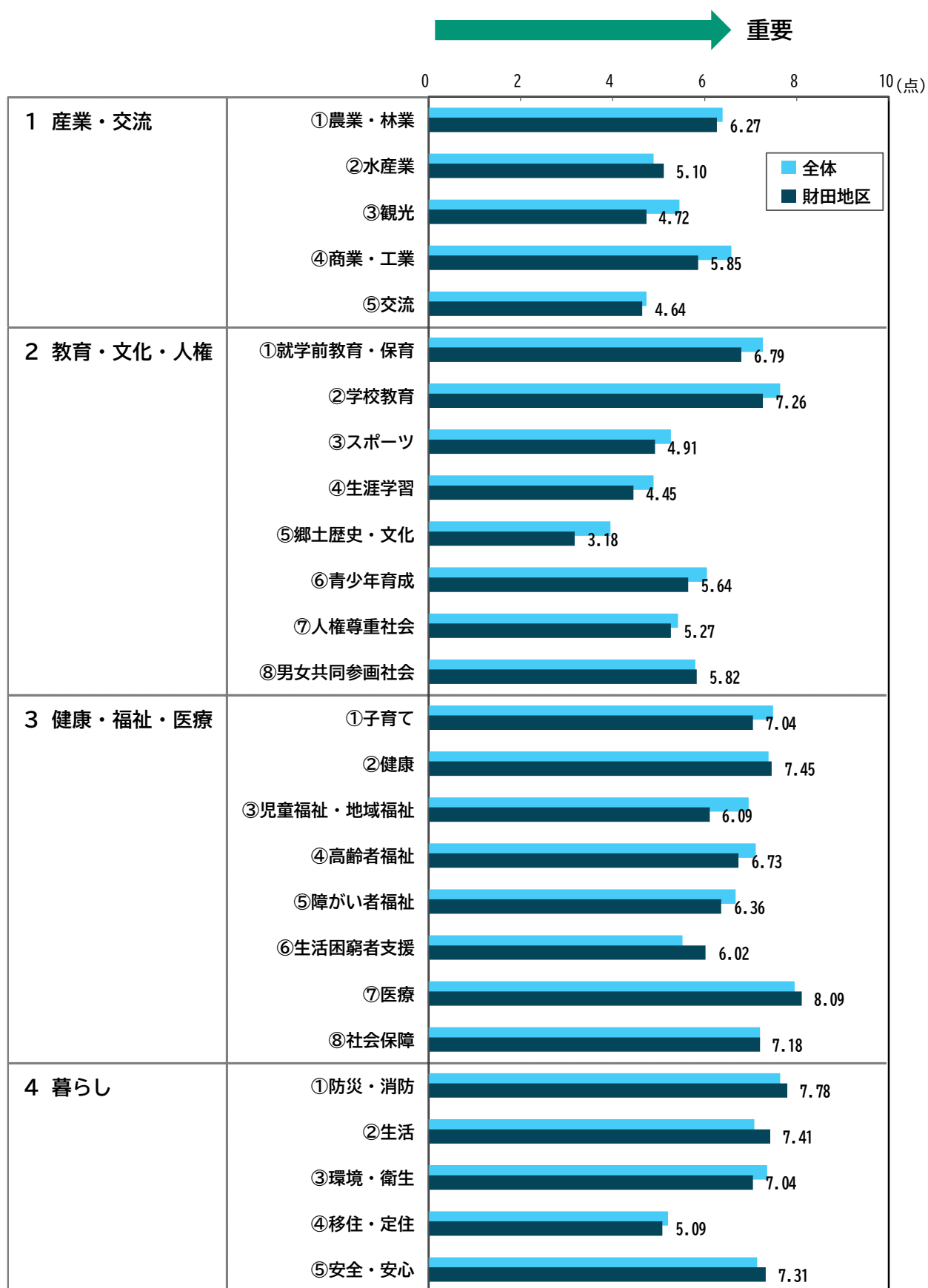
【詫間地区】



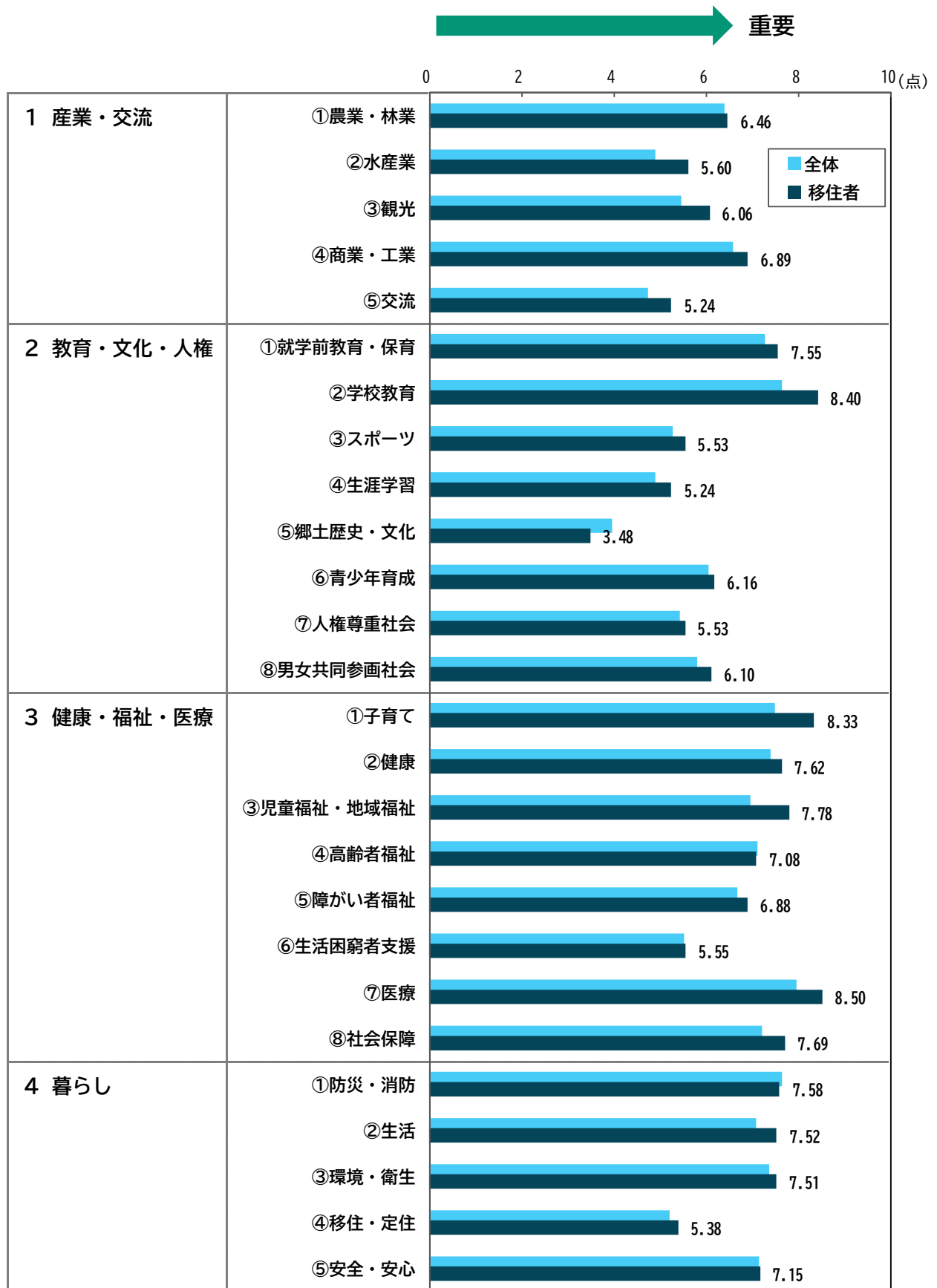
【仁尾地区】



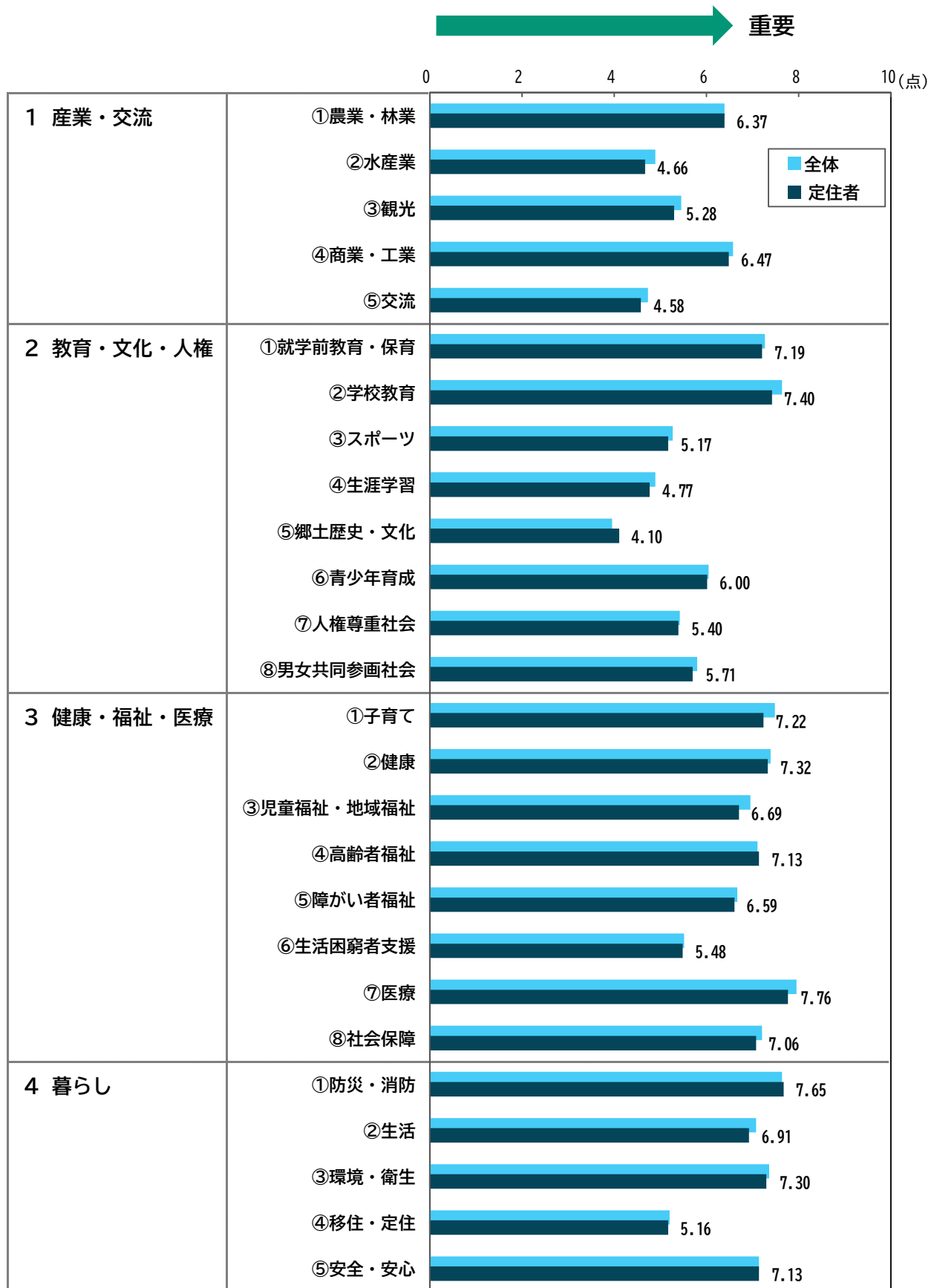
【財田地区】



【移住者】



【定住者】



(3) 満足度と重要度の相関（優先度）

- 満足度と重要度の相関からみた優先度が高い項目は「農業・林業」、「商業・工業」、「高齢者福祉」、「社会保障」、「生活」、「安全・安心」の6項目。

これまでの満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するために、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは、左上の「満足度が低く重要度が高い」エリアに位置する項目の優先度が高くなり、右下の「満足度が高く重要度が低い」エリアで優先度が低くなります。この結果をみると、「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「商業・工業」、「高齢者福祉」、「社会保障」、「生活」、「安全・安心」であるということがわかります。また、これを居住地区別、移住状況別でみると、以下のとおりとなっています。

【高瀬地区】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「商業・工業」、「高齢者福祉」、「社会保障」、「生活」、「安全・安心」の6項目となっており、全体の数と同様となっています。

【山本地区】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「商業・工業」、「高齢者福祉」、「生活」、「安全・安心」の5項目となっており、全体よりも1項目少なくなっています。

【三野地区】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「生活」、「安全・安心」の3項目となっており、全体よりも3項目少なくなっています。

【豊中地区】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「商業・工業」、「児童福祉・地域福祉」、「高齢者福祉」、「障がい者福祉」、「医療」、「社会保障」、「生活」、「安全・安心」の9項目となっており、全体よりも3項目多くなっています。

【詫間地区】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「商業・工業」、「高齢者福祉」、「障がい者福祉」、「社会保障」、「生活」、「安全・安心」の6項目となっており、全体の数と同様となっています。

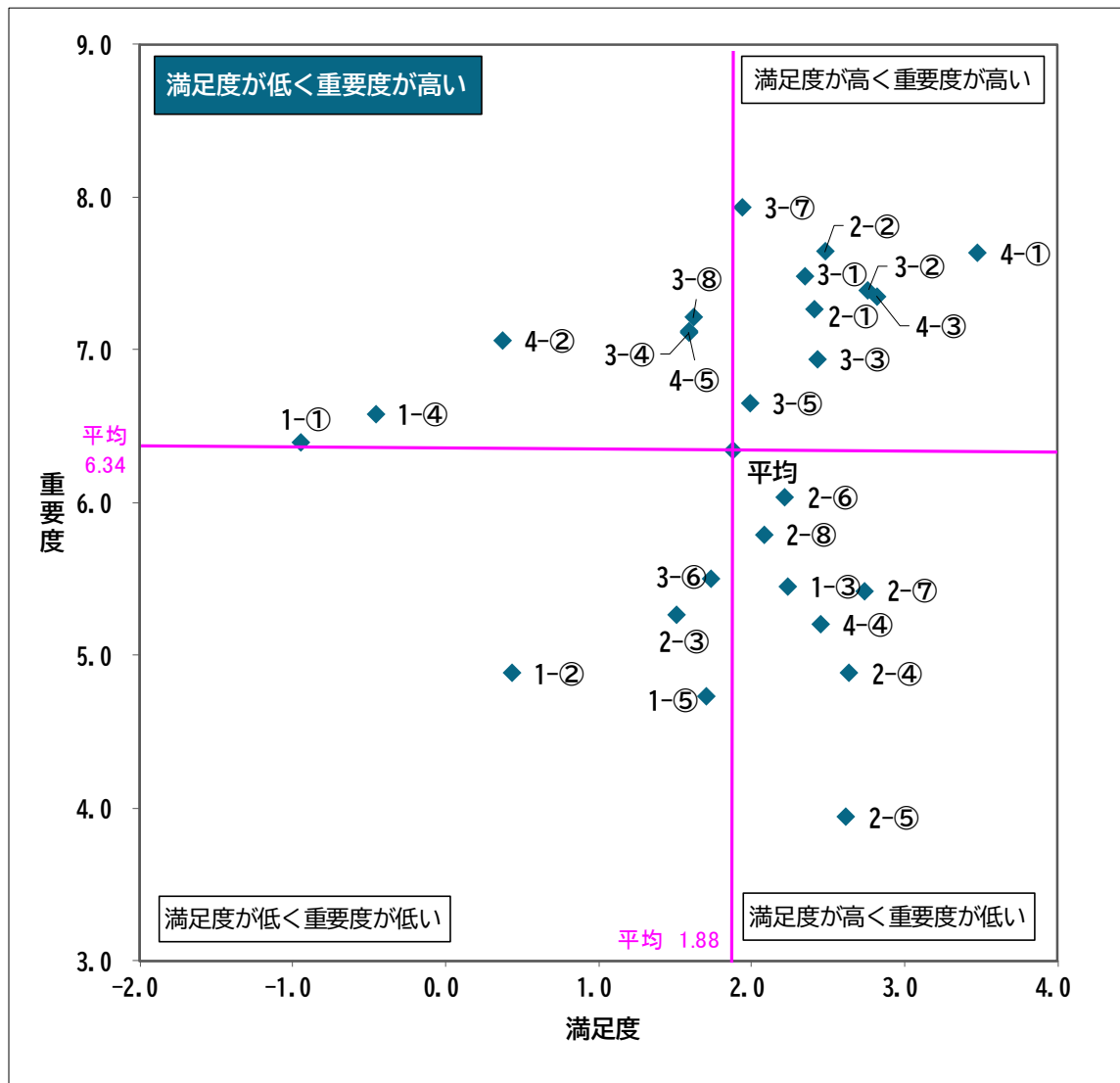
【仁尾地区】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「商業・工業」、「学校教育」、「高齢者福祉」、「障がい者福祉」、「医療」、「社会保障」、「生活」、「安全・安心」の9項目となっており、全体よりも3項目多くなっています。

【財田地区】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「子育て」、「高齢者福祉」、「医療」、「社会保障」、「生活」の6項目となっており、全体の数と同様となっています。

図表 10 満足度と重要度の相関（全体／優先度）

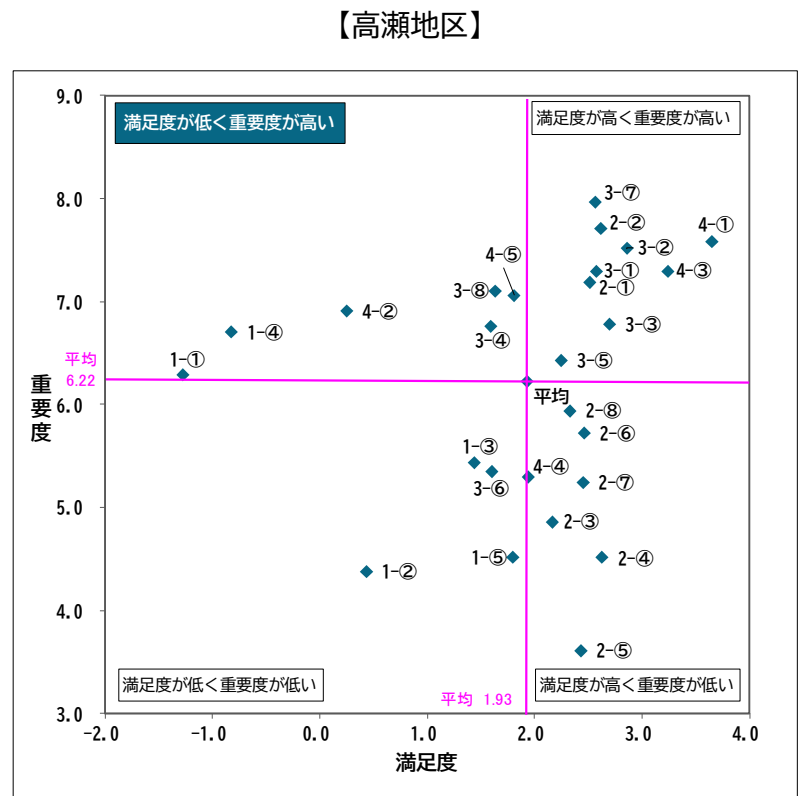


項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-0.95	6.39
	1-②水産業	0.43	4.88
	1-③観光	2.24	5.45
	1-④商業・工業	-0.46	6.58
	1-⑤交流	1.70	4.73
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	2.41	7.26
	2-②学校教育	2.48	7.64
	2-③スポーツ	1.51	5.26
	2-④生涯学習	2.64	4.88
	2-⑤郷土歴史・文化	2.62	3.94
	2-⑥青少年育成	2.22	6.03
	2-⑦人権尊重社会	2.74	5.42
	2-⑧男女共同参画社会	2.08	5.79

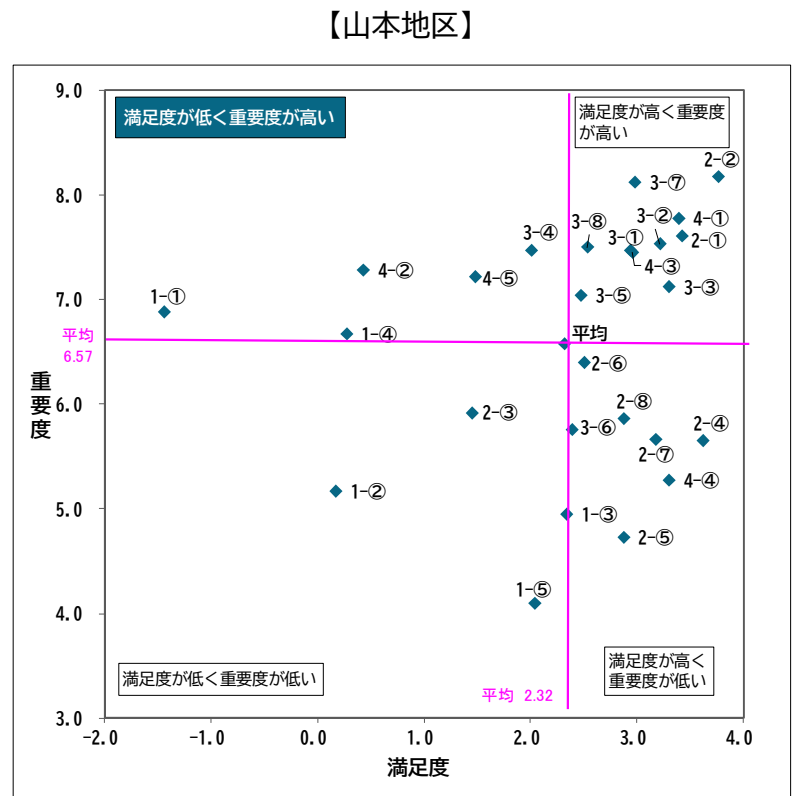
項目		満足度	重要度
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.35	7.48
	3-②健康	2.76	7.39
	3-③児童福祉・地域福祉	2.43	6.94
	3-④高齢者福祉	1.59	7.11
	3-⑤障がい者福祉	1.99	6.65
	3-⑥生活困窮者支援	1.74	5.50
	3-⑦医療	1.94	7.93
	3-⑧社会保障	1.62	7.21
暮らし	4-①防災・消防	3.48	7.63
	4-②生活	0.37	7.06
	4-③環境・衛生	2.82	7.35
	4-④移住・定住	2.45	5.20
	4-⑤安全・安心	1.59	7.12
平均		1.88	6.34

図表 11 満足度と重要度の相関（居住地区／優先度）

項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-1.27	6.29
	1-②水産業	0.43	4.38
	1-③観光	1.44	5.43
	1-④商業・工業	-0.82	6.70
	1-⑤交流	1.80	4.51
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	2.51	7.18
	2-②学校教育	2.62	7.71
	2-③スポーツ	2.17	4.86
	2-④生涯学習	2.63	4.51
	2-⑤郷土歴史・文化	2.43	3.61
	2-⑥青少年育成	2.46	5.72
	2-⑦人権尊重社会	2.45	5.24
	2-⑧男女共同参画社会	2.33	5.94
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.57	7.29
	3-②健康	2.86	7.52
	3-③児童福祉・地域福祉	2.70	6.78
	3-④高齢者福祉	1.59	6.76
	3-⑤障がい者福祉	2.25	6.43
	3-⑥生活困窮者支援	1.60	5.35
	3-⑦医療	2.56	7.96
	3-⑧社会保障	1.63	7.10
暮らし	4-①防災・消防	3.65	7.58
	4-②生活	0.25	6.91
	4-③環境・衛生	3.24	7.29
	4-④移住・定住	1.94	5.29
	4-⑤安全・安心	1.81	7.06
平均		1.93	6.22

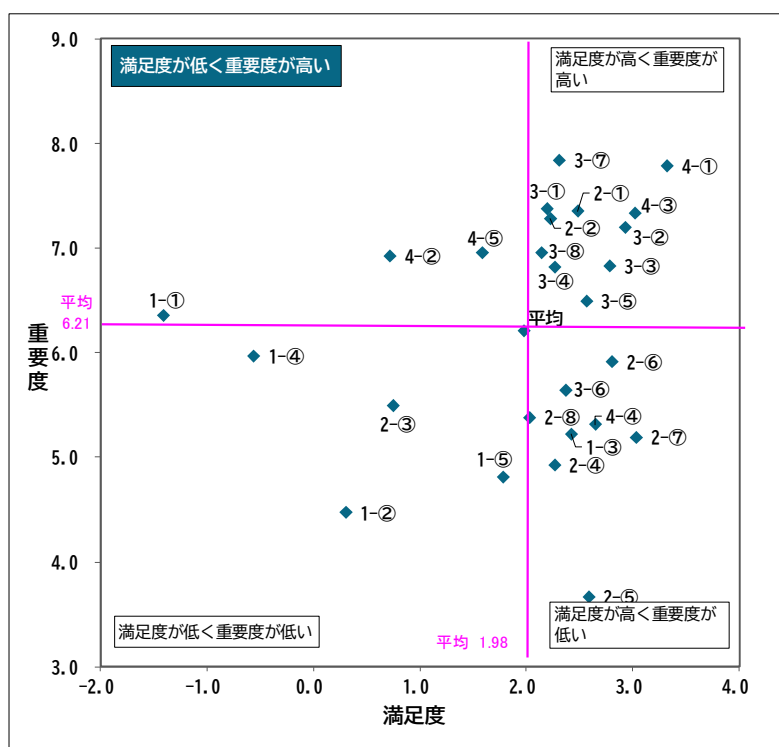


項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-1.44	6.88
	1-②水産業	0.17	5.17
	1-③観光	2.34	4.95
	1-④商業・工業	0.27	6.67
	1-⑤交流	2.04	4.09
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	3.42	7.61
	2-②学校教育	3.76	8.17
	2-③スポーツ	1.45	5.91
	2-④生涯学習	3.62	5.65
	2-⑤郷土歴史・文化	2.87	4.73
	2-⑥青少年育成	2.50	6.40
	2-⑦人権尊重社会	3.17	5.66
	2-⑧男女共同参画社会	2.87	5.86
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.94	7.47
	3-②健康	3.21	7.53
	3-③児童福祉・地域福祉	3.30	7.12
	3-④高齢者福祉	2.01	7.47
	3-⑤障がい者福祉	2.47	7.04
	3-⑥生活困窮者支援	2.39	5.76
	3-⑦医療	2.98	8.12
	3-⑧社会保障	2.53	7.50
暮らし	4-①防災・消防	3.39	7.77
	4-②生活	0.43	7.28
	4-③環境・衛生	2.96	7.45
	4-④移住・定住	3.30	5.27
	4-⑤安全・安心	1.48	7.22
平均		2.32	6.57



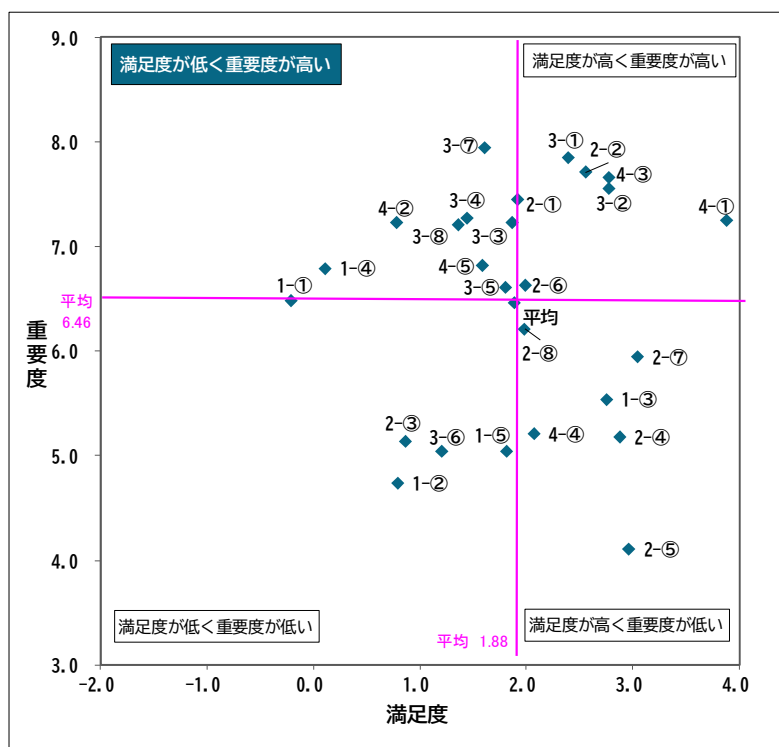
項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-1.41	6.35
	1-②水産業	0.30	4.47
	1-③観光	2.42	5.22
	1-④商業・工業	-0.56	5.97
	1-⑤交流	1.78	4.81
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	2.48	7.35
	2-②学校教育	2.22	7.28
	2-③スポーツ	0.75	5.49
	2-④生涯学習	2.26	4.92
	2-⑤郷土歴史・文化	2.58	3.66
	2-⑥青少年育成	2.80	5.91
	2-⑦人権尊重社会	3.03	5.19
	2-⑧男女共同参画社会	2.03	5.38
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.19	7.37
	3-②健康	2.93	7.20
	3-③児童福祉・地域福祉	2.78	6.83
	3-④高齢者福祉	2.26	6.82
	3-⑤障がい者福祉	2.56	6.49
	3-⑥生活困窮者支援	2.37	5.64
	3-⑦医療	2.31	7.84
	3-⑧社会保障	2.14	6.95
暮らし	4-①防災・消防	3.32	7.78
	4-②生活	0.72	6.92
	4-③環境・衛生	3.02	7.33
	4-④移住・定住	2.65	5.31
	4-⑤安全・安心	1.58	6.95
平均		1.98	6.21

【三野地区】



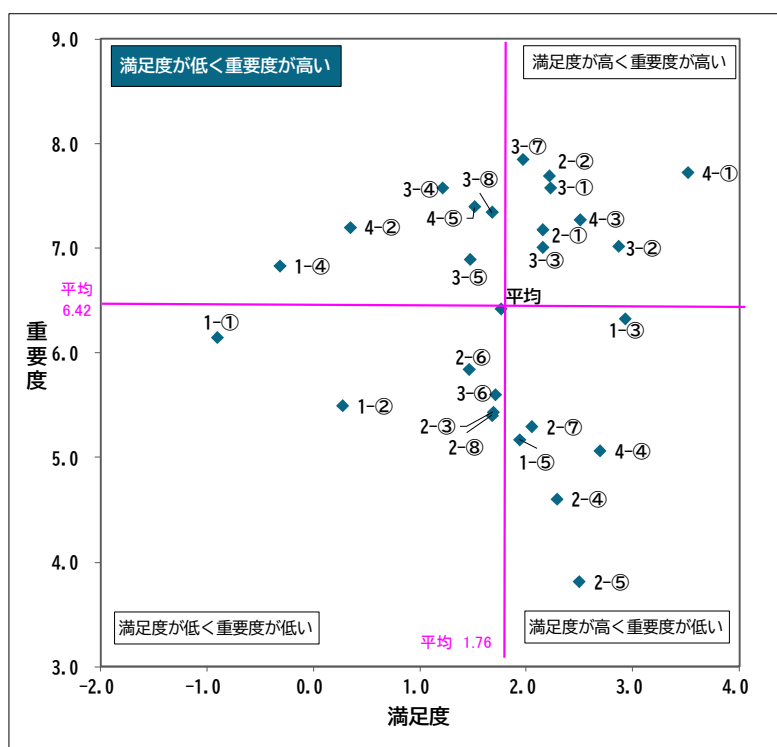
項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-0.21	6.48
	1-②水産業	0.79	4.74
	1-③観光	2.75	5.54
	1-④商業・工業	0.11	6.79
	1-⑤交流	1.81	5.04
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	1.91	7.45
	2-②学校教育	2.55	7.71
	2-③スポーツ	0.86	5.14
	2-④生涯学習	2.87	5.18
	2-⑤郷土歴史・文化	2.96	4.11
	2-⑥青少年育成	1.99	6.63
	2-⑦人権尊重社会	3.04	5.94
	2-⑧男女共同参画社会	1.98	6.21
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.39	7.85
	3-②健康	2.77	7.55
	3-③児童福祉・地域福祉	1.86	7.23
	3-④高齢者福祉	1.44	7.27
	3-⑤障がい者福祉	1.80	6.61
	3-⑥生活困窮者支援	1.20	5.04
	3-⑦医療	1.60	7.94
	3-⑧社会保障	1.36	7.21
暮らし	4-①防災・消防	3.88	7.25
	4-②生活	0.78	7.23
	4-③環境・衛生	2.77	7.66
	4-④移住・定住	2.07	5.21
	4-⑤安全・安心	1.58	6.82
平均		1.88	6.46

【豊中地区】



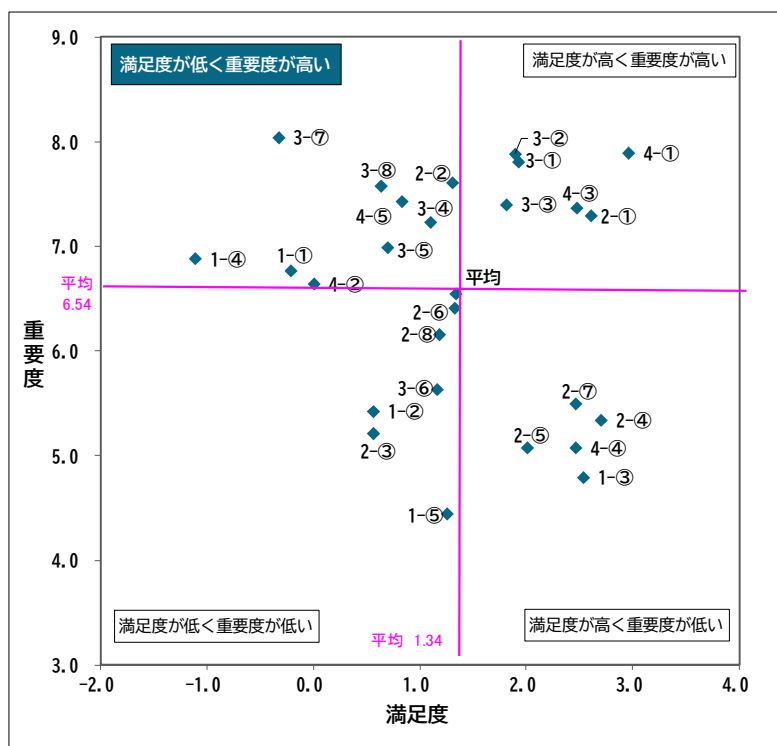
項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-0.90	6.14
	1-②水産業	0.27	5.49
	1-③観光	2.93	6.32
	1-④商業・工業	-0.32	6.83
	1-⑤交流	1.93	5.17
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	2.15	7.17
	2-②学校教育	2.21	7.69
	2-③スポーツ	1.69	5.43
	2-④生涯学習	2.28	4.60
	2-⑤郷土歴史・文化	2.49	3.81
	2-⑥青少年育成	1.46	5.84
	2-⑦人権尊重社会	2.05	5.29
	2-⑧男女共同参画社会	1.68	5.40
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.22	7.57
	3-②健康	2.86	7.02
	3-③児童福祉・地域福祉	2.15	7.01
	3-④高齢者福祉	1.21	7.57
	3-⑤障がい者福祉	1.47	6.89
	3-⑥生活困窮者支援	1.71	5.60
	3-⑦医療	1.97	7.85
	3-⑧社会保障	1.68	7.34
暮らし	4-①防災・消防	3.51	7.72
	4-②生活	0.34	7.20
	4-③環境・衛生	2.50	7.27
	4-④移住・定住	2.69	5.06
	4-⑤安全・安心	1.51	7.39
平均		1.76	6.42

【詫間地区】



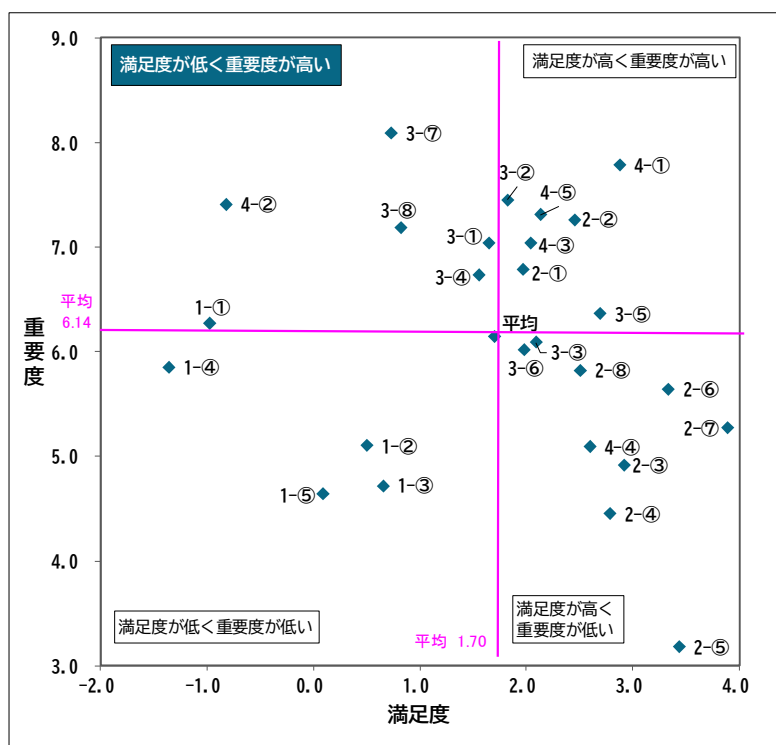
項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-0.21	6.76
	1-②水産業	0.56	5.42
	1-③観光	2.53	4.79
	1-④商業・工業	-1.11	6.88
	1-⑤交流	1.25	4.44
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	2.61	7.29
	2-②学校教育	1.30	7.60
	2-③スポーツ	0.56	5.21
	2-④生涯学習	2.70	5.34
	2-⑤郷土歴史・文化	2.01	5.07
	2-⑥青少年育成	1.32	6.41
	2-⑦人権尊重社会	2.46	5.49
	2-⑧男女共同参画社会	1.18	6.16
健康・福祉・医療	3-①子育て	1.92	7.81
	3-②健康	1.89	7.88
	3-③児童福祉・地域福祉	1.81	7.40
	3-④高齢者福祉	1.10	7.23
	3-⑤障がい者福祉	0.70	6.99
	3-⑥生活困窮者支援	1.16	5.63
	3-⑦医療	-0.33	8.04
	3-⑧社会保障	0.63	7.57
暮らし	4-①防災・消防	2.96	7.89
	4-②生活	0.00	6.64
	4-③環境・衛生	2.47	7.36
	4-④移住・定住	2.46	5.07
	4-⑤安全・安心	0.83	7.43
平均		1.34	6.54

【仁尾地区】



項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-0.98	6.27
	1-②水産業	0.50	5.10
	1-③観光	0.65	4.72
	1-④商業・工業	-1.36	5.85
	1-⑤交流	0.09	4.64
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	1.96	6.79
	2-②学校教育	2.45	7.26
	2-③スポーツ	2.91	4.91
	2-④生涯学習	2.78	4.45
	2-⑤郷土歴史・文化	3.43	3.18
	2-⑥青少年育成	3.33	5.64
	2-⑦人権尊重社会	3.89	5.27
	2-⑧男女共同参画社会	2.50	5.82
健康・福祉・医療	3-①子育て	1.64	7.04
	3-②健康	1.82	7.45
	3-③児童福祉・地域福祉	2.09	6.09
	3-④高齢者福祉	1.55	6.73
	3-⑤障がい者福祉	2.69	6.36
	3-⑥生活困窮者支援	1.98	6.02
	3-⑦医療	0.73	8.09
	3-⑧社会保障	0.82	7.18
暮らし	4-①防災・消防	2.87	7.78
	4-②生活	-0.82	7.41
	4-③環境・衛生	2.04	7.04
	4-④移住・定住	2.59	5.09
	4-⑤安全・安心	2.13	7.31
平均		1.70	6.14

【財田地区】



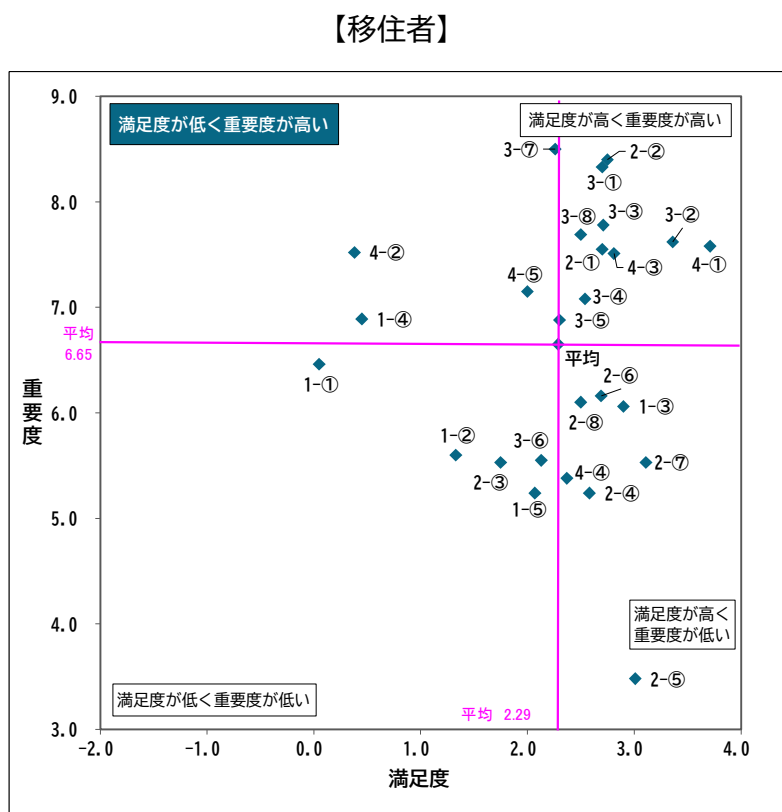
【移住者】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「商業・工業」、「医療」、「生活」、「安全・安心」の4項目となっており、全体よりも2項目少なくなっています。

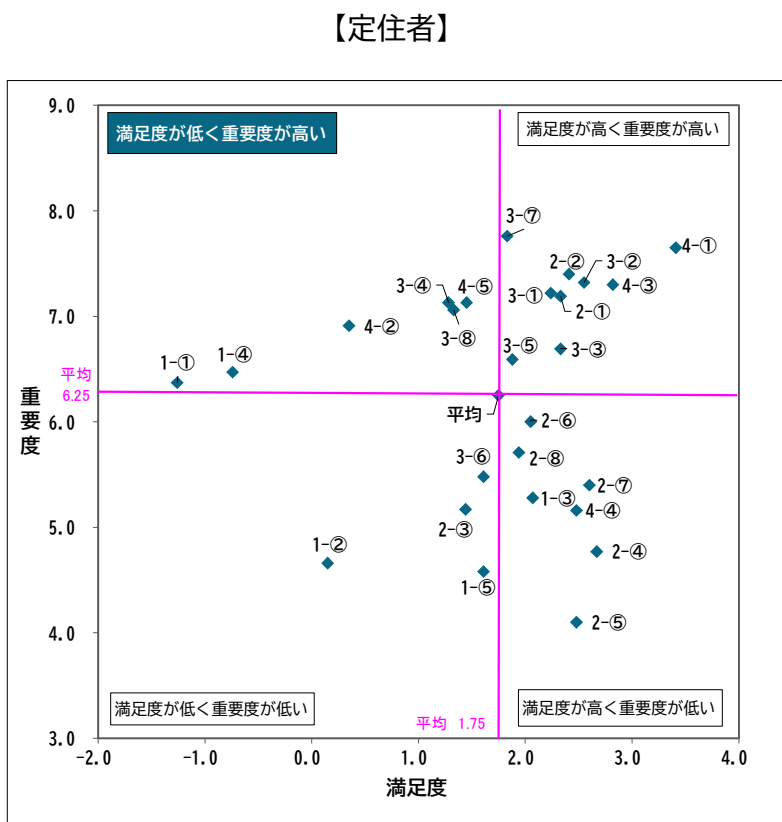
【定住者】

「満足度が低く重要度が高い」項目は「農業・林業」、「商業・工業」、「高齢者福祉」、「社会保障」、「生活」、「安全・安心」の6項目となっており、全体の数と同様となっています。

項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	0.05	6.46
	1-②水産業	1.33	5.60
	1-③観光	2.90	6.06
	1-④商業・工業	0.45	6.89
	1-⑤交流	2.07	5.24
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	2.70	7.55
	2-②学校教育	2.75	8.40
	2-③スポーツ	1.75	5.53
	2-④生涯学習	2.58	5.24
	2-⑤郷土歴史・文化	3.01	3.48
	2-⑥青少年育成	2.69	6.16
	2-⑦人権尊重社会	3.11	5.53
	2-⑧男女共同参画社会	2.50	6.10
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.70	8.33
	3-②健康	3.36	7.62
	3-③児童福祉・地域福祉	2.71	7.78
	3-④高齢者福祉	2.54	7.08
	3-⑤障がい者福祉	2.30	6.88
	3-⑥生活困窮者支援	2.13	5.55
	3-⑦医療	2.26	8.50
	3-⑧社会保障	2.50	7.69
暮らし	4-①防災・消防	3.71	7.58
	4-②生活	0.38	7.52
	4-③環境・衛生	2.81	7.51
	4-④移住・定住	2.37	5.38
	4-⑤安全・安心	2.00	7.15
平均		2.29	6.65



項目		満足度	重要度
産業・交流	1-①農業・林業	-1.26	6.37
	1-②水産業	0.15	4.66
	1-③観光	2.07	5.28
	1-④商業・工業	-0.74	6.47
	1-⑤交流	1.61	4.58
教育・文化・人権	2-①就学前教育・保育	2.33	7.19
	2-②学校教育	2.41	7.40
	2-③スポーツ	1.44	5.17
	2-④生涯学習	2.67	4.77
	2-⑤郷土歴史・文化	2.48	4.10
	2-⑥青少年育成	2.05	6.00
	2-⑦人権尊重社会	2.60	5.40
	2-⑧男女共同参画社会	1.94	5.71
健康・福祉・医療	3-①子育て	2.24	7.22
	3-②健康	2.55	7.32
	3-③児童福祉・地域福祉	2.33	6.69
	3-④高齢者福祉	1.28	7.13
	3-⑤障がい者福祉	1.88	6.59
	3-⑥生活困窮者支援	1.61	5.48
	3-⑦医療	1.83	7.76
	3-⑧社会保障	1.33	7.06
暮らし	4-①防災・消防	3.41	7.65
	4-②生活	0.35	6.91
	4-③環境・衛生	2.82	7.30
	4-④移住・定住	2.48	5.16
	4-⑤安全・安心	1.45	7.13
平均		1.75	6.25



(4) 三豊市は住みやすいと感じるか

問5 あなたは、三豊市は住みやすいと感じていますか。

● 「住みやすい」は76.0%、「住みにくい」は19.6%。

市の住みやすさについてみると、「住みやすい」(76.0%)、「住みにくい」(19.6%)となっています。

前回結果と比較すると、あまり大きな違いはみられません。

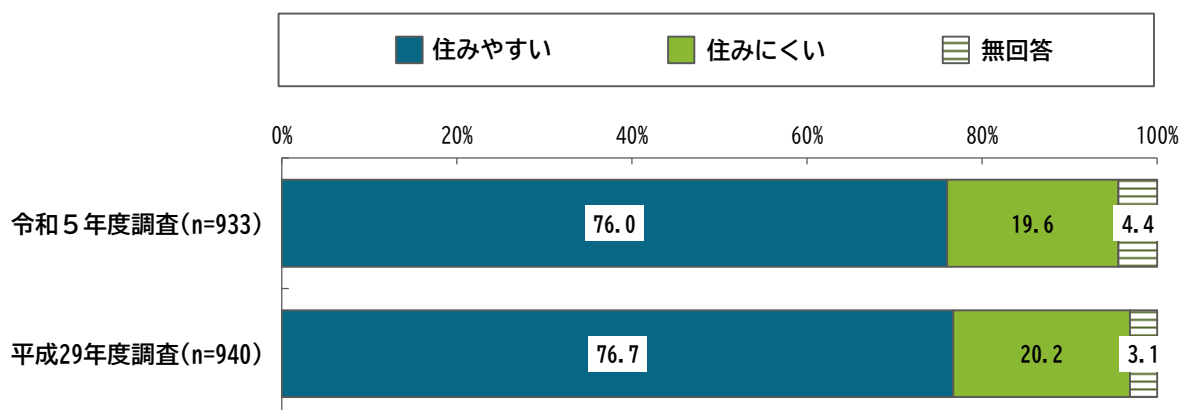
属性別で「住みやすい」の割合をみると、性別では、男性が77.7%、女性が75.5%となっています。

年齢別では、いずれの年代でも7割以上を占めていますが、特に40～49歳で81.1%と最も高くなっています。

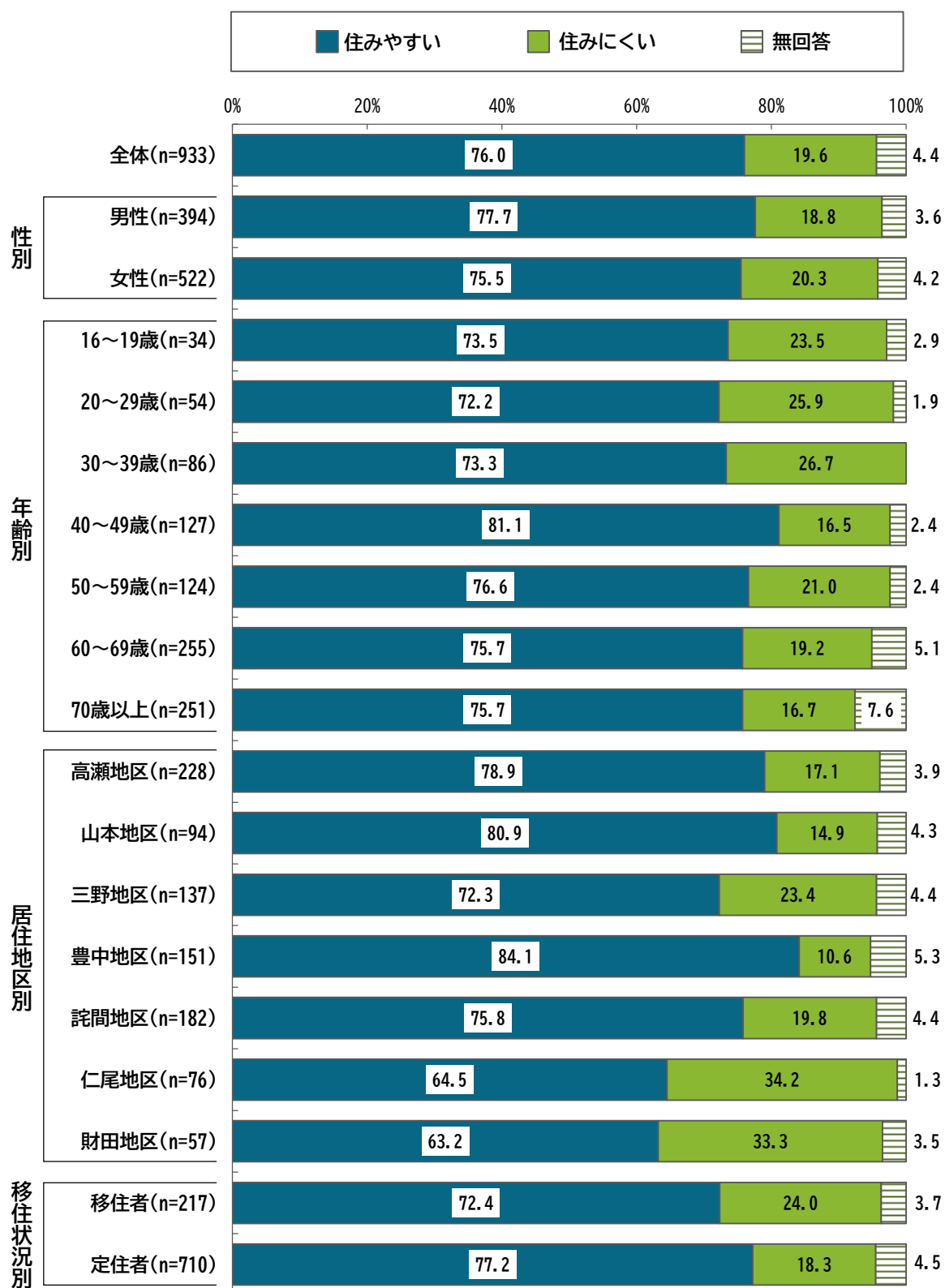
居住地区別では、豊中地区が84.1%で最も高くなっています。

移住状況別では、定住者が77.2%で移住者の割合を上回っています。

図表 12 三豊市は住みやすいと感じるか（全体・前回比較）



図表 13 三豊市は住みやすいと感じるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(5) 住みやすい理由

【問5で「住みやすい」と回答した方のみ】

問5-1 「住みやすい」理由はどれですか。【複数回答】

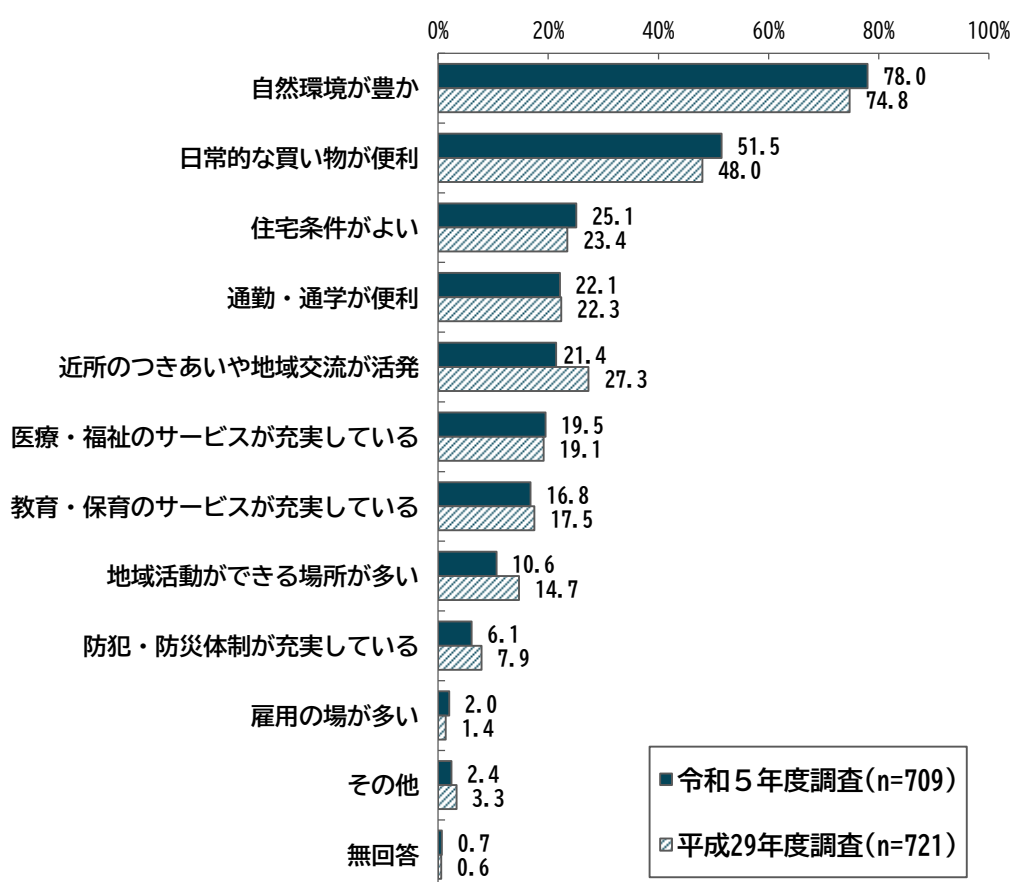
● 「自然環境が豊か」が最も多く 78.0%。

問5で「住みやすい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「自然環境が豊か」(78.0%)が最も多く、次いで「日常的な買い物が便利」(51.5%)、「住宅条件がよい」(25.1%)、「通勤・通学が便利」(22.1%)、「近所のつきあいや地域交流が活発」(21.4%)などとなっています。

前回結果と比較すると、「近所のつきあいや地域交流が活発」が5.9ポイント減少しています。

属性別でみると、居住地区別では、豊中地区の第1位が「日常的な買い物が便利」となっており、他の地区との違いがみられます。

図表 14 住みやすい理由（全体・前回比較／複数回答）



図表 15 住みやすい理由（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=709)		自然環境が豊か 78.0	日常的な買い物が便利 51.5	住宅条件がよい 25.1
性別	男性(n=306)	自然環境が豊か 76.1	日常的な買い物が便利 48.4	住宅条件がよい 26.8
	女性(n=394)	自然環境が豊か 78.9	日常的な買い物が便利 54.8	住宅条件がよい 23.9
年齢別	16～19歳(n=25)	自然環境が豊か 64.0	日常的な買い物が便利 44.0	通勤・通学が便利 24.0
	20～29歳(n=39)	自然環境が豊か 71.8	日常的な買い物が便利 48.7	住宅条件がよい 35.9
	30～39歳(n=63)	自然環境が豊か 66.7	日常的な買い物が便利 54.0	教育・保育のサービスが充実している 34.9
	40～49歳(n=103)	自然環境が豊か 70.9	日常的な買い物が便利 52.4	通勤・通学が便利 38.8
	50～59歳(n=95)	自然環境が豊か 80.0	日常的な買い物が便利 53.7	住宅条件がよい／通勤・通学が便利 26.3
	60～69歳(n=193)	自然環境が豊か 85.5	日常的な買い物が便利 46.1	近所のつきあいや地域交流が活発 23.8
	70歳以上(n=190)	自然環境が豊か 80.0	日常的な買い物が便利 56.3	近所のつきあいや地域交流が活発 26.3
居住地区別	高瀬地区(n=180)	自然環境が豊か 76.7	日常的な買い物が便利 57.8	住宅条件がよい 26.1
	山本地区(n=76)	自然環境が豊か 75.0	日常的な買い物が便利 60.5	医療・福祉のサービスが充実している 31.6
	三野地区(n=99)	自然環境が豊か 79.8	日常的な買い物が便利 39.4	住宅条件がよい 28.3
	豊中地区(n=127)	日常的な買い物が便利 74.0	自然環境が豊か 68.5	通勤・通学が便利 28.3
	詫間地区(n=138)	自然環境が豊か 79.7	日常的な買い物が便利 49.3	通勤・通学が便利 24.6
	仁尾地区(n=49)	自然環境が豊か 93.9	住宅条件がよい 24.5	医療・福祉のサービスが充実している 20.4
	財田地区(n=36)	自然環境が豊か 91.7	近所のつきあいや地域交流が活発 41.7	住宅条件がよい 38.9
移住状況別	移住者(n=157)	自然環境が豊か 71.3	日常的な買い物が便利 55.4	住宅条件がよい 30.6
	定住者(n=548)	自然環境が豊か 79.7	日常的な買い物が便利 50.4	住宅条件がよい 23.5

(6) 住みにくい理由

【問5で「住みにくい」と回答した方のみ】

問5-2 「住みにくい」理由はどれですか。【複数回答】

- 「日常的な買い物が不便」が最も多く、次いで「通勤・通学が不便」、「雇用の場が少ない」の順。

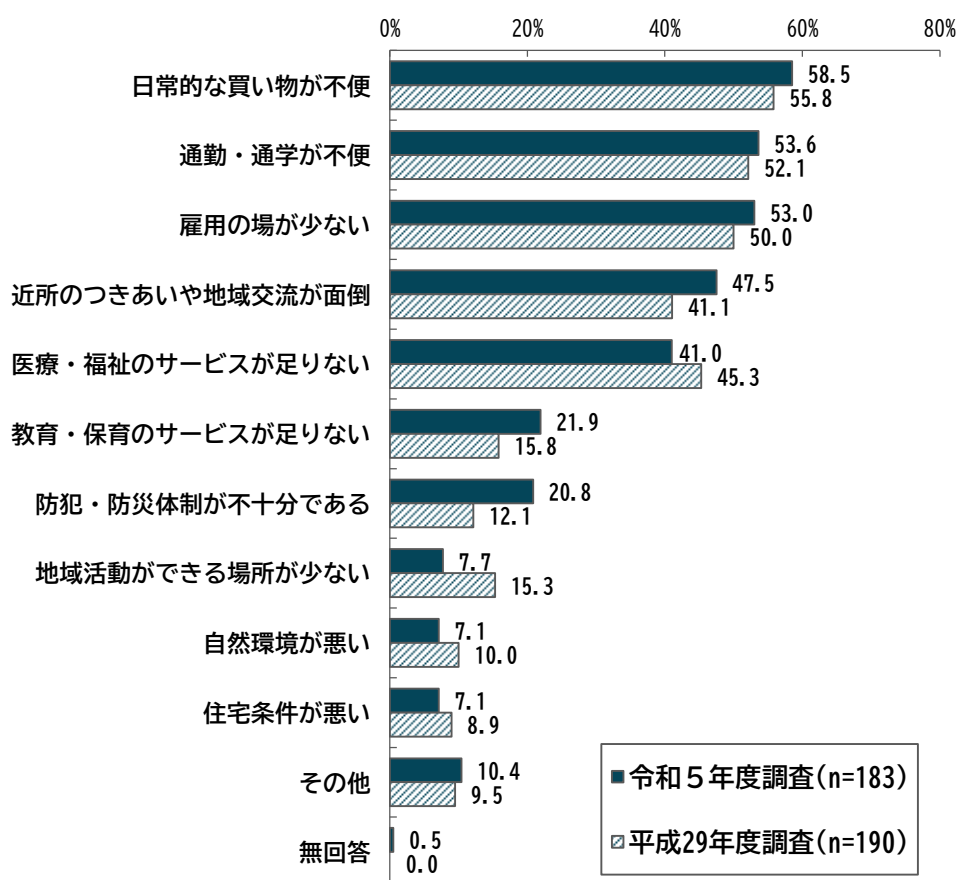
問5で「住みにくい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「日常的な買い物が不便」(58.5%)が最も多く、次いで「通勤・通学が不便」(53.6%)、「雇用の場が少ない」(53.0%)、「近所のつきあいや地域交流が面倒」(47.5%)、「医療・福祉のサービスが足りない」(41.0%)などとなっています。

前回結果と比較すると、「防犯・防災体制が不十分である」が8.7ポイント増加しています。

属性別でみると、性別では第1位が男性は「雇用の場が少ない」、女性は「日常的な買い物が不便」となっています。

移住状況別では、第1位が移住者は「通勤・通学が不便」、定住者は「日常的な買い物が不便」となっています。

図表 16 住みにくい理由（全体・前回比較／複数回答）



図表 17 住みにくい理由（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=183)		日常的な買い物が不便 58.5	通勤・通学が不便 53.6	雇用場が少ない 53.0
性別	男性(n=74)	雇用場が少ない 56.8	日常的な買い物が不便 48.6	通勤・通学が不便 47.3
	女性(n=106)	日常的な買い物が不便 64.2	通勤・通学が不便 57.5	近所のつきあいや地域交流が面倒／雇用場が少ない 49.1
年齢別	16～19歳(n=8)	通勤・通学が不便 75.0	日常的な買い物が不便／医療・福祉のサービスが足りない 50.0	
	20～29歳(n=14)	日常的な買い物が不便 78.6	通勤・通学が不便 64.3	医療・福祉のサービスが足りない／雇用場が少ない 42.9
	30～39歳(n=23)	通勤・通学が不便 69.6	医療・福祉のサービスが足りない 65.2	日常的な買い物が不便 60.9
	40～49歳(n=21)	通勤・通学が不便／日常的な買い物が不便 71.4		近所のつきあいや地域交流が面倒／雇用場が少ない 47.6
	50～59歳(n=26)	近所のつきあいや地域交流が面倒 69.2	通勤・通学が不便 53.8	雇用場が少ない 46.2
	60～69歳(n=49)	雇用場が少ない 67.3	日常的な買い物が不便 65.3	近所のつきあいや地域交流が面倒／通勤・通学が不便 42.9
	70歳以上(n=42)	日常的な買い物が不便 54.8	近所のつきあいや地域交流が面倒 50.0	雇用場が少ない 47.6
居住地区別	高瀬地区(n=39)	雇用場が少ない 64.1	近所のつきあいや地域交流が面倒／日常的な買い物が不便 59.0	
	山本地区(n=14)	通勤・通学が不便／雇用場が少ない 64.3		近所のつきあいや地域交流が面倒 57.1
	三野地区(n=32)	日常的な買い物が不便 62.5	近所のつきあいや地域交流が面倒／通勤・通学が不便 56.3	
	豊中地区(n=16)	医療・福祉のサービスが足りない 50.0	近所のつきあいや地域交流が面倒 43.8	通勤・通学が不便／教育・保育のサービスが足りない 37.5
	詫間地区(n=36)	近所のつきあいや地域交流が面倒 47.2		
	仁尾地区(n=26)	日常的な買い物が不便 80.8	通勤・通学が不便 65.4	医療・福祉のサービスが足りない 46.2
	財田地区(n=19)	日常的な買い物が不便 73.7	通勤・通学が不便 68.4	近所のつきあいや地域交流が面倒 52.6
移住状況別	移住者(n=52)	通勤・通学が不便 61.5	日常的な買い物が不便 57.7	近所のつきあいや地域交流が面倒 55.8
	定住者(n=130)	日常的な買い物が不便 59.2	通勤・通学が不便 50.0	近所のつきあいや地域交流が面倒 44.6

3 日頃の行動や考えについて

(1) 日頃の行動や考えについて（前回比較）

問6 三豊市第2次総合計画を策定し、現在まで市が実施してきたことで、どのような成果を挙げられたのか等を把握するため、あなたの日頃の行動や考えについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで○印をつけてください。

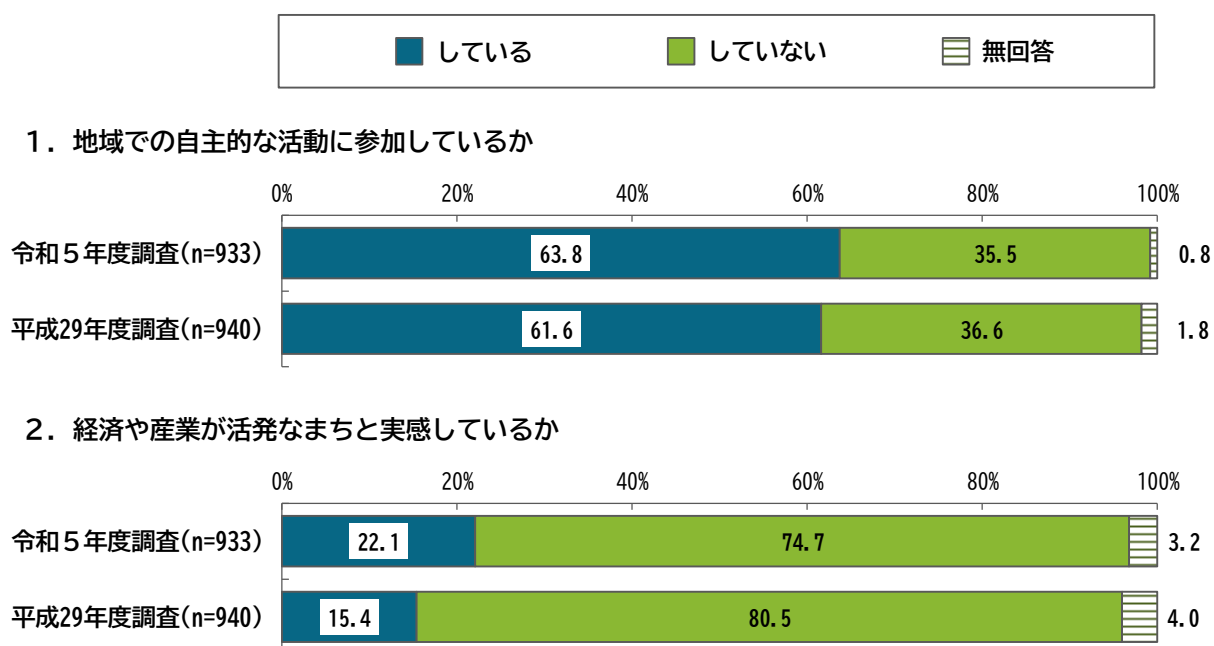
- 前回調査時よりも、観光客の増加を感じている人が増加している。
- 防犯や防災に対する意識が前回調査時よりも高くなっている。

それぞれの設問を前回結果と比較すると、増加が目立つのは、『20. 観光客が増えていると思うか』で、「思う」と回答した人が前回の約3倍となっています。また、『42. 自慢したい地域の風景や名所があるか』で、「ある」と回答した人が9.5ポイント増加しており、前述の設問の結果と相まって、近年、観光による地域おこしに力を入れていることがうかがえます。

また、『4. 安心安全なまちと実感しているか』、『5. 自宅で災害に対する備えをしているか』で「している」、『35. 災害時の避難路・避難場所を知っているか』で「知っている」、『38. 夜9時以降に地域を安心して歩けるか』で「歩ける」と回答した人がそれぞれ増加しており、市や市民の防犯・防災に対する意識のさらなる向上がうかがえます。

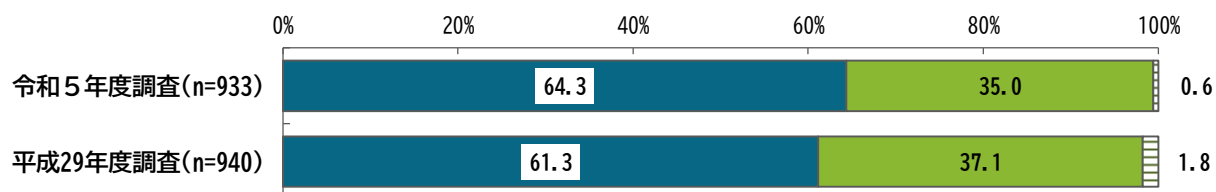
一方で、『6. 生涯学習活動をしたか』、『24. 子育てを地域で支え合う雰囲気があると思うか』、『27. 市内のどこへでも便利に移動できると思うか』では、「している」、「思う」と回答した人がそれぞれ前回よりも減少しています。

図表 18 日頃の行動や考えについて（全体・前回比較）

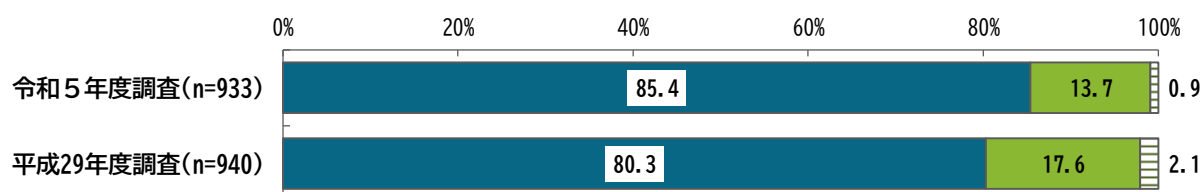




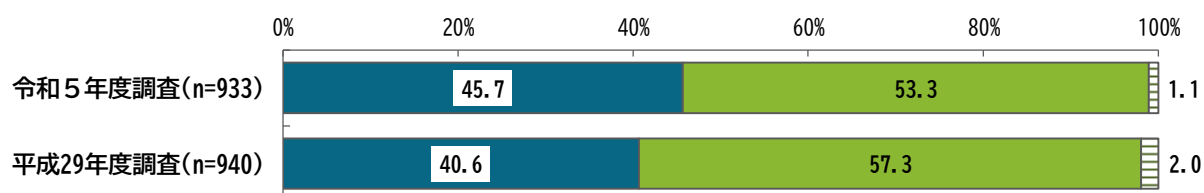
3. 日頃、市内のお店で買い物をしているか



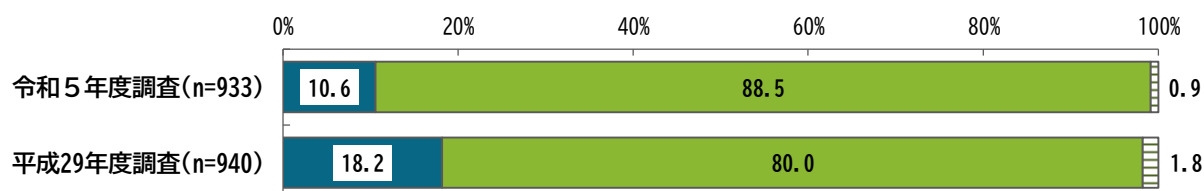
4. 安心安全なまちと実感しているか



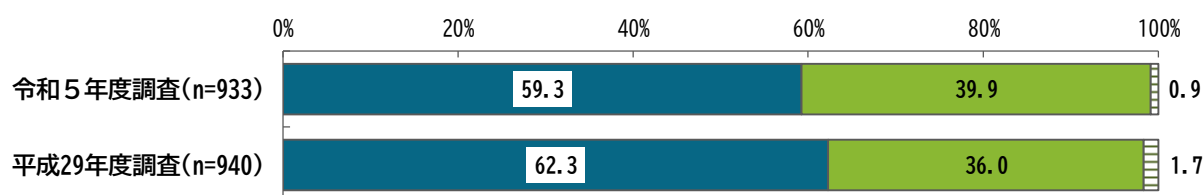
5. 自宅で災害に対する備えをしているか



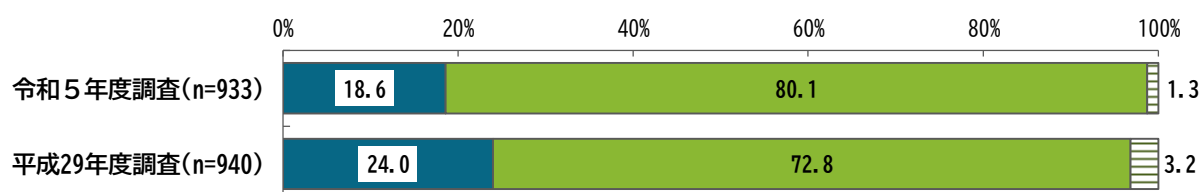
6. 生涯学習活動をしたか



7. 健康増進のための取り組みをしているか

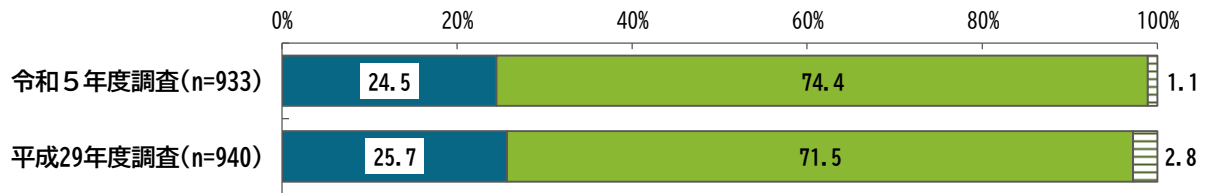


8. 地域福祉活動に参加しているか

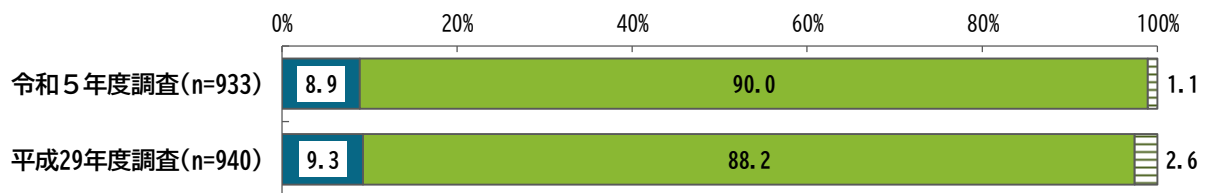




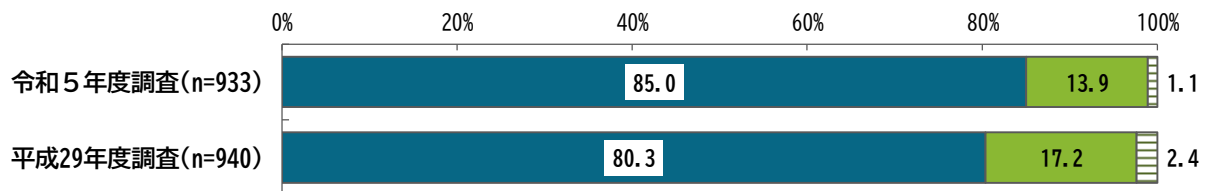
9. 週1回以上スポーツ活動をしているか



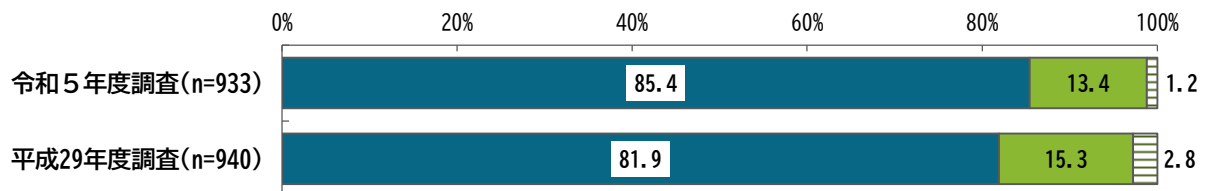
10. 公共の交通機関を利用するようにしているか



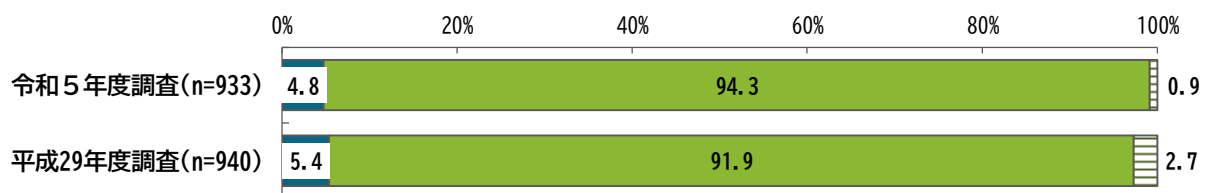
11. 市内の道路を快適に利用しているか



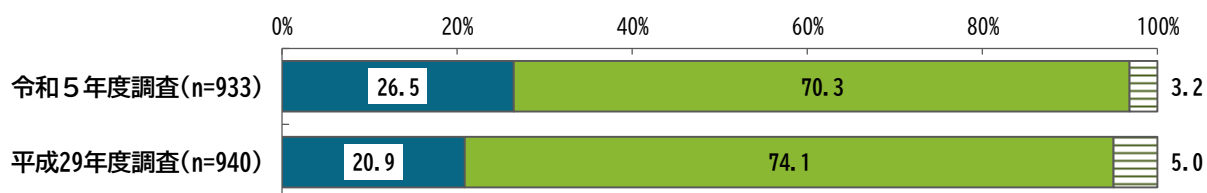
12. 自分らしい暮らし方をしているか



13. 市内で外国人の方と交流をしているか

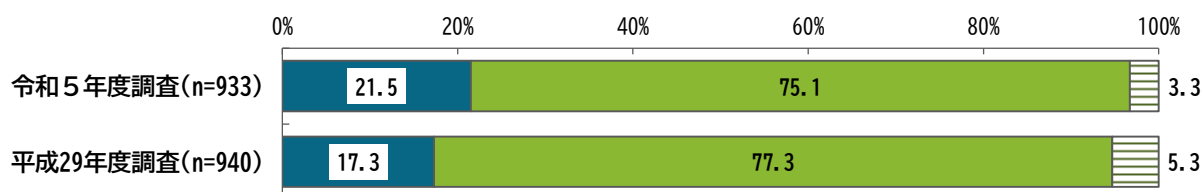


14. 意欲ある人が働きやすい環境だと思うか

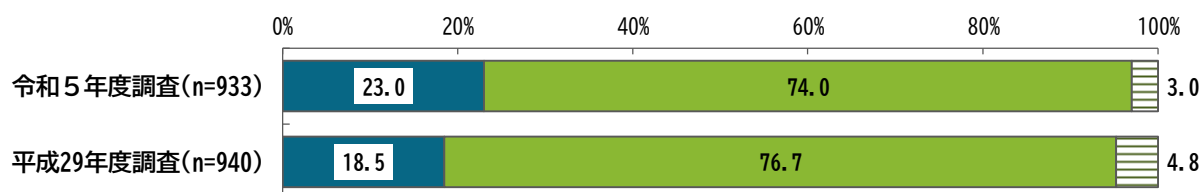




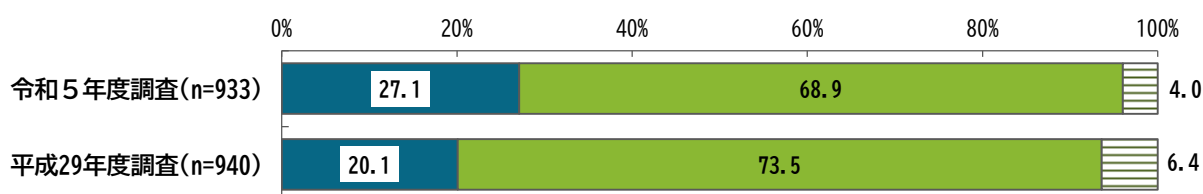
15. 若い世代が働きやすいまちだと思うか



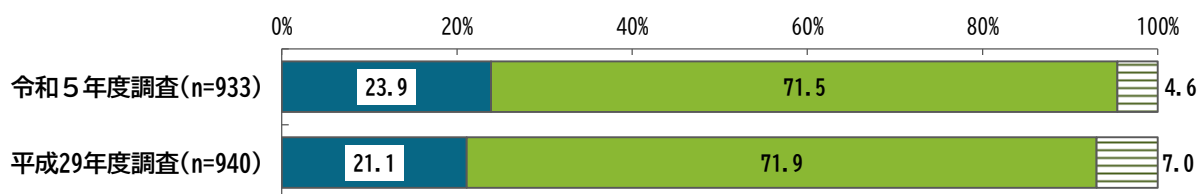
16. 若い世代が暮らしたい魅力的なまちだと思うか



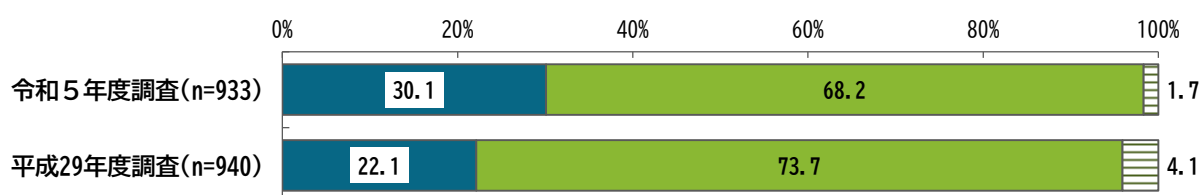
17. 挑戦する人を応援するまちだと思うか



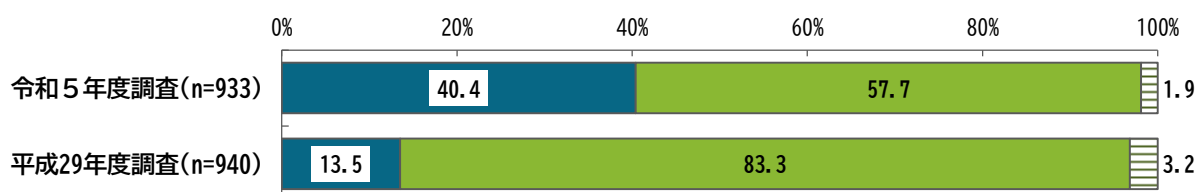
18. 市内の企業やお店は子育て支援に積極的だと思うか



19. 住んでいる地域のお店に活気があると思うか

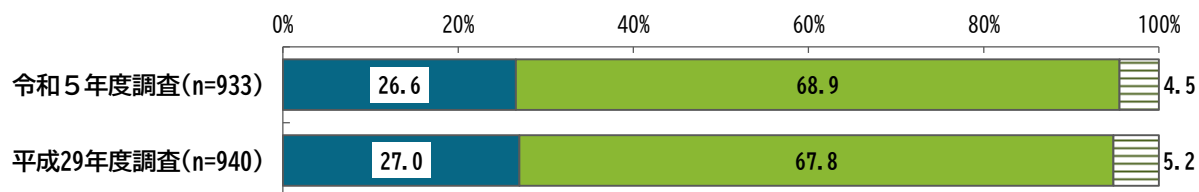


20. 観光客が増えていると思うか

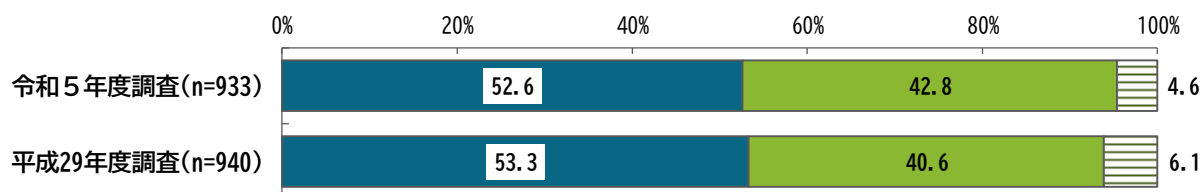




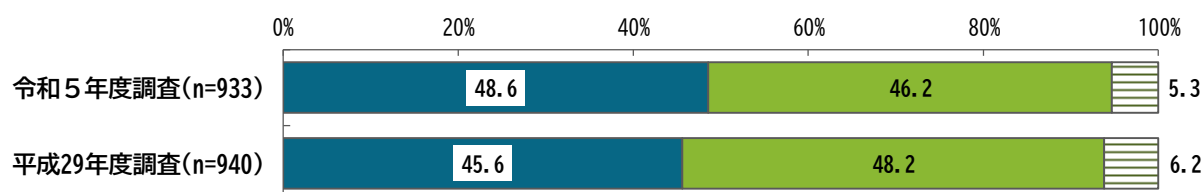
21. 女性が活躍するまちになっていると思うか



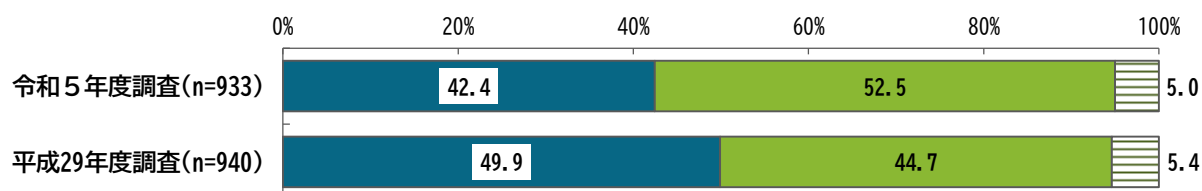
22. 人権を大事にするまちだと思うか



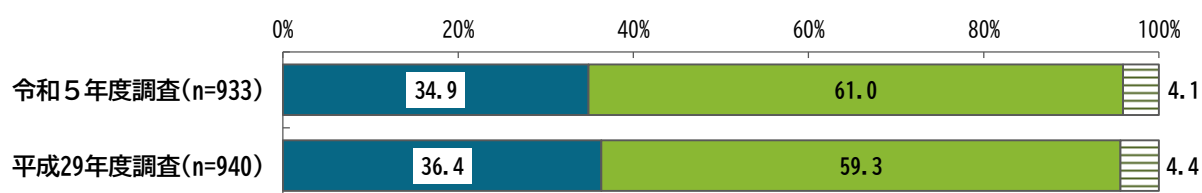
23. 若い世代が子育てしやすいまちだと思うか



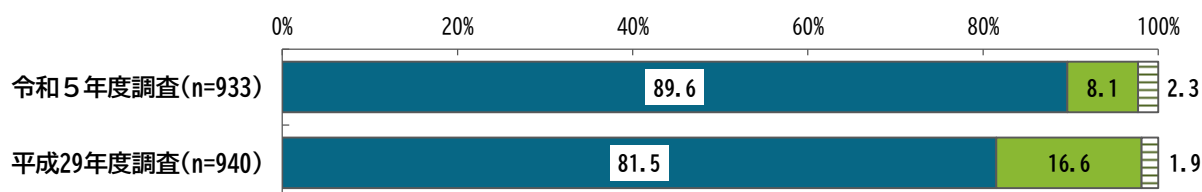
24. 子育てを地域で支え合う雰囲気があると思うか



25. 高齢者や障害者にも暮らしやすいと地域だと思うか

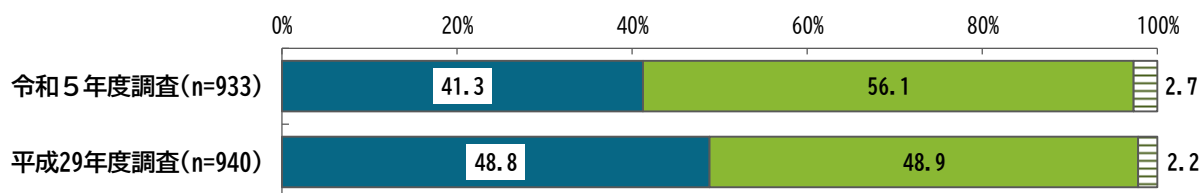


26. 食べ物や飲み水は安心だと思うか

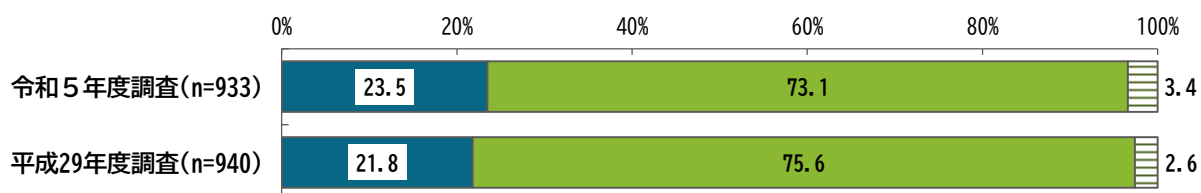




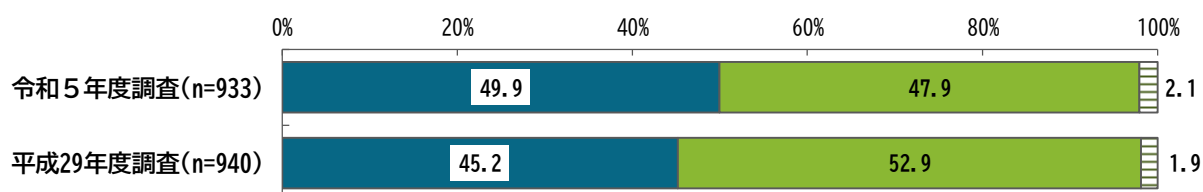
27. 市内のどこへでも便利に移動できると思うか



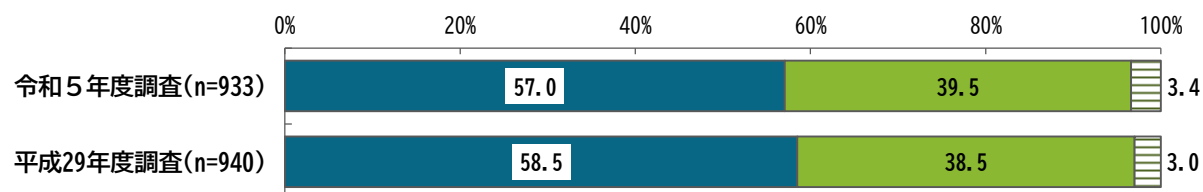
28. 公共交通は便利だと思うか



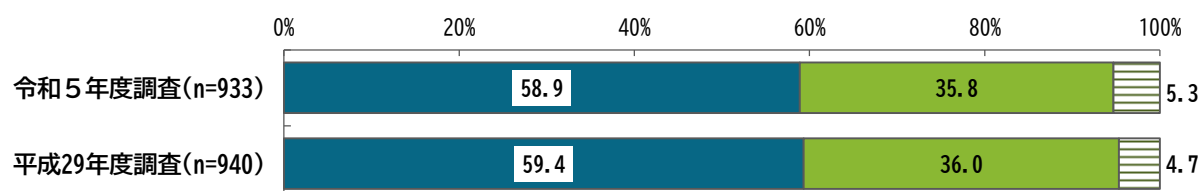
29. 買い物や通勤、通学、通院に便利だと思うか



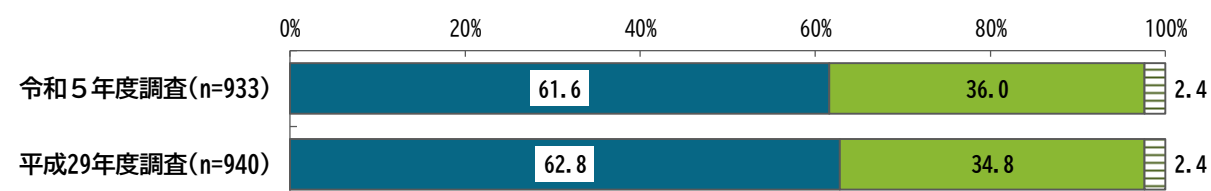
30. 安全・安心を守る取り組みが盛んだと思うか



31. 自分の仕事にやりがいを感じるか

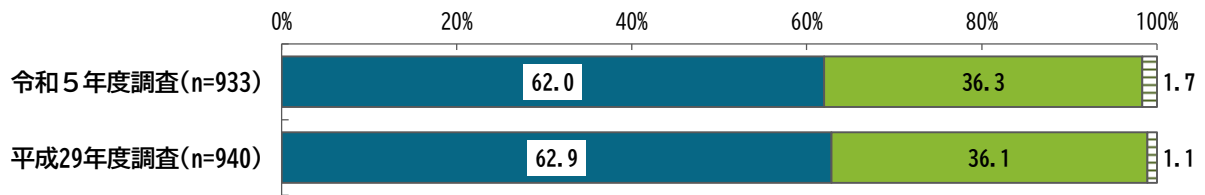


32. 相談できる人が近所や地域にいるか

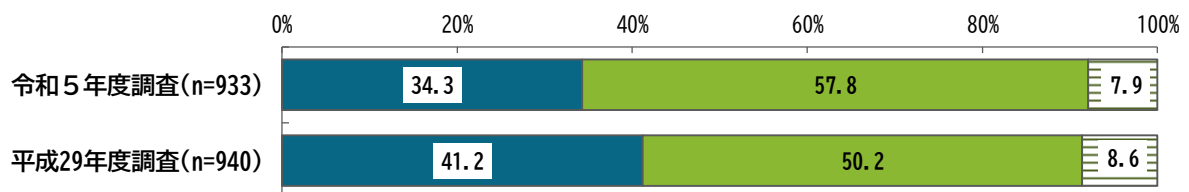




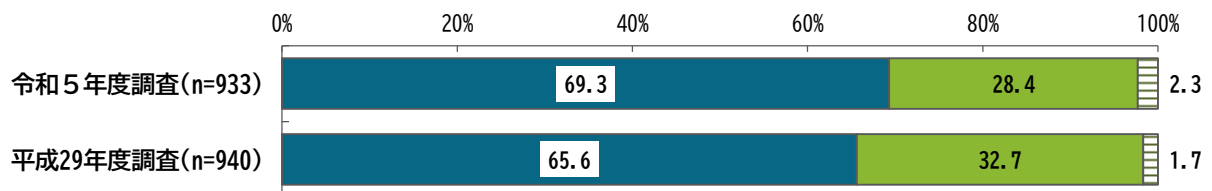
33. 市内にかかりつけの医者はいるか



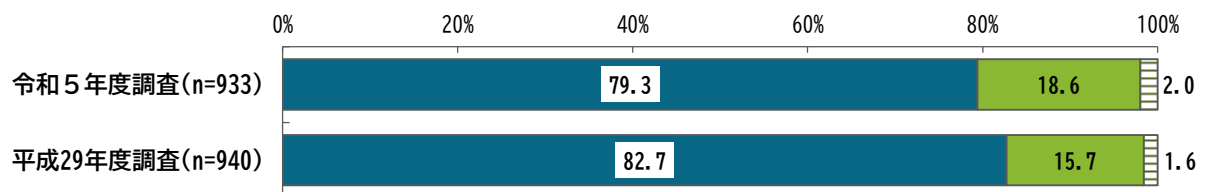
34. 学校以外の教育環境に満足しているか



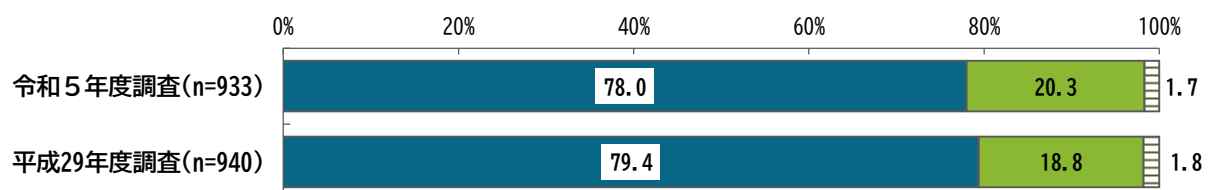
35. 災害時の避難路・避難場所を知っているか



36. 地元や市内でとれた農水産物を買っているか

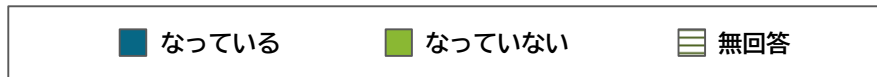
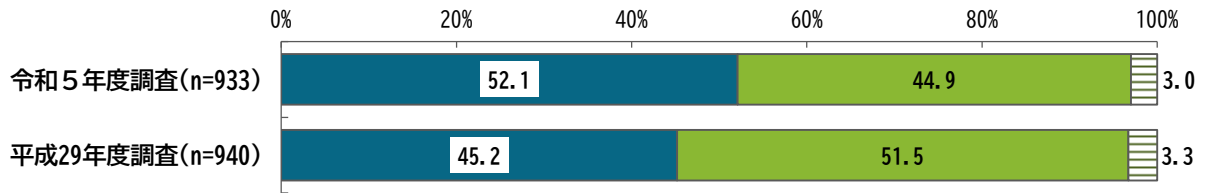


37. 「広報みとよ」を読んでいるか

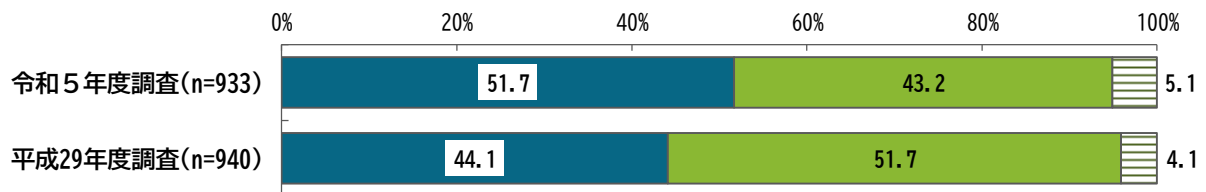




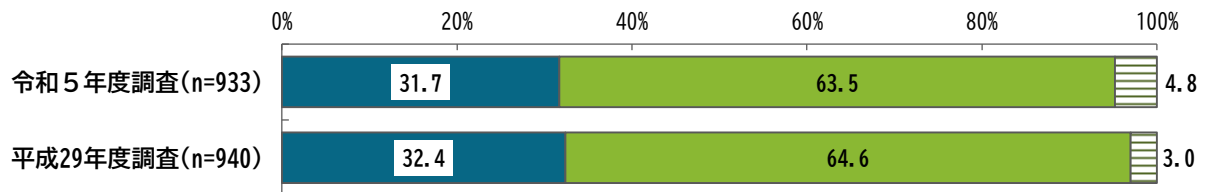
38. 夜9時以降に地域を安心して歩けるか



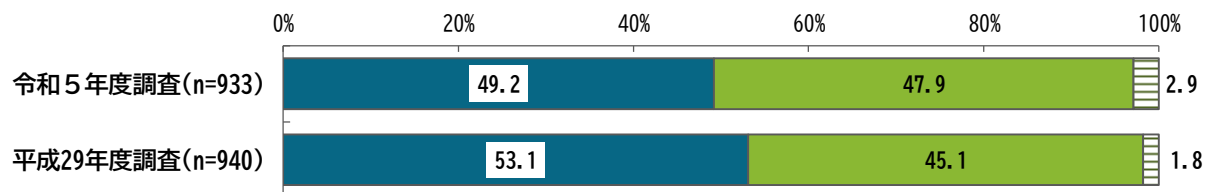
39. 仕事と生活のバランスが希望通りか



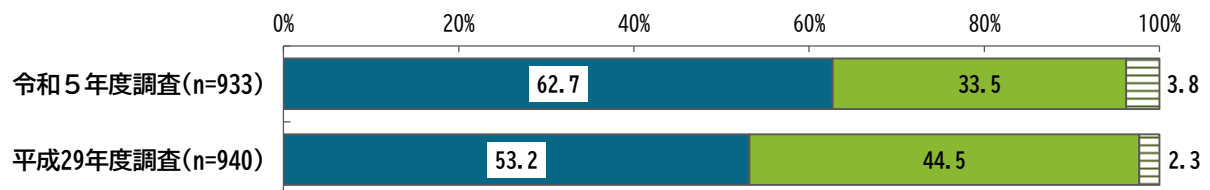
40. 地域に自分の活躍の場がありますか



41. 地域内の異なる世代の人と付き合いがあるか



42. 自慢したい地域の風景や名所があるか



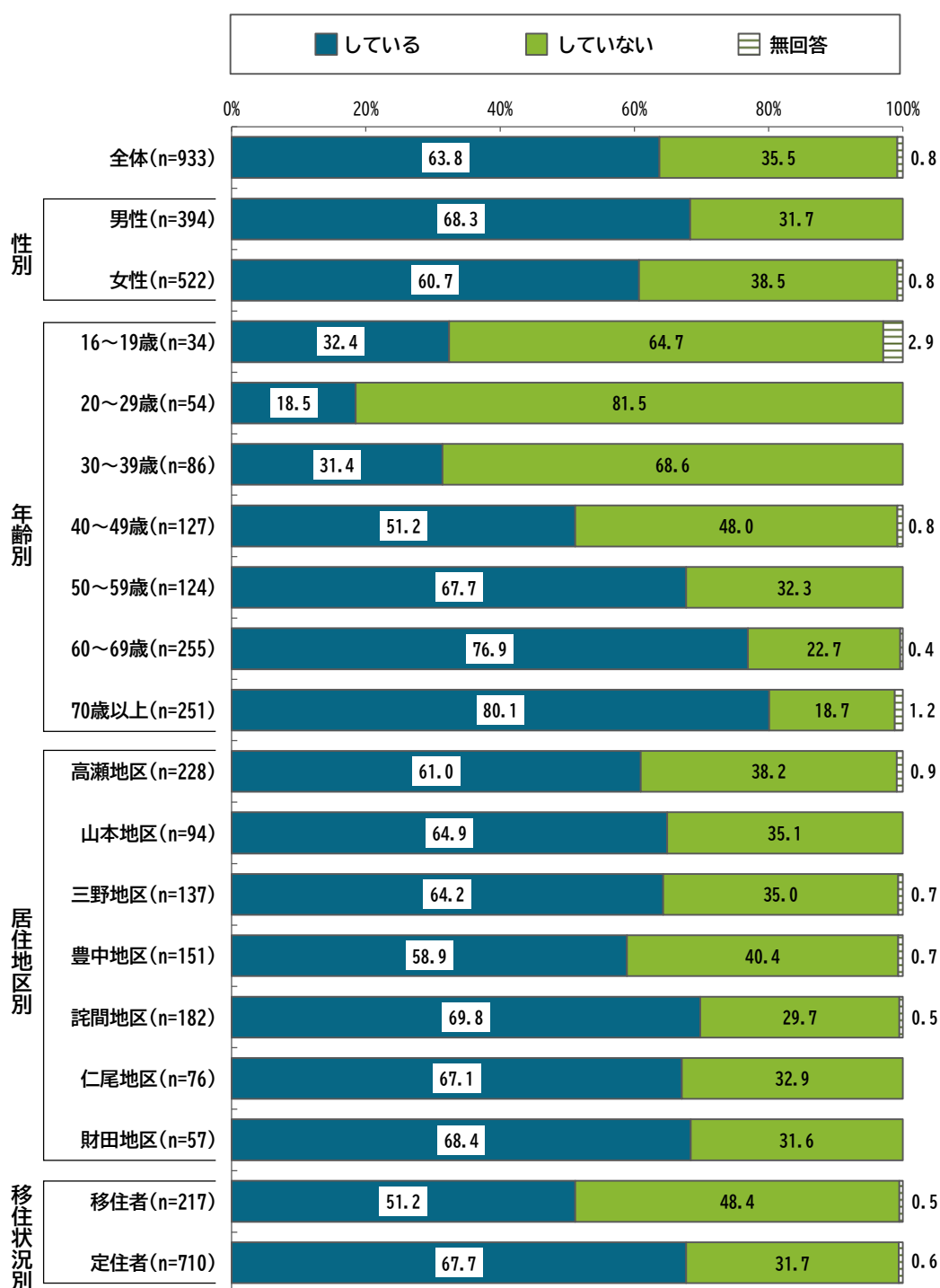
(2) 日頃の行動や考えについて（属性別）

問6（1）地域での自主的な活動（環境美化活動、防災活動、自治会活動等）に参加していますか。

● 参加率は20歳以降年齢が上がるにつれて増加している。

地域活動の参加率は20歳以降年齢が上がるにつれて増加しています。また、男性が68.3%で女性を上回っています。

図表 19 地域での自主的な活動への参加（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

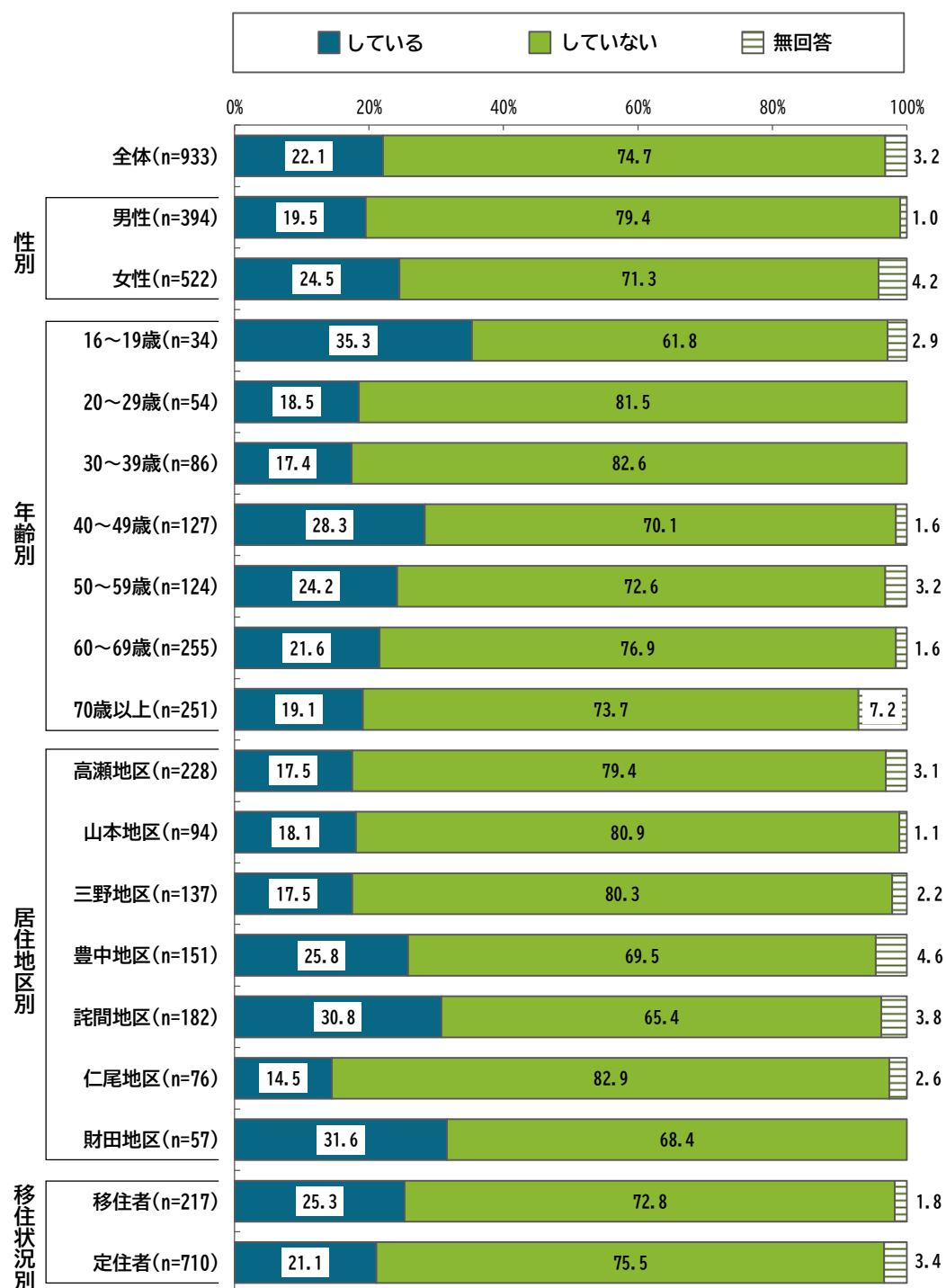


問6（2）経済や産業が活発なまちと実感していますか。

● 経済や産業が活発なまちであると実感している割合は16～19歳が高い。

経済や産業が活発なまちと実感している割合は、年齢別でみると16～19歳が35.3%で最も高くなっています。また、移住者が25.3%で定住者の割合を上回っています。

図表 20 経済や産業が活発なまちか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

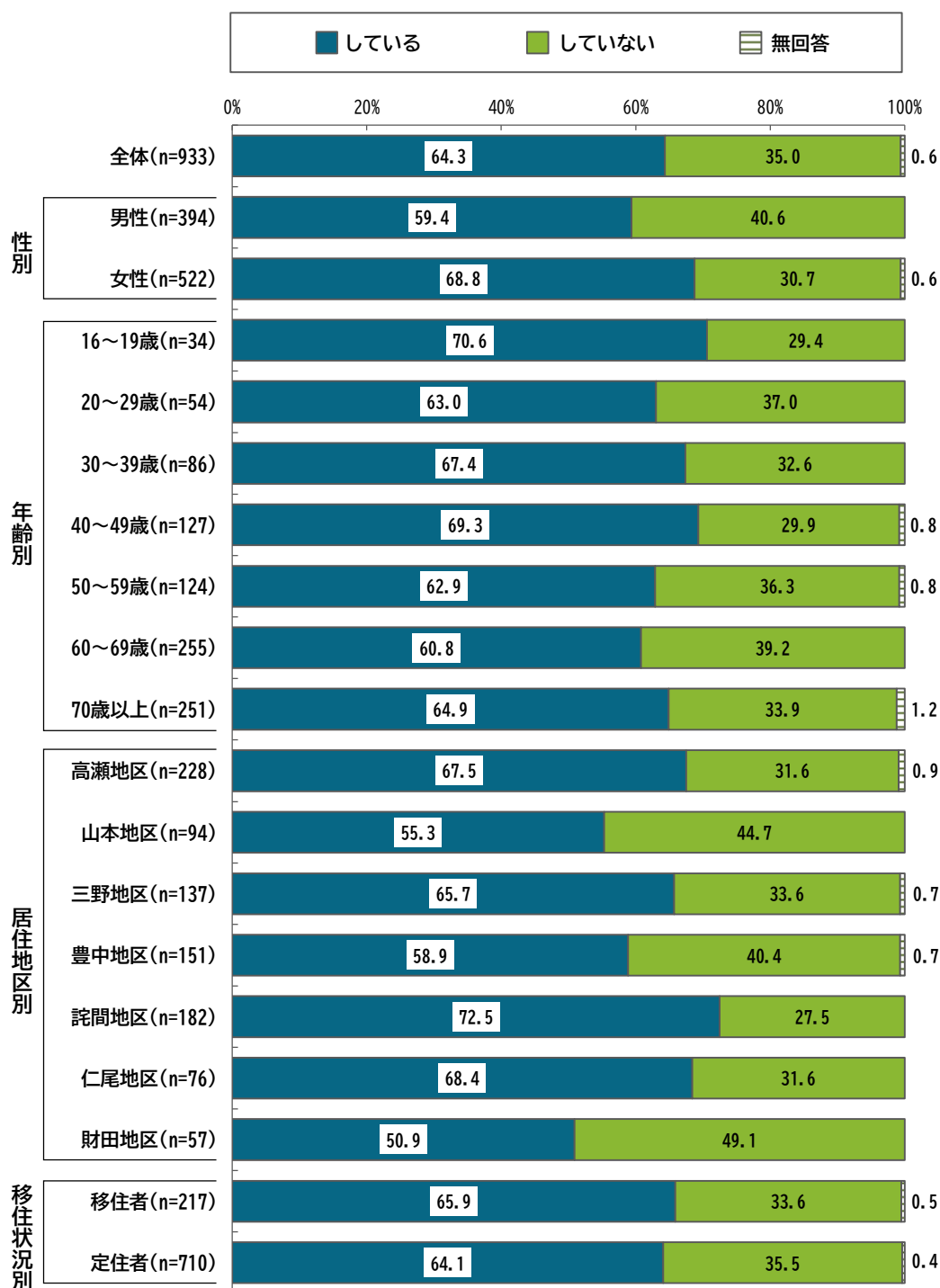


問6（3）日頃、市内のお店（大型店以外）で買い物をしていますか。

● 日頃、市内のお店で買い物をしている割合は詫間地区が高い

市内のお店で買い物をしている割合は、居住地区別でみると詫間地区が72.5%で最も高くなっています。また、女性が68.8%で男性を上回っています。

図表 21 市内の商店での買い物（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

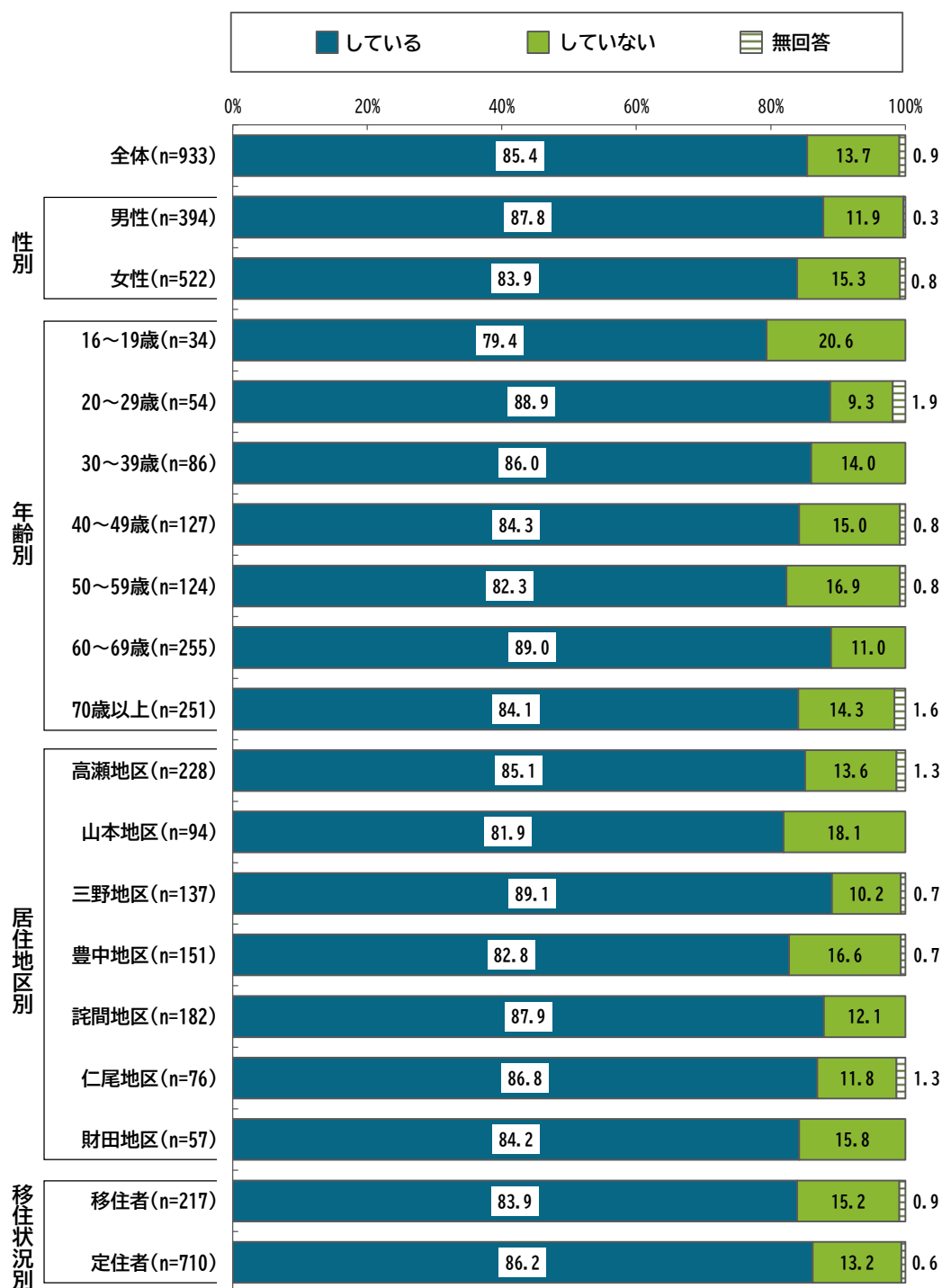


問6（4）災害や犯罪が少なく、安心安全なまちと実感していますか。

● 安心安全なまちであると実感している割合はいずれの地域でも8割以上を占めている。

安心安全なまちであると実感している割合は、性別、年齢別、居住地区別、移住状況別のいずれでみても約8割～9割を占めて高くなっています。

図表 22 安心安全なまちか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

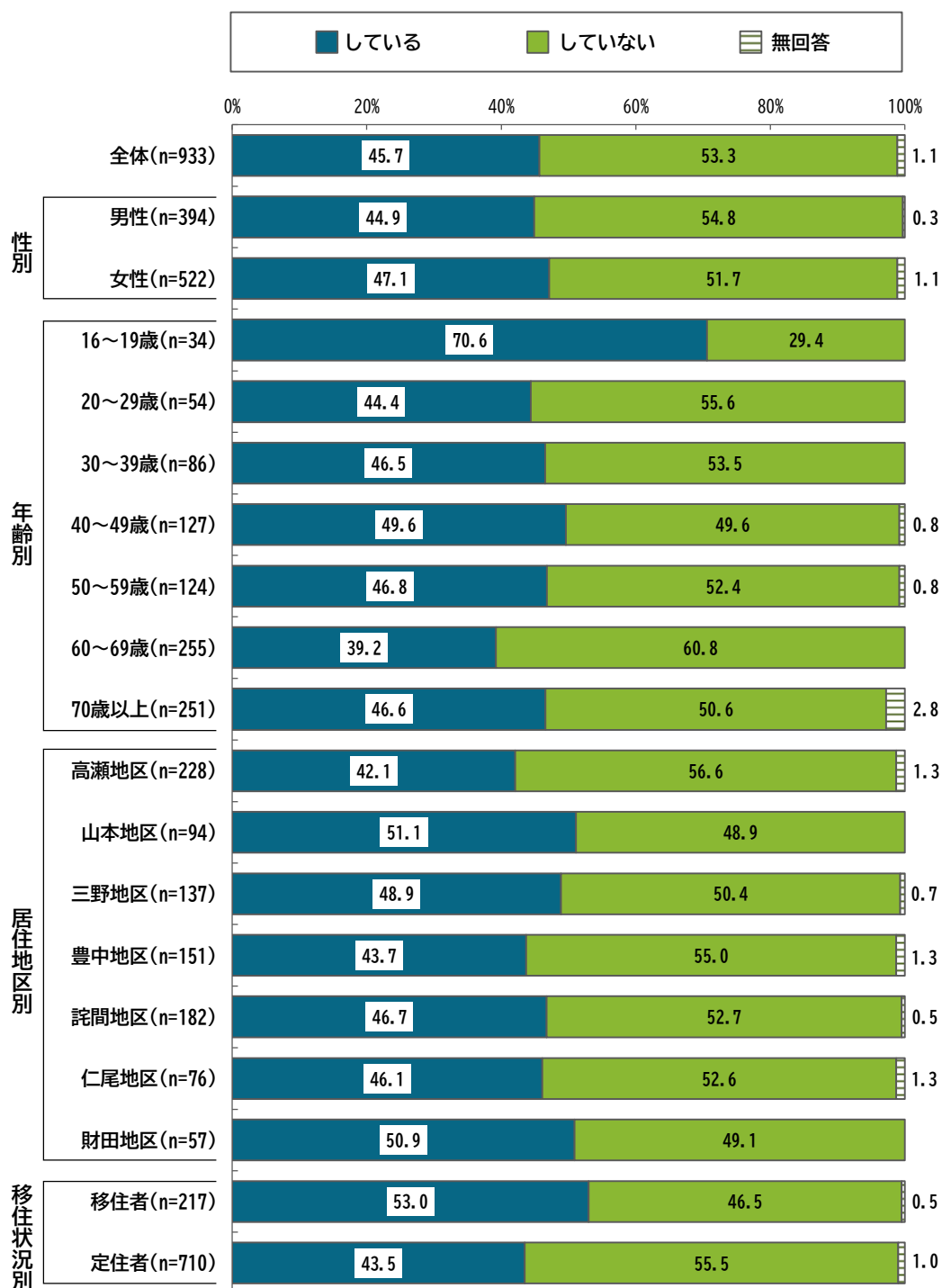


問6（5）ご自宅で、災害に対する備えをしていますか。

● 防災意識は16～19歳が高い。

災害に備えている割合は、年齢別でみると16～19歳が70.6%で最も高く、それ以外の世代では半数以下となっています。また、山本地区、財田地区で半数以上を占めています。

図表 23 災害に対する備え（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

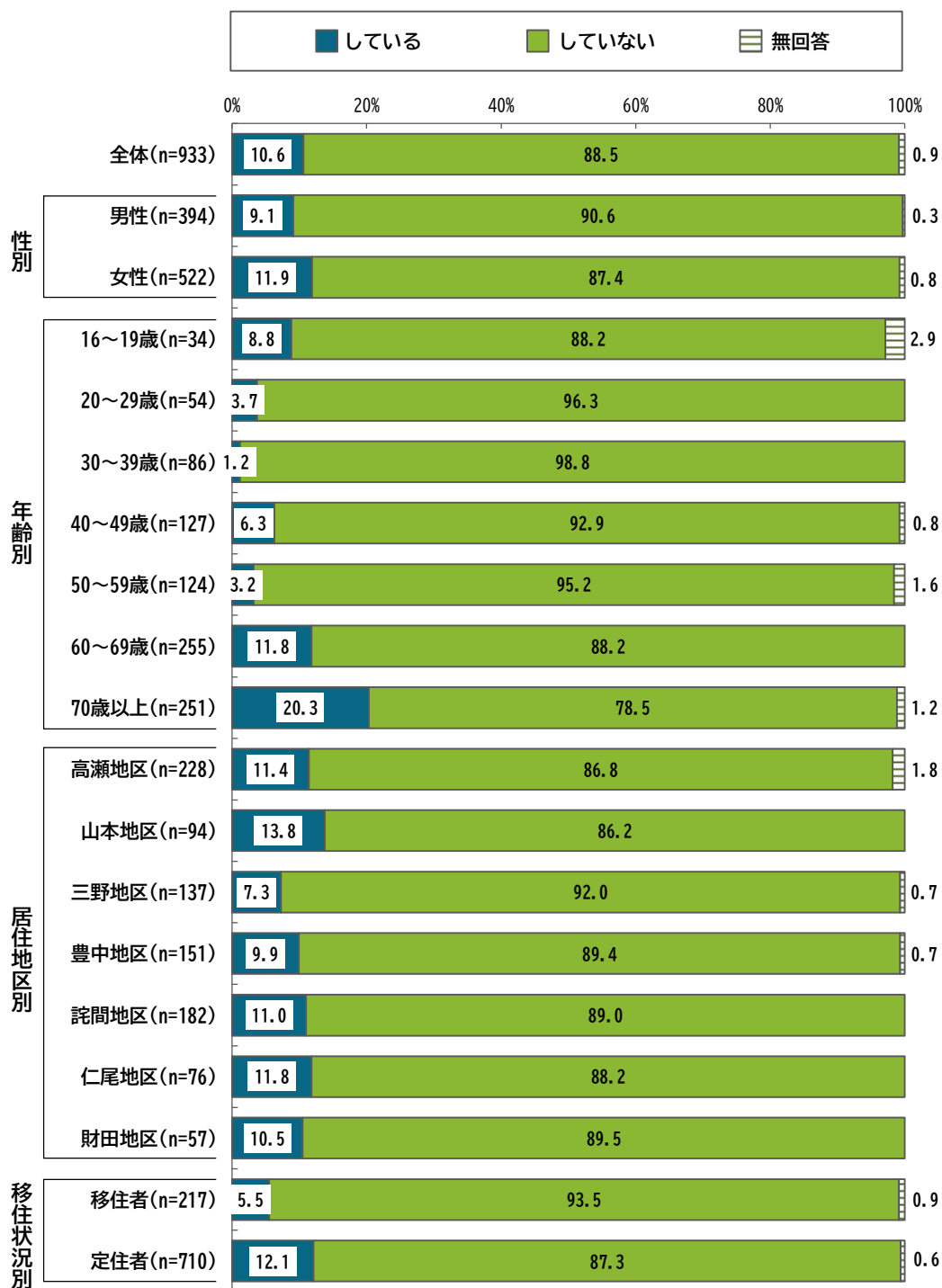


問6（6）この1年間に、市の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。

● 生涯学習活動の参加率は70歳以上が高い。

生涯学習活動への参加率は、年齢別でみると70歳以上が20.3%で最も高くなっており、60歳未満では1割以下となっています。またいずれの地区でも2割以下にとどまっています。

図表 24 市の講座や教室等を利用した生涯学習活動（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

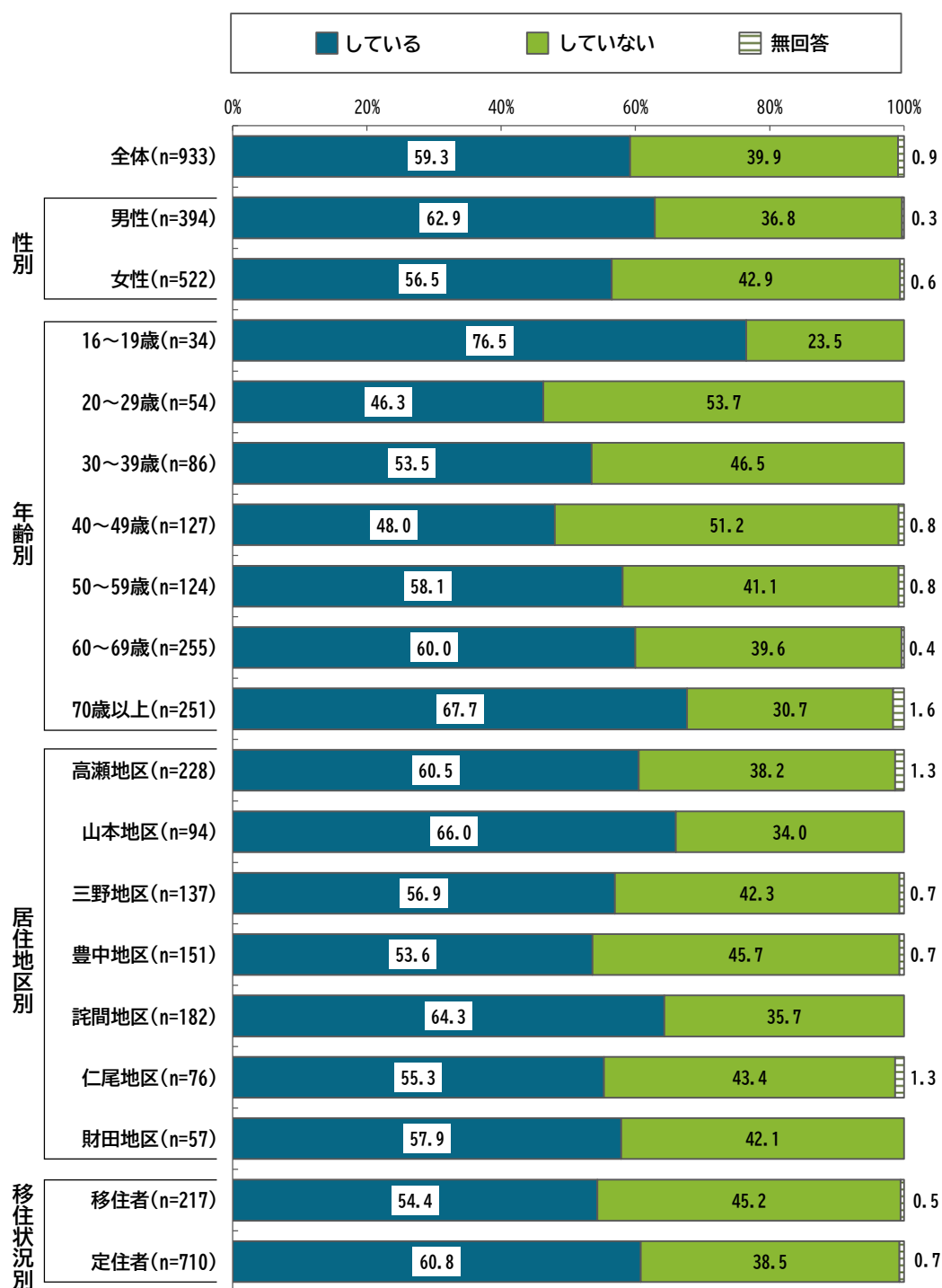


問6（7）日頃、健康増進のための取り組み（食生活の改善や運動など）をしていますか。

● 健康増進に取り組んでいる割合は16～19歳が高い。

健康増進に取り組んでいる割合は、年齢別でみると16～19歳が76.5%で最も高く、次いで70歳以上（67.7%）、60～69歳（60.0%）となっています。また、男性が62.9%で女性を上回っています。

図表 25 健康増進のための取り組み（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

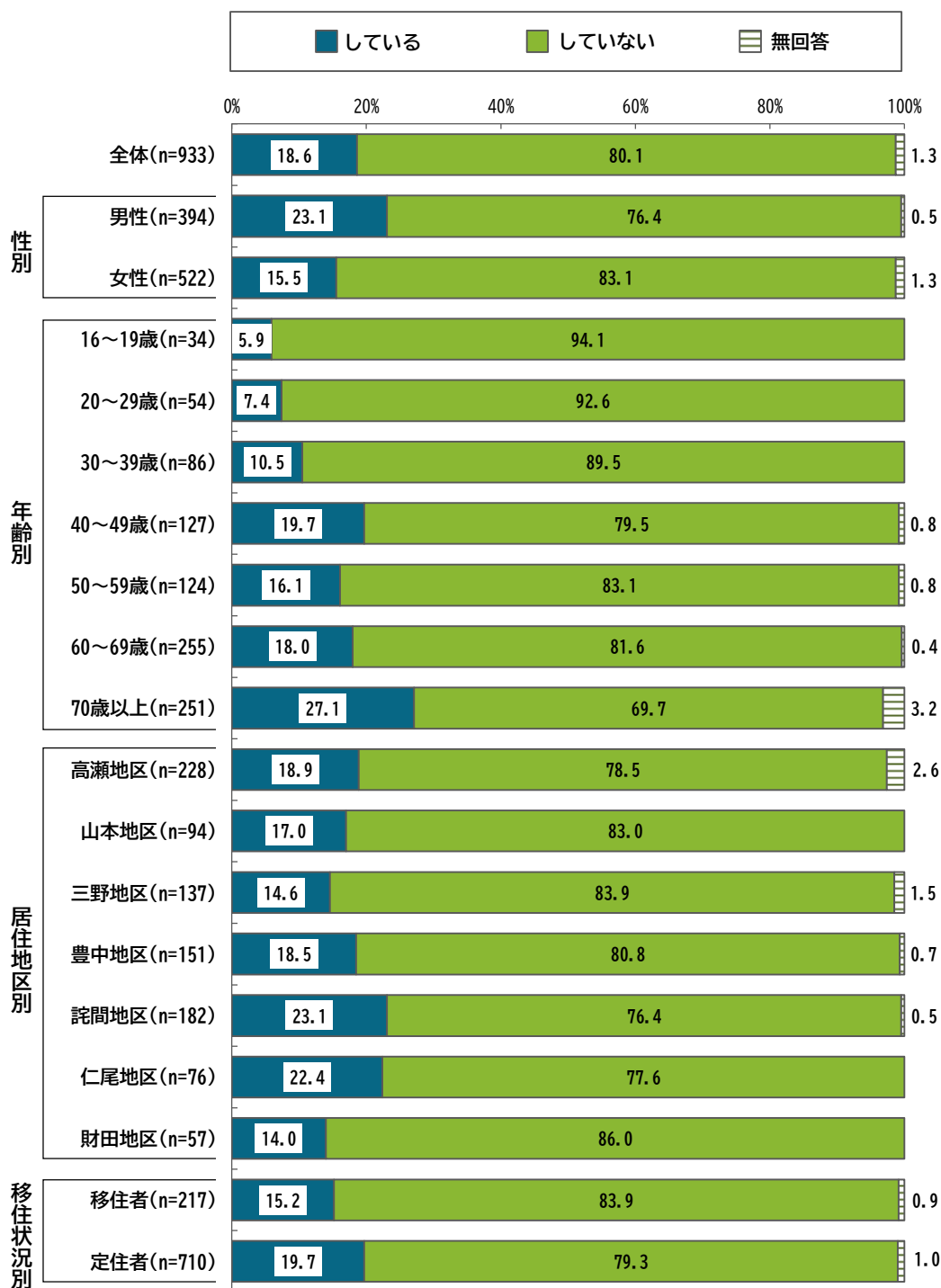


問6（8）身近な地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動に参加していますか。

● 地域福祉活動への参加率は70歳以上が高い。

地域福祉活動への参加率は、年齢別でみると70歳以上が27.1%で最も高くなっており、16～29歳の若い世代では1割以下となっています。また、男性が23.1%で女性を上回っています。

図表 26 地域福祉活動への参加（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

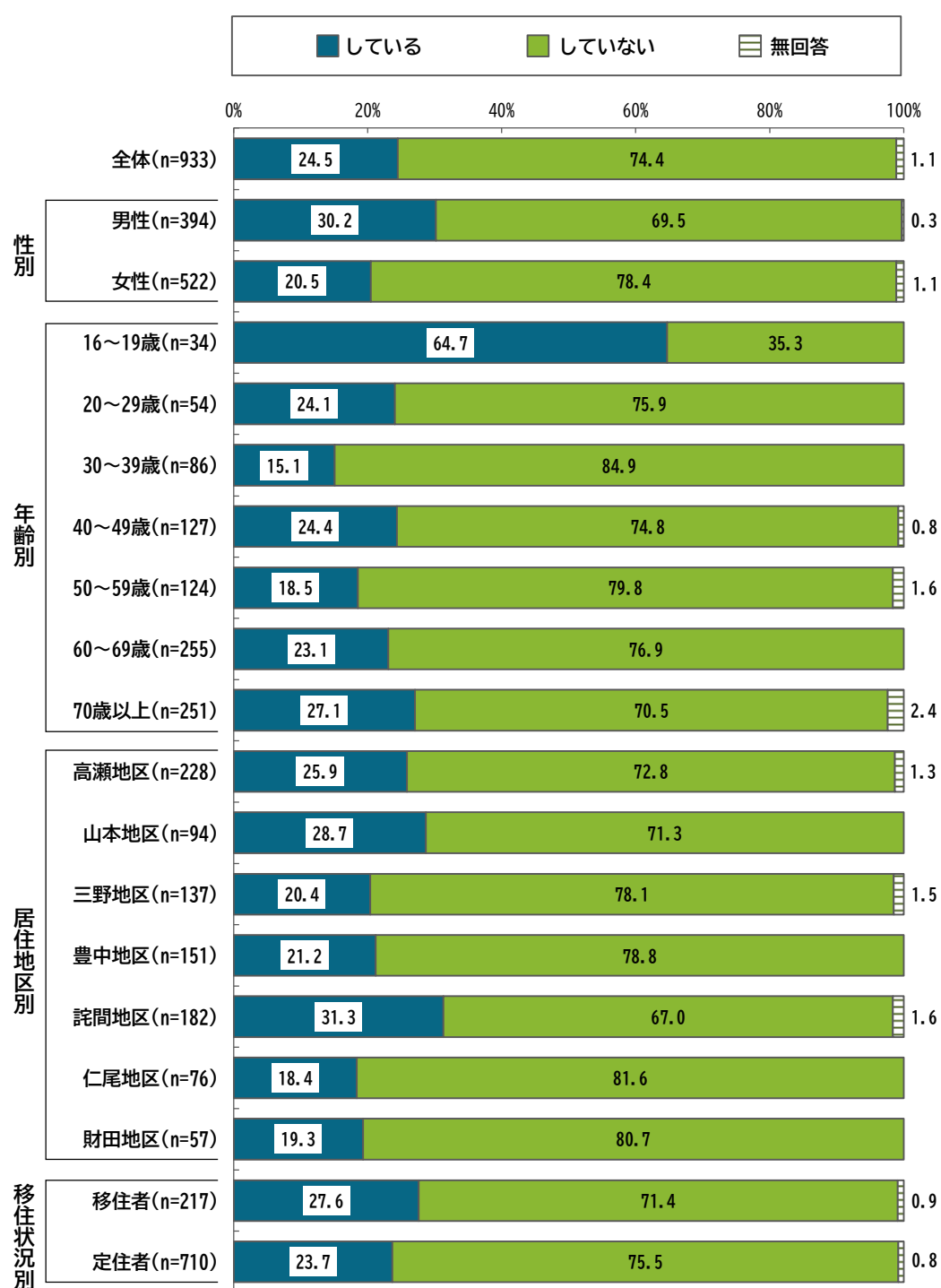


問6（9）週1回以上、スポーツ活動をしていますか。

● スポーツ活動をしている割合は16～19歳が突出している。

週1回以上のスポーツ活動をしている割合は、年齢別でみると16～19歳が64.7%で最も高くなっており、それ以外の世代では3割以下と差が顕著となっています。また男性が30.2%で女性を上回っています。

図表 27 週1回以上のスポーツ活動（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

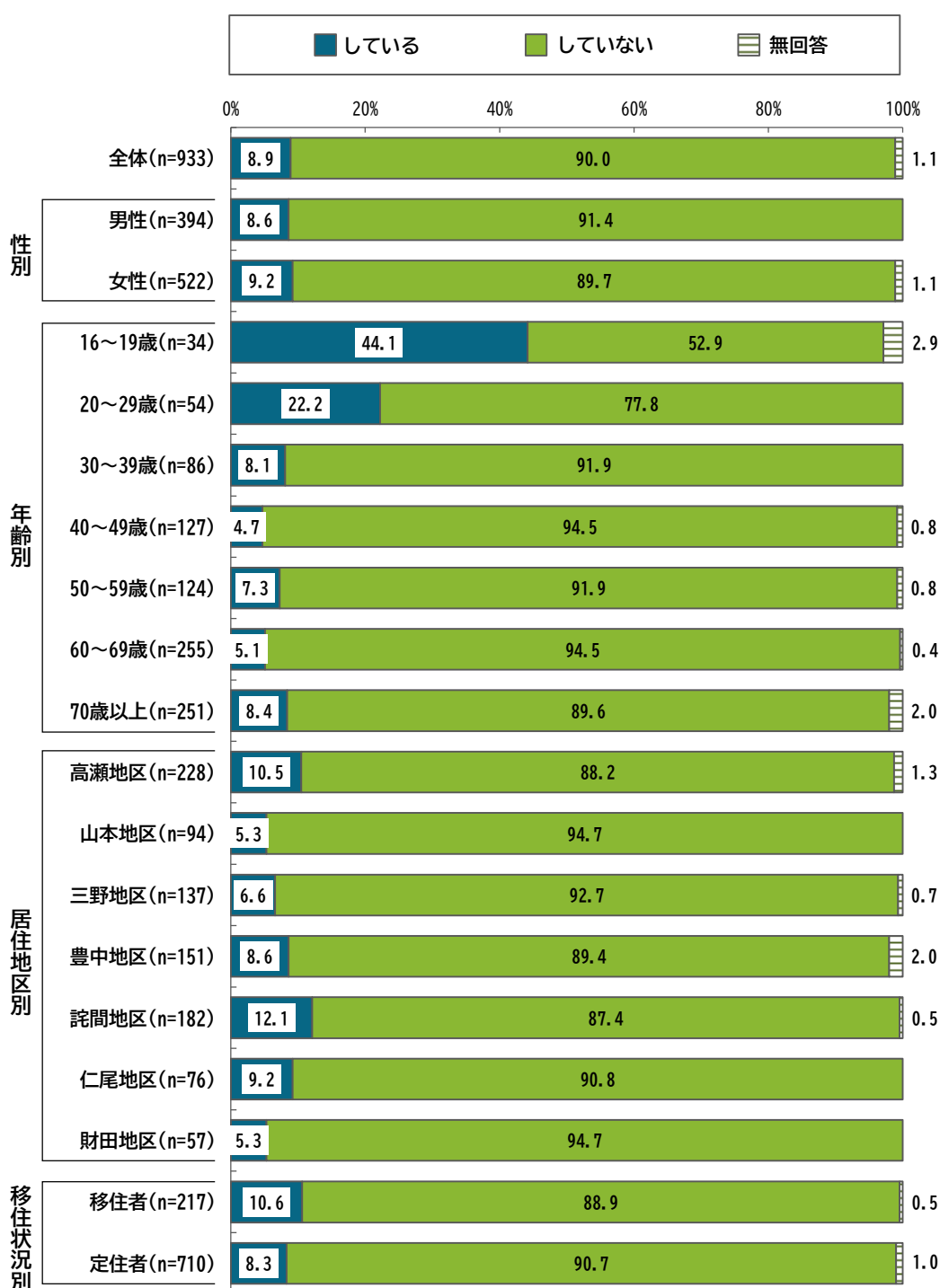


問6（10）普段、できるだけ公共の交通機関を利用するようにしていますか。

● 公共交通機関を利用するようにしている割合は16～29歳が高い。

公共交通機関を利用するようにしている割合は、年齢別でみると16～19歳が44.1%で最も高く、次いで20～29歳（22.2%）となっており、それ以外の世代では1割以下にとどまっています。また、高瀬地区、詫間地区は1割を超えています。

図表 28 公共交通機関の利用（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

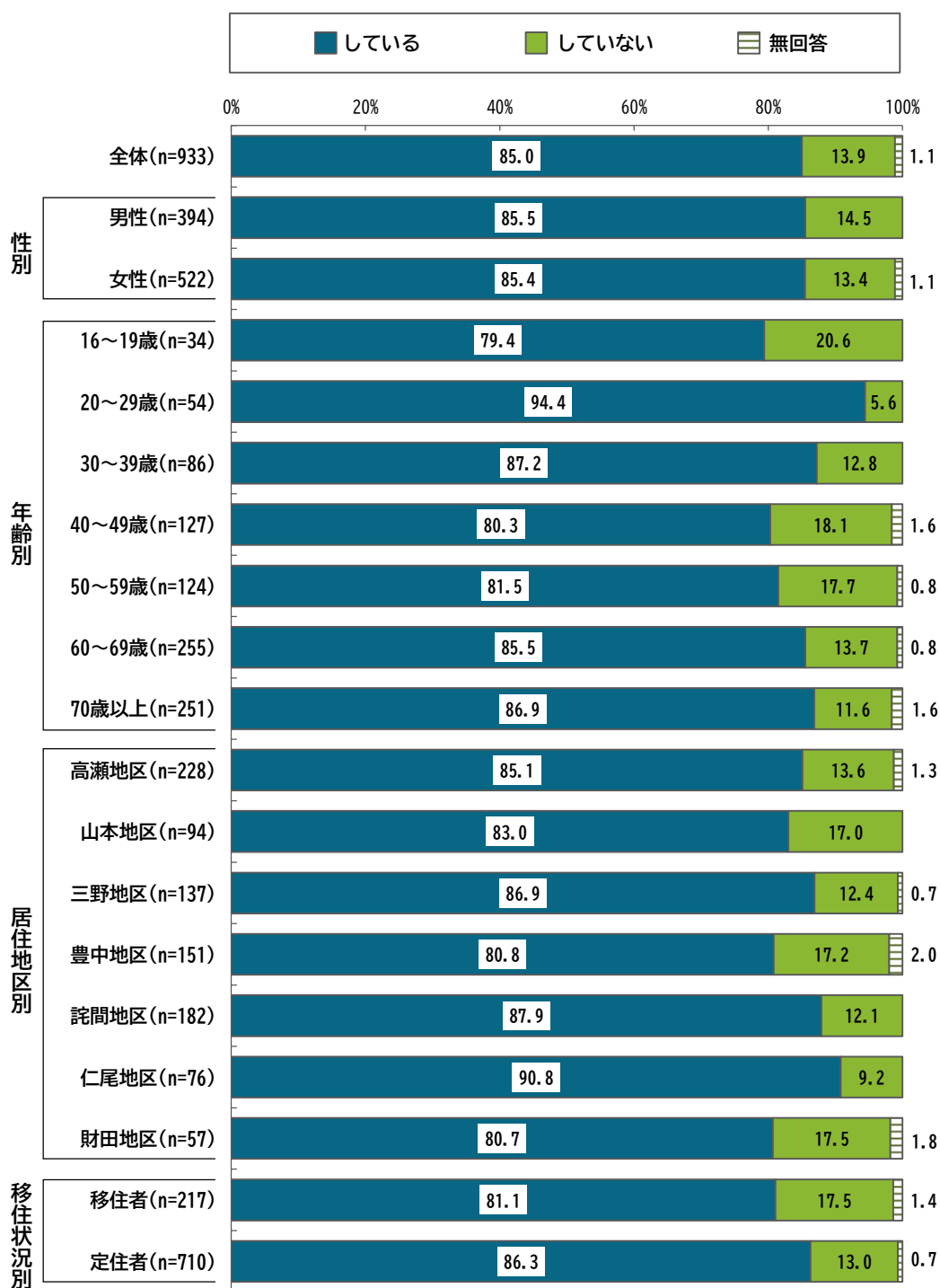


問6（11）徒歩、自転車、車などで、市内の道路を快適に利用していますか。

● 道路利用に快適さを感じている割合は20～29歳が高い。

道路利用に快適さを感じている割合は、年齢別でみると20～29歳が94.4%で最も高くなっています。また、仁尾地区で9割を超えており、特に高くなっています。

図表 29 市内の道路利用の快適さ（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

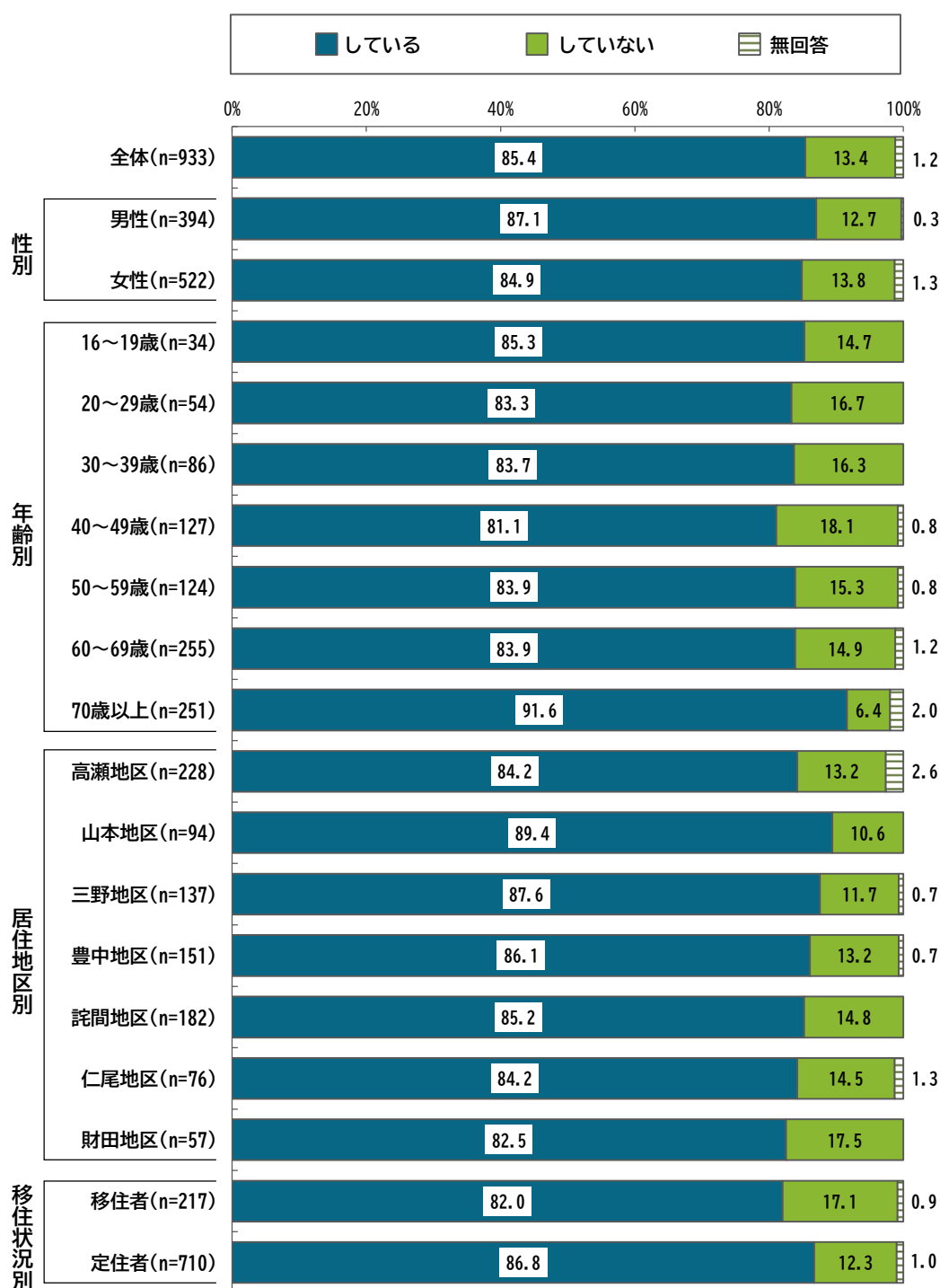


問6（12）自分らしい暮らし方をしていますか。

● 自分らしい暮らし方をしている割合は70歳以上が高い。

自分らしい暮らし方をしている割合は、年齢別でみると、いずれの世代も8割を超え高くなっていますが、70歳以上で91.6%と特に高くなっています。また、定住者が86.8%で移住者を上回っています。

図表 30 自分らしい暮らし方（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

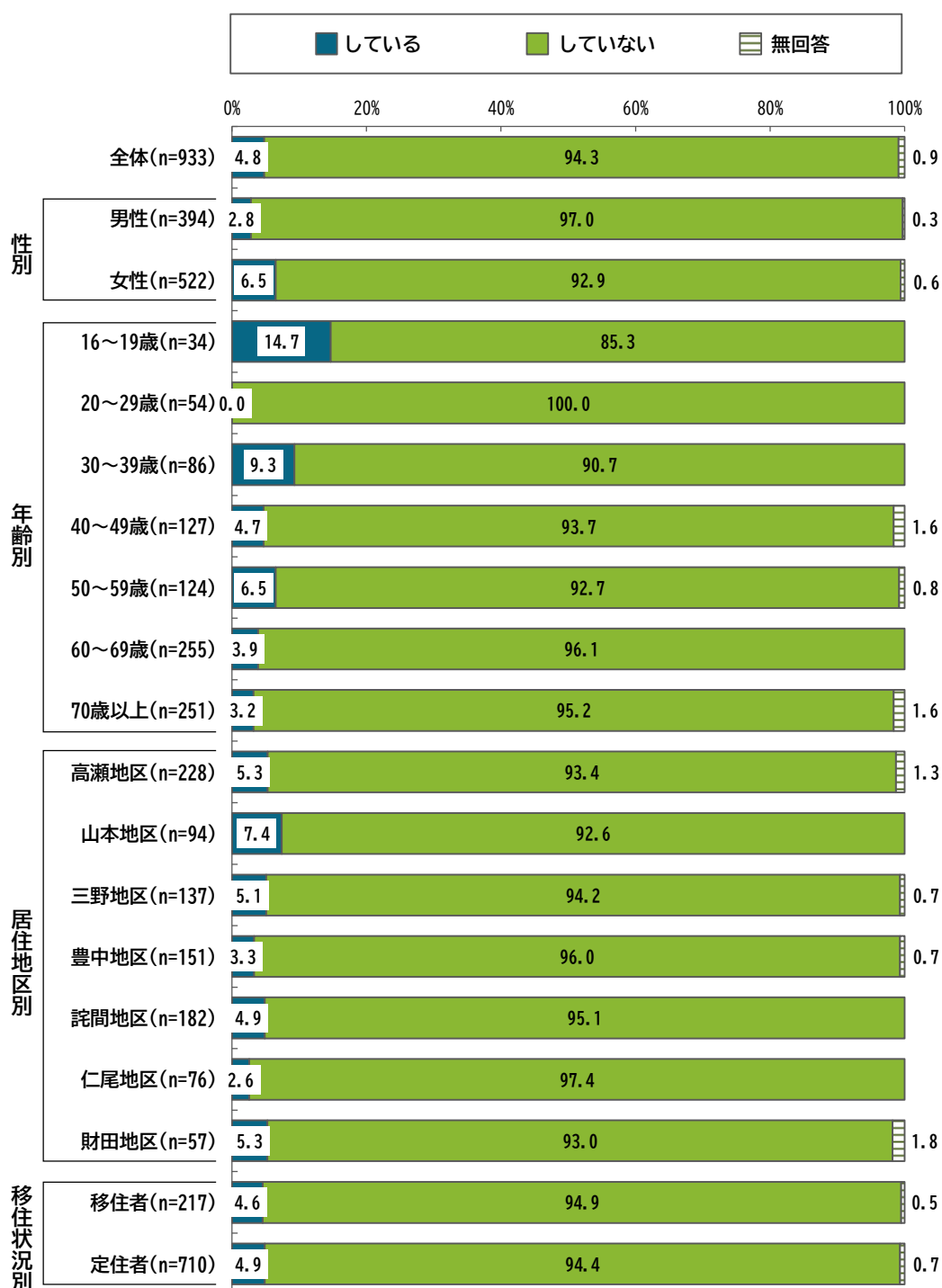


問6（13）あなたは、市内で外国人の方と交流をしていますか。

● 外国人と交流がある割合は16～19歳が高い。

市内で外国人の方と交流をしている割合は、年齢別でみると16～19歳が14.7%で最も高くなっていますが、それ以外の世代では1割以下となっています。また女性が6.5%で男性を上回っています。

図表 31 外国人との交流（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

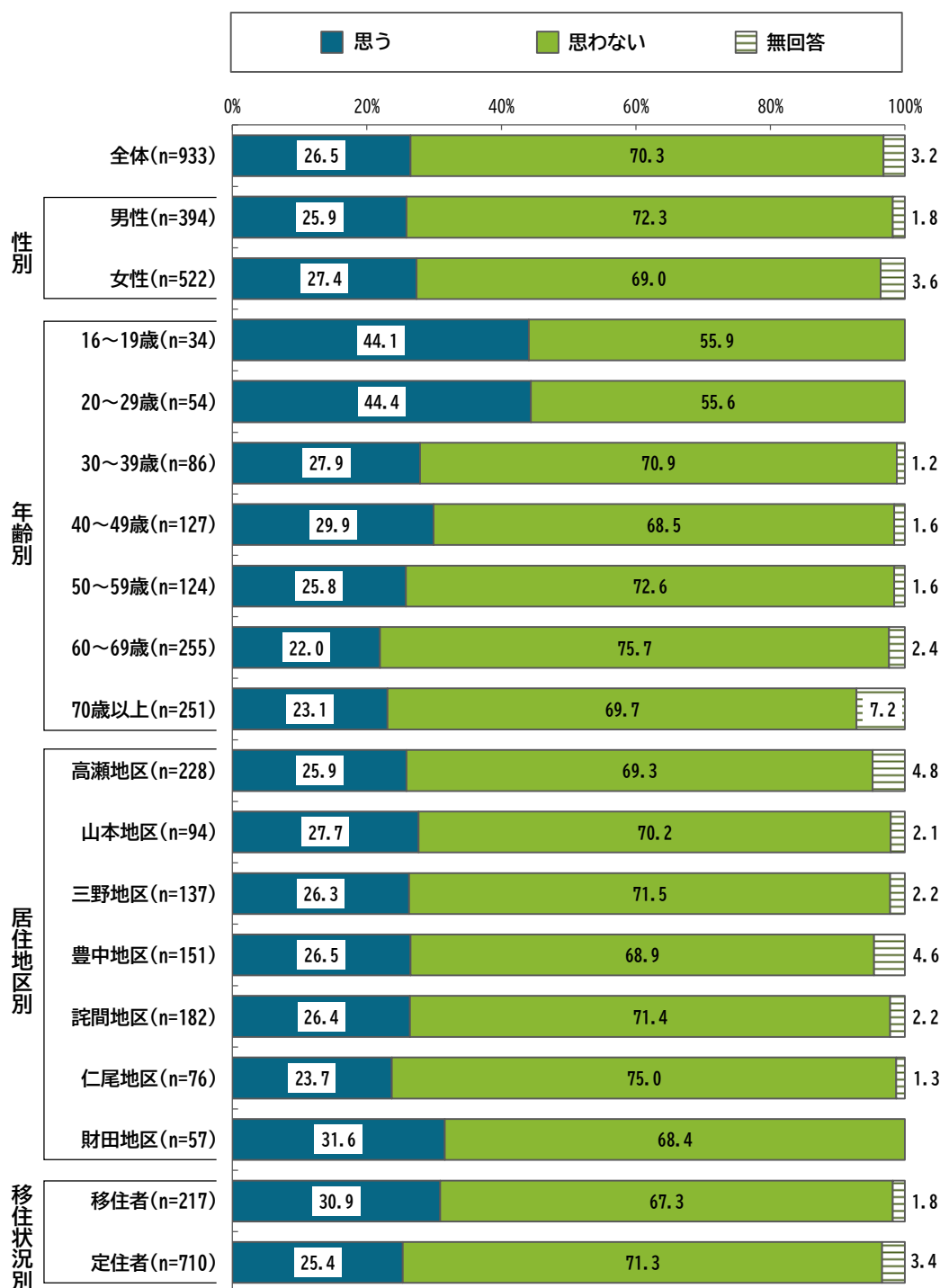


問6（14）性別や年齢を問わず、意欲のある人が働きやすい環境が整っていると思いますか。

● 働きやすい環境が整っていると思う割合は16～29歳が高い。

働きやすい環境が整っていると思う割合は、16～29歳で4割を超えています。それ以外の世代では3割以下となっています。また、移住者が30.9%で定住者を上回っています。

図表 32 意欲のある人が働きやすい環境か（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

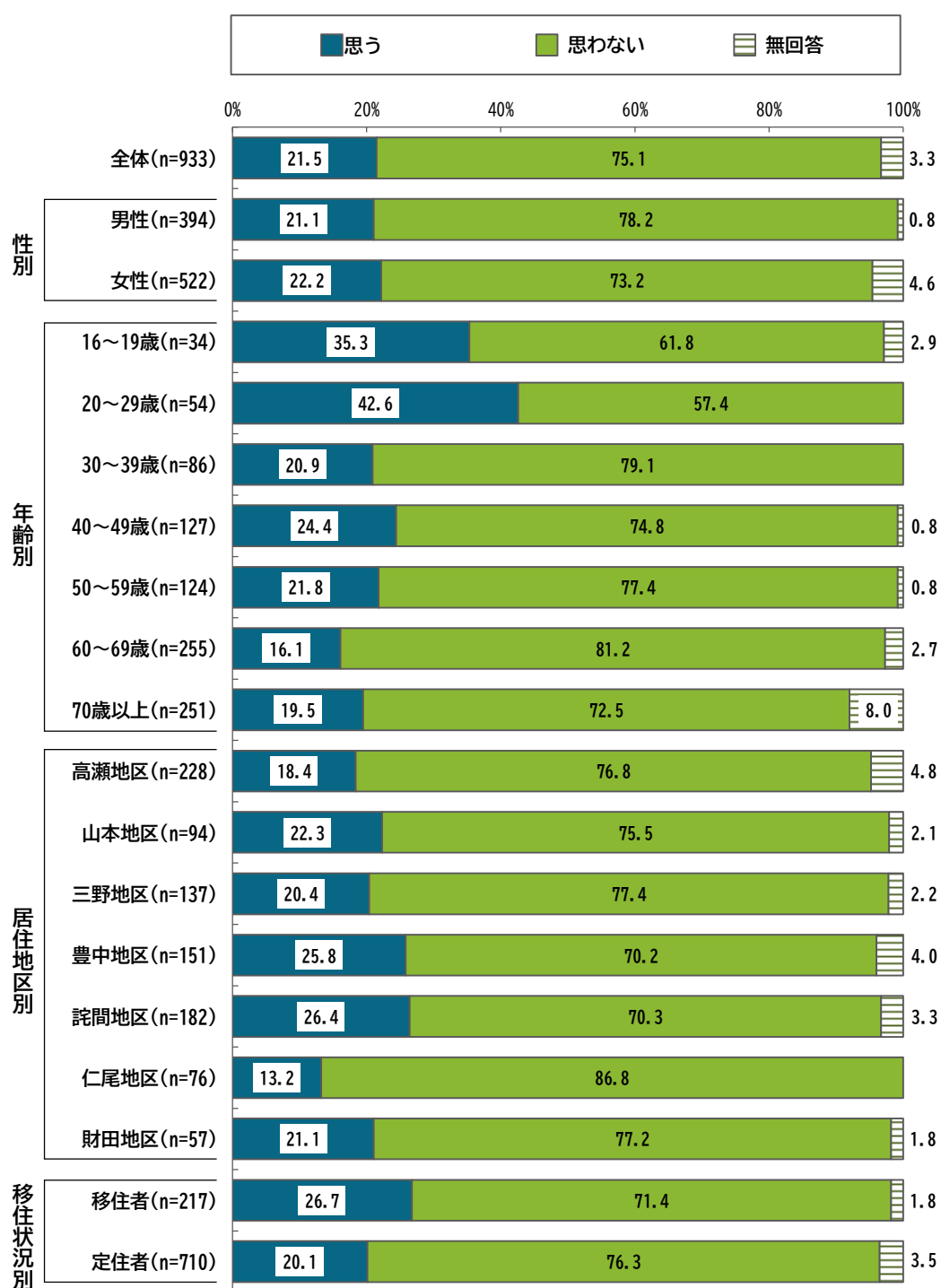


問6（15）若い世代が働きやすいまちになっていると思いますか。

● 若い世代が働きやすいまちだと思う割合は20～29歳が高い。

若い世代が働きやすいまちになっていると思う割合は、年齢別でみると20～29歳が42.6%で最も高く、次いで16～19歳（35.3%）、40～49歳（24.4%）となっています。また移住者が26.7%で定住者を上回っています。

図表 33 若い世代が働きやすいまちだと思うか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

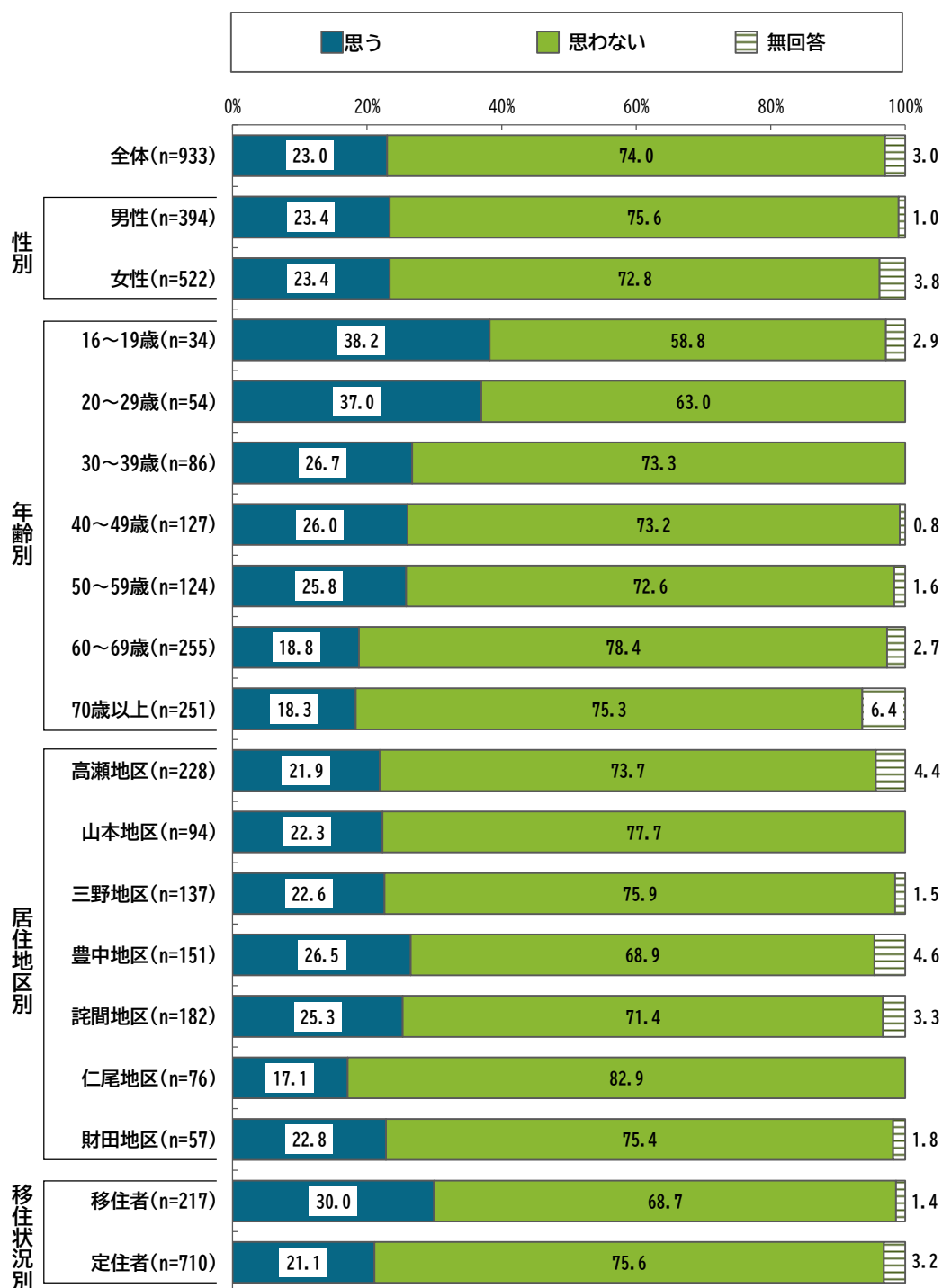


問6（16）若い世代が暮らしたいと思う魅力的なまちになっていると思いますか。

● 魅力的なまちになっていると思う割合は16～29歳で高い。

魅力的なまちになっていると思う割合は、年齢別でみると16～19歳が38.2%で最も高く、次いで20～29歳（37.0%）となっています。また、移住者が30.0%で定住者を上回っています。

図表 34 若い世代が暮らしたいと思うまちか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

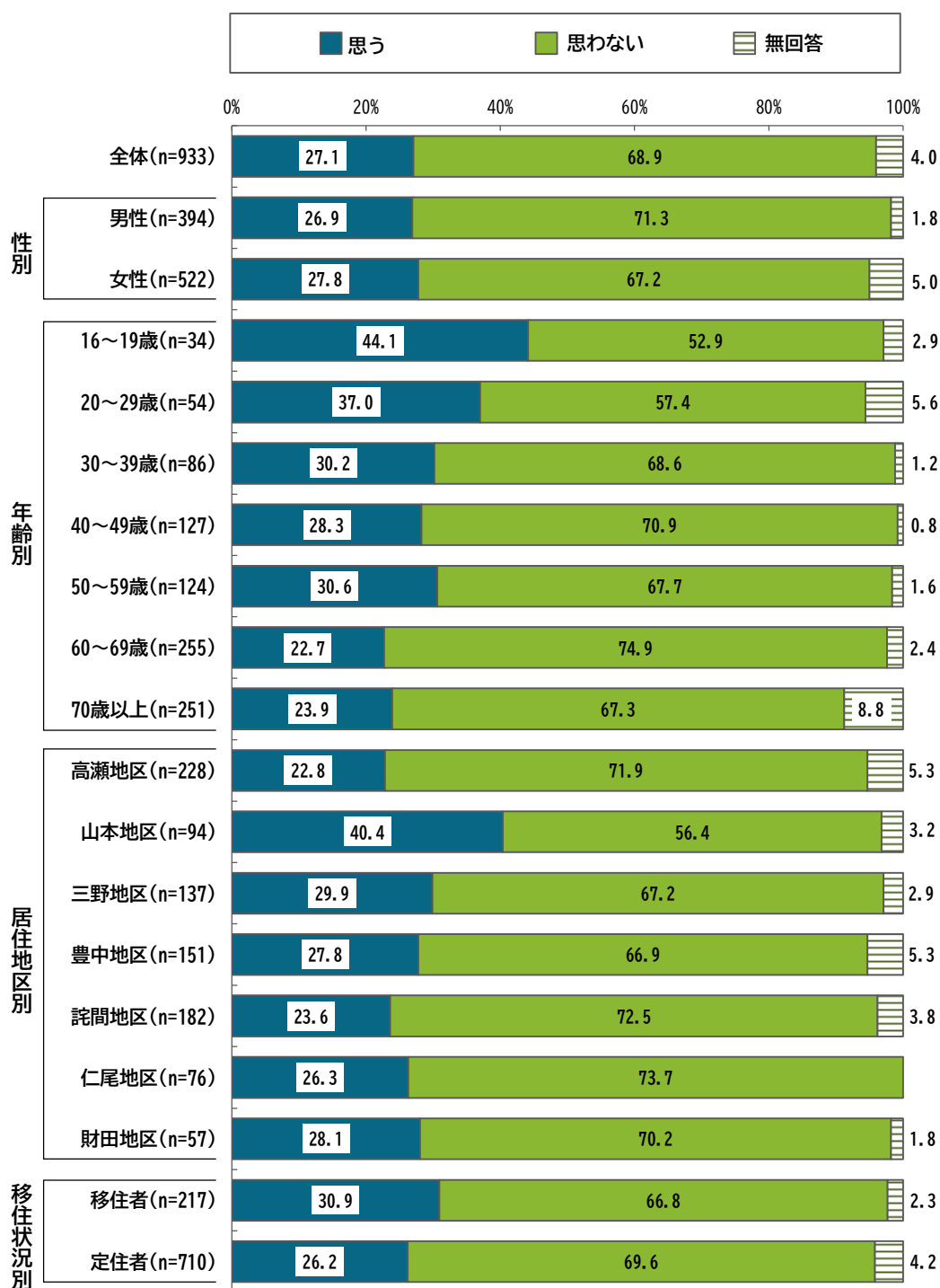


問6（17）挑戦する人を進んで応援するまじになっていると思いますか。

● 挑戦する人を応援するまじになっていると思う割合は16～19歳が高い。

挑戦する人を進んで応援するまじになっていると思う割合は、年齢別でみると16～19歳が44.1%で最も高く、次いで20～29歳（37.0%）、50～59歳（30.6%）となっています。また、地区別でみると山本地区が40.4%で最も高く、それ以外の地区は3割以下となっています。

図表 35 挑戦する人を進んで応援するまじか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

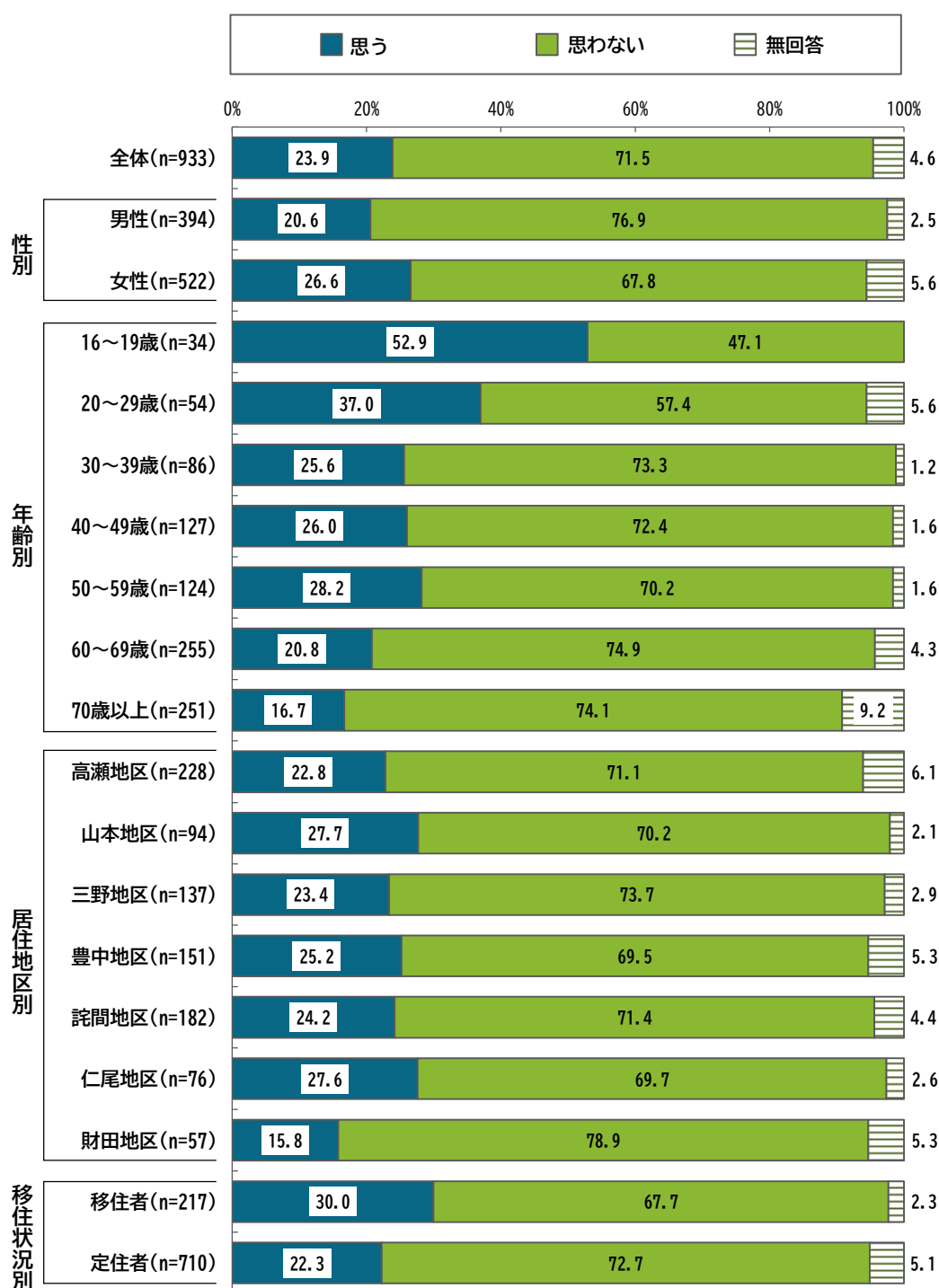


問6（18）市内の企業やお店は子育て支援に積極的だと思いますか。

● 子育て支援に積極的だと思う割合は16～19歳が高い。

市内の企業やお店が子育て支援に積極的だと思う割合は、年齢別でみると16～19歳が52.9%で最も高く、次いで20～29歳（37.0%）、50～59歳（28.2%）となっています。また、移住者が30.0%で定住者を上回っています。

図表 36 市内の企業や店は子育て支援に積極的か（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

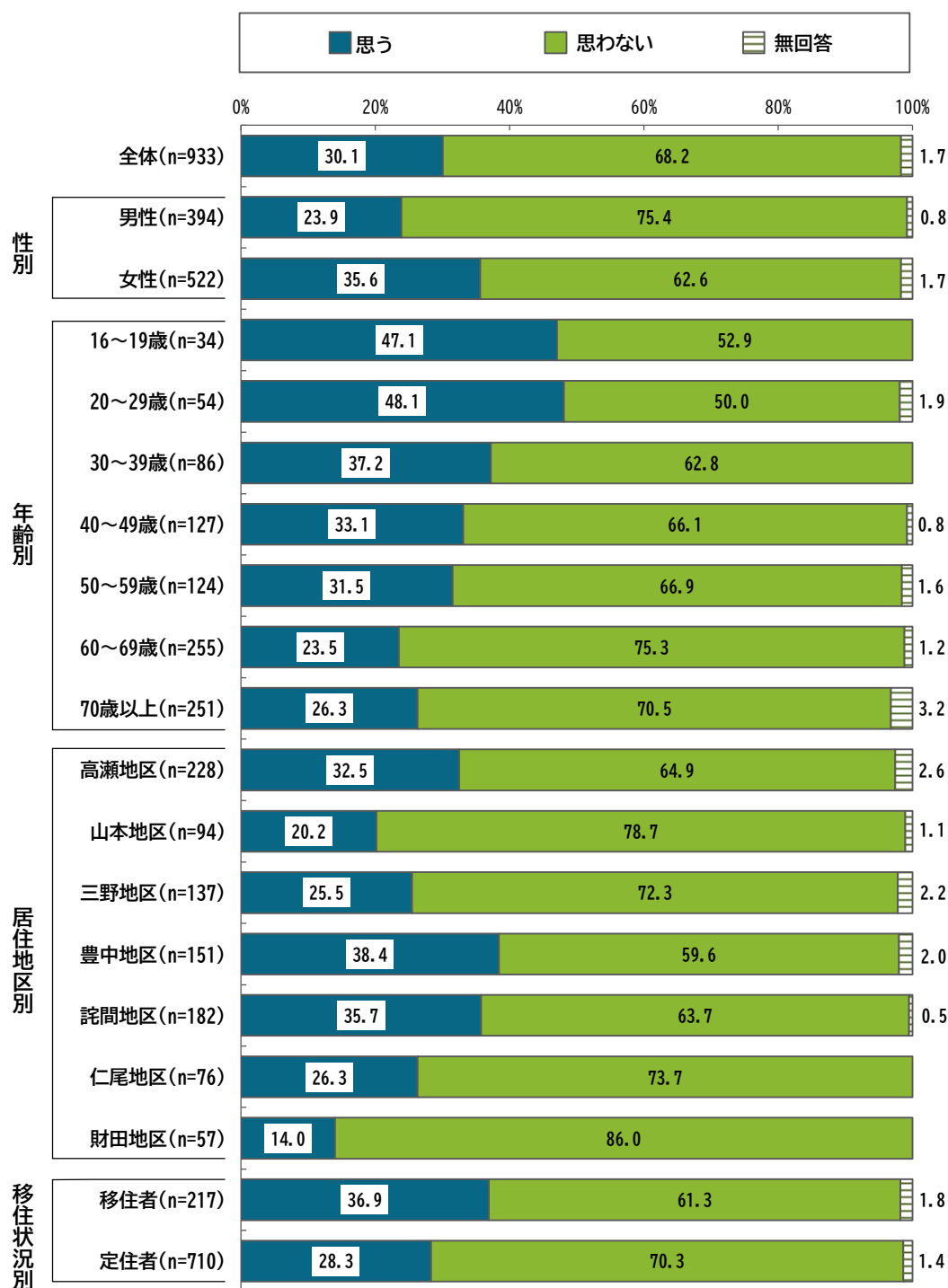


問6（19）住んでいる地域のお店に活気があると思いますか。

● 地域の店に活気があると思う割合は30歳以下が高い。

地域のお店に活気があると思う割合は、年齢別でみると20～29歳が48.1%で最も高く、次いで16～19歳（47.1%）、30～39歳（37.2%）となっています。また、女性が35.6%で男性を上回っています。

図表 37 地域の店は活気があるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

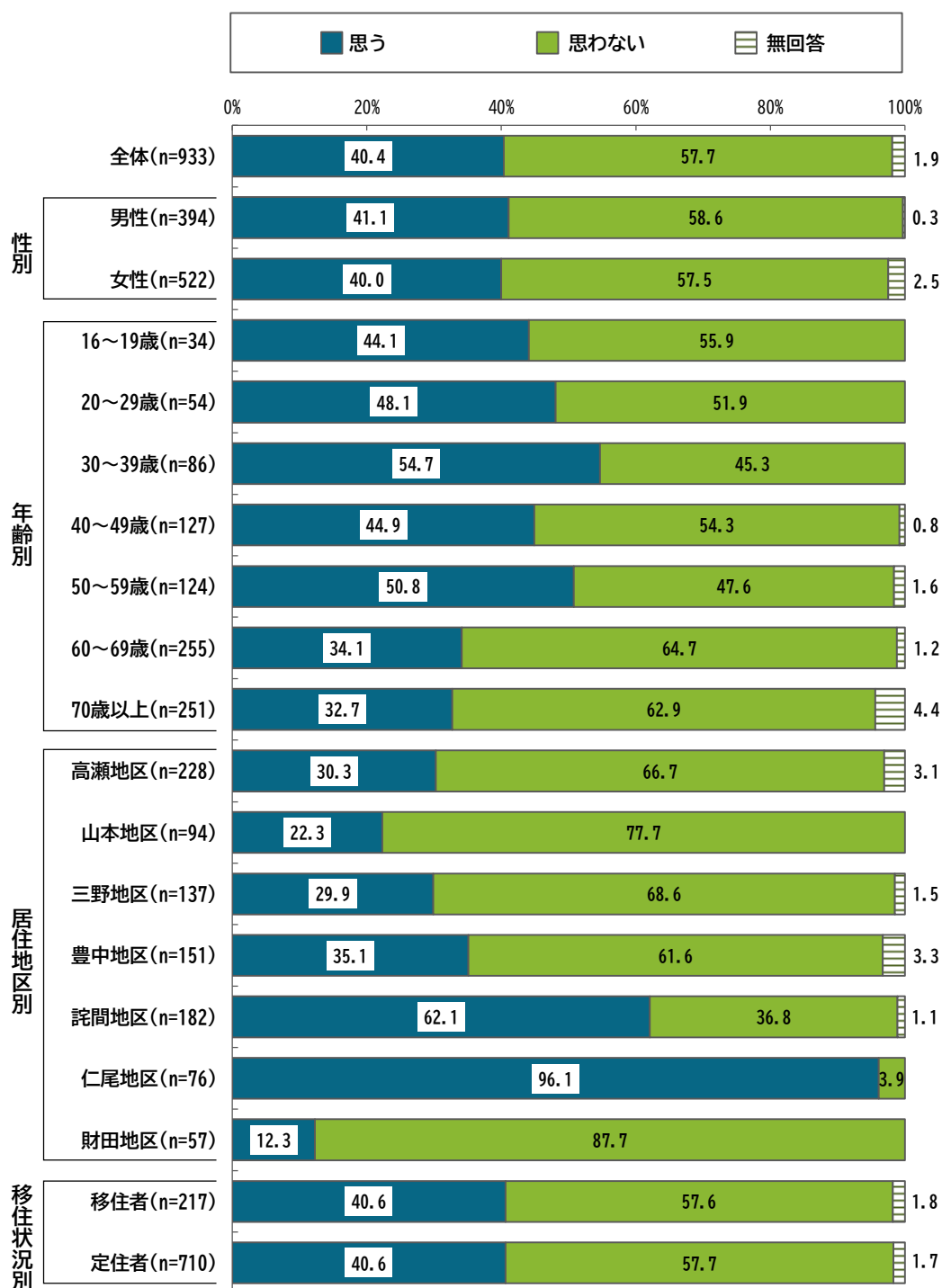


問6（20）住んでいる地域に観光客が増えていると思いますか。

● 観光客が増えていると思う割合が高いのは仁尾地区と詫間地区。

観光客が増えていると思う割合は、地区別でみると仁尾地区が 96.1%、詫間地区が 62.1%となっており、この2地区が突出しています。また 30～39 歳と 50～59 歳では半数以上を占めています。

図表 38 地域に観光客が増えているか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

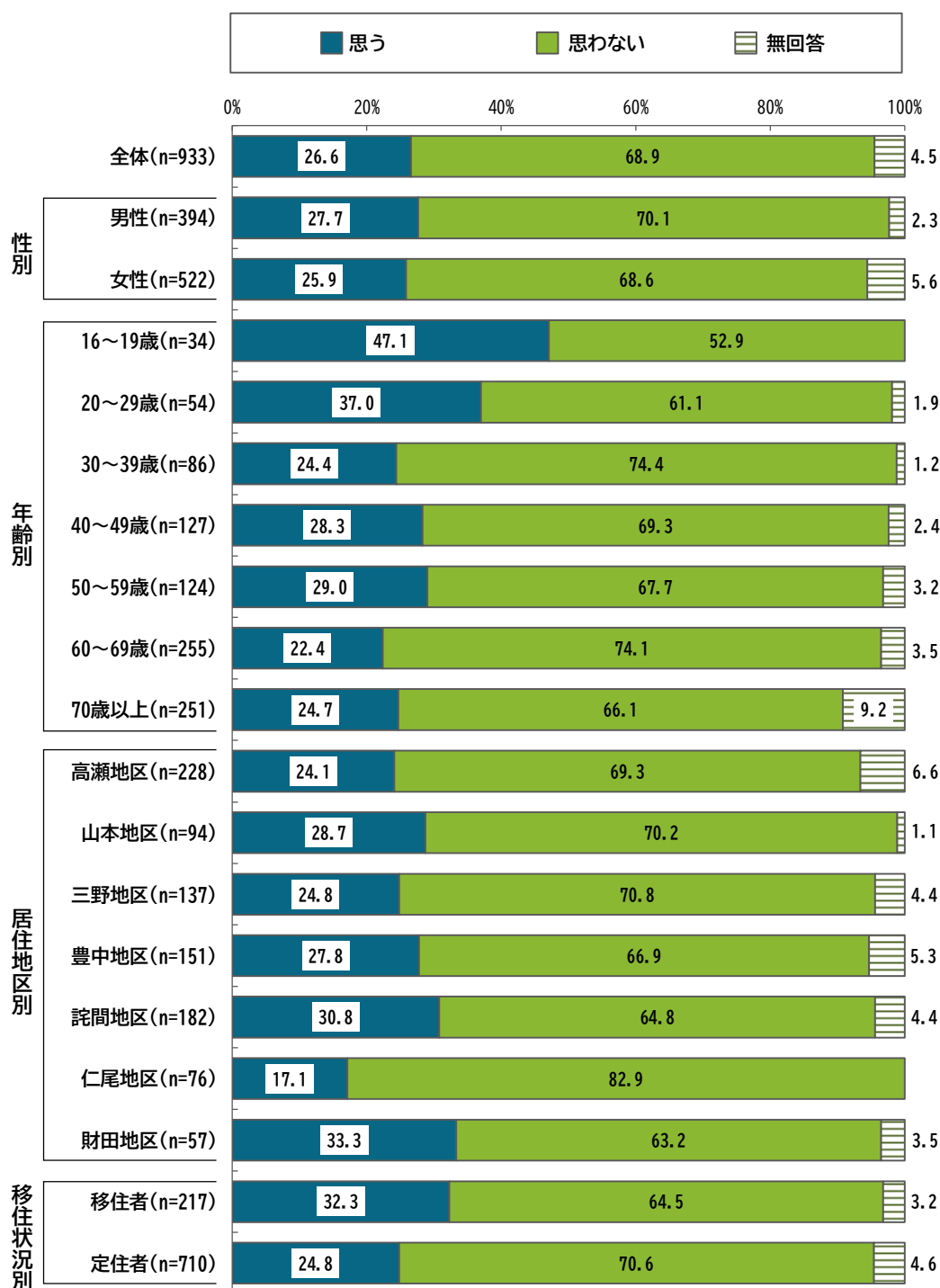


問6（21）女性が活躍する（できる）まちになっていると思いますか。

● 女性が活躍するまちになっていると思う割合は16～19歳が高い。

女性が活躍する（できる）まちになっていると思う割合は、年齢別でみると16～19歳が47.1%で最も高く、次いで20～29歳（37.0%）、50～59歳（29.0%）となっています。また、移住者が32.3%で定住者を上回っています。

図表 39 女性が活躍するまちか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

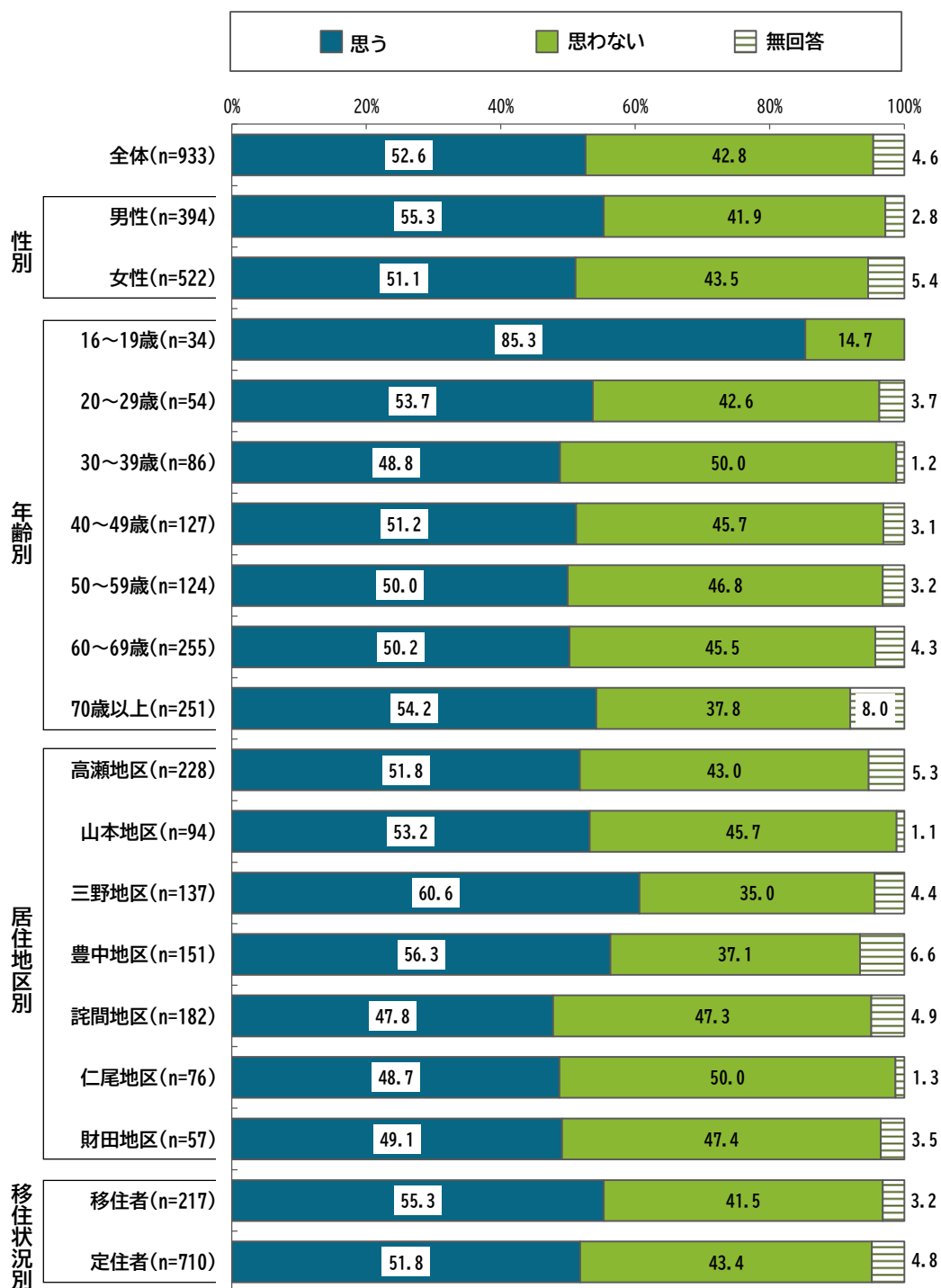


問6（22）人権を大事にするまちになっていると思いますか。

● 人権を大事にするまちになっていると思う割合は16～19歳が突出している。

人権を大事にするまちになっていると思う割合は、年齢別でみると16～19歳が85.3%で最も高く、他の世代との差が顕著です。また、三野地区では6割を超えています。

図表 40 人権を大事にするまちか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

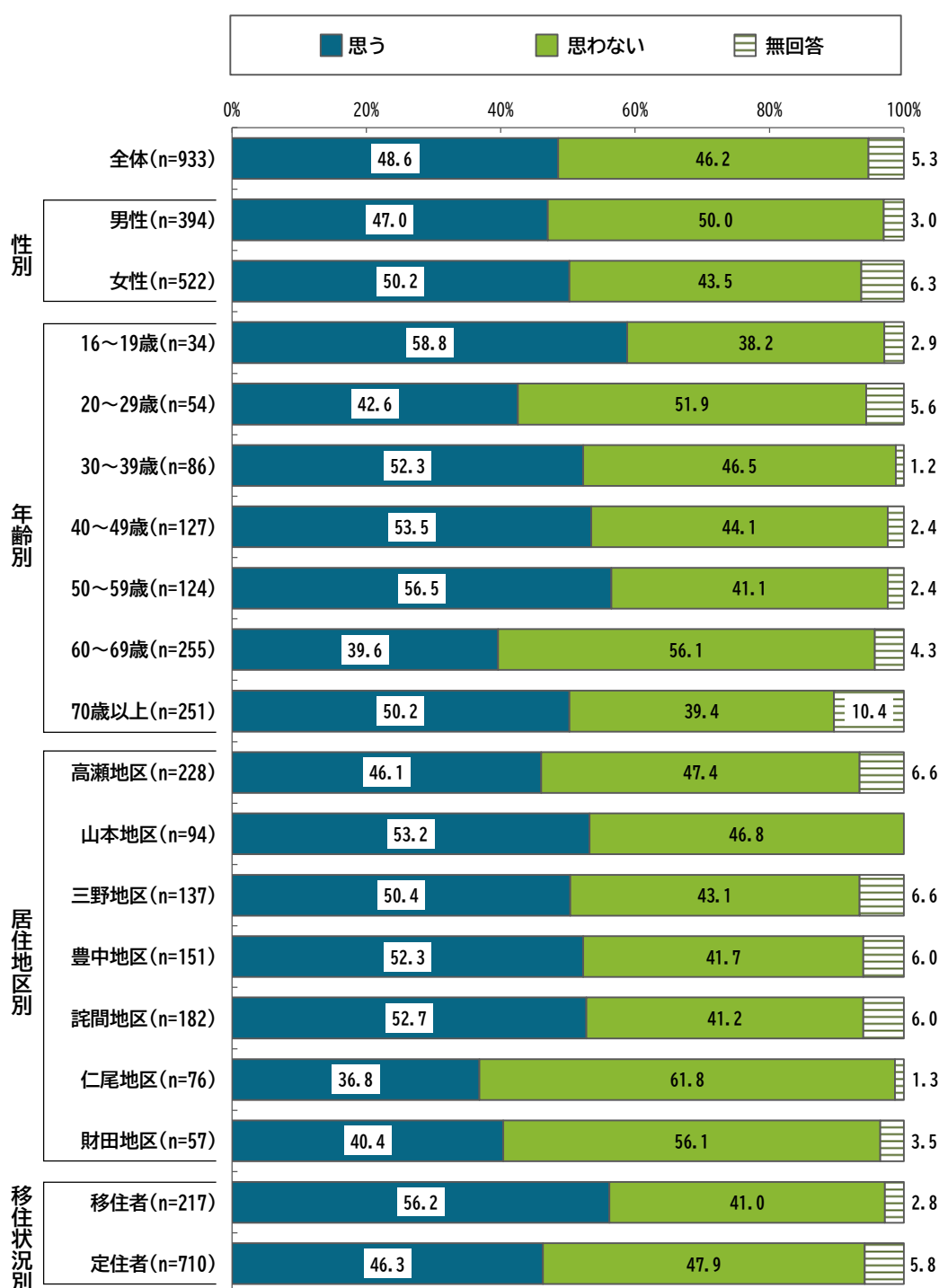


問6（23）若い世代が子育てしやすいまちになっていると思いますか。

- 若い世代が子育てしやすいまちだと思う割合は16～19歳、30～59歳、70歳以上で半数以上を占める。

若い世代が子育てしやすいまちになっていると思う割合は、年齢別でみると16～19歳が58.8%で最も高くなっています。また、16～19歳、30～59歳、70歳以上で半数以上を占めています。

図表 41 若い世代が子育てしやすいまちか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

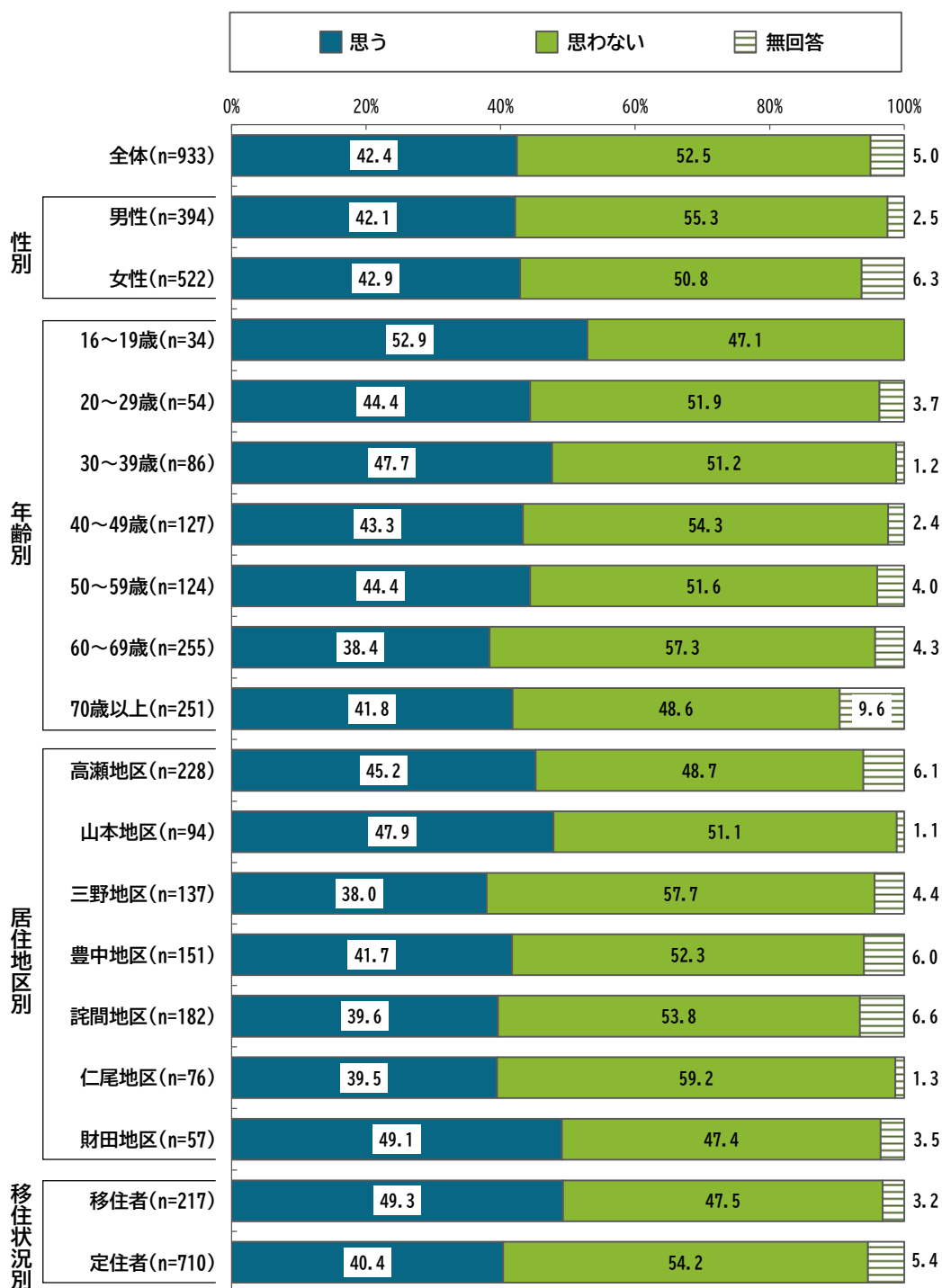


問6（24）子育てについて、地域で支え合う雰囲気があると思いますか。

● 子育てを地域で支え合う雰囲気があると思う割合は16～19歳で半数以上を占める。

子育てを地域で支え合う雰囲気があると思う割合は、年齢別でみると16～19歳で52.9%と最も高くなっています。また、移住者が49.3%で定住者を上回っています。

図表 42 子育てを地域で支え合う雰囲気があるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

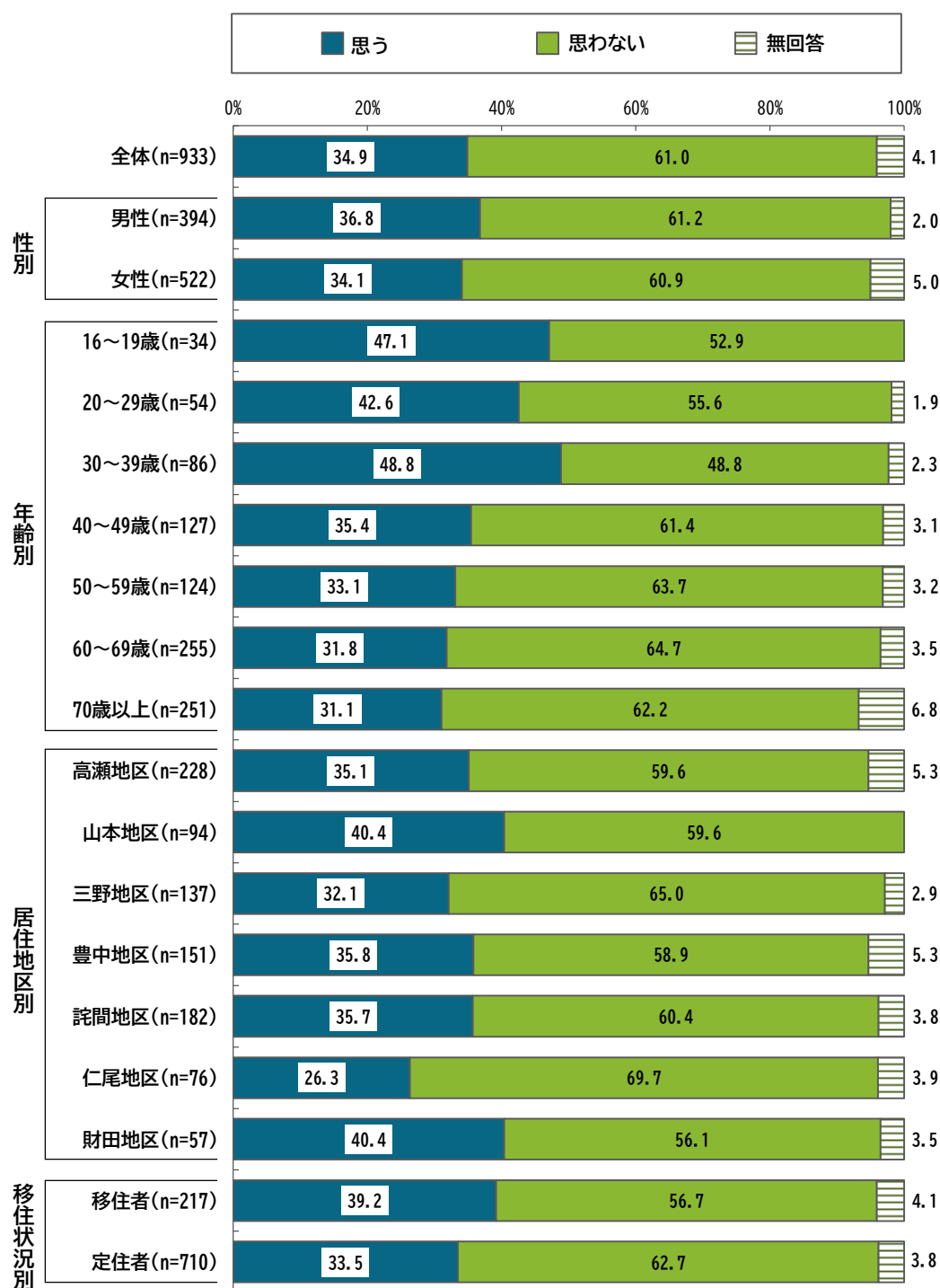


問6（25）住んでいる地域が高齢者や障がい者にも暮らしやすいと思いますか。

● 高齢者や障がい者も暮らしやすい地域だと思う割合は30代が高い。

住んでいる地域が高齢者や障害者にも暮らしやすいと思う割合は、年齢別でみると30～39歳が48.8%で最も高く、次いで16～19歳（47.1%）、20～29歳（42.6%）となっています。また山本地区と財田地区では4割を超えています。

図表 43 地域は高齢者や障がい者にも暮らしやすいか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

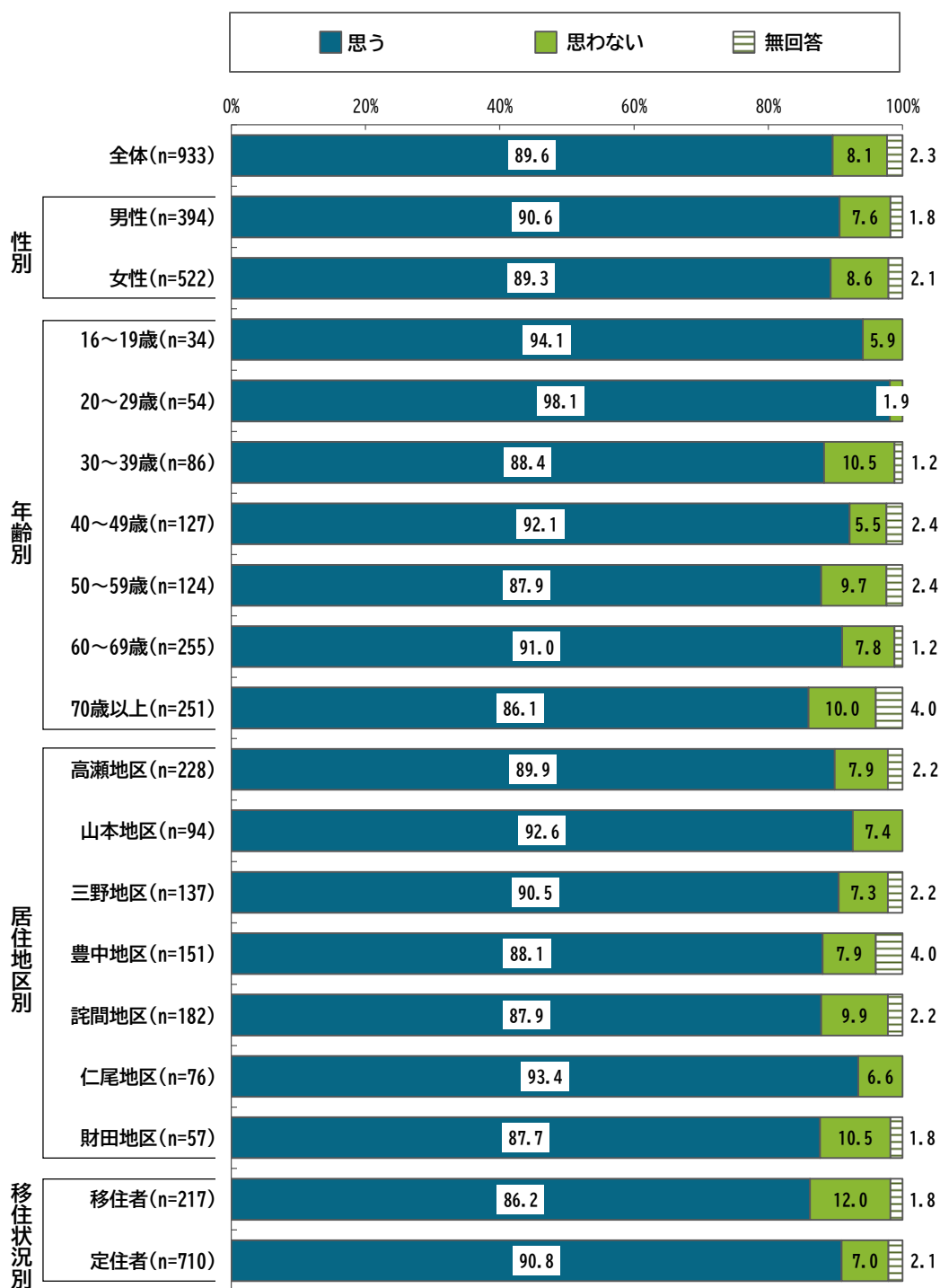


問6（26）食べ物や飲み水は安心だと思いますか。

● 食べ物や飲み水が安心だと思う割合は性別、年齢、地区、移住状況を問わず高い。

食べ物や飲み水が安心だと思う割合は、性別、年齢別、地区別、移住状況別のいずれでみても、8割半ば～9割後半と高くなっています。

図表 44 食べ物や飲み水は安心か（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

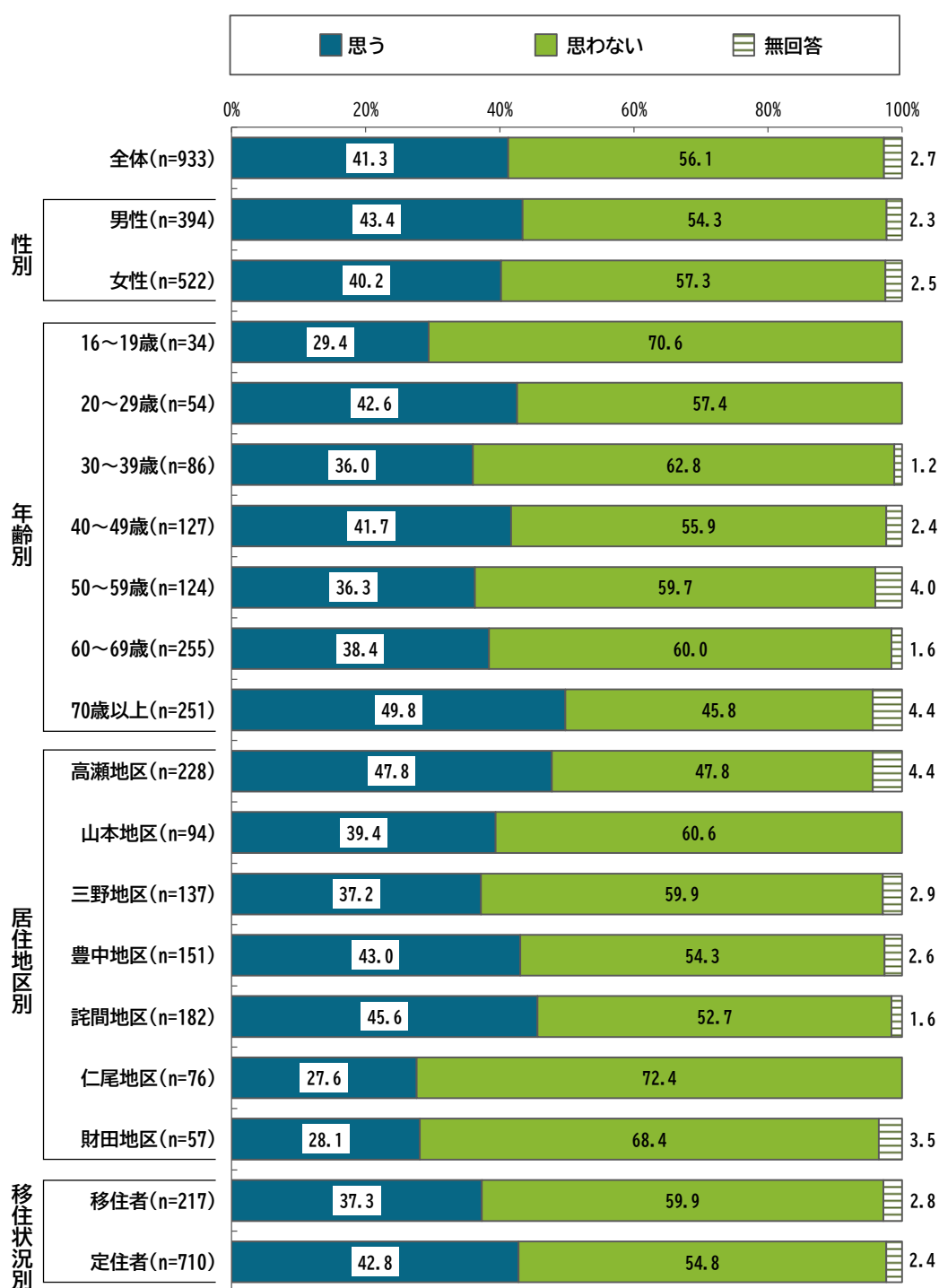


問6（27）市内のどこへでも便利に移動できると思いますか。

● 便利に移動できると思う割合は70歳以上が高い。

便利に移動できると思う割合は、年齢別でみると70歳以上が49.8%で最も高く、次いで20～29歳（42.6%）、40～49歳（41.7%）となっています。また、地区別でみると、高瀬地区が47.8%で最も高く、次いで詫間地区（45.6%）、豊中地区（43.0%）となっています。

図表 45 市内を便利に移動できるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

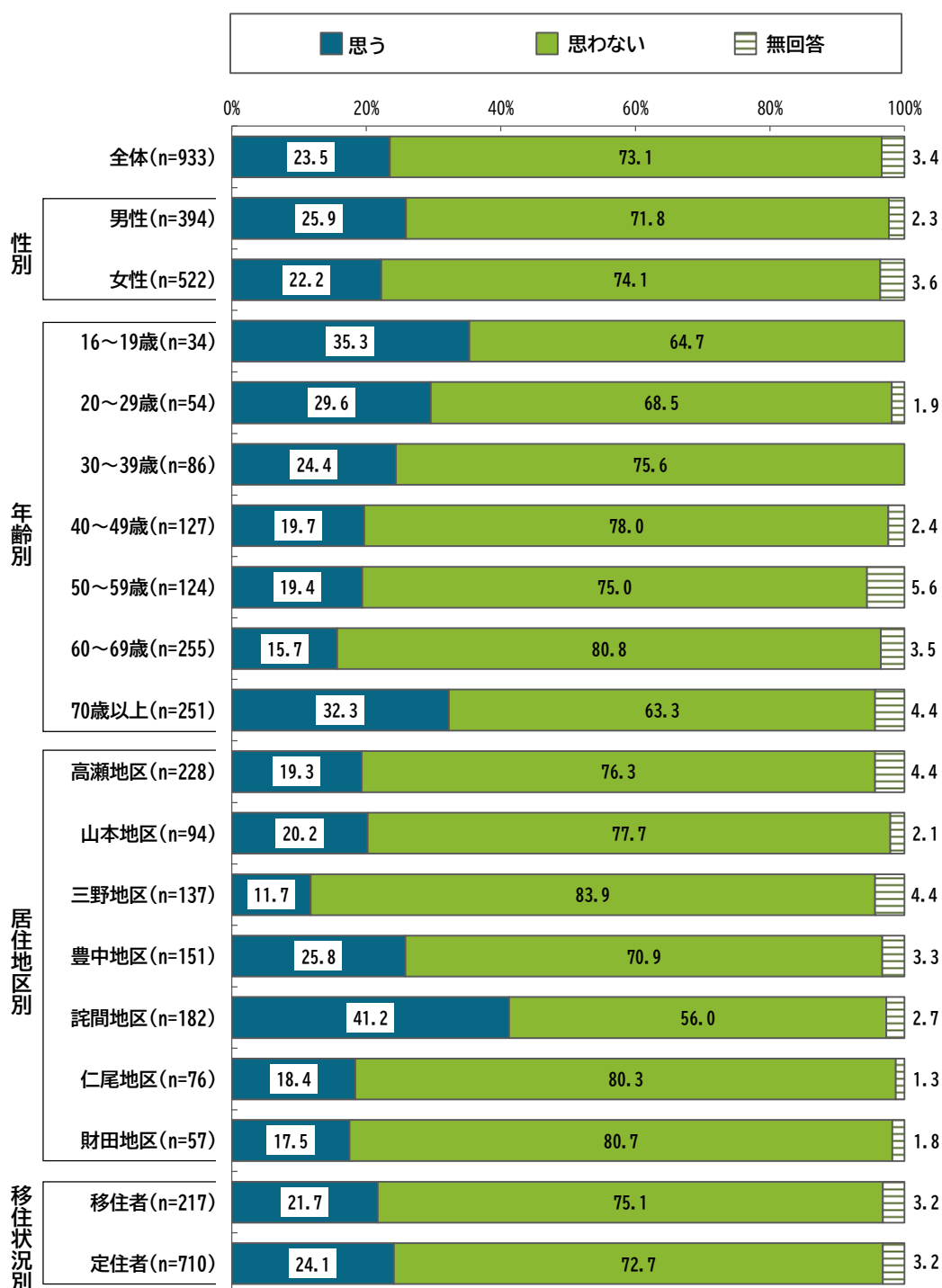


問6（28）住んでいる地域の公共交通は便利だと思いますか。

● 詫間地区では公共交通が便利だと思う割合が高い。

住んでいる地域の公共交通が便利だと思う割合は、地区別でみると詫間地区が41.2%で最も高く、次いで豊中地区（25.8%）となっていますが割合に差がみられます。また、16～19歳と70歳以上では3割を超えています。

図表 46 地域の公共交通は便利か（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

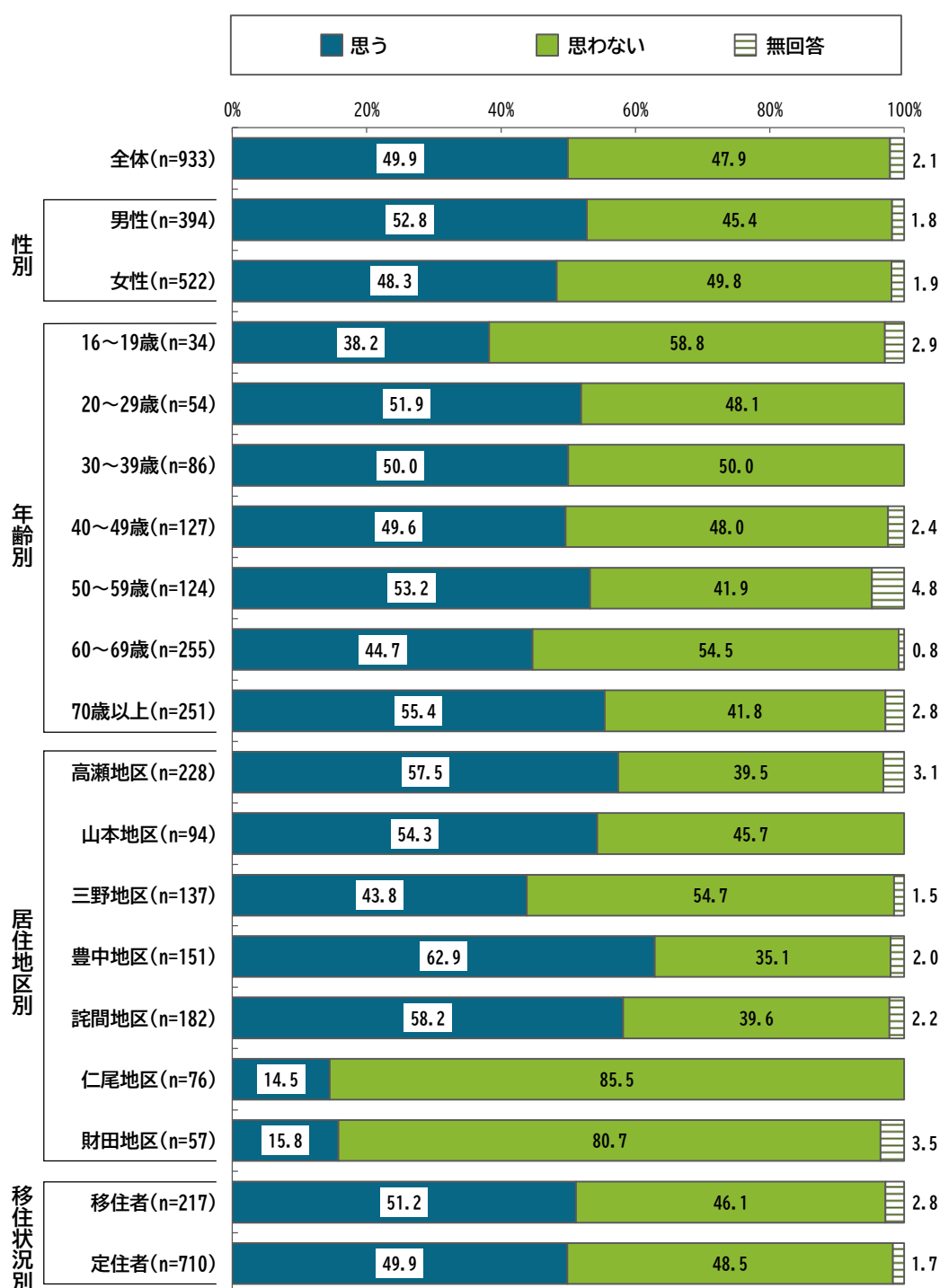


問6（29）住んでいる地域は買い物や通勤、通学、通院に便利だと思いますか。

● 地域が買い物や通勤、通学、通院に便利だと思う割合は地区によって大きな差がある

地域が買い物や通勤、通学、通院に便利だと思う割合は、地区別でみると、高瀬地区（57.5%）、山本地区（54.3%）、三野地区（43.8%）、豊中地区（62.9%）、詫間地区（58.2%）の5地区と仁尾地区（14.5%）、財田地区（15.8%）の2地区の間に差がみられます。

図表 47 地域は買い物や通勤、通学、通院に便利か（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

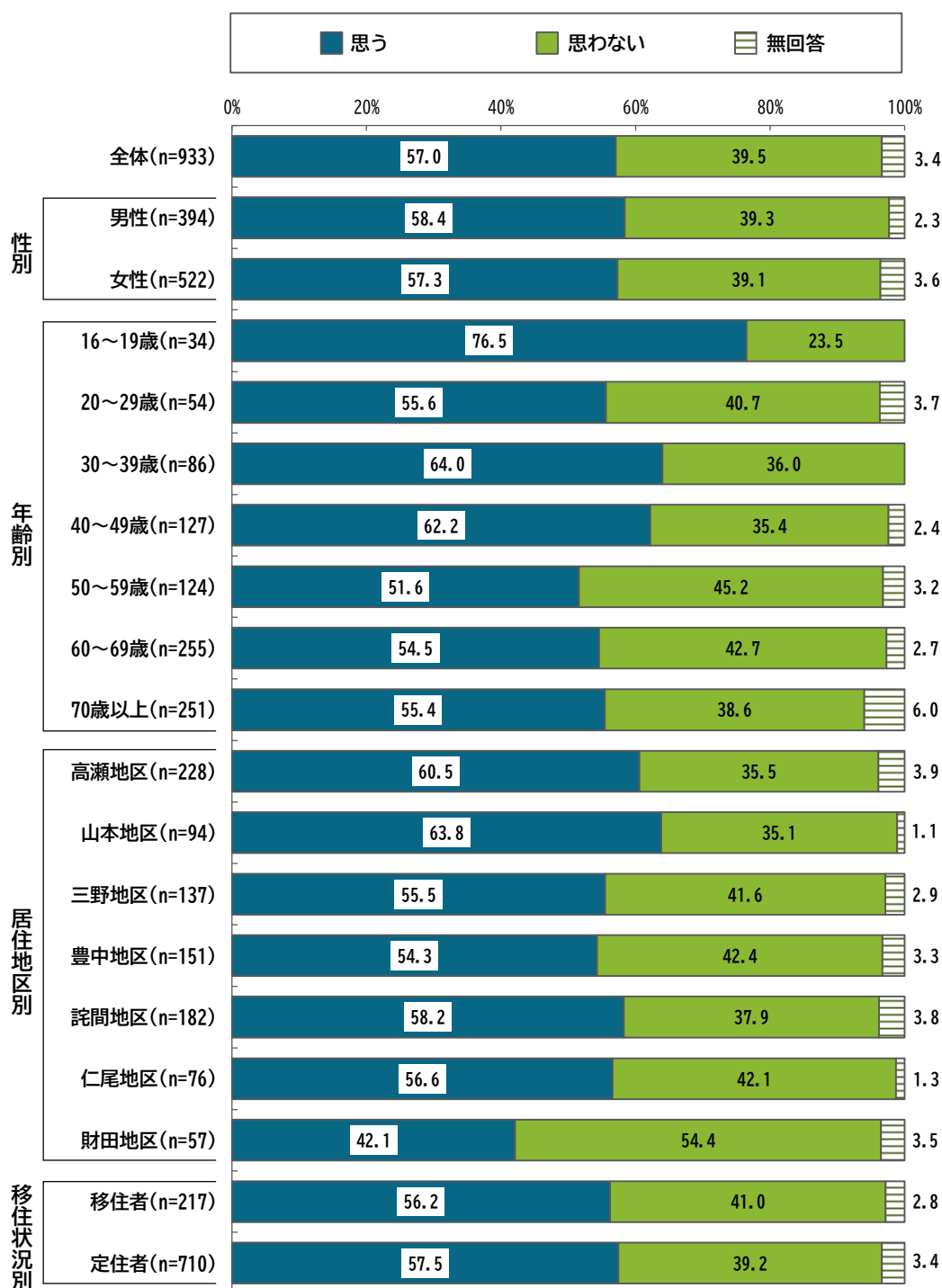


問6（30）住んでいる地域で登下校時の見守り・パトロールや街灯整備等の安全・安心を守る取り組みが盛んだと思いますか。

● 地域で安全・安心を守る取り組みが盛んだと思う割合は16～19歳が高い。

地域で安全・安心を守る取り組みが盛んだと思う割合は、年齢別でみると16～19歳が76.5%で最も高く、次いで30～39歳（64.0%）、40～49歳（62.2%）となっています。また、山本地区、高瀬地区では6割を超えています。

図表 48 地域は安全・安心を守る取り組みが盛んか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

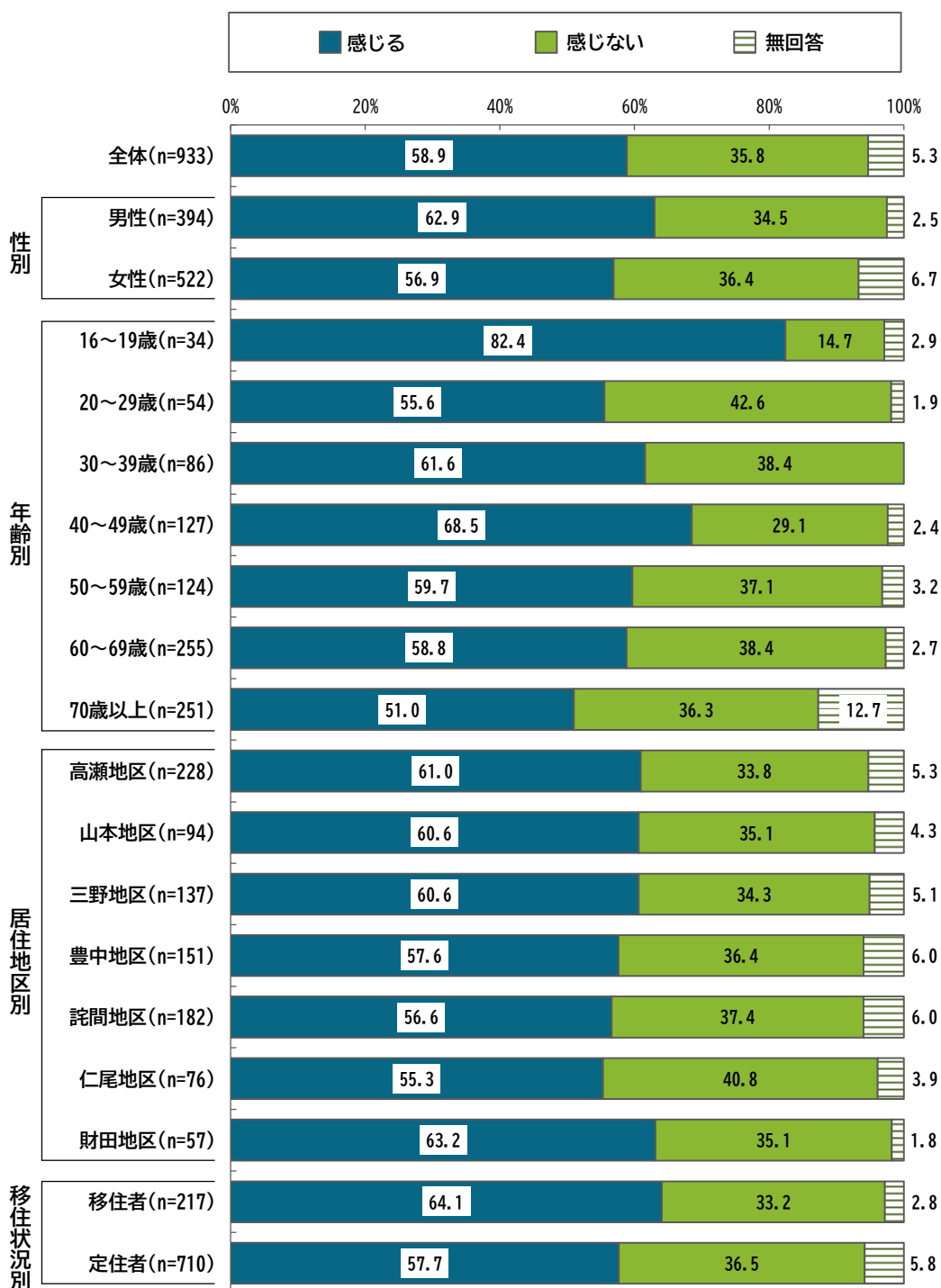


問6（31）自分の仕事（又は勉強）にやりがいを感じますか（仕事にはボランティアなども含みます）。

● 自分の仕事や勉強にやりがいを感じている割合は16～19歳が高い

自分の仕事や勉強にやりがいを感じている割合は、年齢別でみると16～19歳が82.4%で最も高く、次いで40～49歳（68.5%）、30～39歳（61.6%）となっています。また、移住者が64.1%で定住者を上回っています。

図表 49 仕事にやりがいを感じるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

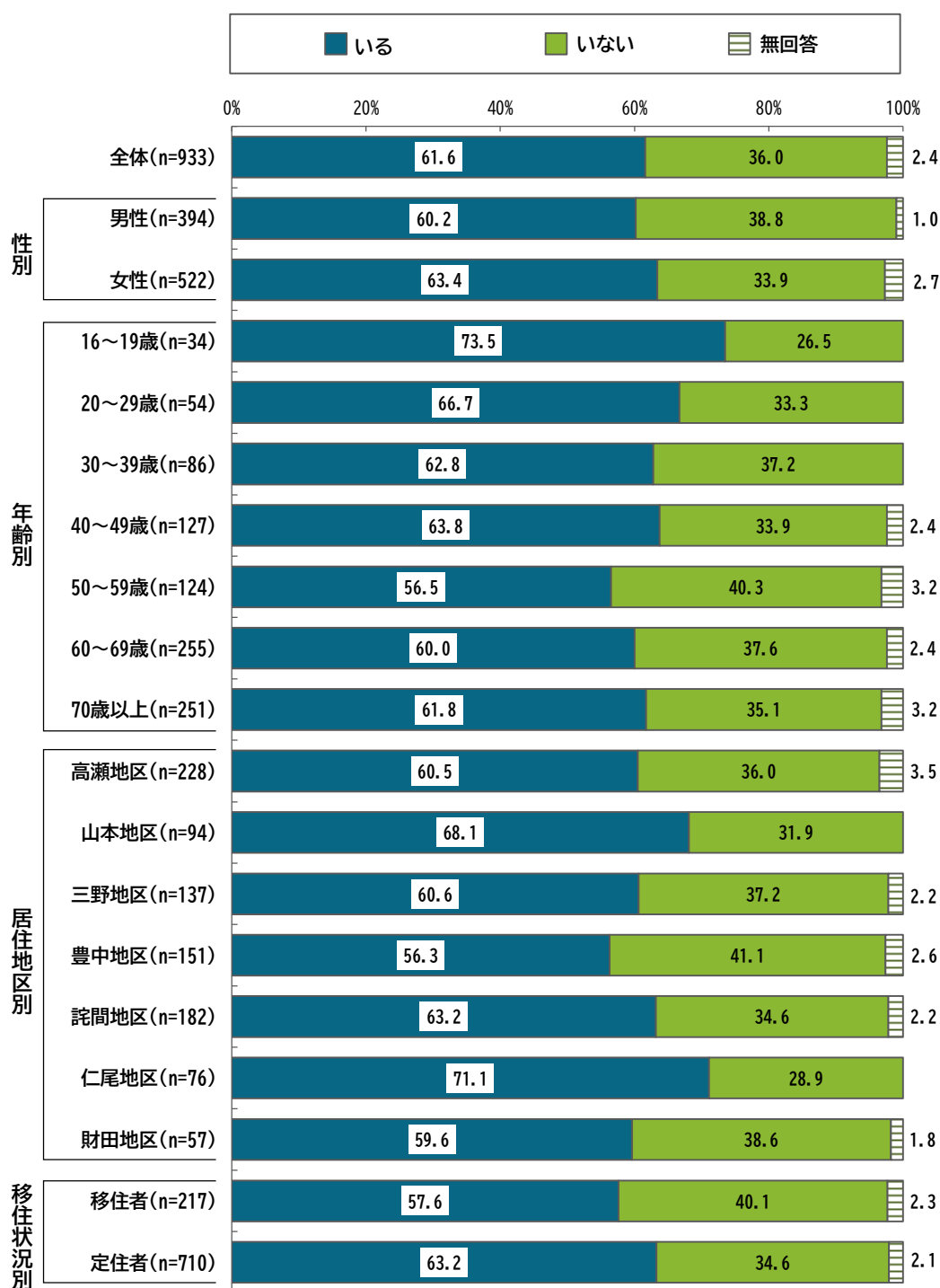


問6（32）困ったときに相談できる人が近所や地域にいますか。

● 相談できる人が身近にいる割合は16～19歳が高い。

相談できる人が身近にいる割合は、年齢別でみると16～19歳が73.5%で最も高く、次いで20～29歳（66.7%）、40～49歳（63.8%）となっています。また、定住者が63.2%で移住者を上回っています。

図表 50 困ったときに相談できる人が近所や地域にいるか
（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

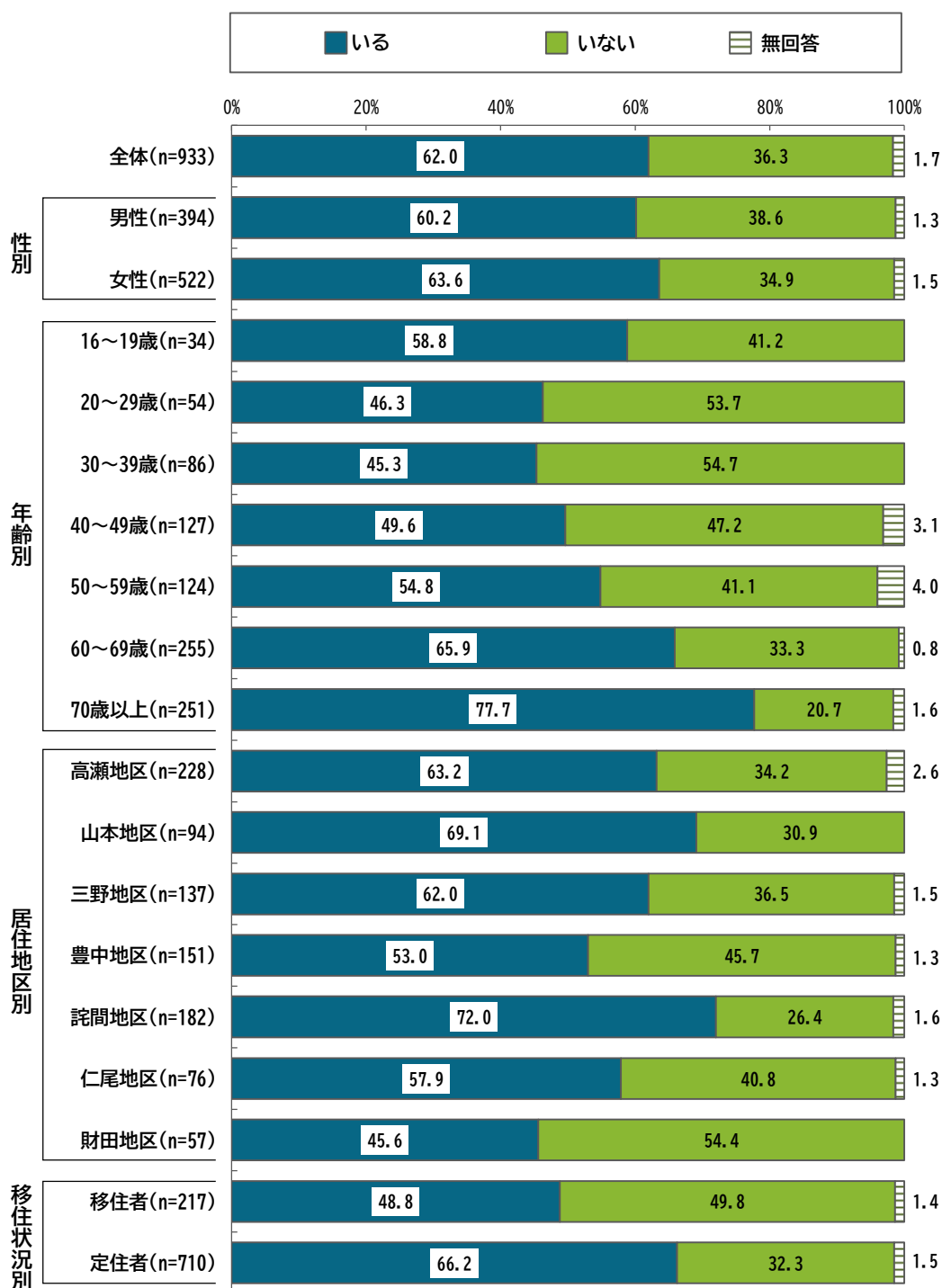


問6（33）市内にかかりつけの医者はいいますか。

● 30歳以降年齢が上がるにつれ、かかりつけ医のいる割合は増加している。

市内にかかりつけの医者がある割合は、30～39歳以降、年齢が上がるにつれて増加しており、70歳以上では77.7%となっています。また、定住者が66.2%で移住者を上回っています。

図表 51 市内にかかりつけの医者があるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

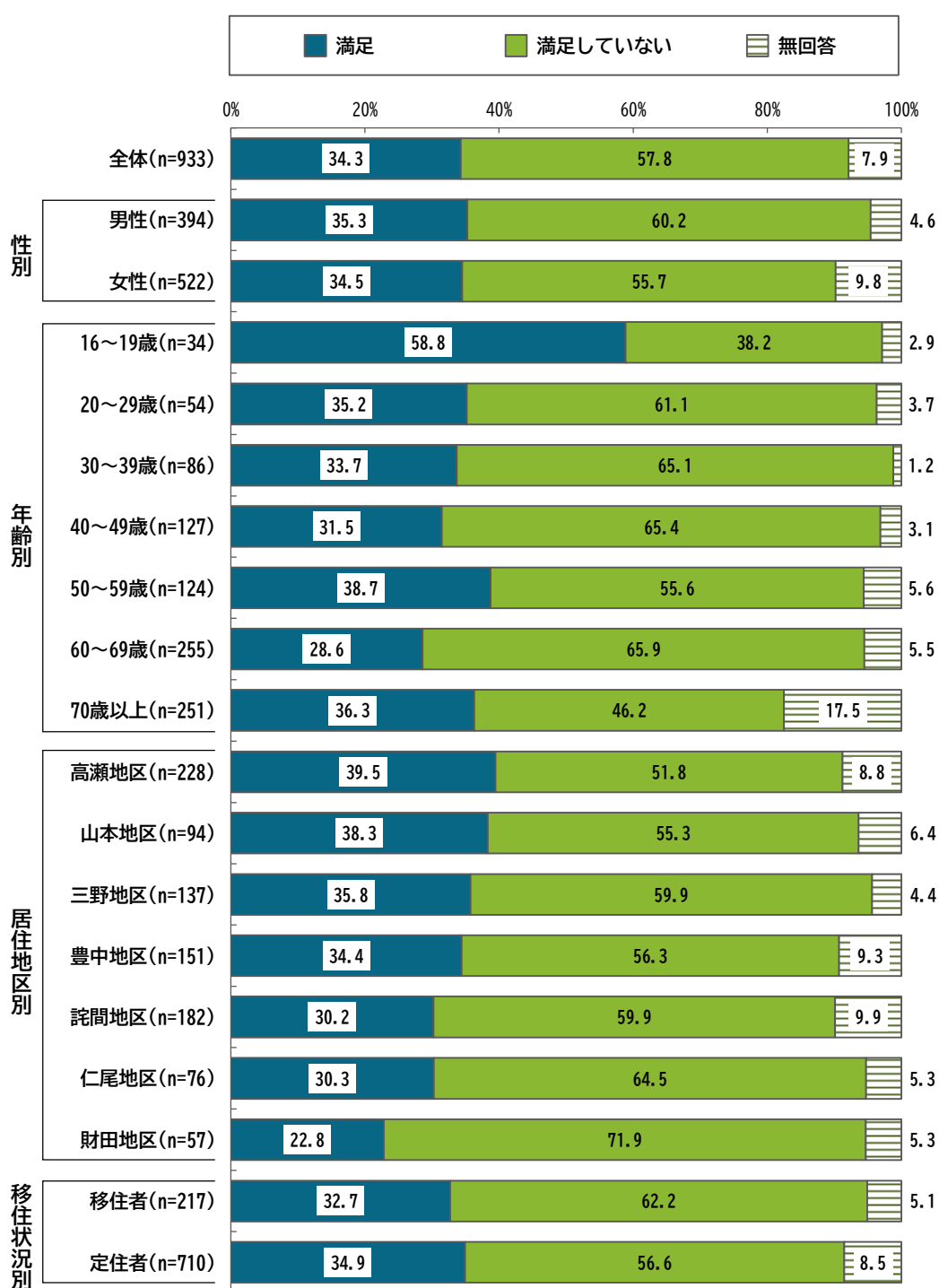


問6（34）子ども達の学校以外の教育環境に満足していますか。

● 子ども達自身は学校以外の教育環境に満足している割合が高い。

学校以外の教育環境に満足している割合は、年齢別でみると16～19歳が58.8%で最も高く、次いで50～59歳（38.7%）、70歳以上（36.3%）となっています。また、財田地区では22.8%と他の地区に比べてやや低くなっています。

図表 52 学校以外の教育環境に満足しているか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

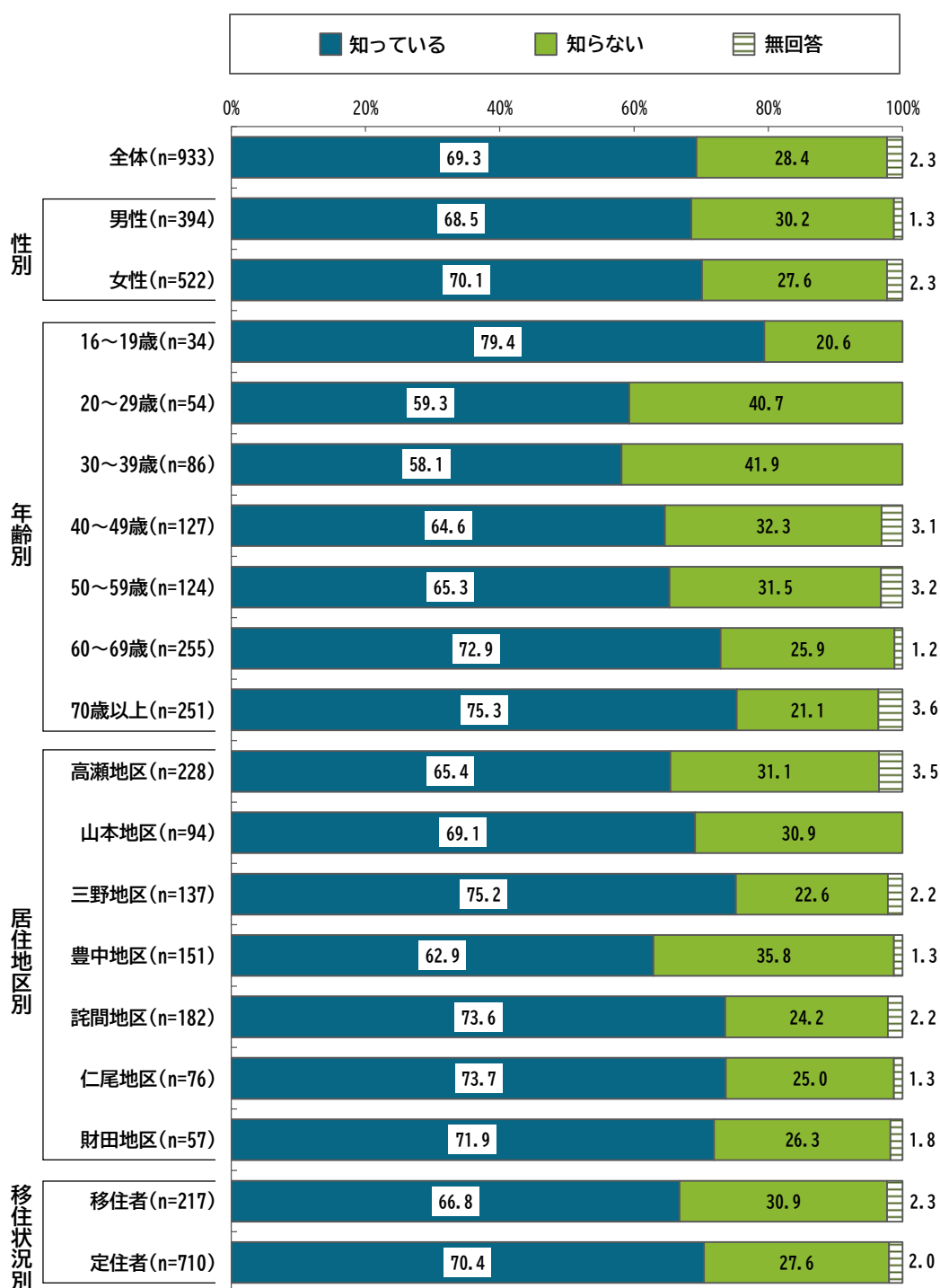


問6（35）災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

● 災害時の避難路・避難場所の認知度は16～19歳及び60歳以上で特に高い。

災害時の避難路・避難場所の認知度は、年齢別でみると16～19歳が79.4%で最も高く、次いで70歳以上（75.3%）、60～69歳（72.9%）となっています。また、三野地区、詫間地区、仁尾地区、財田地区で7割を超えています。

図表 53 災害時の避難路・避難場所を知っているか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

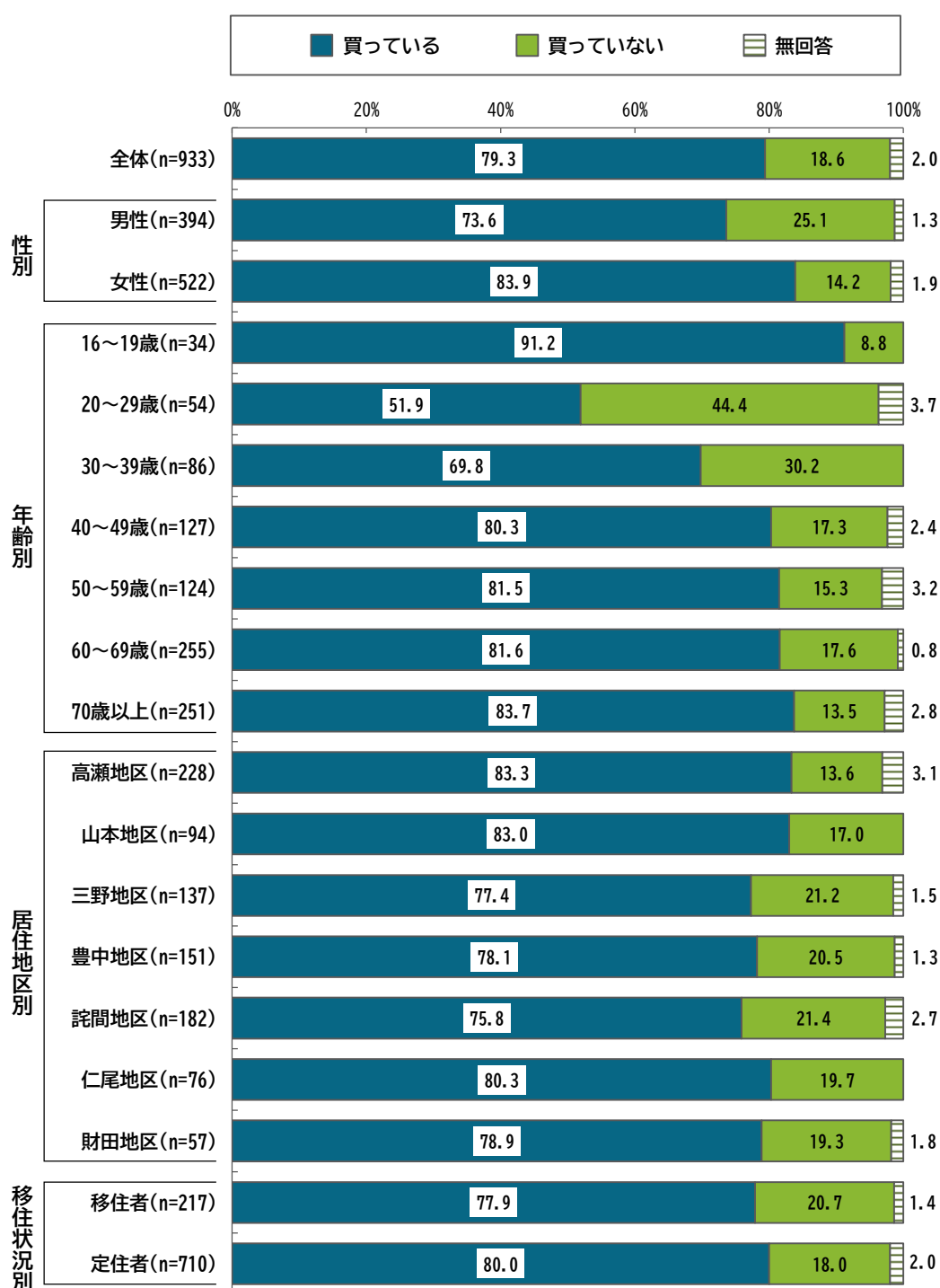


問6（36）地元や市内でとれた農水産物を買っていますか。

● 地元の農水産物を買っている割合は16～19歳が高く9割を超える。

地元や市内でとれた農水産物を買っている割合は、年齢別でみると16～19歳が91.2%で最も高く、40歳以上でも8割を超えていますが、20～39歳では他の年代に比べてやや低くなっています。また、女性が83.9%で男性を上回っています。

図表 54 地元や市内でとれた農水産物を買っているか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

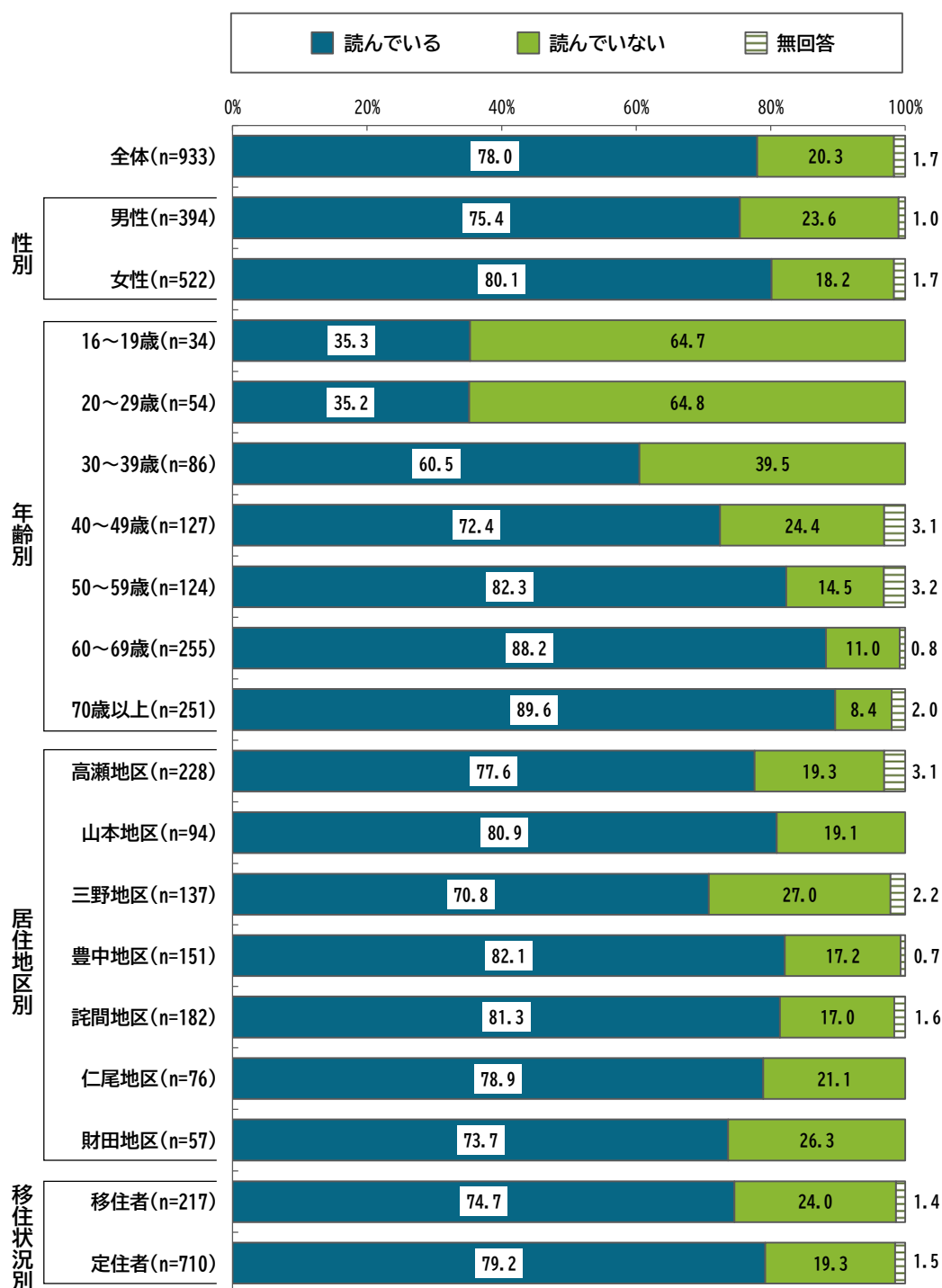


問6（37）「広報みとよ」を読んでいますか。

● 「広報みとよ」を読んでいる割合は30歳を境に差がある。

「広報みとよ」を読んでいる割合は、16～29歳では4割以下ですが、30～39歳で60.5%となっており差がみられます。また、30歳以降年代が上がるにつれて増加しており、70歳以上では89.6%となっています。

図表 55 「広報みとよ」を読んでいるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

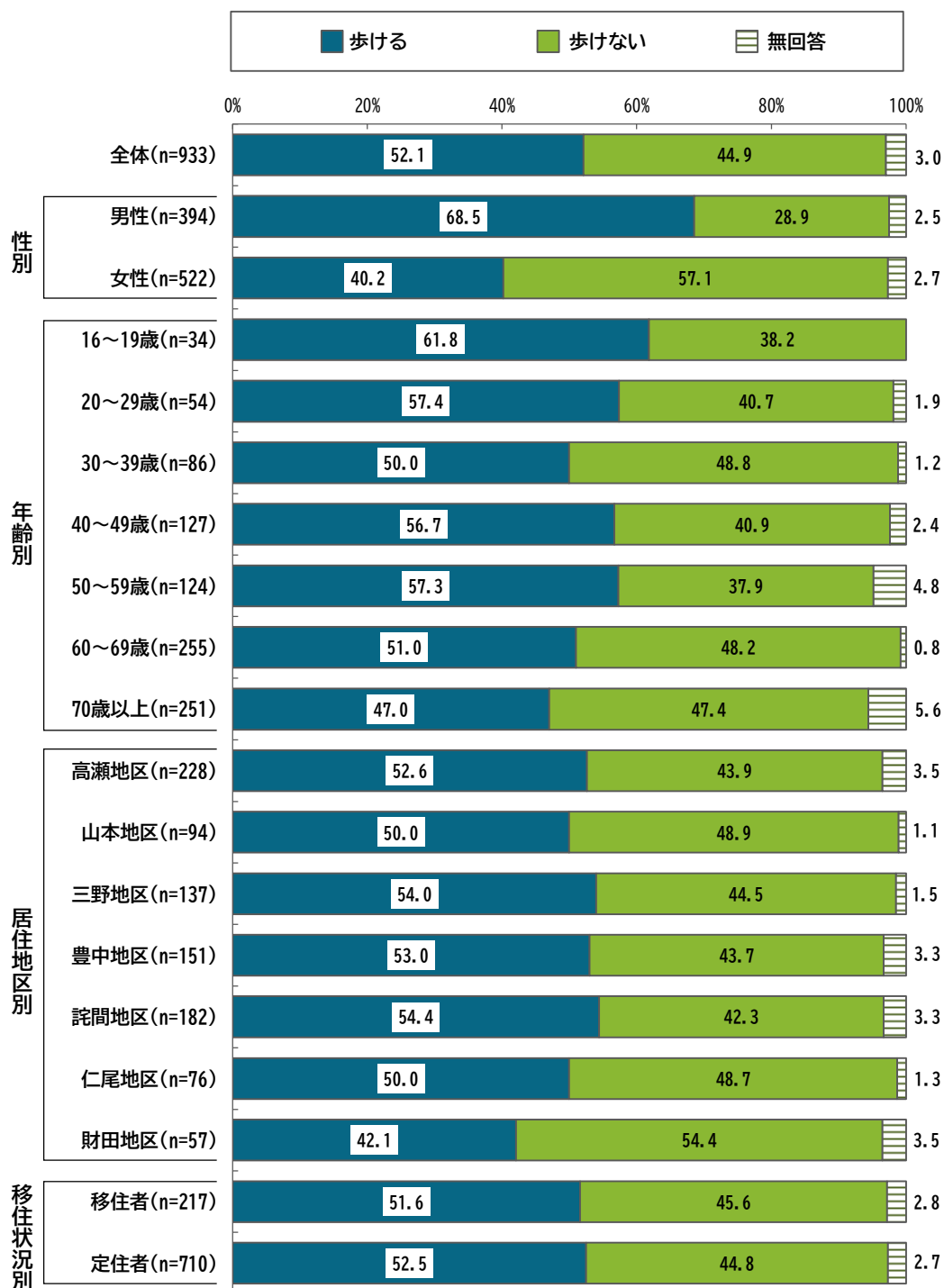


問6（38）夜9時以降に住んでいる地域を安心して歩けますか。

● 夜間の外出に対する安心度は、男女間で顕著な差がみられる。

夜9時以降に住んでいる地域を安心して歩ける割合は、男性が68.5%に対し女性が40.2%となっており、差がみられます。また、年齢別でみると16～19歳が61.8で最も高くなっています。

図表 56 夜9時以降に地域を安心して歩けるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

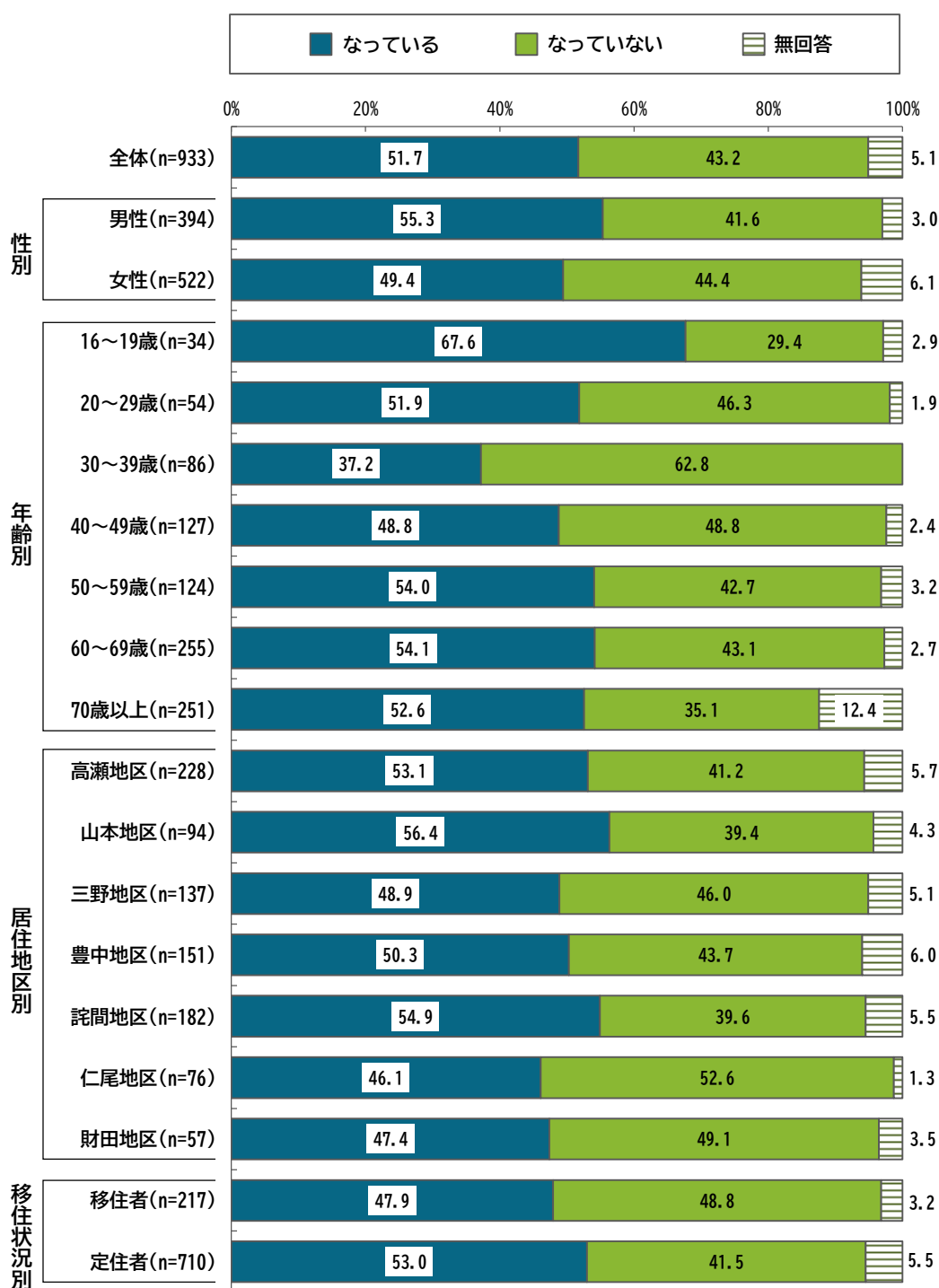


問6（39）仕事（又は勉強）と生活のバランスが自分の希望通りになっていますか。

● 仕事（又は勉強）と生活のバランスが希望通りになっている割合は16～19歳が高い。

仕事（又は勉強）と生活のバランスが希望通りになっている割合は、年齢別でみると16～19歳が67.6%で最も高くなっています。一方、30～39歳では37.2%と他の年代と比べてやや低くなっています。

図表 57 仕事と生活のバランスが希望通りか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

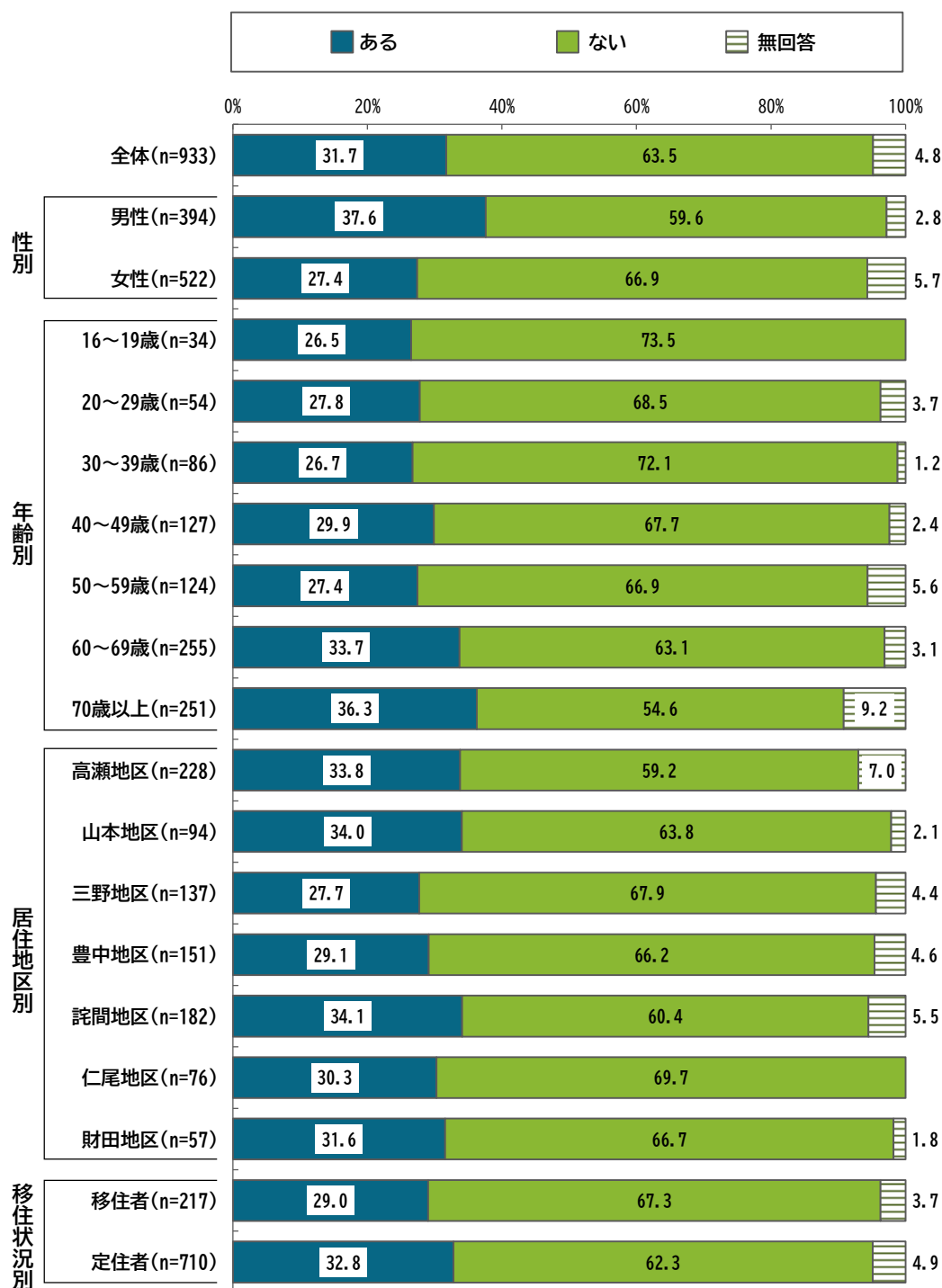


問6（40）地域に自分の活躍の場がありますか。

● 自分の活躍の場があると思う割合は男性のほうが高い。

自分の活躍の場があると思う割合は、男性が 37.6%で女性を上回っています。また、定住者が 32.8%で移住者を上回っています。

図表 58 地域に自分の活躍の場があるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

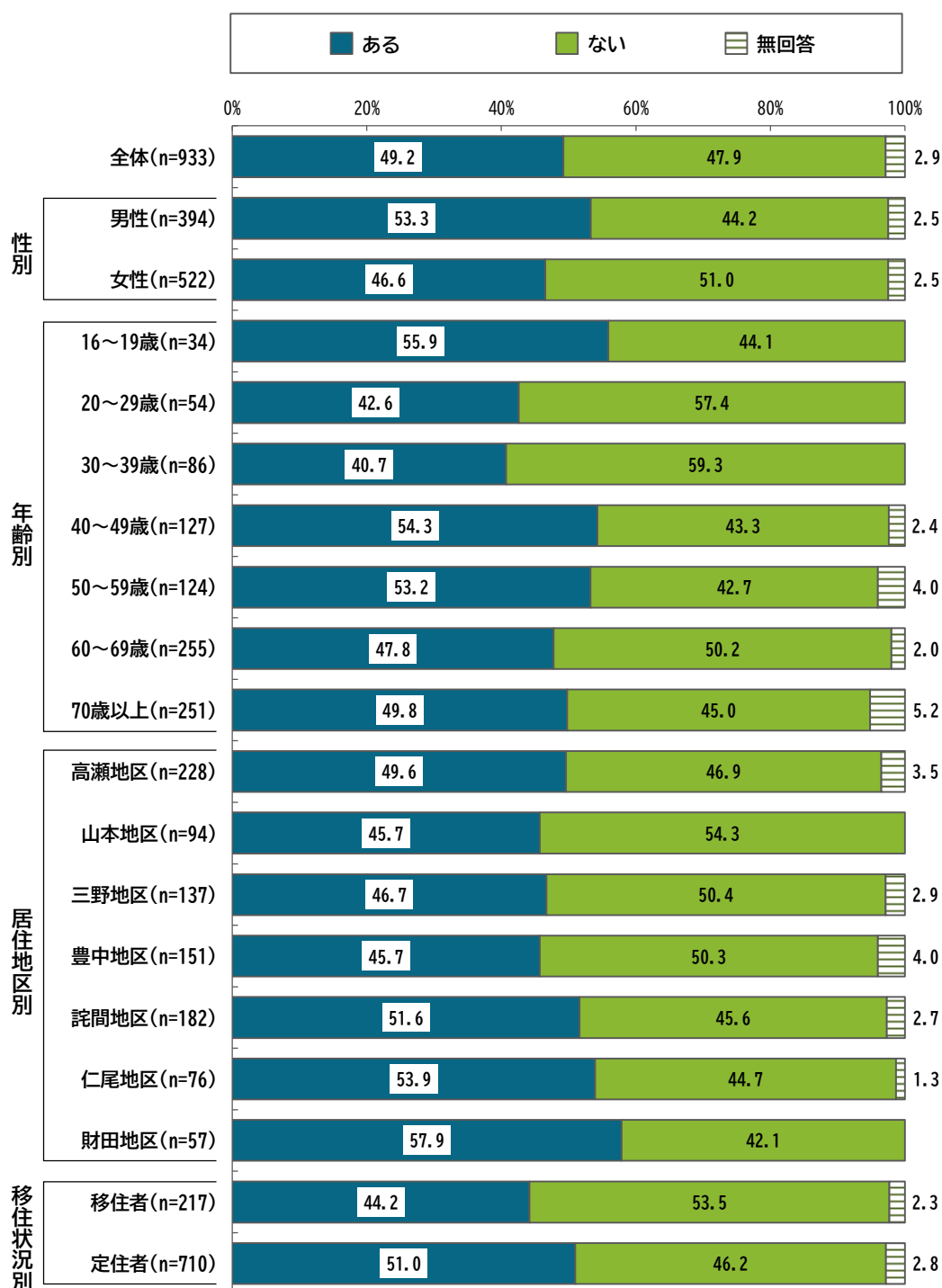


問6（４１）地域内の異なる世代の人と付き合いがありますか。

● 16～19 歳、40～59 歳では半数以上が異なる世代との付き合いがある。

地域内の異なる世代の人と付き合いがある割合は、年齢別でみると 16～19 歳が 55.9%で最も高く、次いで 40～49 歳（54.3%）、50～59 歳（53.2%）となっています。また、詫間地区、仁尾地区、財田地区では半数以上を占めています。

図表 59 地域内の異なる世代の人との付き合い（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

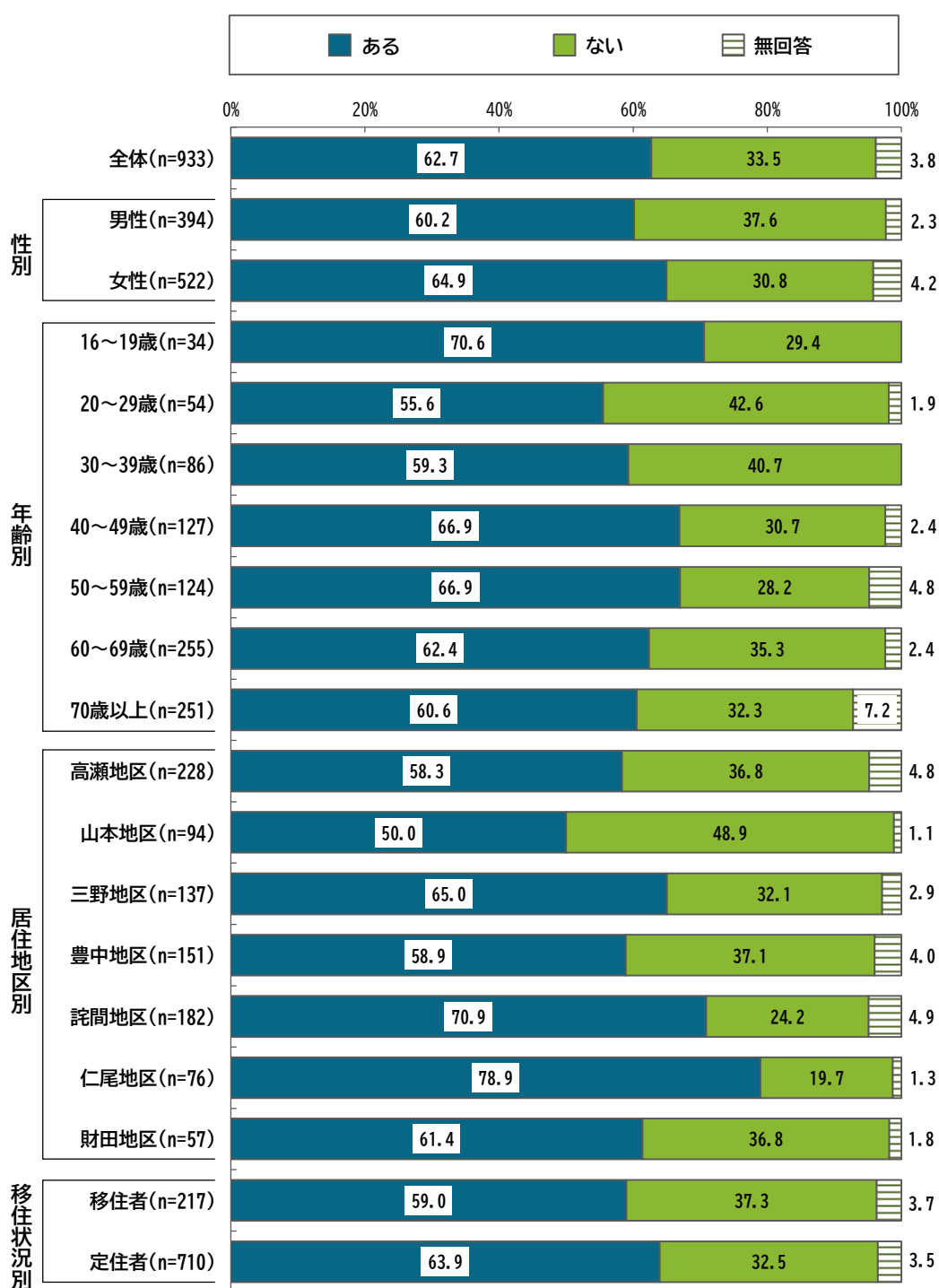


問6（４２）自慢したい地域の風景や名所がありますか。

● 自慢したい地域の風景や名所がある割合は、仁尾地区が特に高い。

自慢したい地域の風景や名所がある割合は、地区別でみると仁尾地区が78.9%で最も高く、次いで詫間地区(70.9%)、三野地区(65.0%)となっています。また、年齢別でみると16～19歳が70.6%で最も高くなっています。

図表 60 自慢したい地域の風景や名所（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



4 SDGsに関する取組みについて

(1) SDGsの認知度

問7 あなたはSDGsという言葉を知っていますか。

● 「聞いたことがある」が78.5%、「聞いたことがない」が19.8%。

SDGsという言葉を知っているかどうかを見ると、「聞いたことがある」と答えた人が78.5%、「聞いたことがない」と答えた人が19.8%となっています。

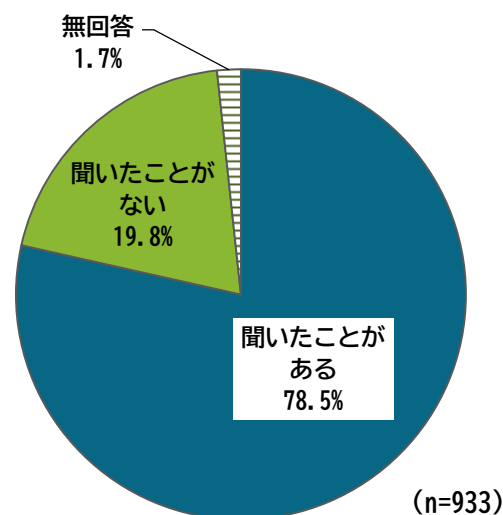
属性別で「聞いたことがある」を見ると、性別では、男性が83.0%、女性が75.5%となっています。

年齢別では、16～19歳が97.1%で最も高く、次いで40～49歳(92.1%)、30～39歳が(91.9%)と続いています。

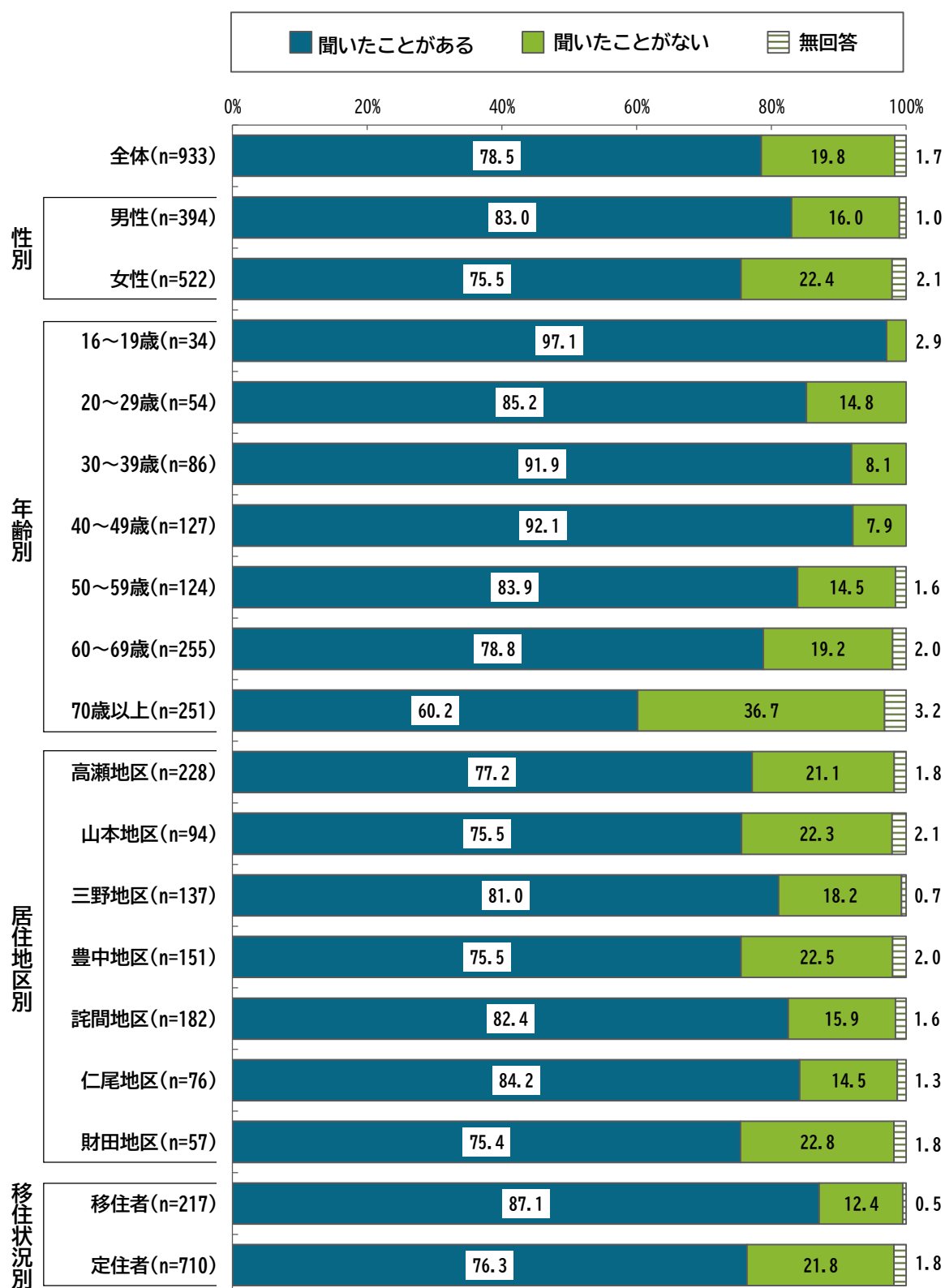
居住地区別では、仁尾地区が84.2%で最も高く、次いで詫間地区(82.4%)、三野地区(81.0%)と続いています。

移住状況別では、移住者が87.1%で定住者を上回っています。

図表 61 SDGsという言葉を知っているかどうか(全体)



図表 62 SDGsという言葉聞いたことがあるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(2) SDGsに関する知識について

【問7で「聞いたことがある」と回答した方のみ】

問8-1 SDGsに関する知識についてあてはまるものを全て選んで下さい。【複数回答】

● 「SDGsが世界共通のゴールであることを知っている」人が最も多い。

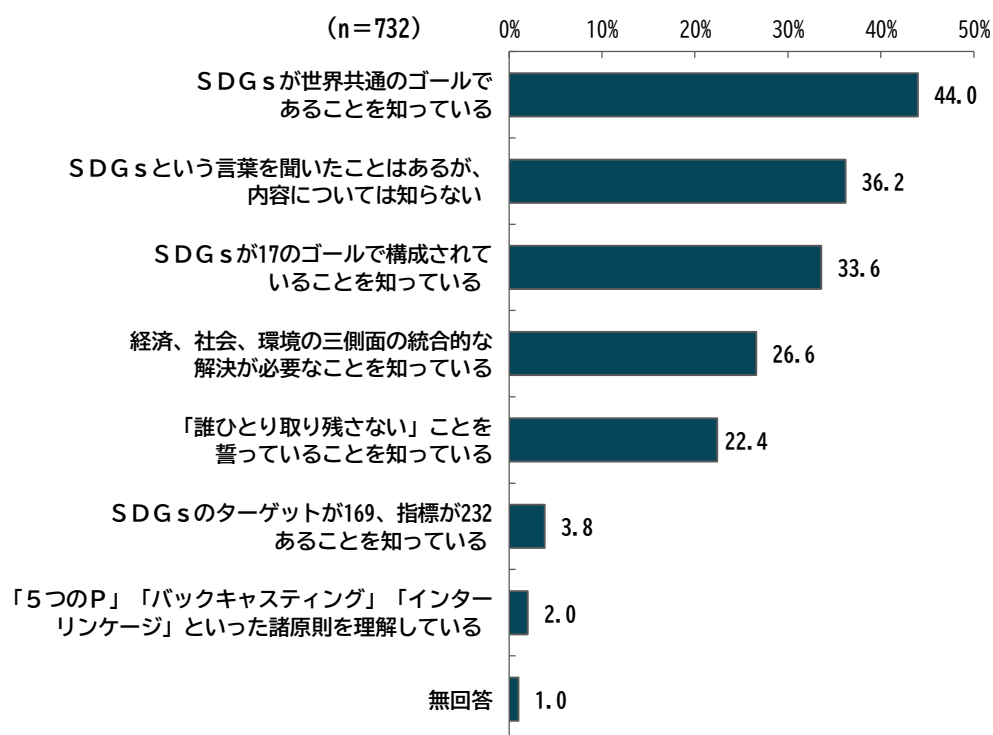
問7で「聞いたことがある」と回答した人に、SDGsに関する知識について知っているものをたずねたところ、「SDGsが世界共通のゴールであることを知っている」が44.0%で最も多く、次いで「SDGsという言葉聞いたことはあるが、内容については知らない」(36.2%)、「SDGsが17のゴールで構成されていることを知っている」(33.6%)、「経済、社会、環境の三側面の総合的な解決が必要なことを知っている」(26.6%)、「『誰ひとり取り残さない』ことを誓っていることを知っている」(22.4%)と続いています。

属性別にみると、性別では、第2位と第3位に違いがみられます。

年齢別では、30～39歳及び50～59歳で「SDGsという言葉聞いたことはあるが、内容については知らない」が第1位となっています。

居住地区別では、山本地区、仁尾地区で「SDGsという言葉聞いたことはあるが、内容については知らない」が第1位となっています。

図表 63 SDGsに関して知っていること（全体／複数回答）



図表 64 SDG s に関して知っていること
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=732)		SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 44.0	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 36.2	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 33.6
性別	男性(n=327)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 49.5	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 39.1	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 33.6
	女性(n=394)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 39.3	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 38.6	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 29.2
年齢別	16～19歳(n=33)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 72.7	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 66.7	経済、社会、環境の三側面の統合的な解決が必要なことを知っている 36.4
	20～29歳(n=46)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 45.7	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 43.5	経済、社会、環境の三側面の統合的な解決が必要なことを知っている 30.4
	30～39歳(n=79)	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 41.8	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 40.5	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 34.2
	40～49歳(n=117)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 43.6	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 37.6	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 33.3
	50～59歳(n=104)	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 41.3	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 37.5	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 36.5
	60～69歳(n=201)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 41.8	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 39.3	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 33.3
	70歳以上(n=151)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 47.0	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 33.8	経済、社会、環境の三側面の統合的な解決が必要なことを知っている 27.2
居住地区別	高瀬地区(n=176)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 45.5	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 35.2	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている／経済、社会、環境の三側面の統合的な解決が必要なことを知っている 33.5
	山本地区(n=71)	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 39.4	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 36.6	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 35.2
	三野地区(n=111)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 45.9	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 38.7	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 32.4
	豊中地区(n=114)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 44.7	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 35.1	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 29.8
	詫間地区(n=150)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 46.0	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 35.3	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 34.7
	仁尾地区(n=64)	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 45.3	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 37.5	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 29.7
	財田地区(n=43)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 51.2	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 34.9	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 30.2
移住状況別	移住者(n=189)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 44.4	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 37.0	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 34.4
	定住者(n=542)	SDG s が世界共通のゴールであることを知っている 43.9	SDG s という言葉を聞いたことはあるが、内容については知らない 35.8	SDG s が17のゴールで構成されていることを知っている 33.4

(3) SDGsに関する情報について

【問7で「聞いたことがある」と回答した方のみ】

問8-2 SDGsについてどのような媒体から情報を得ていますか。【複数回答】

● 情報媒体として最も多いのは「テレビ番組」。

問7で「聞いたことがある」と回答した人に、SDGsについてどのような媒体から情報を得ているかをたずねたところ、「テレビ番組」が52.9%で最も多く、次いで「インターネット上での口コミや評判（SNSも含む）」(32.0%)、「新聞記事」(26.1%)、「広告（チラシ、CM含む）」(25.8%)、「職場や学校・地域活動」(18.7%)と続いています。

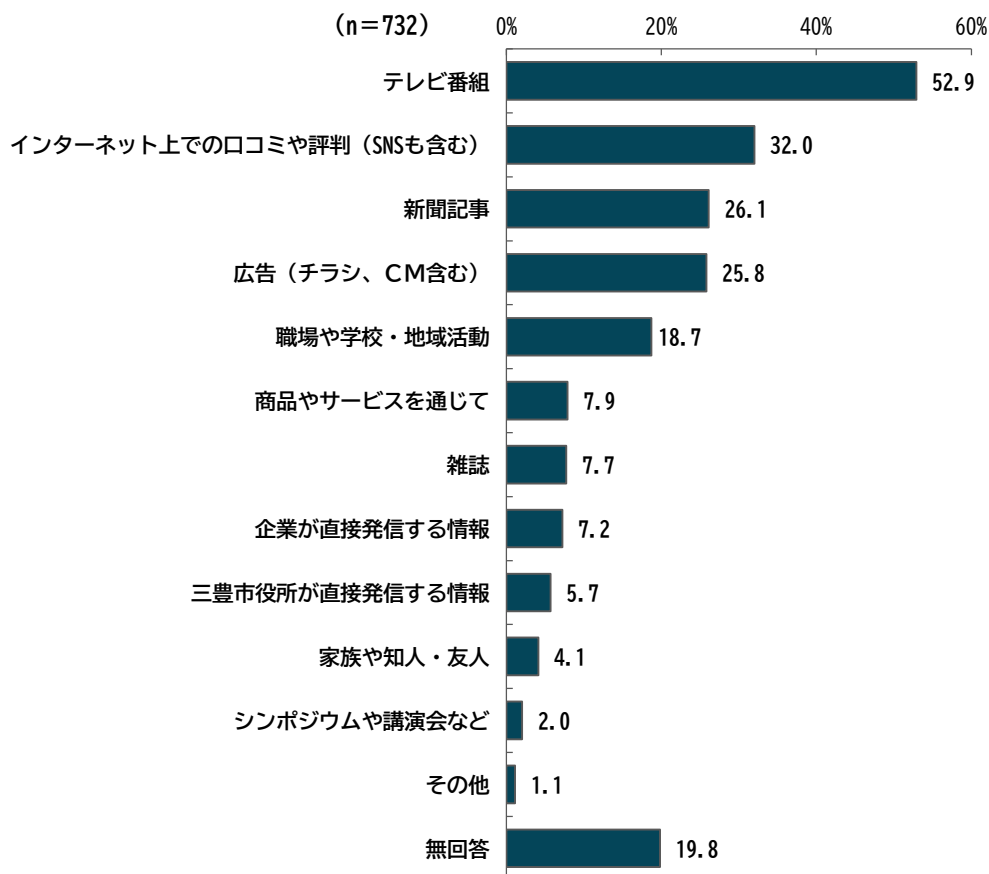
属性別にみると、性別では、男性は「新聞記事」、女性は「広告（チラシ、CM含む）」が上位に挙がっています。

年齢別では、16～19歳は「職場や学校・地域活動」、20～29歳は「インターネット上での口コミや評判（SNSも含む）」が第1位となっています。

居住地区別では、山本地区は第2位が「広告（チラシ、CM含む）」となっています。

移住状況別では、第3位が移住者は「広告（チラシ、CM含む）」、定住者は「新聞記事」となっています。

図表 65 SDGsについての情報源（全体／複数回答）



図表 66 SDGs についての情報源
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=732)		テレビ番組 52.9	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 32.0	新聞記事 26.1
性別	男性(n=327)	テレビ番組 51.7	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 39.4	新聞記事 29.4
	女性(n=394)	テレビ番組 53.6	広告 (チラシ、CM含む) 28.2	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 25.6
年齢別	16～19歳(n=33)	職場や学校・地域活動 60.6	インターネット上での口コミや評判 (SNSも含む)／テレビ番組 45.5	
	20～29歳(n=46)	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 52.2	テレビ番組 47.8	職場や学校・地域活動 37.0
	30～39歳(n=79)	テレビ番組 51.9	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 43.0	広告 (チラシ、CM含む) 27.8
	40～49歳(n=117)	テレビ番組 43.6	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 32.5	職場や学校・地域活動 23.9
	50～59歳(n=104)	テレビ番組 59.6	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 31.7	広告 (チラシ、CM含む) 23.1
	60～69歳(n=201)	テレビ番組 57.7	広告 (チラシ、CM含む) 34.3	新聞記事 31.8
	70歳以上(n=151)	テレビ番組 52.3	新聞記事 45.7	広告 (チラシ、CM含む) 22.5
	高瀬地区(n=176)	テレビ番組 54.0	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 33.5	新聞記事 27.8
	山本地区(n=71)	テレビ番組 45.1	広告 (チラシ、CM含む) 31.0	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 21.1
	三野地区(n=111)	テレビ番組 55.9	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 36.0	新聞記事 30.6
	豊中地区(n=114)	テレビ番組 53.5	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 28.1	広告 (チラシ、CM含む)／ 新聞記事 24.6
	詫間地区(n=150)	テレビ番組 52.7	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 33.3	新聞記事 26.0
居住地区別	仁尾地区(n=64)	テレビ番組 51.6	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 31.3	広告 (チラシ、CM含む) 26.6
	財田地区(n=43)	テレビ番組 53.5	インターネット上での口コミや評判 (SNSも含む)／広告 (チ ラシ、CM含む) 41.9	
	移住者(n=189)	テレビ番組 51.9	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 38.1	広告 (チラシ、CM含む) 27.5
	定住者(n=542)	テレビ番組 53.1	インターネット上での口コミ や評判 (SNSも含む) 29.9	新聞記事 29.0

(4) SDGs についての行動について

【問7で「聞いたことがある」と回答した方のみ】

問9 SDGs に関して、あなたの行動の状況を教えてください。

● “何らかの行動をしている” 人は 25.4%

問7で「聞いたことがある」と回答した人に、SDGs についてどのような行動を取っているかをたずねたところ、「SDGs を意識しているが、特に行動はしていない」(37.6%) が最も多く、次いで「SDGs を意識しておらず、特に行動もしていない」(36.1%) と続いており、これらをあわせた“何も行動はしていない”という人は 73.7% となっています。一方、「SDGs を意識し、行動にも気を付けるようにしている」(20.9%)、「日ごろからSDGs を意識した行動をしている」(4.5%) をあわせた“何らかの行動をしている”人は 25.4% となっています。

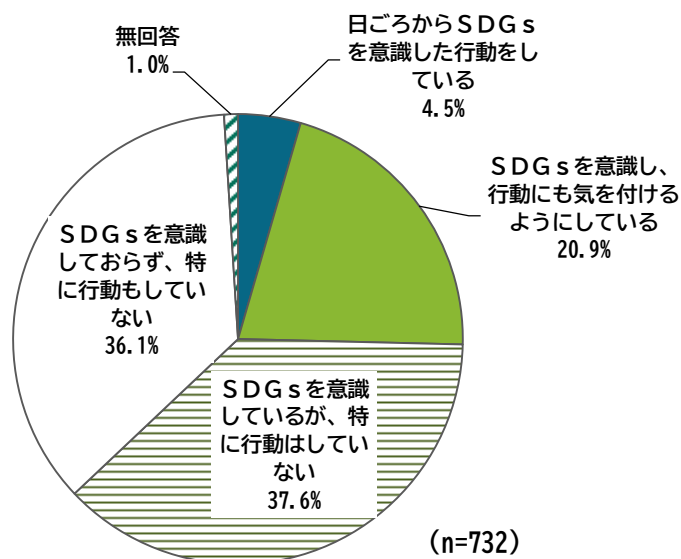
属性別に“何らかの行動をしている”割合をみると、性別では、男性が 20.2%、女性が 29.5% となっています。

年齢別では、16～19 歳が 39.4% で最も高く、次いで 20～29 歳 (34.7%)、50～59 歳 (27.9%) と続いています。

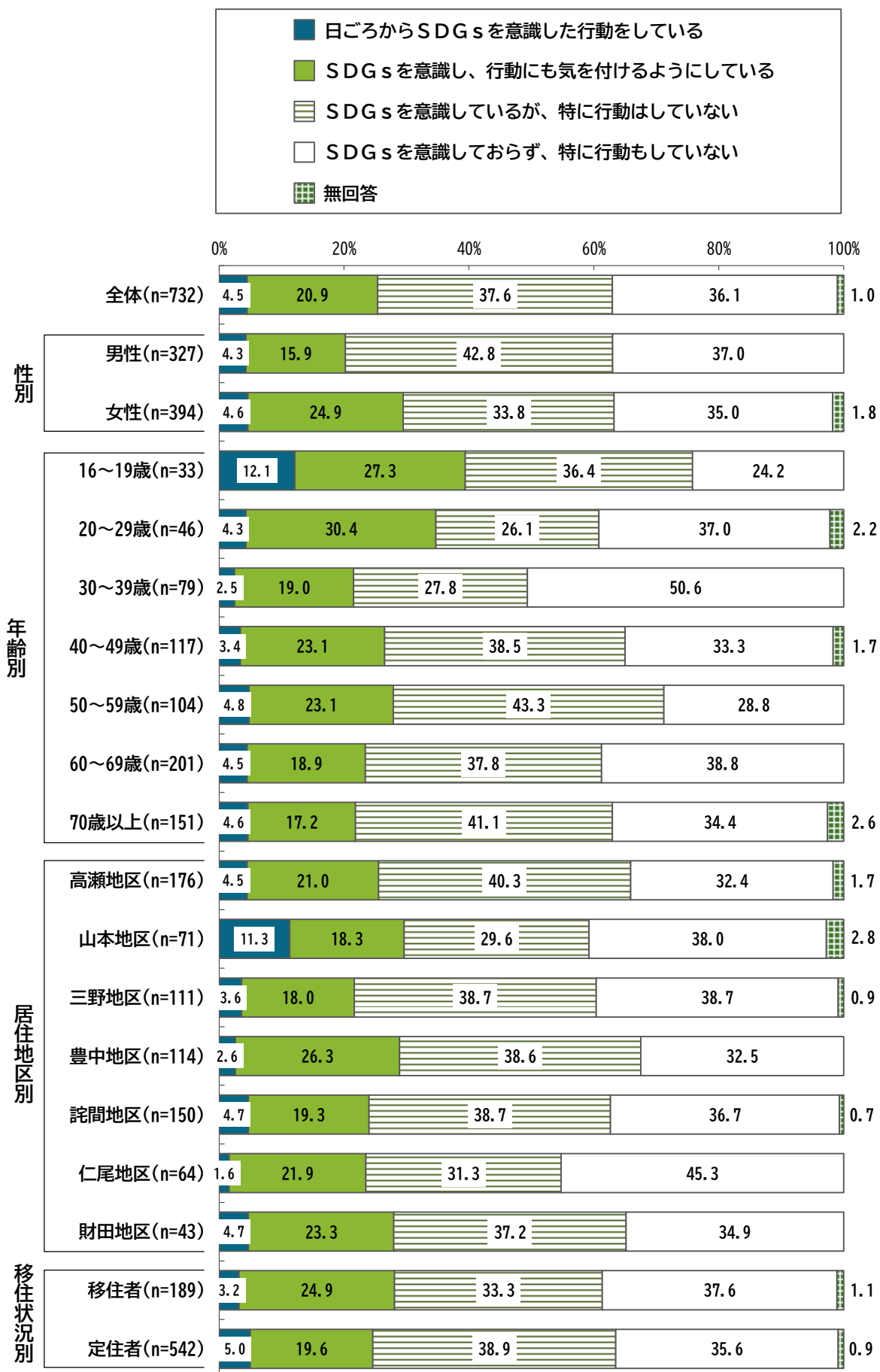
居住地区別では、山本地区が 29.6% で最も高く、「日ごろからSDGs を意識した行動をしている」割合も他の地区に比べて高くなっています。

移住状況別では、移住者が 28.1% で定住者を上回っています。

図表 67 SDGs についての行動状況 (全体)



図表 68 SDGs についての行動状況（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(5) SDGsのゴールについて

問10-1 SDGsは以下のゴールから構成されています。あなたが関心のあるゴールを教えてください。【複数回答】

● 最も関心のあるゴールは「すべての人に健康と福祉を」。

SDGsのゴールで関心のあるものをたずねたところ、「すべての人に健康と福祉を」が46.6%で最も多く、次いで「住み続けられるまちづくりを」(42.8%)、「貧困をなくそう」(31.8%)、「海の豊かさを守ろう」(31.1%)、「平和と公正をすべての人に」(28.1%)と続いています。

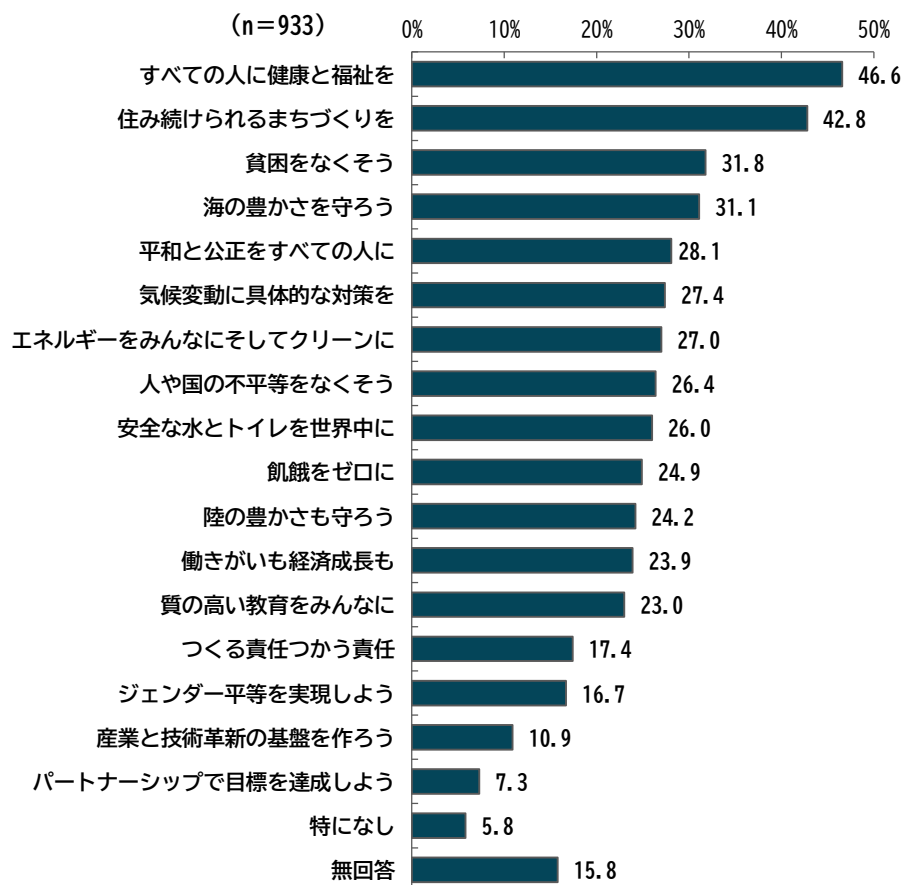
属性別にみると、性別では、男性で「海の豊かさを守ろう」、女性で「貧困をなくそう」が上位に挙がっています。

年齢別では、16～19歳で「海の豊かさを守ろう」が第1位となっています。また、20～69歳では「すべての人に健康と福祉を」、70歳以上では「住み続けられるまちづくりを」がそれぞれ第1位となっています。

居住地区別では、豊中地区で「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「平和と公正をすべての人に」が第3位となっています。

移住状況別では、第3位が移住者は「海の豊かさを守ろう」、定住者は「貧困をなくそう」となっています。

図表 69 SDGsのゴールで関心のあるもの（全体／複数回答）



図表 70 SDGsのゴールで関心のあるもの
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=933)		すべての人に健康と福祉を 46.6	住み続けられるまちづくりを 42.8	貧困をなくそう 31.8
性別	男性(n=394)	住み続けられるまちづくりを 40.9	すべての人に健康と福祉を 39.8	海の豊かさを守ろう 30.2
	女性(n=522)	すべての人に健康と福祉を 52.1	住み続けられるまちづくりを 44.6	貧困をなくそう 33.3
年齢別	16～19歳(n=34)	海の豊かさを守ろう 41.2	貧困をなくそう 38.2	住み続けられるまちづくりを 35.3
	20～29歳(n=54)	すべての人に健康と福祉を 53.7	質の高い教育をみんなに 42.6	貧困をなくそう／住み続けられるまちづくりを 40.7
	30～39歳(n=86)	すべての人に健康と福祉を 52.3	住み続けられるまちづくりを 50.0	海の豊かさを守ろう 43.0
	40～49歳(n=127)	すべての人に健康と福祉を 55.1	住み続けられるまちづくりを 45.7	海の豊かさを守ろう 44.1
	50～59歳(n=124)	すべての人に健康と福祉を 47.6	住み続けられるまちづくりを 43.5	貧困をなくそう 38.7
	60～69歳(n=255)	すべての人に健康と福祉を 52.2	住み続けられるまちづくりを 47.1	貧困をなくそう 32.5
	70歳以上(n=251)	住み続けられるまちづくりを 35.9	すべての人に健康と福祉を 35.1	気候変動に具体的な対策を 25.5
居住地区別	高瀬地区(n=228)	すべての人に健康と福祉を 46.5	住み続けられるまちづくりを 42.1	海の豊かさを守ろう 30.3
	山本地区(n=94)	すべての人に健康と福祉を 45.7	住み続けられるまちづくりを 43.6	貧困をなくそう 31.9
	三野地区(n=137)	すべての人に健康と福祉を 51.8	住み続けられるまちづくりを 46.7	貧困をなくそう 37.2
	豊中地区(n=151)	すべての人に健康と福祉を 45.7	住み続けられるまちづくりを 38.4	エネルギーをみんなにそしてクリーンに／平和と公正をすべての人に 30.5
	詫間地区(n=182)	すべての人に健康と福祉を 47.3	住み続けられるまちづくりを 44.5	海の豊かさを守ろう 40.1
	仁尾地区(n=76)	すべての人に健康と福祉を／住み続けられるまちづくりを 44.7	貧困をなくそう／海の豊かさを守ろう 39.5	
	財田地区(n=57)	すべての人に健康と福祉を 43.9	住み続けられるまちづくりを 42.1	貧困をなくそう 28.1
移住状況別	移住者(n=217)	すべての人に健康と福祉を 47.9	住み続けられるまちづくりを 45.2	海の豊かさを守ろう 40.1
	定住者(n=710)	すべての人に健康と福祉を 46.6	住み続けられるまちづくりを 42.4	貧困をなくそう 31.4

(6) 三豊市において重要だと思うゴール

問10-2 SDGsの17のゴールのうち、三豊市において特に重要であると思うものを教えてください。【複数回答】

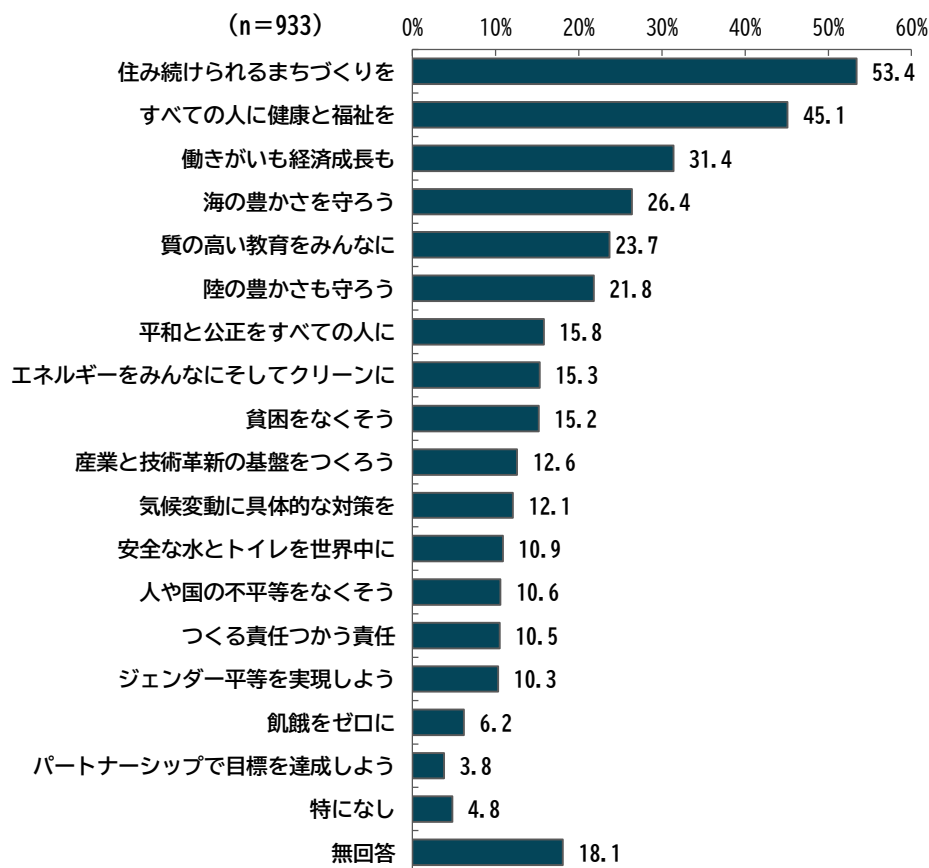
● 三豊市において特に重要だと思われるゴールは「住み続けられるまちづくりを」。

SDGsのゴールのうち、三豊市において特に重要であると思うものをたずねたところ、「住み続けられるまちづくりを」が53.4%で最も多く、次いで「すべての人に健康と福祉を」(45.1%)、「働きがいも経済成長も」(31.4%)、「海の豊かさを守ろう」(26.4%)、「質の高い教育をみんなに」(23.7%)と続いています。

属性別にみると、年齢別では、20～29歳で「すべての人に健康と福祉を」が第1位となっています。また、16～19歳及び30歳以上では「住み続けられるまちづくりを」が第1位となっています。

居住地区別では、詫間地区と仁尾地区で第3位が「海の豊かさを守ろう」となっています。

図表 71 三豊市において特に重要だと思うゴール（全体／複数回答）



図表 72 三豊市において特に重要だと思うゴール
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=933)		住み続けられるまちづくりを 53.4	すべての人に健康と福祉を 45.1	働きがいも経済成長も 31.4
性別	男性(n=394)	住み続けられるまちづくりを 50.0	すべての人に健康と福祉を 41.6	働きがいも経済成長も 29.7
	女性(n=522)	住み続けられるまちづくりを 56.7	すべての人に健康と福祉を 47.9	働きがいも経済成長も 32.2
年齢別	16～19歳(n=34)	住み続けられるまちづくりを 44.1	すべての人に健康と福祉を／海の豊かさを守ろう 35.3	
	20～29歳(n=54)	すべての人に健康と福祉を 46.3	住み続けられるまちづくりを 38.9	働きがいも経済成長も 35.2
	30～39歳(n=86)	住み続けられるまちづくりを 60.5	すべての人に健康と福祉を 47.7	働きがいも経済成長も 45.3
	40～49歳(n=127)	住み続けられるまちづくりを 65.4	すべての人に健康と福祉を 52.8	働きがいも経済成長も 38.6
	50～59歳(n=124)	住み続けられるまちづくりを 58.1	すべての人に健康と福祉を 46.8	働きがいも経済成長も 35.5
	60～69歳(n=255)	住み続けられるまちづくりを 59.2	すべての人に健康と福祉を 46.7	働きがいも経済成長も 32.5
	70歳以上(n=251)	住み続けられるまちづくりを 41.4	すべての人に健康と福祉を 39.4	海の豊かさを守ろう 19.5
	高瀬地区(n=228)	住み続けられるまちづくりを 53.5	すべての人に健康と福祉を 45.2	働きがいも経済成長も 31.1
	山本地区(n=94)	住み続けられるまちづくりを 59.6	すべての人に健康と福祉を 41.5	働きがいも経済成長も 29.8
	三野地区(n=137)	住み続けられるまちづくりを 56.2	すべての人に健康と福祉を 49.6	働きがいも経済成長も 35.0
	豊中地区(n=151)	住み続けられるまちづくりを 51.7	すべての人に健康と福祉を 47.7	働きがいも経済成長も 33.1
	詫間地区(n=182)	住み続けられるまちづくりを 54.4	すべての人に健康と福祉を 42.9	海の豊かさを守ろう 37.4
居住地区別	仁尾地区(n=76)	住み続けられるまちづくりを 51.3	すべての人に健康と福祉を 46.1	海の豊かさを守ろう 40.8
	財田地区(n=57)	住み続けられるまちづくりを 45.6	すべての人に健康と福祉を 42.1	働きがいも経済成長も 24.6
移住状況別	移住者(n=217)	住み続けられるまちづくりを 60.8	すべての人に健康と福祉を 45.6	働きがいも経済成長も 37.3
	定住者(n=710)	住み続けられるまちづくりを 51.5	すべての人に健康と福祉を 45.4	働きがいも経済成長も 29.7

(7) SDG s 未来都市の認知度

問 1 1 あなたは、三豊市が「SDG s 未来都市」に選ばれていることを知っていますか。

● 「SDG s 未来都市」に選ばれていることを知っているのは 12.2%。

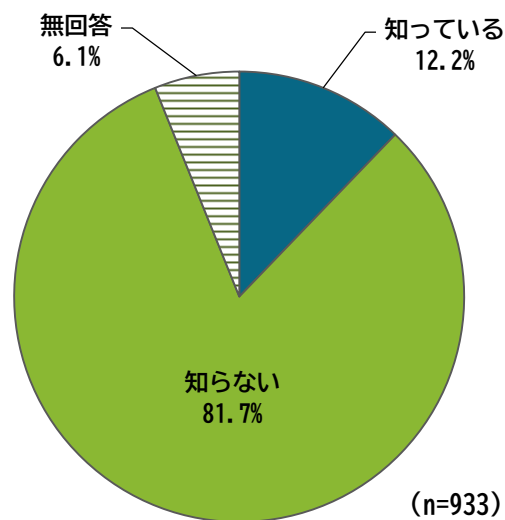
三豊市が「SDG s 未来都市」に選ばれていることを知っているかどうかをみると、「知っている」と答えた人が 12.2%、「知らない」と答えた人が 81.7%となっています。

属性別で「知っている」割合をみると、性別では、男性が 11.2%、女性が 12.8%となっています。

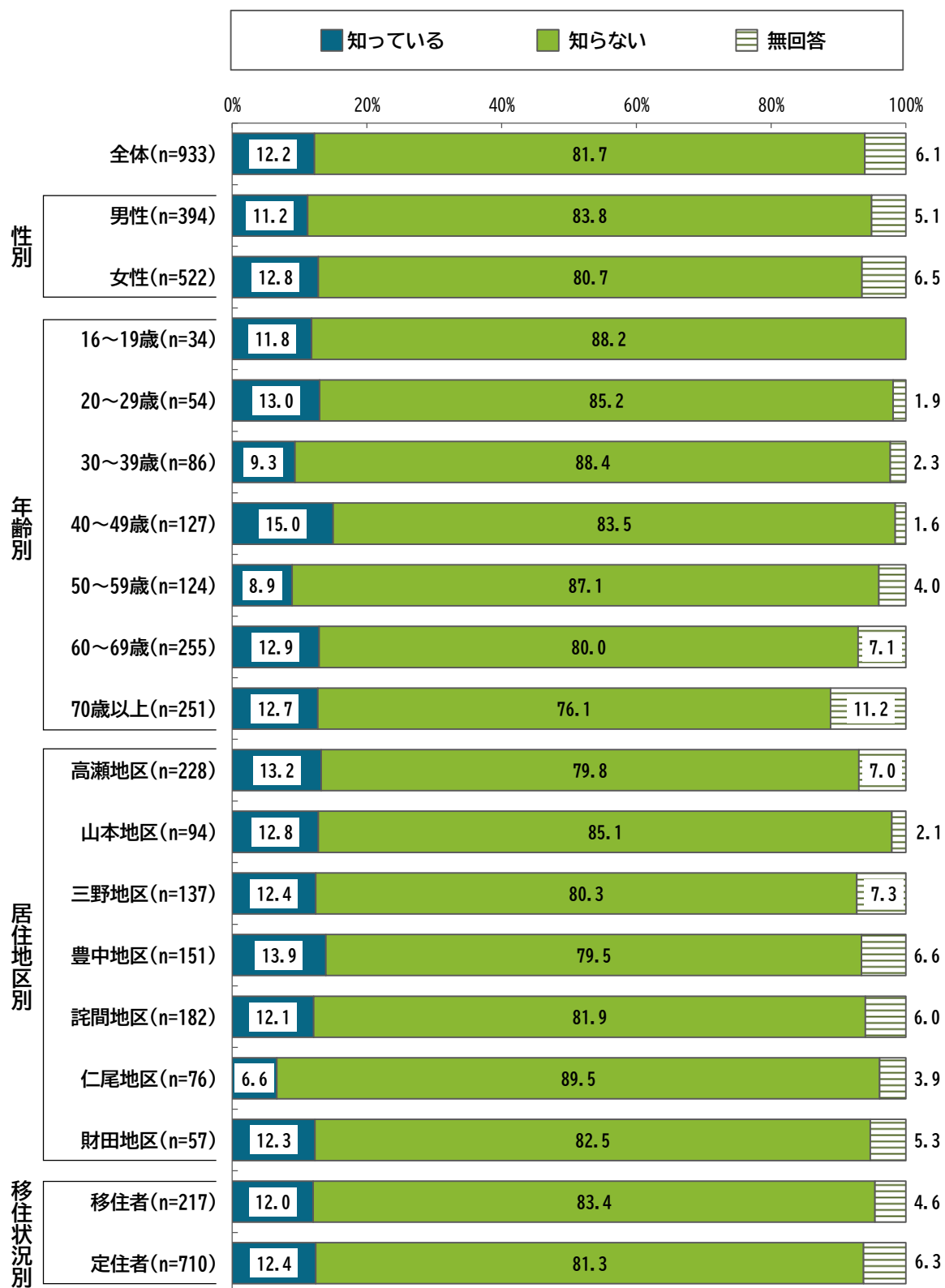
年齢別では、40～49 歳が 15.0%で最も高く、次いで 20～29 歳 (13.0%)、60～69 歳が (12.9%)と続いています。

居住地区別では、豊中地区が 13.9%で最も高く、次いで高瀬地区 (13.2%)、山本地区 (12.8%)と続いています。また、仁尾地区では 6.6%と他の地区の半分ほどの認知度となっています。

図表 73 三豊市が「SDG s 未来都市」に選ばれていることを知っているか (全体)



図表 74 三豊市が「SDGs 未来都市」に選ばれていることを知っているか
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況)



5 地球温暖化対策について

(1) 脱炭素化や気候変動問題への関心度

問 1 2 脱炭素化や気候変動問題への関心度について。

● 脱炭素化や気候変動問題に“関心がある”人の割合は 69.7%。

脱炭素化や気候変動問題への関心度についてみると、「どちらかというに関心がある」が 52.8%で最も高く、「とても関心がある」(16.9%)をあわせた“関心がある”という人は 69.7%となっています。一方、「あまり関心がない」(24.9%)と「関心がない」(3.4%)をあわせた“関心がない”人は 28.3%となっています。

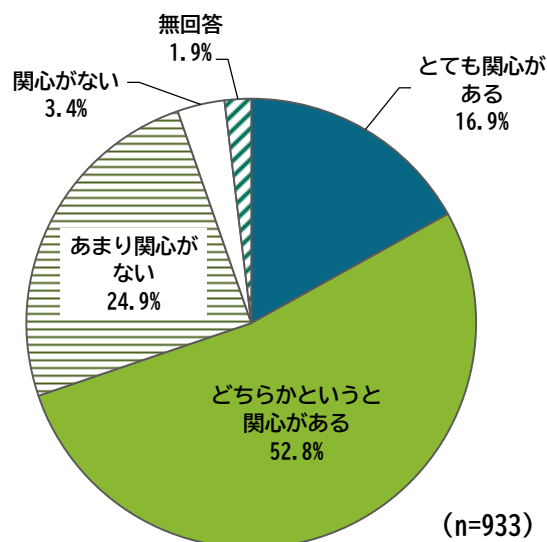
属性別に“関心がある”割合をみると、性別では、男性が 73.4%、女性が 67.0%となっています。

年齢別では、70 歳以上が 75.7%で最も高く、次いで 50～59 歳 (73.4%)、60～69 歳 (72.6%)と続いており、年齢の高い世代のほうが高い傾向がみられます。

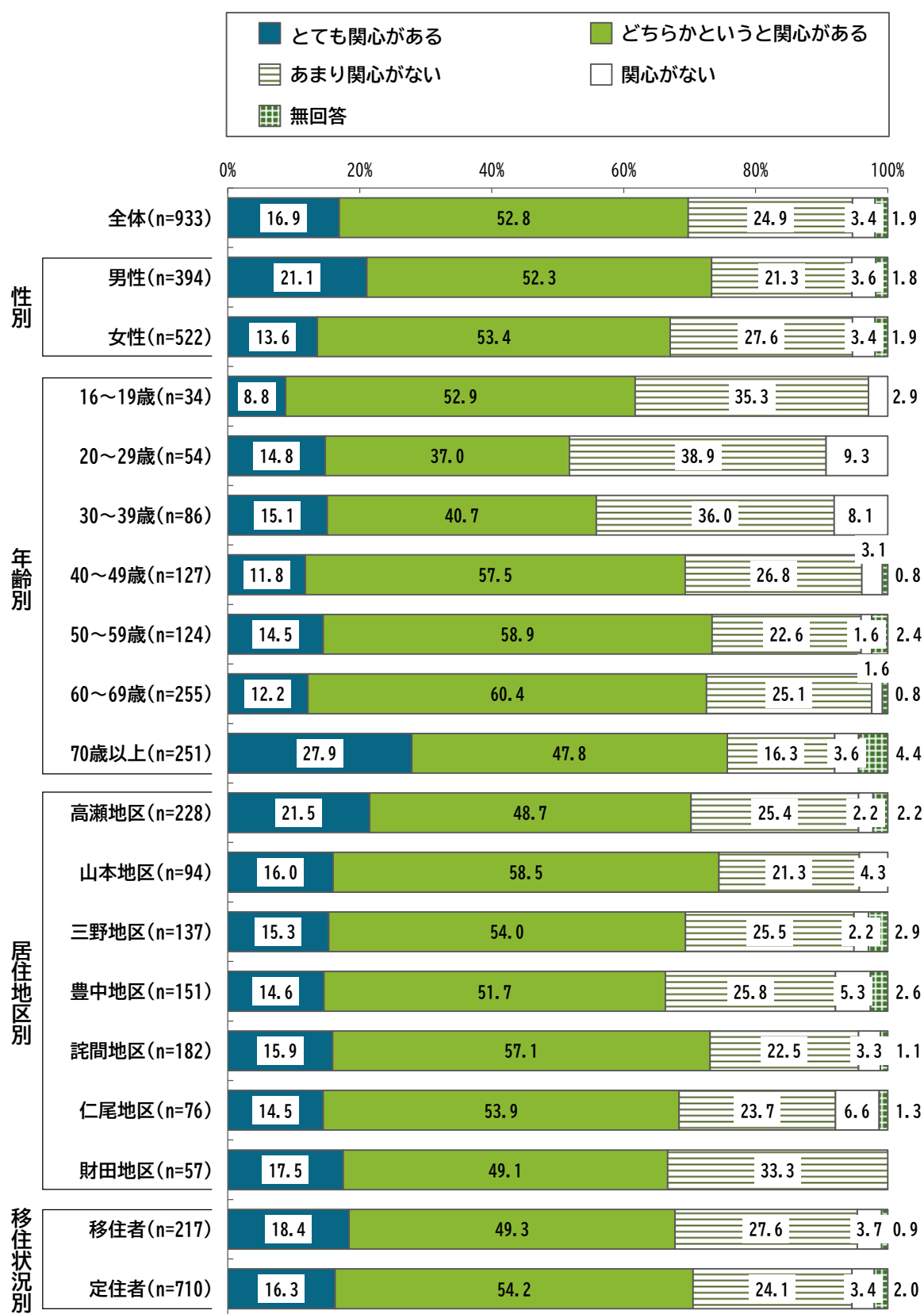
居住地区別では、山本地区が 74.5%で最も高く、次いで詫間地区 (73.0%)、高瀬地区 (70.2%)と続いています。

移住状況別では、定住者が 70.5%で移住者を上回っています。

図表 75 脱炭素化や気候変動問題への関心度 (全体)



図表 76 脱炭素化や気候変動問題への関心度（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(2) 脱炭素対策に関する取組み状況等について

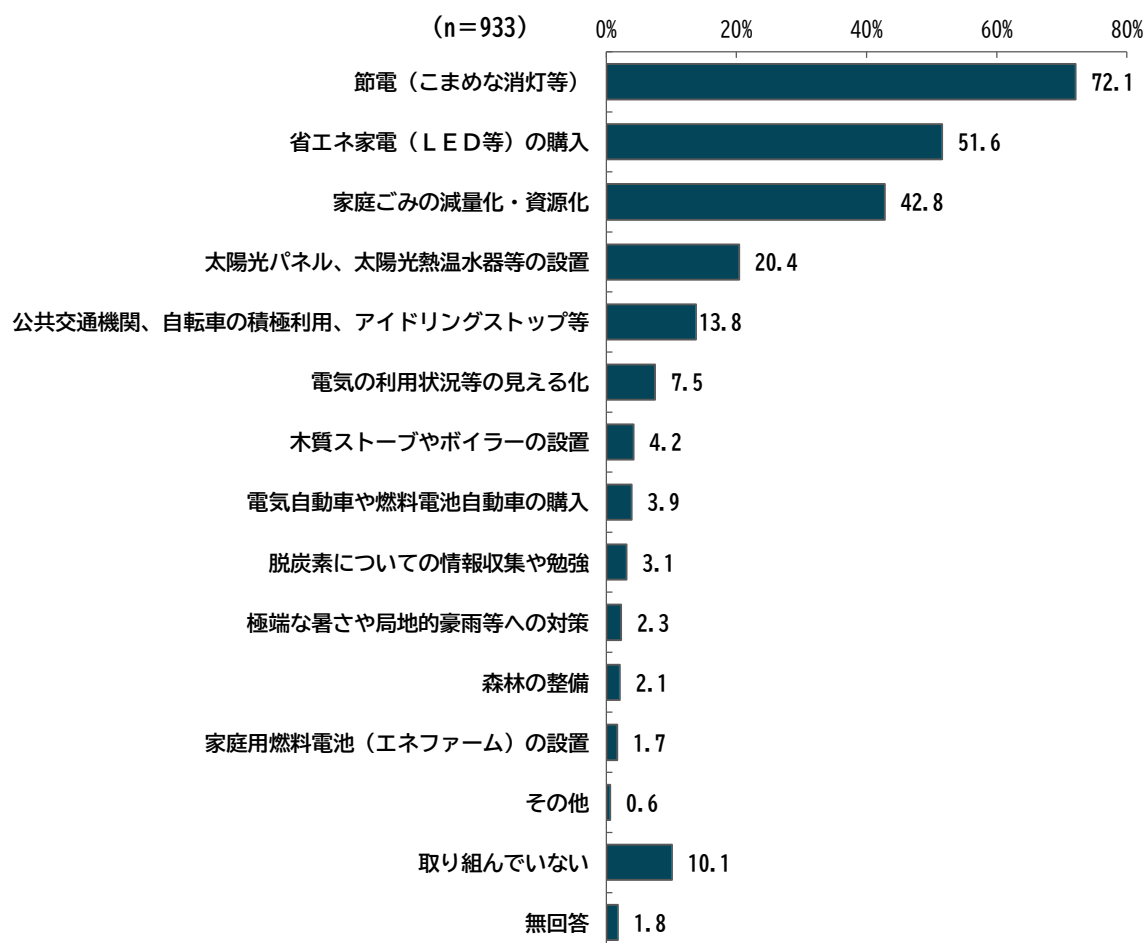
問13-1 現在取り組んでいる活動について教えてください。【複数回答】

● 「節電（こまめな消灯等）」に取り組んでいる人が最も多い。

脱炭素化や気候変動問題に関して現在取り組んでいる活動についてたずねたところ、「節電（こまめな消灯等）」が72.1%で最も多く、次いで「省エネ家電（LED等）の購入」（51.6%）、「家庭ごみの減量化・資源化」（42.8%）、「太陽光パネル、太陽光熱温水器等の設置」（20.4%）、「公共交通機関、自転車の積極利用、アイドリングストップ等」（13.8%）と続いています。

属性別にみると、年齢別では、20～29歳で「公共交通機関、自転車の積極利用、アイドリングストップ等」が第3位となっていますが、同率で「取り組んでいない」も挙がっています。

図表 77 現在取り組んでいる脱炭素対策活動（全体／複数回答）



図表 78 現在取り組んでいる脱炭素対策活動
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=933)		節電（こまめな消灯等） 72.1	省エネ家電（LED等）の購入 51.6	家庭ごみの減量化・資源化 42.8
性別	男性(n=394)	節電（こまめな消灯等） 65.5	省エネ家電（LED等）の購入 53.6	家庭ごみの減量化・資源化 36.3
	女性(n=522)	節電（こまめな消灯等） 77.8	省エネ家電（LED等）の購入 50.6	家庭ごみの減量化・資源化 48.1
年齢別	16～19歳(n=34)	節電（こまめな消灯等） 58.8	家庭ごみの減量化・資源化 38.2	省エネ家電（LED等）の購入 32.4
	20～29歳(n=54)	節電（こまめな消灯等） 59.3	省エネ家電（LED等）の購入 33.3	公共交通機関、自転車の積極利用、アイドリングストップ等／取り組んでいない 24.1
	30～39歳(n=86)	節電（こまめな消灯等） 69.8	省エネ家電（LED等）の購入 45.3	家庭ごみの減量化・資源化 27.9
	40～49歳(n=127)	節電（こまめな消灯等） 75.6	省エネ家電（LED等）の購入 52.8	家庭ごみの減量化・資源化 33.9
	50～59歳(n=124)	節電（こまめな消灯等） 74.2	省エネ家電（LED等）の購入 65.3	家庭ごみの減量化・資源化 40.3
	60～69歳(n=255)	節電（こまめな消灯等） 72.5	省エネ家電（LED等）の購入 53.3	家庭ごみの減量化・資源化 52.2
	70歳以上(n=251)	節電（こまめな消灯等） 74.9	省エネ家電（LED等）の購入 51.4	家庭ごみの減量化・資源化 50.6
	高瀬地区(n=228)	節電（こまめな消灯等） 71.9	省エネ家電（LED等）の購入 53.1	家庭ごみの減量化・資源化 43.4
	山本地区(n=94)	節電（こまめな消灯等） 71.3	省エネ家電（LED等）の購入 55.3	家庭ごみの減量化・資源化 37.2
	三野地区(n=137)	節電（こまめな消灯等） 73.7	省エネ家電（LED等）の購入 51.1	家庭ごみの減量化・資源化 43.1
	豊中地区(n=151)	節電（こまめな消灯等） 74.2	省エネ家電（LED等）の購入 48.3	家庭ごみの減量化・資源化 46.4
	詫間地区(n=182)	節電（こまめな消灯等） 74.2	省エネ家電（LED等）の購入 51.1	家庭ごみの減量化・資源化 44.5
居住地区別	仁尾地区(n=76)	節電（こまめな消灯等） 65.8	省エネ家電（LED等）の購入 47.4	家庭ごみの減量化・資源化 39.5
	財田地区(n=57)	節電（こまめな消灯等） 73.7	省エネ家電（LED等）の購入 61.4	家庭ごみの減量化・資源化 43.9
移住状況別	移住者(n=217)	節電（こまめな消灯等） 75.6	省エネ家電（LED等）の購入 55.8	家庭ごみの減量化・資源化 37.3
	定住者(n=710)	節電（こまめな消灯等） 71.4	省エネ家電（LED等）の購入 50.6	家庭ごみの減量化・資源化 44.5

(3) 今後取り組みたい活動について

問13-2 今後取り組みたいと思う活動について教えてください。【複数回答】

● 今後取り組みたい活動は「節電（こまめな消灯等）」が最も多い。

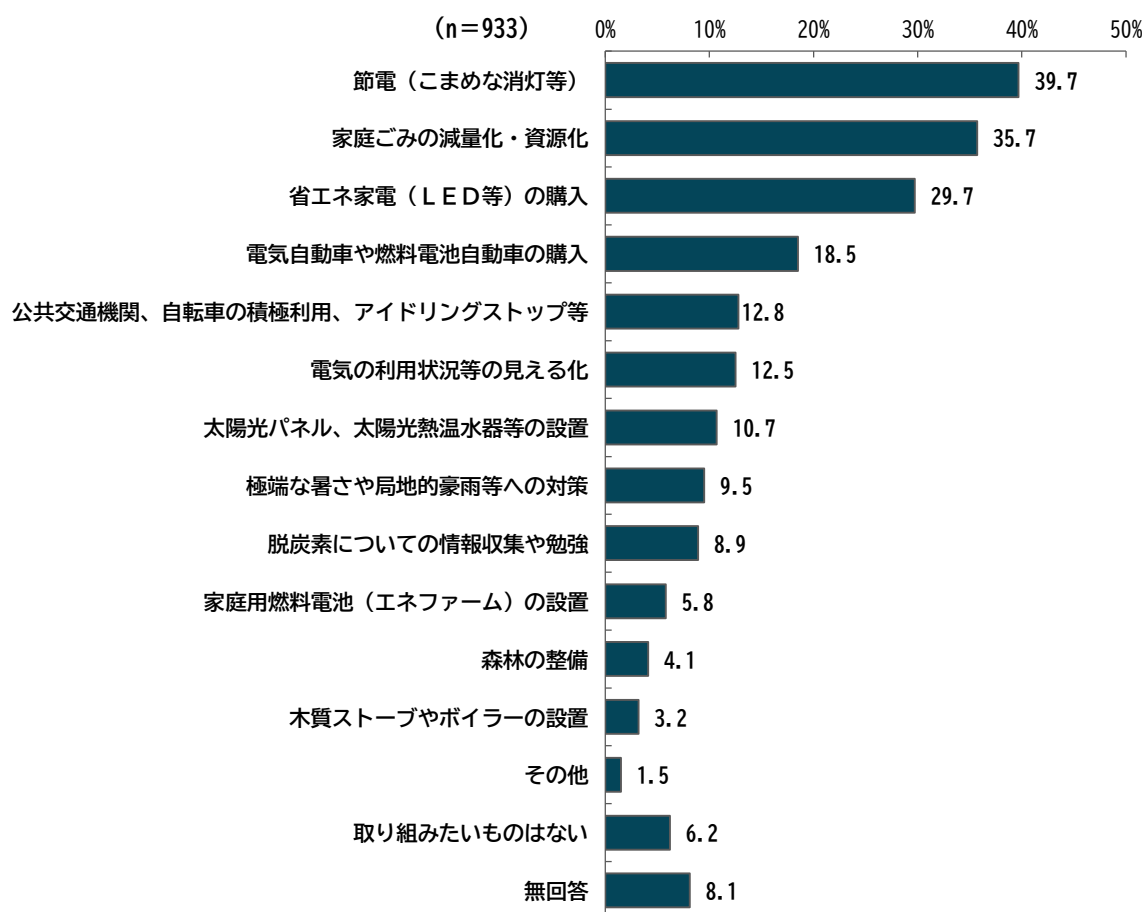
脱炭素化や気候変動問題に関して今後取り組みたいと思う活動についてたずねたところ、「節電（こまめな消灯等）」が39.7%で最も多く、次いで「家庭ごみの減量化・資源化」(35.7%)、「省エネ家電（LED等）の購入」(29.7%)、「電気自動車や燃料電池自動車の購入」(18.5%)、「公共交通機関、自転車の積極利用、アイドリングストップ等」(12.8%)と続いています。

属性別にみると、年齢別では、16～19歳で「公共交通機関、自転車の積極利用、アイドリングストップ等」が第3位となっています。

居住地区別では、山本地区で「家庭ごみの減量化・資源化」が第1位となっています。

移住状況別では、移住者で「家庭ごみの減量化・資源化」、定住者で「節電（こまめな消灯等）」がそれぞれ第1位となっています。

図表 79 今後取り組みたい脱炭素対策活動（全体／複数回答）



図表 80 今後取り組みたい脱炭素対策活動
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=933)		節電（こまめな消灯等） 39.7	家庭ごみの減量化・資源化 35.7	省エネ家電（LED等）の購入 29.7
性別	男性(n=394)	節電（こまめな消灯等） 35.3	家庭ごみの減量化・資源化 28.4	省エネ家電（LED等）の購入 26.4
	女性(n=522)	節電（こまめな消灯等） 43.7	家庭ごみの減量化・資源化 42.0	省エネ家電（LED等）の購入 32.6
年齢別	16～19歳(n=34)	節電（こまめな消灯等）／家庭ごみの減量化・資源化 47.1		省エネ家電（LED等）の購入／公共交通機関、自転車の積極利用、アイドリングストップ等 20.6
	20～29歳(n=54)	節電（こまめな消灯等） 48.1	省エネ家電（LED等）の購入 37.0	家庭ごみの減量化・資源化 31.5
	30～39歳(n=86)	節電（こまめな消灯等） 33.7	家庭ごみの減量化・資源化 30.2	省エネ家電（LED等）の購入 29.1
	40～49歳(n=127)	家庭ごみの減量化・資源化 38.6	節電（こまめな消灯等） 36.2	省エネ家電（LED等）の購入 27.6
	50～59歳(n=124)	家庭ごみの減量化・資源化 37.1	節電（こまめな消灯等） 35.5	省エネ家電（LED等）の購入 30.6
	60～69歳(n=255)	節電（こまめな消灯等） 39.2	家庭ごみの減量化・資源化 31.4	省エネ家電（LED等）の購入 29.4
	70歳以上(n=251)	節電（こまめな消灯等） 43.4	家庭ごみの減量化・資源化 39.4	省エネ家電（LED等）の購入 30.7
	高瀬地区(n=228)	節電（こまめな消灯等） 36.4	家庭ごみの減量化・資源化 32.5	省エネ家電（LED等）の購入 31.1
	山本地区(n=94)	家庭ごみの減量化・資源化 41.5	節電（こまめな消灯等） 34.0	省エネ家電（LED等）の購入 26.6
	三野地区(n=137)	節電（こまめな消灯等） 35.8	家庭ごみの減量化・資源化 32.1	省エネ家電（LED等）の購入 27.0
	豊中地区(n=151)	節電（こまめな消灯等） 47.0	家庭ごみの減量化・資源化 39.1	省エネ家電（LED等）の購入 36.4
	詫間地区(n=182)	節電（こまめな消灯等） 42.3	家庭ごみの減量化・資源化 40.7	省エネ家電（LED等）の購入 28.6
居住地区別	仁尾地区(n=76)	節電（こまめな消灯等） 46.1	家庭ごみの減量化・資源化 34.2	省エネ家電（LED等）の購入 26.3
	財田地区(n=57)	節電（こまめな消灯等） 38.6	省エネ家電（LED等）の購入／家庭ごみの減量化・資源化 28.1	
移住状況別	移住者(n=217)	家庭ごみの減量化・資源化 39.6	節電（こまめな消灯等） 38.7	省エネ家電（LED等）の購入 35.0
	定住者(n=710)	節電（こまめな消灯等） 40.3	家庭ごみの減量化・資源化 34.6	省エネ家電（LED等）の購入 28.2

(4) 脱炭素対策に取り組まない理由

【問13-1で「取り組んでいない」と回答した方のみ】

問14 取り組んでいない理由として当てはまるもの全て選択してください。【複数回答】

● 取り組んでいない主な理由は「興味がない」から。

問13-1で「取り組んでいない」と回答した人に、取り組んでいない理由をたずねたところ、「興味がない」が45.7%で最も多く、次いで「経済的な負担が増加する」(22.3%)、「機会がない」(21.3%)、「実施するメリットを感じない」(18.1%)、「時間がない」(14.9%)と続いています。

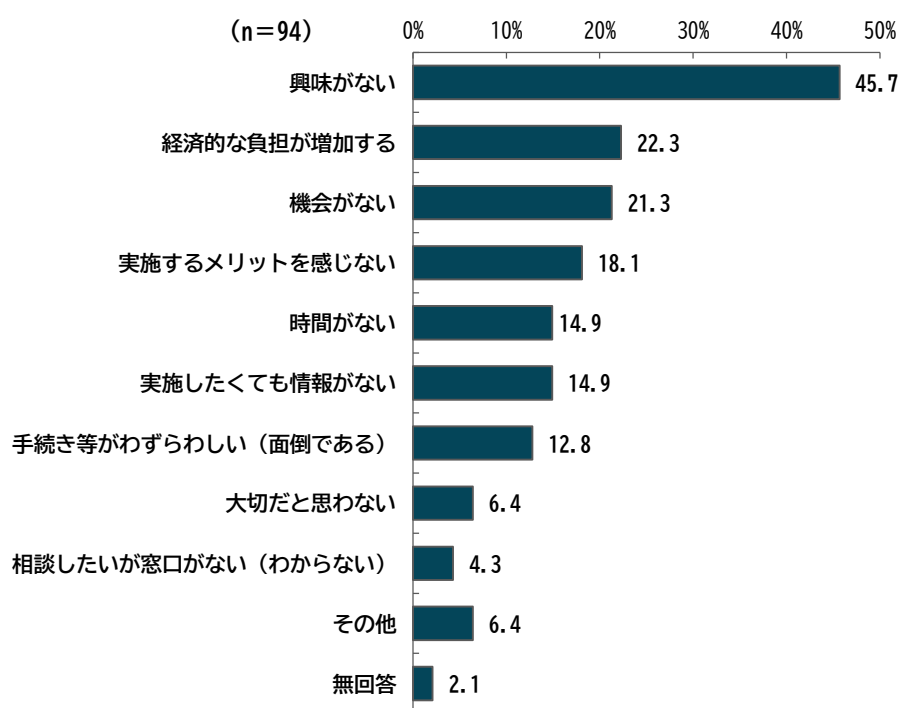
属性別にみると、性別では、第2位と第3位に違いがみられ、男性は「実施するメリットを感じない」、「経済的な負担が増加する」と続いているのですが、女性は「機会がない」、「実施したくても情報がない」となっています。

年齢別では、40～49歳で「相談したいが窓口がない(わからない)」、50～59歳及び70歳以上で「手続き等がわずらわしい(面倒である)」がそれぞれ挙がっています。

居住地区別では、おおよその地域で「興味がない」が第1位となっていますが、三野地区、財田地区で「機会がない」、豊中地区で「時間がない」が第1位に挙がっています。また、三野地区では、「実施したくても情報がない」が第3位となっています。

移住状況別では、移住者で第3位に「時間がない」、「実施したくても情報がない」、「実施するメリットを感じない」が挙がっています。

図表 81 脱炭素対策に取り組まない理由（全体／複数回答）



図表 82 脱炭素対策に取り組まない理由
(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=94)		興味がない 45.7	経済的な負担が増加する 22.3	機会がない 21.3
性別	男性(n=46)	興味がない 47.8	実施するメリットを感じない 23.9	経済的な負担が増加する 21.7
	女性(n=43)	興味がない 44.2	機会がない 25.6	実施したくても情報がない 23.3
年齢別	16～19歳(n=6)	興味がない／経済的な負担が増加する 33.3		機会がない／時間がない 16.7
	20～29歳(n=13)	機会がない 53.8	興味がない 38.5	時間がない 30.8
	30～39歳(n=13)	興味がない 76.9	経済的な負担が増加する 38.5	機会がない／実施するメリットを感じない 30.8
	40～49歳(n=7)	興味がない 71.4	経済的な負担が増加する／実施するメリットを感じない／相談したいが窓口がない(わからない) 28.6	
	50～59歳(n=10)	興味がない 50.0	経済的な負担が増加する 30.0	実施するメリットを感じない／手続き等がわずらわしい(面倒である) 20.0
	60～69歳(n=19)	興味がない／実施したくても情報がない 26.3		機会がない／時間がない／経済的な負担が増加する／実施するメリットを感じない 15.8
	70歳以上(n=25)	興味がない 44.0	実施するメリットを感じない／手続き等がわずらわしい(面倒である) 20.0	
	高瀬地区(n=17)	興味がない 58.8	実施するメリットを感じない 29.4	経済的な負担が増加する 17.6
	山本地区(n=7)	興味がない 85.7	経済的な負担が増加する 42.9	手続き等がわずらわしい(面倒である)／相談したいが窓口がない(わからない) 28.6
	三野地区(n=13)	興味がない／機会がない 46.2		実施したくても情報がない 38.5
	豊中地区(n=12)	興味がない／時間がない 33.3		機会がない 25.0
	詫間地区(n=23)	興味がない 39.1	経済的な負担が増加する 21.7	機会がない／実施するメリットを感じない 17.4
居住地区別	仁尾地区(n=14)	興味がない 50.0	時間がない／経済的な負担が増加する 28.6	
	財田地区(n=4)	機会がない 50.0	興味がない／実施するメリットを感じない／手続き等がわずらわしい(面倒である) 25.0	
	移住者(n=10)	興味がない 80.0	機会がない 40.0	時間がない／経済的な負担が増加する／実施したくても情報がない／実施するメリットを感じない 30.0
	定住者(n=83)	興味がない 42.2	経済的な負担が増加する 21.7	機会がない 19.3

6 これからの行政サービスについて

(1) 市役所の利用について

問15 あなたが市役所又は支所を利用したのはいつですか。

● 「半年以内」に利用した人が67.8%を占める。

市役所又は支所を最後に利用したのはいつかをたずねたところ、「半年以内」が67.8%で最も高く、次いで「1年以内」(16.1%)、「2年～10年以内」(12.2%)と続いています。

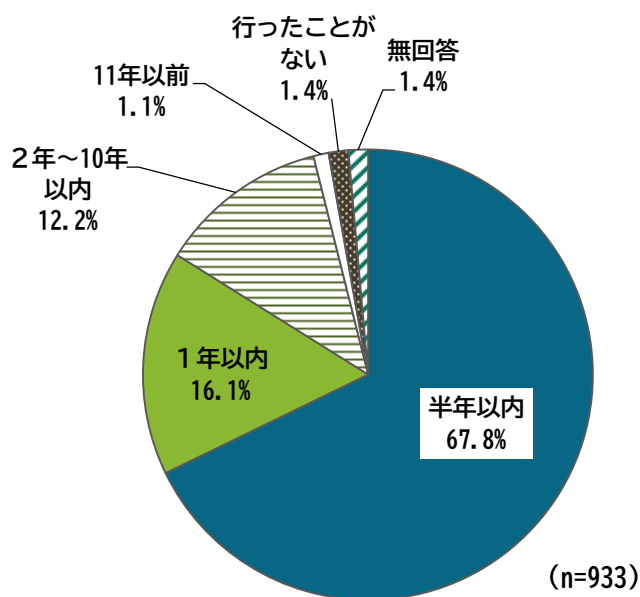
属性別にみると、性別では、男女ともに「半年以内」が最も高くなっています。

年齢別では、いずれの年代も「半年以内」が最も高く、特に60～69歳で75.7%と高くなっています。

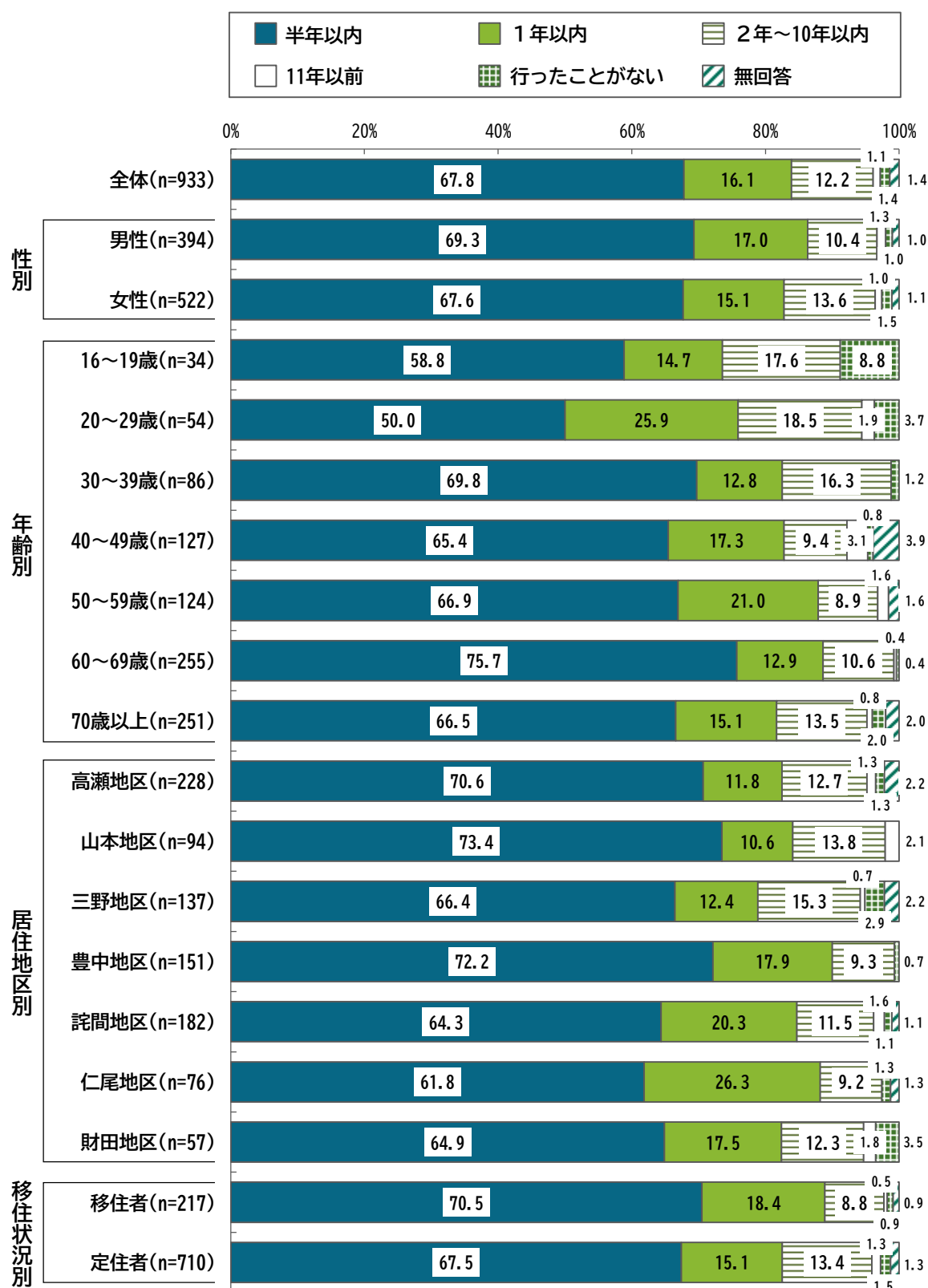
居住地区別では、いずれの地区でも「半年以内」が6割以上を占め、最も高くなっています。

移住状況別では、いずれも「半年以内」が最も高くなっています。

図表 83 市役所を最後に利用したのはいつか（全体）



図表 84 市役所を最後に利用したのはいつか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(2) 市役所の利用目的について

【問15で「半年以内」「1年以内」「2年～10年以内」「11年以上」と回答した方のみ】

問15-1 利用目的は何ですか。【複数回答】

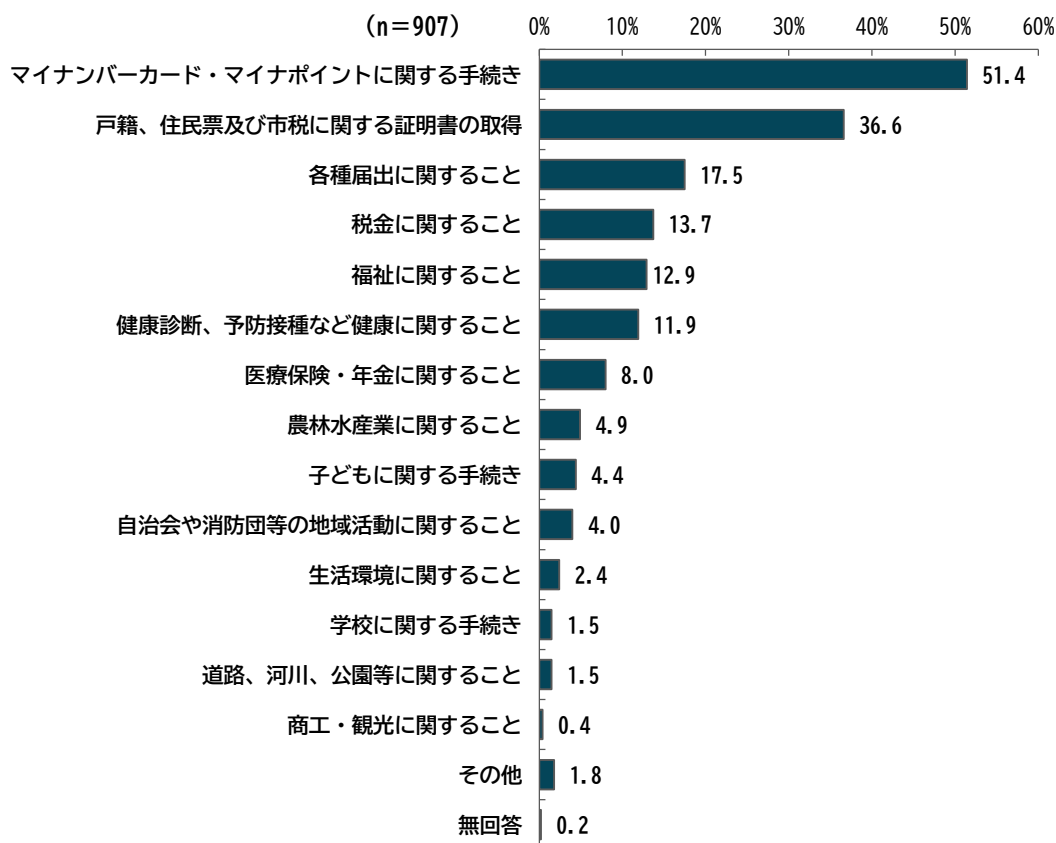
● 利用目的で最も多いのは「マイナンバーカード・マイナポイントに関する手続き」。

問15で“利用があった”人に、その利用目的をたずねたところ、「マイナンバーカード・マイナポイントに関する手続き」が51.4%で最も多く、次いで「戸籍、住民票及び市税に関する証明書の取得」(36.6%)、「各種届出に関する事」(17.5%)、「税金に関する事」(13.7%)、「福祉に関する事」(12.9%)と続いています。

属性別にみると、年齢別では、60～69歳で「税金に関する事」、70歳以上で「健康診断、予防接種など健康に関する事」がそれぞれ第3位となっています。

居住地区別では、財田地区で「農林水産業に関する事」が第3位となっています。

図表 85 市役所の利用目的（全体／複数回答）



図表 86 市役所の利用目的

(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=907)		マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 51.4	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 36.6	各種届出に関すること 17.5
性別	男性(n=386)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 49.5	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 37.3	各種届出に関すること 20.5
	女性(n=508)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 52.6	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 36.4	各種届出に関すること 15.4
年齢別	16～19歳(n=31)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 77.4	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 29.0	福祉に関すること 6.5
	20～29歳(n=52)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 50.0	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 44.2	各種届出に関すること 25.0
	30～39歳(n=85)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 54.1	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 31.8	各種届出に関すること 29.4
	40～49歳(n=121)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 46.3	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 41.3	各種届出に関すること 17.4
	50～59歳(n=122)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 54.1	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 44.3	各種届出に関すること 16.4
	60～69歳(n=254)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 48.4	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 39.0	各種届出に関すること／税金 に関すること 19.7
	70歳以上(n=241)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 51.5	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 29.0	健康診断、予防接種など健康 に関すること 20.7
居住地区別	高瀬地区(n=220)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 48.6	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 41.8	各種届出に関すること 18.6
	山本地区(n=94)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 52.1	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 36.2	各種届出に関すること 20.2
	三野地区(n=130)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 48.5	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 32.3	各種届出に関すること 16.9
	豊中地区(n=150)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 54.7	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 36.7	各種届出に関すること 18.7
	詫間地区(n=178)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 52.2	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 36.5	各種届出に関すること 14.0
	仁尾地区(n=74)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 54.1	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 35.1	各種届出に関すること 18.9
	財田地区(n=55)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 47.3	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 30.9	農林水産業に関すること 18.2
移住状況別	移住者(n=213)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 50.7	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 39.9	各種届出に関すること 24.9
	定住者(n=690)	マイナンバーカード・マイナ ポイントに関する手続き 51.6	戸籍、住民票及び市税に関す る証明書の取得 35.7	各種届出に関すること 15.4

(3) 行政サービスに求めるものについて

問16 あなたがこれからの行政サービスに求めるものは何ですか。

● 最も求められているものは、手続きの簡素化。

これからの行政サービスに求めるものをたずねたところ、「手続き自体を簡素化してほしい」が42.4%で最も高く、次いで「デジタル化を推進して自宅からでも行政手続きができるようにしてほしい」(22.5%)、「相談や手続きをワンストップでできるようにしてほしい」(12.1%)と続いています。

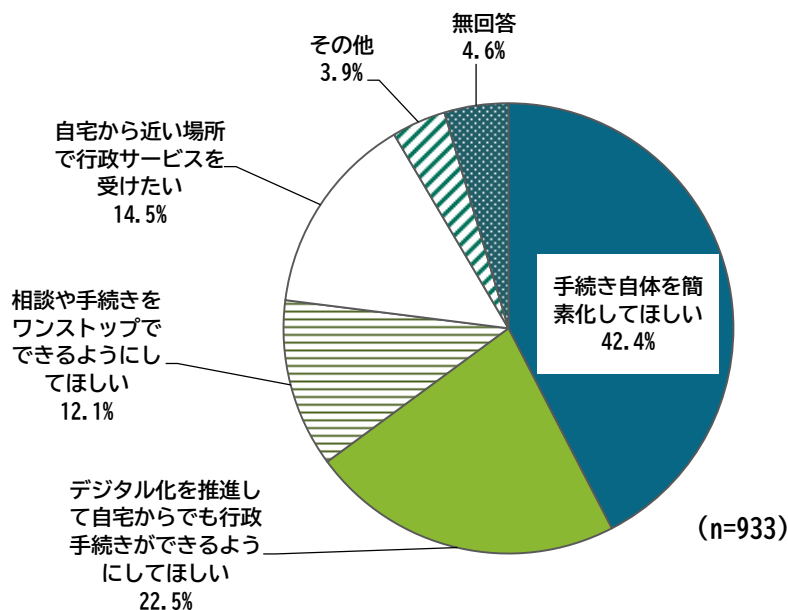
属性別にみると、性別では、男女ともに「手続き自体を簡素化してほしい」が最も高くなっています。

年齢別では、20～39歳で「デジタル化を推進して自宅からでも行政手続きができるようにしてほしい」が最も高くなっています。また、60歳以上では「自宅から近い場所で行政サービスを受けたい」が60歳未満に比べて高く、70歳以上では2割以上を占めています。

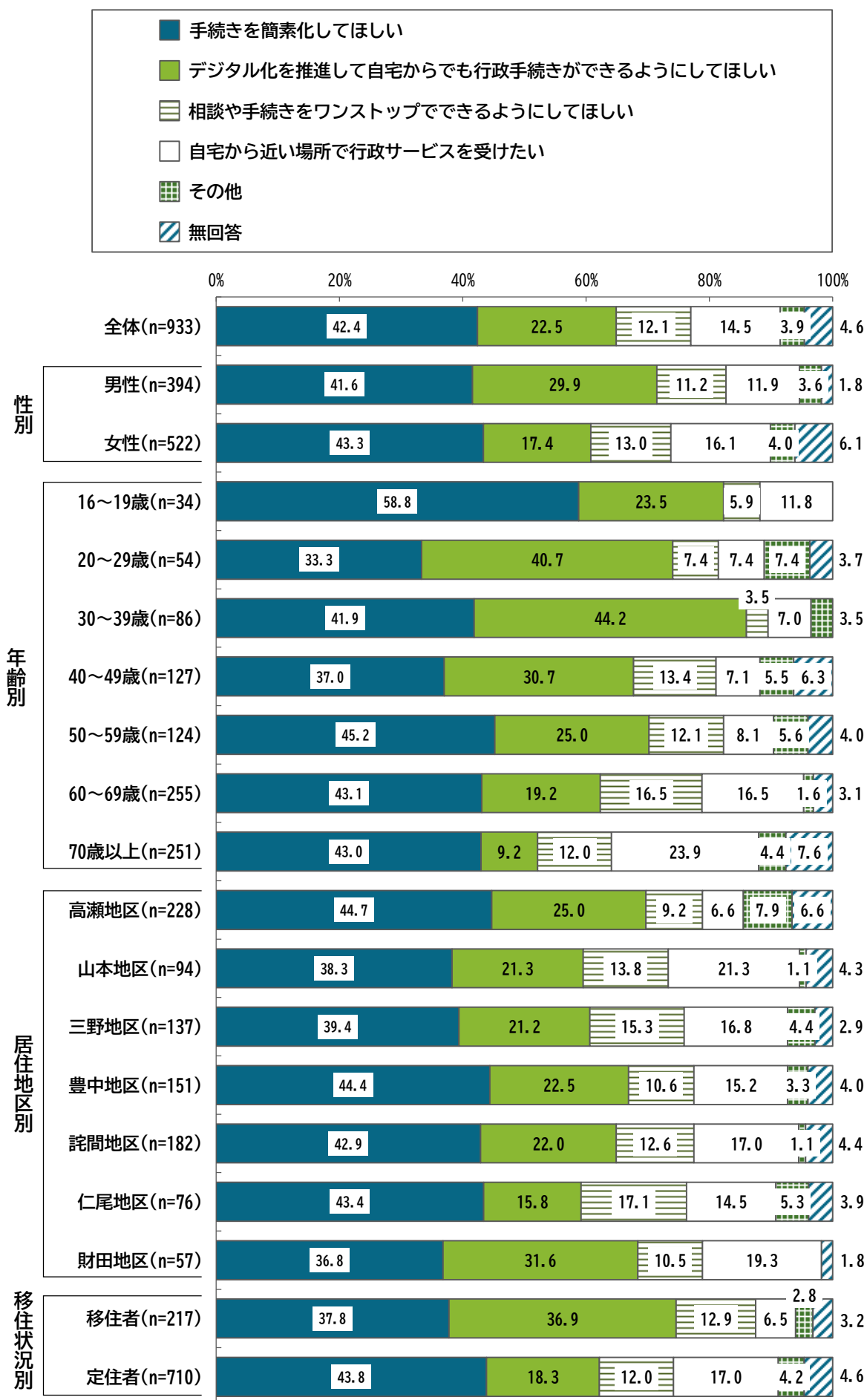
居住地区別では、いずれの地区でも「手続き自体を簡素化してほしい」が最も高くなっていますが、財田地区では「デジタル化を推進して自宅からでも行政手続きができるようにしてほしい」も3割以上を占めています。

移住状況別では、移住者で「デジタル化を推進して自宅からでも行政手続きができるようにしてほしい」が36.9%と定住者に比べて高くなっています。

図表 87 これからの行政サービスに求めるもの（全体）



図表 88 これからの行政サービスに求めるもの（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



7 生活・意識の変化について

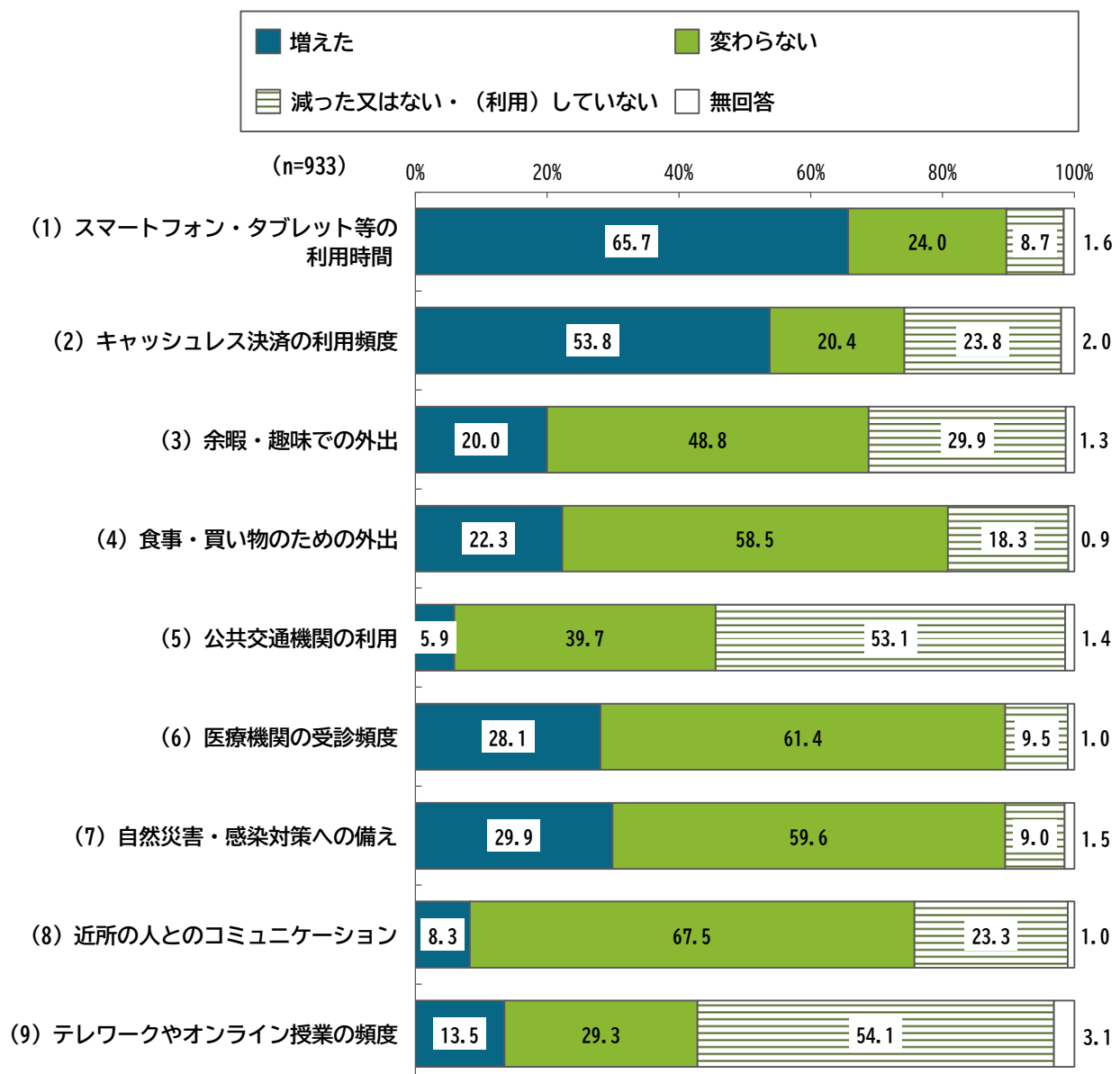
(1) 生活の変化について

問17 5年前と比較して、あなたの生活はどのように変わったと感じますか。

- スマートフォン・タブレット等の利用時間、キャッシュレス決済の利用頻度は「増えた」が最も高く、公共交通機関の利用、テレワークやオンライン授業の頻度は「減った又はない・(利用)していない」が最も高い。

5年前と比較して生活がどのように変わったかをたずねたところ、「増えた」の割合が高いのは、スマートフォン・タブレット等の利用時間(65.7%)、キャッシュレス決済の利用頻度(53.8%)となっています。一方、「減った又はない・(利用)していない」の割合が高いのは、公共交通機関の利用(53.1%)、テレワークやオンライン授業の頻度(54.1%)となっています。

図表 89 生活の変化(全体)

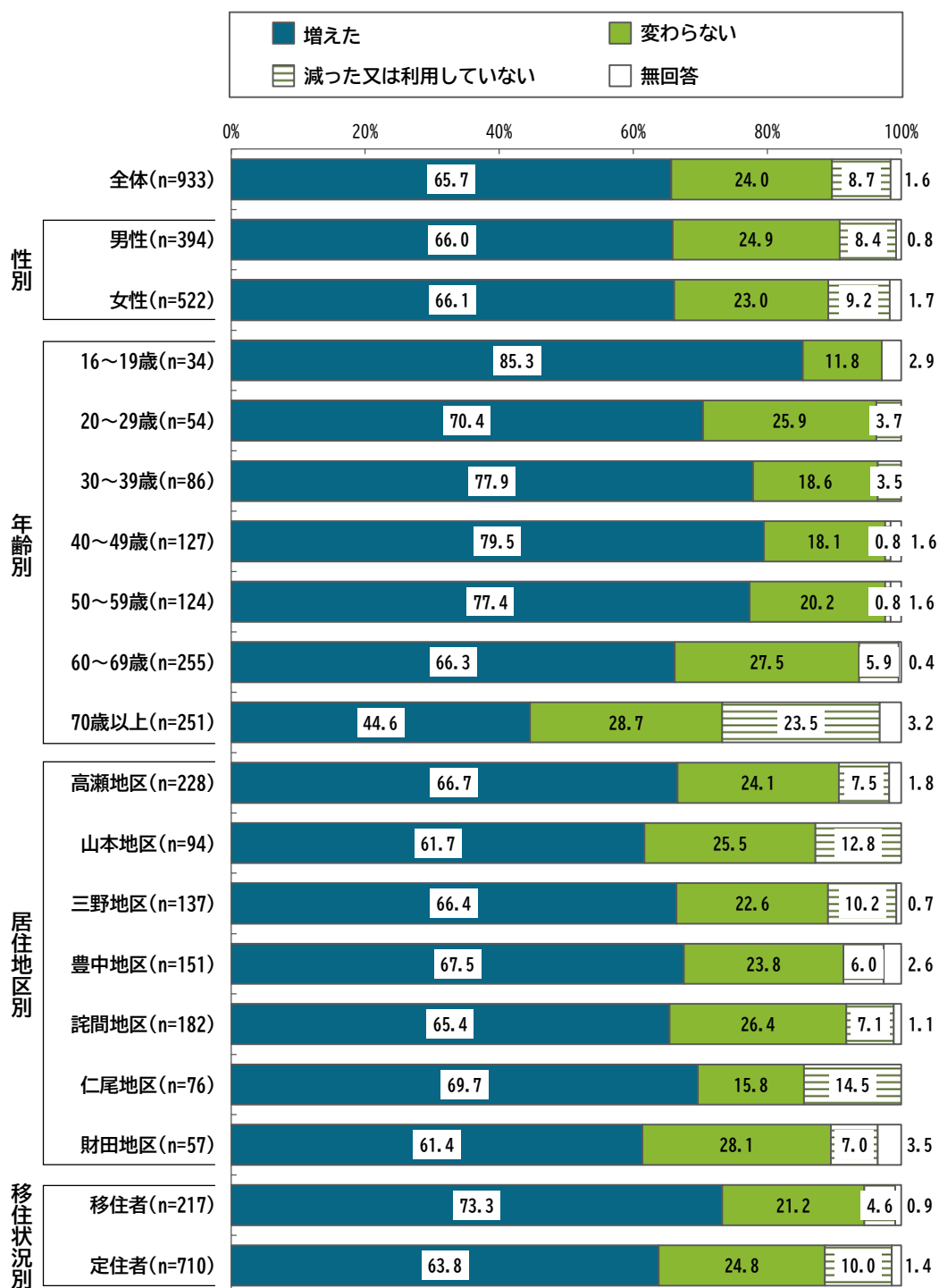


問 1 7 (1) スマートフォン・タブレット等（情報通信機器）の利用時間

● 16～19 歳の利用時間が特に増えている。

年齢別では、いずれの世代も「増えた」が最も高く、特に 16～19 歳で高くなっています。性別、居住地区別、移住状況別でも同様の傾向がみられます。

図表 90 スマートフォン・タブレット等の利用時間（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

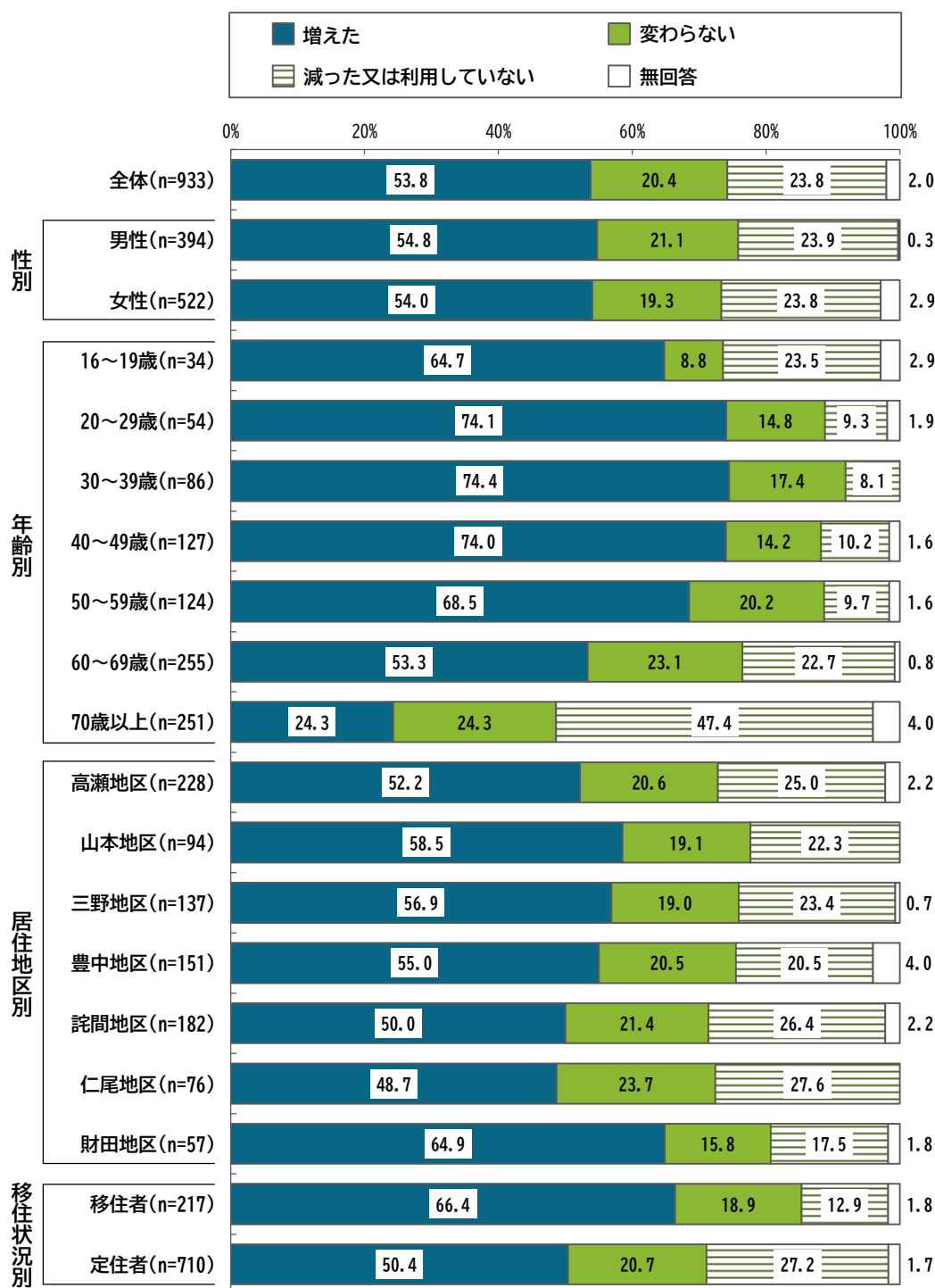


問 1 7 (2) キャッシュレス決済の利用頻度

● 20～49 歳で「増えた」が7割を超えている。

20～49 歳の7割以上が「増えた」と回答していますが、70 歳以上では 24.3%にとどまっています。また、「増えた」割合は移住者が 66.4%で定住者を上回っています。

図表 91 キャッシュレス決済の利用頻度（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

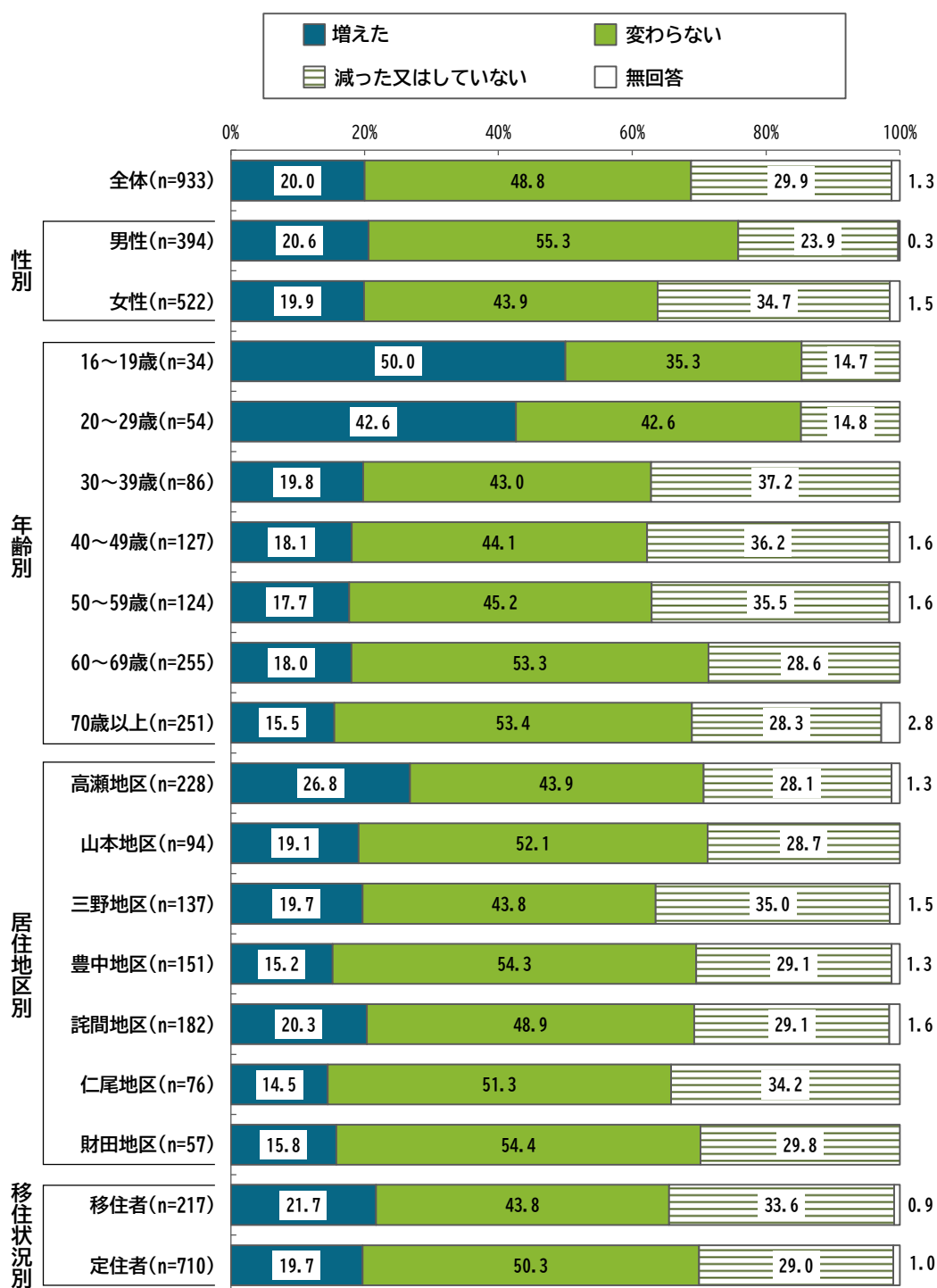


問 1 7 (3) 余暇・趣味での外出

● 16～29 歳の「増えた」割合は 30 歳以上の世代の 2 倍以上。

年齢別では、16～19 歳の「増えた」割合が 50.0%、20～29 歳が 42.6%となっている一方で、30 歳以上では 2 割以下となっており、割合に差がみられます。また、性別、居住地区別、移住状況別のいずれにおいても「変わらない」と回答した割合がそれぞれ最も高くなっています。

図表 92 余暇・趣味での外出（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

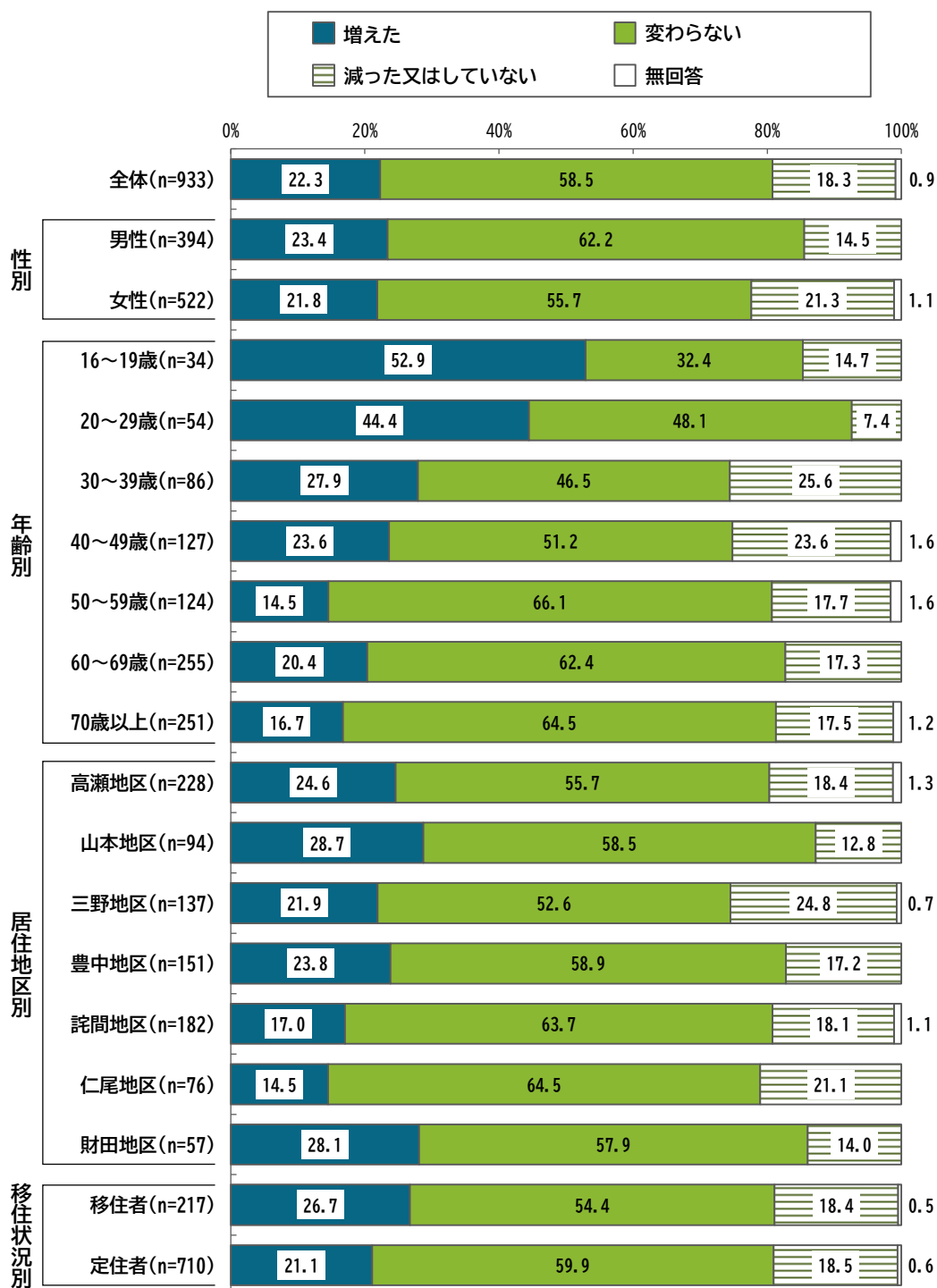


問17(4) 食事・買い物のための外出

● 16～19歳の「増えた」割合が高い。

年齢別では、16～19歳の「増えた」割合が52.9%と最も高く、次いで20～29歳（44.4%）と続いており、余暇・趣味での外出と似た傾向となっています。また、性別、居住地区別、移住状況別のいずれにおいても「変わらない」と回答した割合がそれぞれ最も高い点も共通しています。

図表 93 食事・買い物のための外出（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

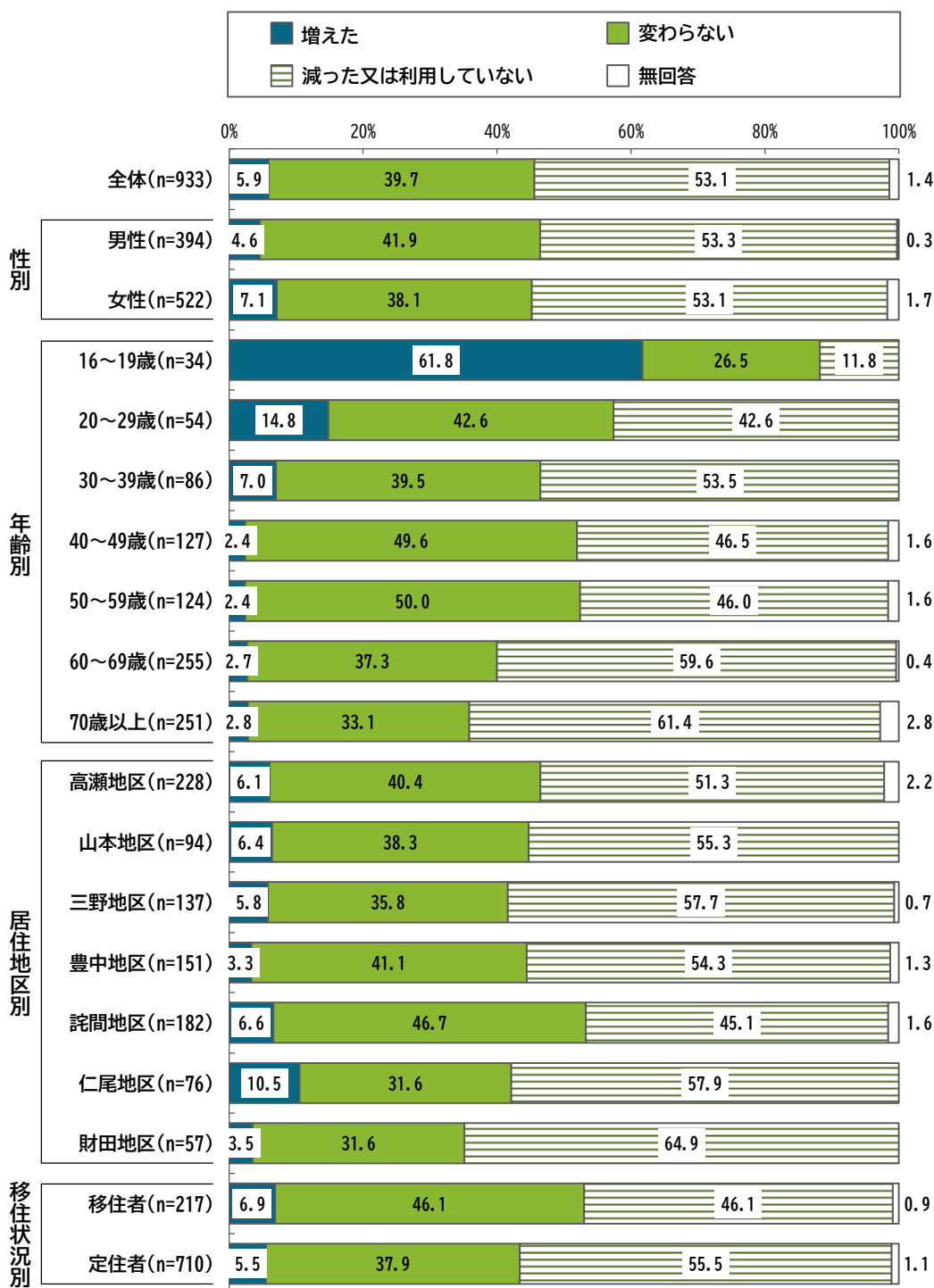


問 1 7 (5) 公共交通機関の利用

● 16～19 歳の「増えた」割合が突出している。

年齢別では、16～19 歳で「増えた」割合が 61.8%と最も高く、次いで 20～29 歳（14.8%）と続いています。2 位以下との差が大きくなっています。居住地区別では、仁尾地区で「増えた」割合が 10.5%で最も高く、それ以外の地区ではそれぞれ 1 割以下となっています。

図表 94 公共交通機関の利用（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

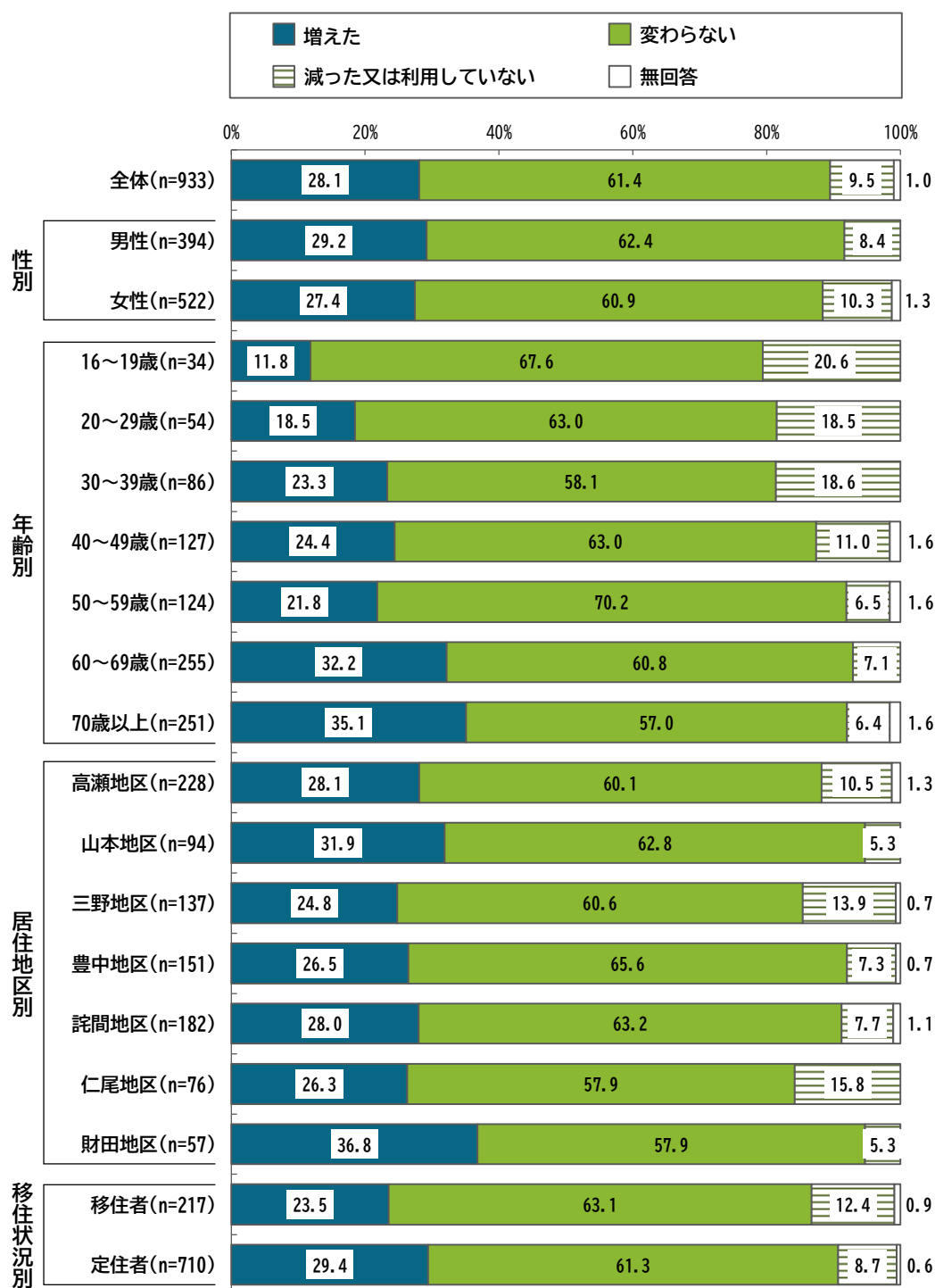


問 1 7 (6) 医療機関の受診頻度

● 受診頻度が最も「増えた」のは 70 歳以上及び財田地区。

年齢別では、70 歳以上で「増えた」割合が 35.1%と最も高く、次いで 60～69 歳（32.2%）、40～49 歳（24.4%）と続いています。また、居住地区別では財田地区が 36.8%で最も高く、次いで山本地区（31.9%）、高瀬地区（28.1%）と続いています。

図表 95 医療機関の受診頻度（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

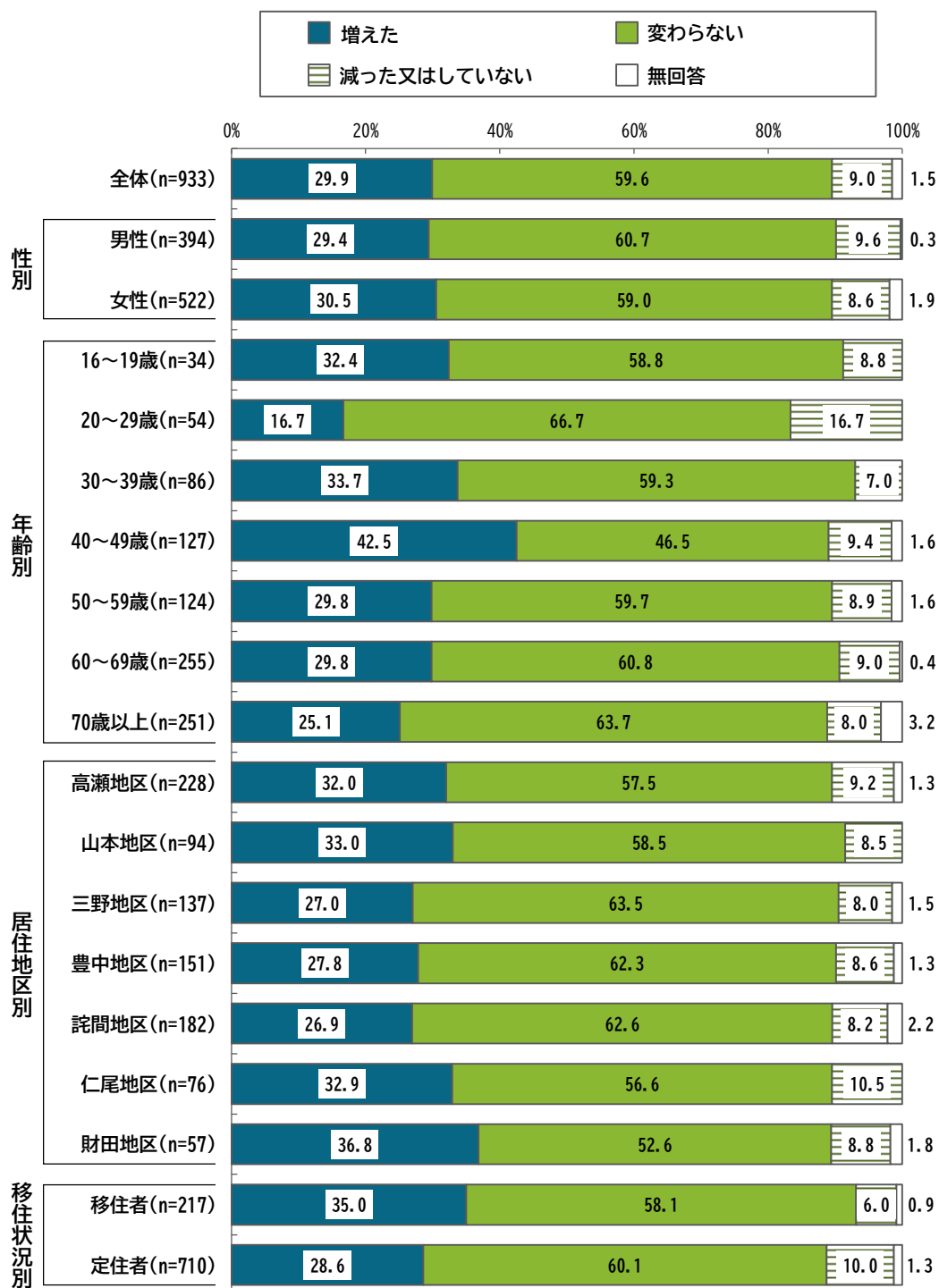


問17(7) 自然災害・感染対策への備え

● 40代の防災意識が最も高まっている。

年齢別では、40～49歳で「増えた」割合が42.5%と最も高く、次いで30～39歳（33.7%）、16～19歳（32.4%）と続いています。また、20～29歳では「増えた」割合が16.7%と他の年代に比べて低くなっています。

図表 96 自然災害・感染対策への備え（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

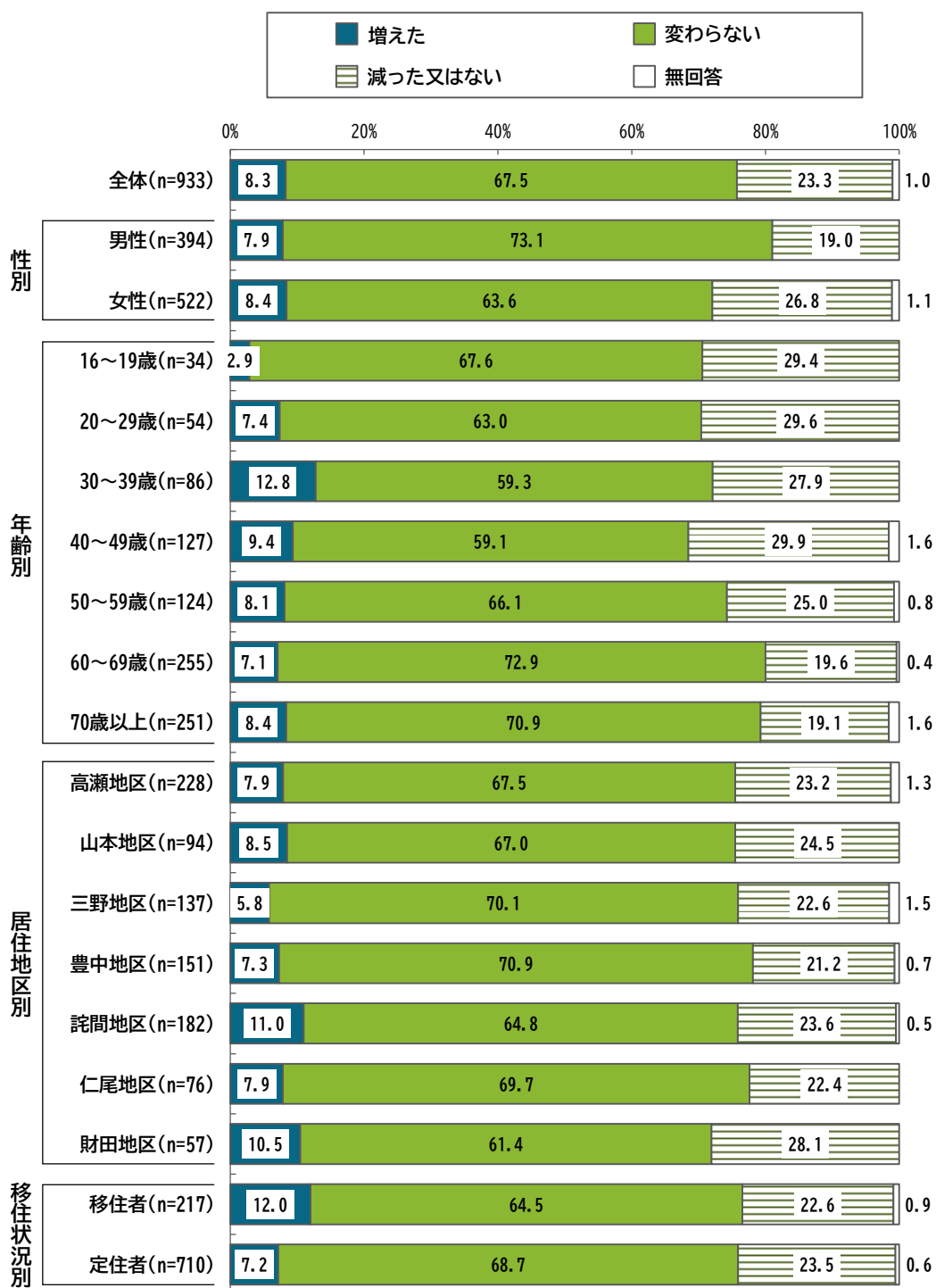


問17(8) 近所の人とのコミュニケーション

- 近所とのコミュニケーションは性別、年齢、居住地区、移住状況を問わず「変わらない」が最も高い。

性別、年齢別、居住地区別、移住状況別のいずれでも「変わらない」と回答した割合がそれぞれ最も高く、次いで「減った又はない」となっており、「増えた」と回答した割合は、ほぼ1割以下となっています。

図表 97 近所の人とのコミュニケーション（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）

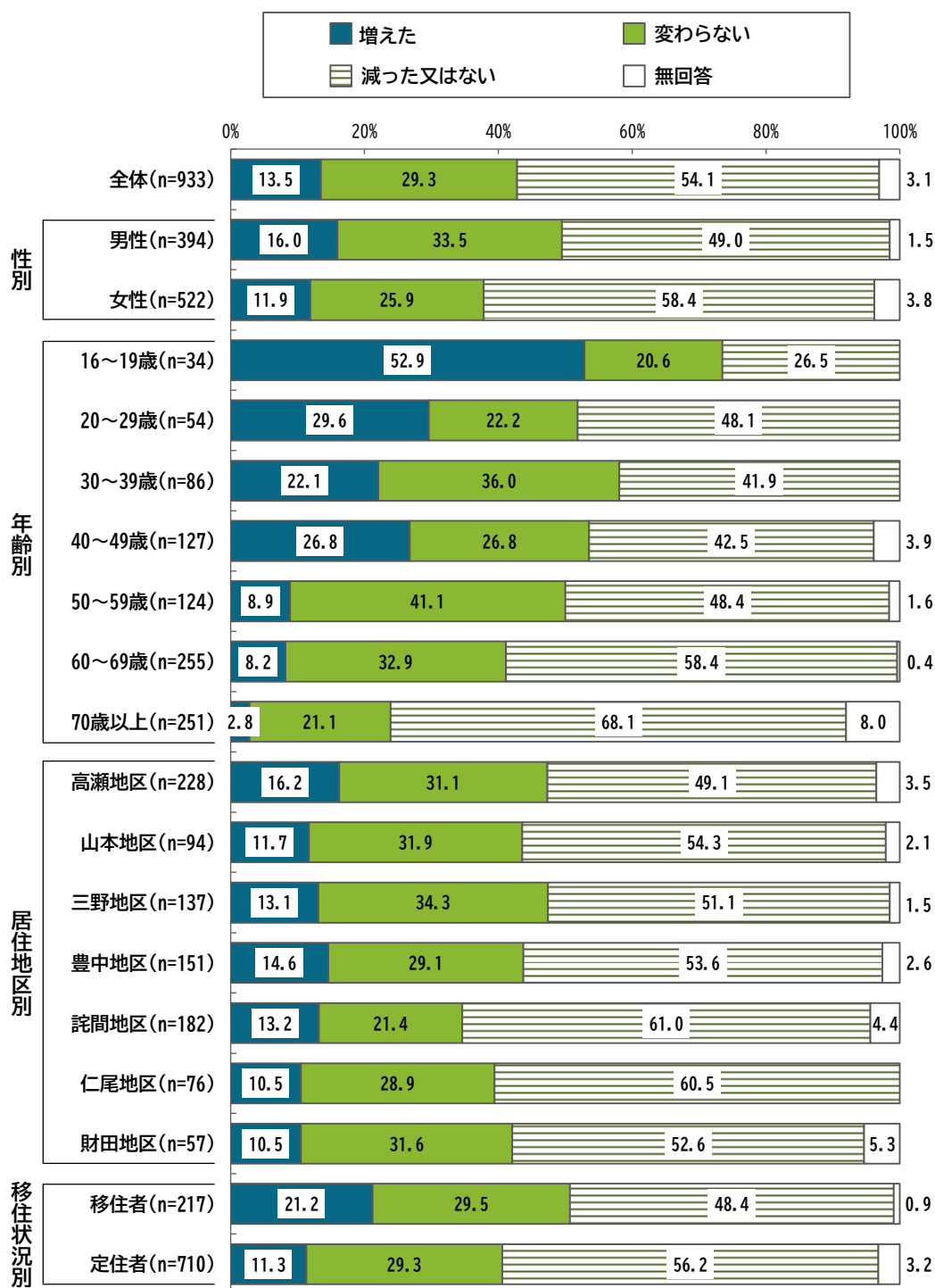


問 1 7 (9) テレワークやオンライン授業の頻度

● 16～19 歳ではテレワークやオンライン授業の頻度が増えている。

年齢別では、16～19 歳の「増えた」割合が 52.9%と半数以上を占めているのに対し、20 歳～49 歳では 3 割以下、50 歳以上では 1 割以下と年齢が上がるにつれて割合に差がみられます。また、性別、居住地区別、移住状況別では、いずれも「減った又ははない」と回答した割合がそれぞれ最も高くなっています。

図表 98 テレワークやオンライン授業の頻度（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(2) 意識の変化について

問17-1 生活環境や社会情勢の変化もふまえて、あなたが重視したいものは何ですか。

● 最も重視したいものは「健康管理」。

生活環境や社会情勢の変化もふまえた上で重視したいものをたずねたところ、「健康管理」が44.1%で最も高く、次いで「不測の事態（自然災害、感染症等）への備え」（25.8%）、「デジタル社会に対応する能力の向上」（15.8%）と続いています。

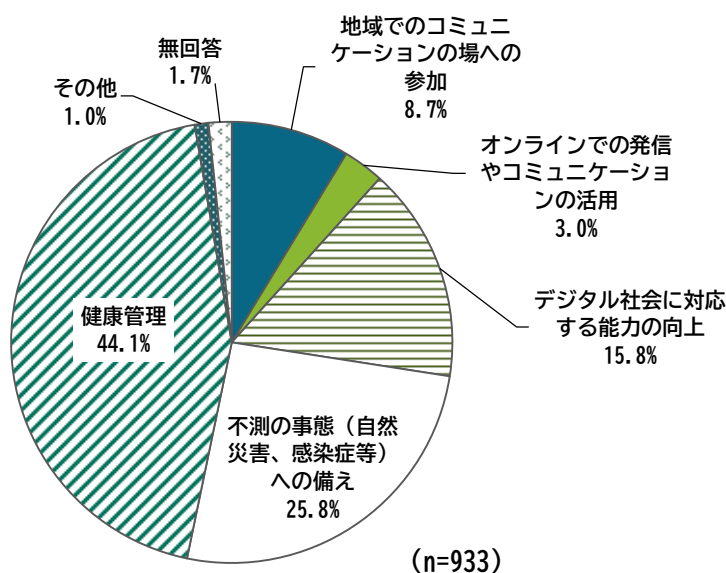
属性別にみると、性別では、男女ともに傾向は似ていますが、「不測の事態（自然災害、感染症等）への備え」は女性が男性を上回っています。

年齢別では、20歳以降「健康管理」の割合が年齢とともに増加しており、60歳以上では半数以上を占めています。

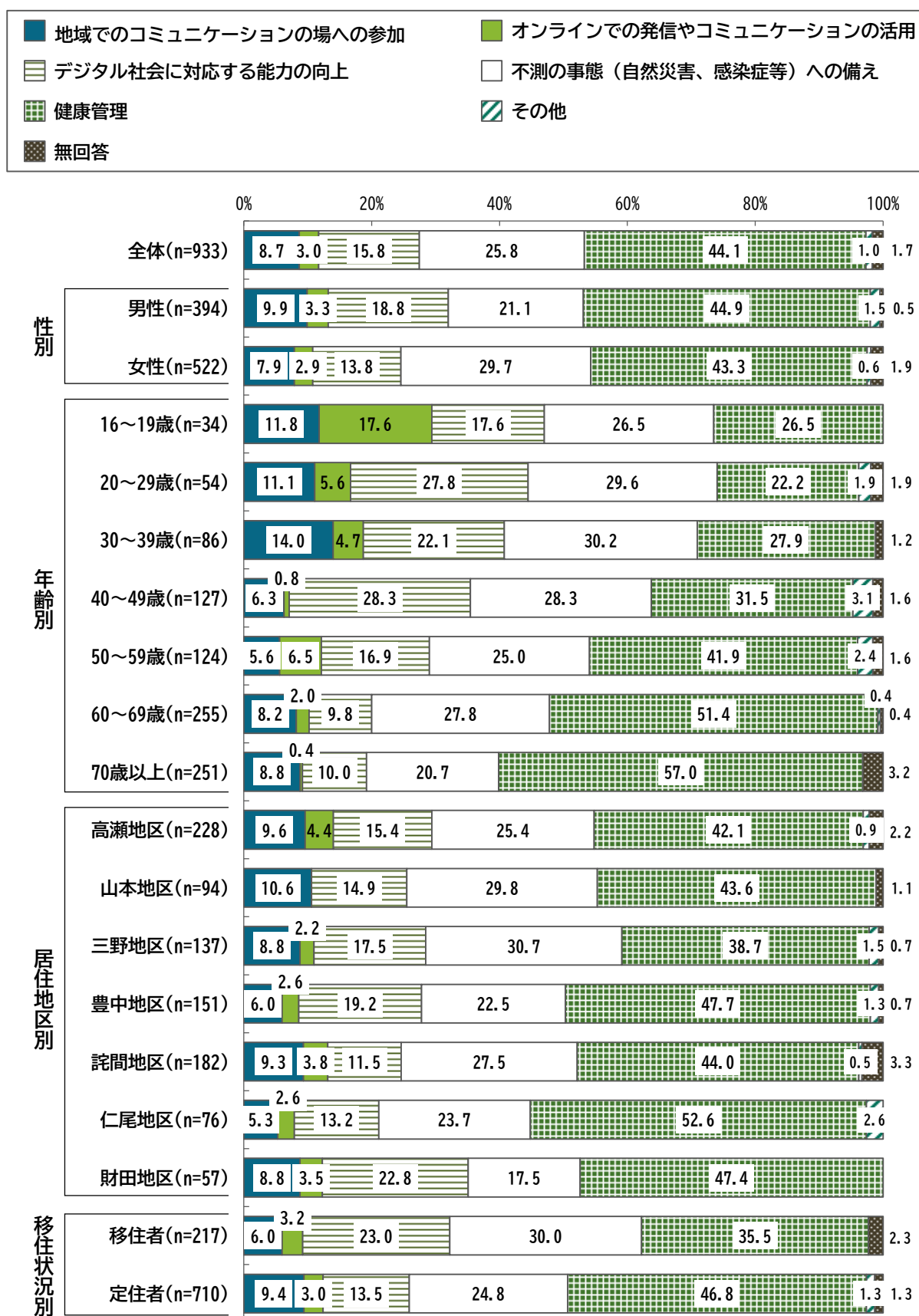
居住地区別では、いずれの地区でも「健康管理」が最も高くなっており、特に仁尾地区では52.6%と半数以上を占めています。

移住状況別では、移住者は「デジタル社会に対応する能力の向上」や「不測の事態（自然災害、感染症等）への備え」を定住者よりも重視しており、定住者は「地域でのコミュニケーションの場への参加」、「健康管理」を移住者よりも重視したい傾向がみられます。

図表 99 重視したいもの（全体）



図表 100 重視したいもの（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



8 人口減少について

(1) 人口減少の影響について

問18 あなたは、お住まいの地域での暮らしの中で、人口減少の影響を感じていますか。

● 6割以上が“人口減少の影響を感じている”。

人口減少の影響を感じるかどうかについてたずねたところ、「大きく感じている」と答えた人が32.9%で最も高く、次いで「やや感じている」と答えた人が28.8%で続き、これらをあわせた“人口減少の影響を感じている”という人が61.7%となっています。これに対し「まだ感じていない」は23.2%となっています。

前回結果と比較すると、“人口減少の影響を感じている”人が2.9ポイント減少しています。

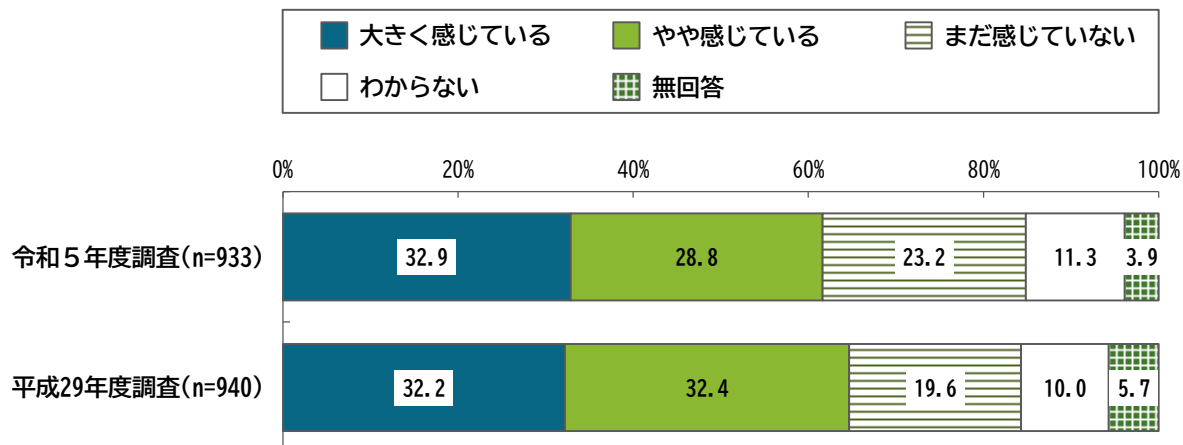
属性別で“人口減少の影響を感じている”割合をみると、性別では、男性が64.2%、女性が60.0%となっています。

年齢別では、60～69歳が68.3%で最も高くなっています。

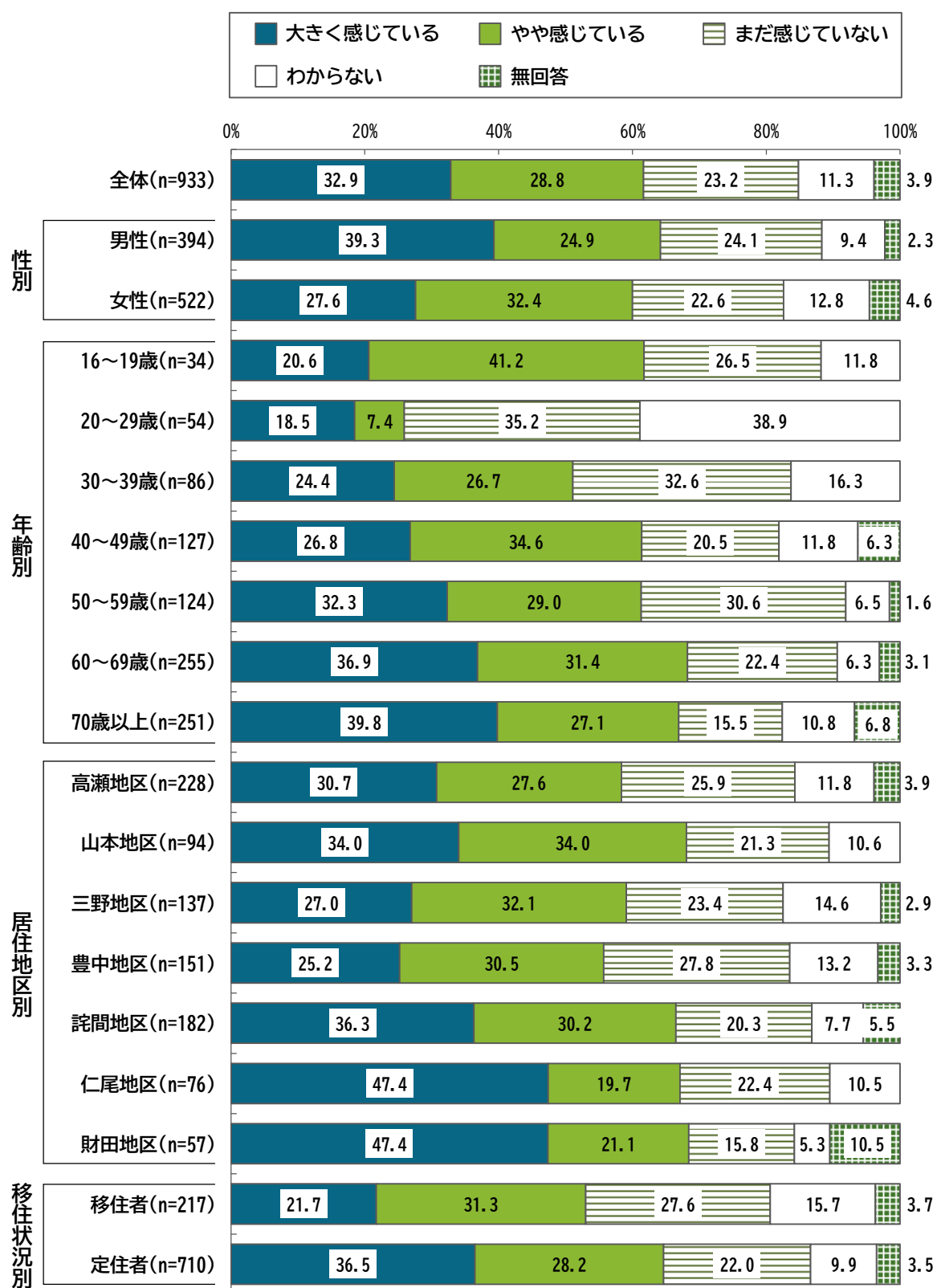
居住地区別では、財田地区が68.5%で最も高くなっています。

移住状況別では、定住者が64.7%で移住者を上回っています。

図表 101 人口減少の影響を感じるか（全体・前回比較）



図表 102 人口減少の影響を感じるか（全体・性別・年齢・居住地区・移住状況）



(2) 人口減少の影響を感じているところについて

【問 18 で「大きく感じている」「やや感じている」と回答した方のみ】

問 18-1 「どのようなところに影響を感じていますか。具体的な内容をご記入ください。

【自由記述】

- 「子どもの数が減っている」、「若者が市外に出て行ってしまう」、「地域の行事に参加する子どもが少ない」など、若年層の減少を指摘する意見が多い。

どのようなところに人口減少の影響を感じているか、具体的な内容を記入してもらったところ、下記のような内容が挙げられました。

- 子どもの数が減っている。
- 空き家が増えた。
- 若者が市外に出て行ってしまう。
- 学校の合併やクラス数の減少が進んでいる。
- 地域の行事に参加する子どもが少ない。
- ひとり暮らし世帯が増えた。
- 自治会の役員や当番が何度も回ってくる。
- 未婚者が多い。
- バスや電車の減便。
- 田畑が荒れ、耕作放棄地が増えた。
- 商店の閉店。 など

(3) 人口減少の対策について

問19 あなたは、人口減少に歯止めをかけるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
【複数回答：3つまで】

● **最も必要だと思うことは「若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること」。**

人口減少に歯止めをかけるために必要だと思うことをたずねたところ、「若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること」が55.3%で最も多く、次いで「雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること」(33.3%)、「子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること」(26.8%)などと続いています。

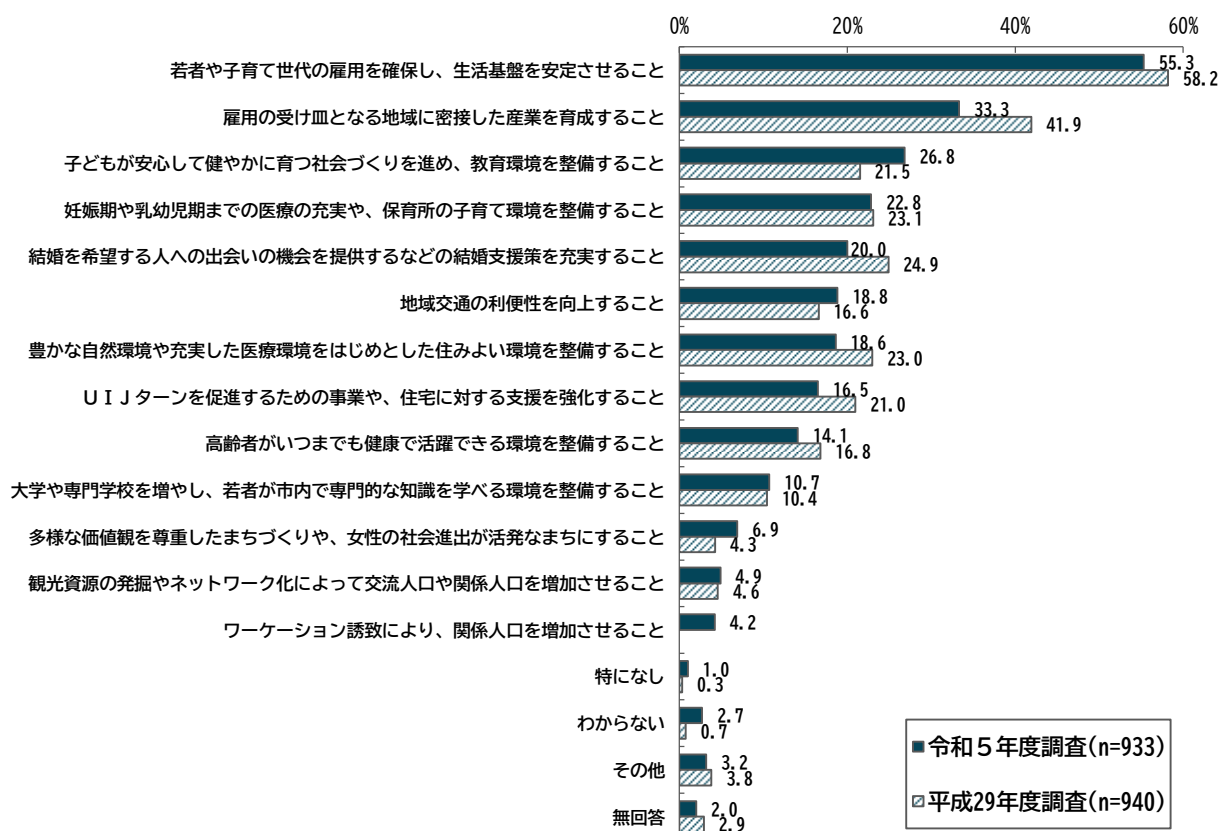
前回結果と比較すると、「雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること」が8.6ポイント減少しています。

属性別にみると、年齢別では、16～19歳で「地域交通の利便性を向上すること」、70歳以上で「結婚を希望する人への出会いの機会を提供するなどの結婚支援策を充実すること」がそれぞれ第3位となっています。

居住地区別では、財田地区で「豊かな自然環境や充実した医療環境をはじめとした住みよい環境を整備すること」が第3位となっています。

移住状況別では、移住者で「妊娠期や乳幼児期までの医療の充実や、保育所の子育て環境を整備すること」、定住者で「雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること」が上位に挙がっています。

図表 103 人口減少対策に必要なこと（全体・前回比較／複数回答：3つまで）



図表 104 人口減少対策に必要なこと

(全体・性別・年齢・居住地区・移住状況－上位第3位／複数回答)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=933)		若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 55.3	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 33.3	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 26.8
性別	男性(n=394)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 57.4	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 39.1	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 24.4
	女性(n=522)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 54.4	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 28.9	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 28.7
年齢別	16～19歳(n=34)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 55.9	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 32.4	地域交通の利便性を向上すること 29.4
	20～29歳(n=54)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 68.5	妊娠期や乳幼児期までの医療の充実や、保育所の子育て環境を整備すること 38.9	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 37.0
	30～39歳(n=86)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 68.6	妊娠期や乳幼児期までの医療の充実や、保育所の子育て環境を整備すること／子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 36.0	
	40～49歳(n=127)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 49.6	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 34.6	妊娠期や乳幼児期までの医療の充実や、保育所の子育て環境を整備すること 31.5
	50～59歳(n=124)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 50.0	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 40.3	妊娠期や乳幼児期までの医療の充実や、保育所の子育て環境を整備すること 25.8
	60～69歳(n=255)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 59.6	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 39.6	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 25.1
	70歳以上(n=251)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 49.0	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 37.8	結婚を希望する人への出会いの機会を提供するなどの結婚支援策を充実すること 26.3
	高瀬地区(n=228)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 53.9	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 36.0	妊娠期や乳幼児期までの医療の充実や、保育所の子育て環境を整備すること 24.6
	山本地区(n=94)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 48.9	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 47.9	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 28.7
	三野地区(n=137)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 58.4	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 35.8	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 30.7
	豊中地区(n=151)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 57.6	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 37.1	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 31.8
	詫間地区(n=182)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 59.9	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 29.1	地域交通の利便性を向上すること 26.9
居住地区別	仁尾地区(n=76)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 52.6	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 32.9	地域交通の利便性を向上すること 27.6
	財田地区(n=57)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 50.9	結婚を希望する人への出会いの機会を提供するなどの結婚支援策を充実すること 29.8	豊かな自然環境や充実した医療環境をはじめとした住みよい環境を整備すること 24.6
	移住者(n=217)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 57.6	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 34.6	妊娠期や乳幼児期までの医療の充実や、保育所の子育て環境を整備すること 29.5
	定住者(n=710)	若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること 54.8	雇用の受け皿となる地域に密接した産業を育成すること 34.9	子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること 24.5
移住状況別				